

茨城県教育財団文化財調査報告 X

常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 II

昭和 56 年 3 月

財團法人 茨城県教育財團

茨城県教育財団文化財調査報告 X

常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書II

財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県の大動脈として大きな役割を果たすことが期待される常磐自動車道の建設は、日本道路公団により進められておりますが、その予定地内に存在する埋蔵文化財については、記録保存をするため、昭和53年度より財団法人茨城県教育財団が日本道路公団より委託をうけて発掘調査を実施しております。

桜村大字下広岡地内にありました下広岡遺跡につきましては、昭和53・54年度にかけて調査しましたところ、縄文時代の住居址・土壙等数多くの遺構及び遺物を発掘し、郷土の歴史の解明に大きな成果をあげることができました。

昭和55年度には、これらを整理するとともに報告書の執筆・編集に当たり刊行いたしました。この報告書が上梓されるまで種々御協力いただいた日本道路公団、桜村教育委員会、地元関係者及び御指導いただいた茨城県教育庁文化課等の各位に対し、心から感謝を申し上げます。

おわりに、本書が学術研究の資料としてはもとより、教育資料としても広く活用されることを希望してやみません。

昭和56年3月

財団法人 茨城県教育財団

理事長 竹内藤男

例　　言

- 本書は、日本道路公團と財團法人茨城県教育財團との委託契約に基づいて、昭和53年4月～54年10月に実施した新治郡桜村下広岡遺跡の発掘調査報告書である。
- 下広岡遺跡の調査にかかわる当教育財團本部の組織は、次のとおりである。

理 事 長	竹 内 藤 男 (茨城県知事)
副 理 事 長	大 金 新 一 (茨城県教育長) (昭和52.4～54.6)
	古 橋 靖 (茨城県教育長) (昭和54.7～)
常 務 理 事	川野辺 四 邸 (昭和52.4～)
事 務 局 長	大 内 秀 大 (昭和52.4～55.3)
	小 林 義 久 (昭和55.4～)
調 査 課 長	川 保 吉之助 (昭和52.4～55.3)
	大 塚 博 (昭和55.4～)
企画管理班長	坪 秀 雄 (昭和54.4～)
	川 崎 郁 (昭和52.4～54.3)
企画管理班	鈴 木 三 郎 (昭和52.4～)
	栗 田 孝 志 (昭和53.4～)
調 査 第 3 班	高 根 信 和 (昭和53・54年度第3班長) (昭和55年度監修班長)
	加 藤 雅 美 (昭和53・54年度調査) (昭和55年度監修・執筆)
	山 本 静 男 (昭和53・54年度調査)
	石 井 毅 (昭和54年度調査)
	佐 藤 正 好 (昭和54年度調査)
	根 本 康 弘 (昭和54年度調査)
	小 河 邦 男 (昭和54年8月～10月調査) (昭和55年度監修・執筆)
補 助 員	仙 波 亨 (昭和53・54年度調査)

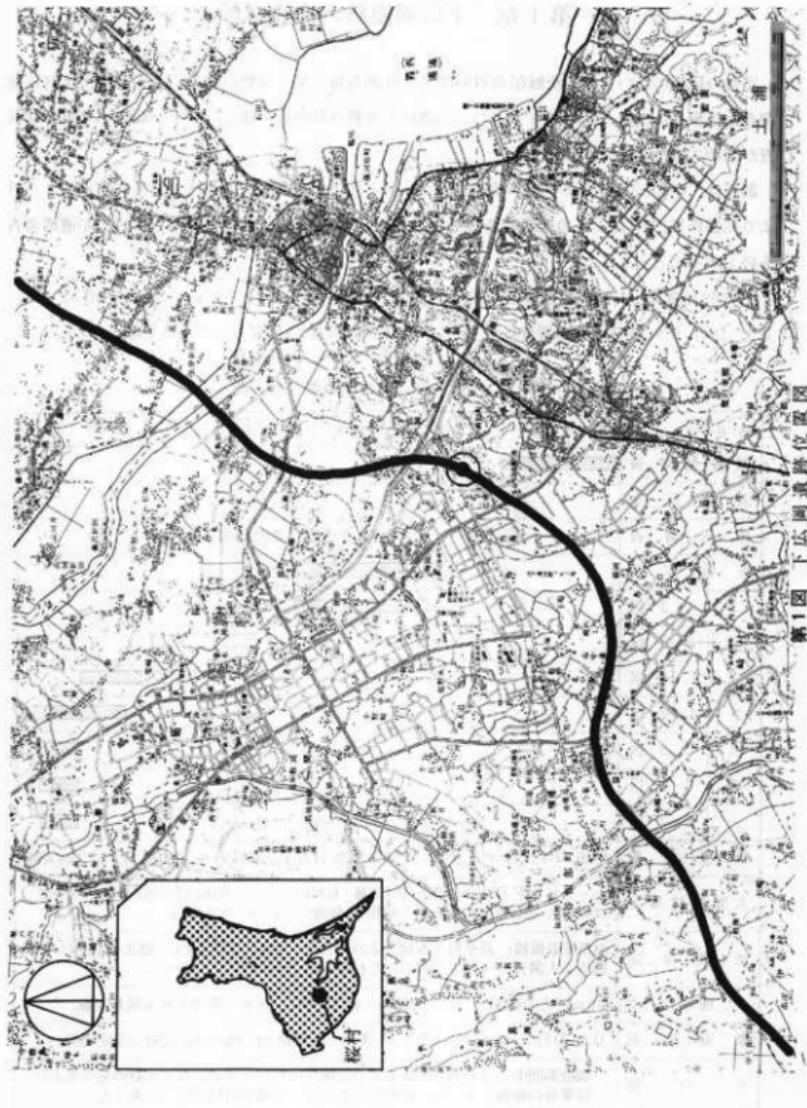
- 本文中および脚図に使用した記号は、下記の通りである。
SI—住居址 SK—土壤 P—ピット
- 本書における土層は、「新版標準土色帳」(農林省農水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修)を用いて色相を表わした。
- 本書は、発掘担当者の協力を得て、高根信和、加藤雅美、小河邦男が執筆・編集を担当した。
- 発掘調査、山上遺物の整理等に際して御指導、御協力を賜った諸機関に対し、感謝の意を表したい。

下広岡遺跡調査報告

目 次

序	
例 言	
目 次	
第1章 下広岡遺跡の調査経緯	2
第2章 下広岡遺跡の立地と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	6
第3章 下広岡遺跡の遺構と遺物	9
第1節 遺 構	9
1 繩 文 時 代	9
2 古 墳 時 代	143
第2節 遺 物	151
1 繩 文 時 代	151
2 古 墳 時 代	258
第4章 ま と め	266
第1節 繩 文 時 代	266
第2節 古 墳 時 代	288

第1圖 下今岡遺跡位置図



第1章 下広岡遺跡の調査経緯

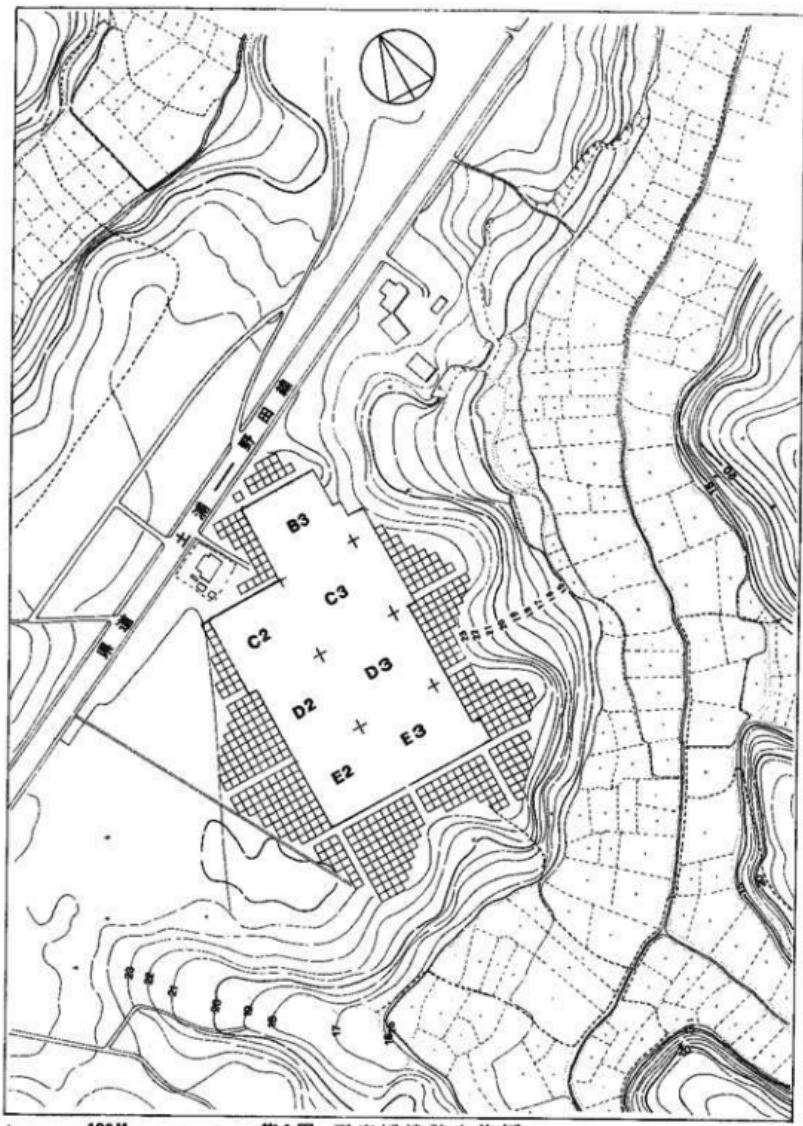
調査の経緯については、茨城県教育財團文化財調査報告V－常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Iに記載された通りであり、当遺跡も常磐自動車道の建設に伴い、昭和53年度より調査が開始されたものである。

調査は、昭和53年4月より諸準備を進め、7月下旬に小調査区の表土除去作業に着手し、9月より拡張作業、10月よりの遺構調査と併せて2月下旬まで続け、第一年次は、C3区の遺構調査を終了するにとどまった。

昭和54年度は、大幅な調査員増を図り、調査方法を随時検討しながら、C3区からB3、C2、D2、D3、E3、E2区へと調査をすすめ、昭和54年10月20日をもって調査を終了した。

調査経過表

調査月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
調査諸準備																			
表面採集																			
確認調査																			
拡張作業																			
遺構調査	C3区																		
	B3区																		
	C2区																		
	D2区																		
	D3区																		
	E3区																		
	E2区																		
航空測量	昭和53年9月6日、昭和54年7月30日および昭和55年3月15日、計3回実施																		
大型機材導入	キャビリキャリアの導入(鉢上運搬・抜根に威力)……昭和53年度(11月～3月)、バッカウ導入(調査用道路機)……昭和54年度(8月中旬～9月初旬)																		
地区設定	測量業者依頼、基準杭を本線予定のセンター杭No-241とする。磁北を中心にして40m四方の大調査区を設定、さらにこれを4mの小調査区に分割する。																		
平面実測	10m四方の鉄製メッシュを特注・使用。尚C3区の一部で平板実測も実施。																		
断面実測	D2・D3について、ポイントを東西・南北軸上に1m～3m間隔で設定実測。																		
その他	・調査期間中、桜村教委関係および近隣市町村、子ども会など多数の見学者あり。 ・作業員の確保にあたり、桜村はもちろん、近隣市町村の協力があった。																		



第2図 下広岡道路全体図

第2章 下広岡遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

下広岡遺跡は、茨城県新治郡桜村下広岡字向山1061-5番地外13筆に所在する。

桜村は、関東地方の北東部、茨城県の南部に位置し、南東部で土浦市と境をなし、北東部で桜川の対岸新治村と、西は谷田部町、北は大那町と境をなしている。面積 35.13km²、人口34,672人を有し、比較的平坦な台地上と、本村と新治村を割する桜川流域に開けた低地に集落を形成している。

この平坦な台地は筑波稲敷台地と呼ばれ、これは、筑波山塊の西の真壁台地を二分して南流し、利根川に流入する小貝川の流域に開けた冲積低地と、西茨城郡岩瀬町の鏡池に源を発し、筑波山塊の西を南流して霞ヶ浦上浦に流入する桜川流域の冲積低地との間にある洪積台地で、本村は、この台地の中央東側に位置する。古くから、畠地として、燃料用の松を主とした平地林として土地利用がなされてきており、他方、これらの低地では水田として利用され、産業の中心もこれらに依存してきた。

しかし、近年になって、本村の西一帯を中心に筑波研究学園都市が建設され、周辺農村部の産業・経済・生活等に飛躍的な変貌がみられ、さらに都市と農村の調和と発展をめざし、大きく変化しようとしている。

下広岡遺跡は、本村の最南東、標高24mの台地上に位置し、県道上浦-野田線沿いの南側で、上浦市中心部より南西約5kmの地点である。

遺跡より東方には、筑波稲敷台地の南部を二分し、桜村松美の池に源を発して桜村花室をへ、東流して霞ヶ浦に流入する花室川があり、さらにその流域に開けた幅数百mほどの水田地帯と、その対岸台地上に開けた桜村下広岡と土浦市天川町の新興分譲住宅地をのぞむことができる。

南方では、花室川に注ぐ小川が低地の中央を東流し、これを中心に小支谷を形成し、両岸とも標高13m程の水田地帯となっている。また、この対岸は標高24m程の台地となっており、土浦市西根町として小集落を形成している。

当遺跡の北東斜面は緩傾斜をなし、東側・南側はそれに比べやや傾斜を急としており、台地縁辺部を含め山林となっている。遺跡中央部は、栗林・畠地として土地利用されてきた。

参考文献

上浦史編さん委員会『土浦市史』昭和50年11月3日発行

青野寿郎・尾留川正平「日本地誌」5巻 関東地方總論茨城県・橋木義 二宮書店

茨城県教育委員会「茨城県遺跡地図」茨城県教育委員会 昭和52年3月

茨城県企画部統計課「茨城県県勢要覧」昭和55年10月



第3図 下広岡遺跡全景

第2節 歴史的環境

本村内の遺跡は、桜川右岸台地端部と、その流域に開けた低地・畑地帯に集中しており、その他若干ではあるが、花室川の右岸台地上に存在する。これまでの分布調査では、縄文時代以前のものの報告はなされていないが、それ以後の遺跡は、比較的多いといえよう。

縄文時代の遺跡は、桜川の右岸、標高20m程の台地に多く、北西方の大山遺跡、阿玉台・勝坂加曾利E期の遺物を伴う台坪才十郎遺跡、加曾利E期の散布がみられる天神遺跡、中期～晚期にかけての旭台貝塚、中期～後期にかけての西坪B遺跡・花室遺跡等があり、花室川左岸に柴崎遺跡、その右岸に当遺跡の他、集落址で加曾利E期の遺物散布がみられる大角豆遺跡があり、同じく下大角豆遺跡も同様の散布がみられる。

弥生時代の遺跡は、低地・台地ともにみられ、低地では古来遺跡と西坪遺跡が、台地では、縄文時代と複合する花室遺跡・大角豆遺跡・柴崎遺跡等がある。

古墳時代の遺跡は、桜川流域の水田地帯を見おろす舌状台地端部に、全長約80m、後円部径50m、高さ8m、前方部の長さ30m、高さ2mの規模を持つ前方後円墳の天神塚古墳があり、さらに、全長約75mで、直刀出上のみられた金田古墳、全長約45mの鹿島様古墳等3基の前方後円墳があり、それぞれその背後に、円墳を有して古墳群を形成している。また、低地にも全長65mと50mの規模を持つ前方後円墳2基と円墳1基を有する松塚古墳群があり、さらに、とりおい塚古墳、前方後円墳と思われる古塚古墳等がある。その他、上境の滝の台古墳群・西坪台古墳群・稻荷前古墳・千現塚古墳等多くの古墳や古墳群等がみられる。

なお、この時代の集落址や包蔵地も多く、縄文時代と複合する大山遺跡や天神遺跡、弥生時代と複合する倉掛遺跡、その他土器屋遺跡・明神門遺跡・沼向遺跡等がある。

奈良～平安時代の遺跡は、出土した布目瓦から奈良期と推定される九重廃寺や、河内都衙の倉庫群かとみられる西坪遺跡の建築址と、その関連の深いと思われる金田条里があり、さらに、金田条里の南には、五位山の下の大池を基点に丘陵沿いに正しく東と北に築堤し、東西九里、南北四条にくぎった長方形形状の36坪に構成された上ノ室条里もみられたが、現在両条里とも埋滅している。

中世遺構は、小田氏との関連の深い金出城跡・花室城跡・上ノ室城跡等がある。

参考文献

「日本地誌」第5巻 関東地方総論・茨城県・栃木県 二宮書店 昭和50年3月

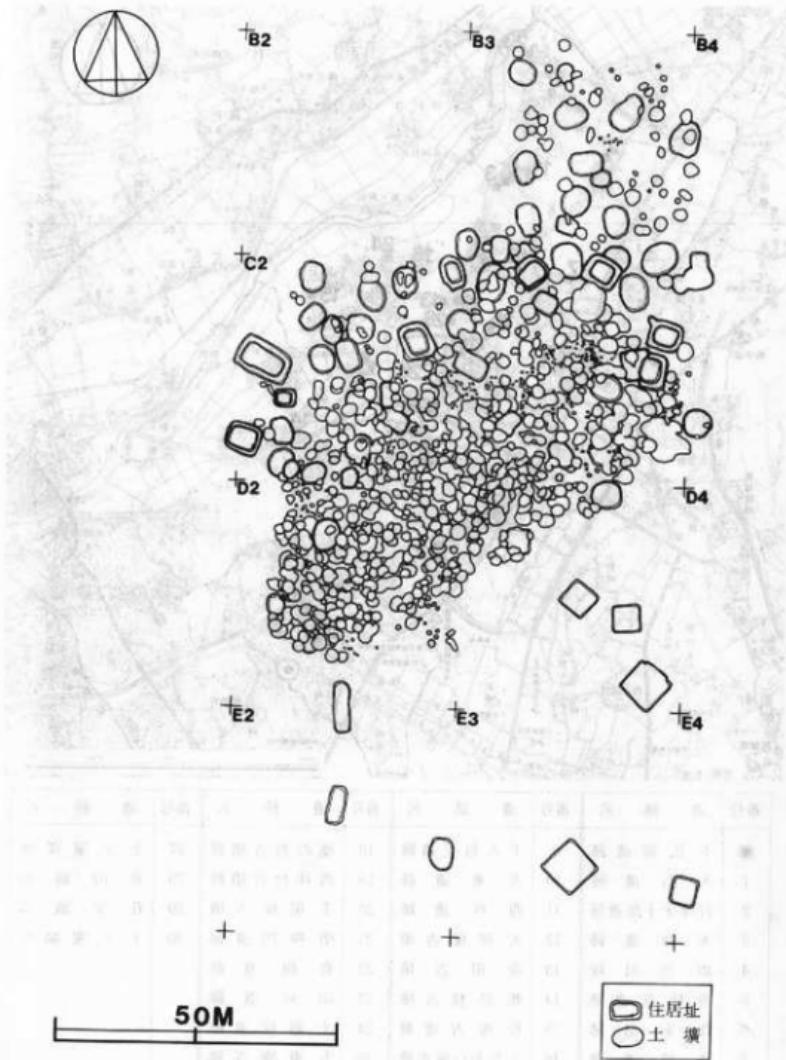
「筑波研究学園都市地区埋蔵文化財保存度調査報告」茨城県教育委員会 昭和41年度

「茨城県遺跡地図」茨城県教育委員会 昭和52年3月



番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
●	下広岡遺跡	9	下大角豆遺跡	18	滝の台古墳群	27	上ノ室条里
1	大山遺跡	10	古来遺跡	19	西坪台古墳群	28	金田城跡
2	台坪才十郎遺跡	11	西坪遺跡	20	千現塚古墳	29	花室城跡
3	天神遺跡	12	天神塚古墳	21	明神門遺跡	30	上ノ室城跡
4	旭台貝塚	13	金田古墳	22	倉掛遺跡		
5	西坪B遺跡	14	鹿島様古墳	23	沼向遺跡		
6	花室遺跡	15	松塚古墳群	24	土器屋遺跡		
7	柴崎遺跡	16	とりおい塚古墳	25	九重廃寺跡		
8	大角豆遺跡	17	古塚古墳	26	金田条里		

第4図 桜村内遺跡位置図および遺跡名一覧表



第5図 下広岡遺跡遺構配置図 図:2

第3章 下広岡遺跡の遺構と遺物

第1節 遺構

1. 繩文時代

(1) 壴穴住居址

当遺跡において検出された住居址は95軒にのぼり、そのうち縄文期にあたるものは86軒である。これらの多数の遺構を記載するにあたって次のような観点に立って記述・実測図作成にあたった。

- 位置の表示は、その遺構の確認された最も広い部分をしめるグリッド名を1つだけ表示した。
- 方位・規模の表示は、主軸方向の明確なものは「主軸方向」と表現し、明確でないものは形状の中で二点間の最も長い軸の示す方向をもって「長径方向」と表現した。規模は掘り込み面をもって計測し、それぞれ長径○○m・短径○○mと記述した。
- 方形状を呈するものは、方位を「長軸方向」と表現し、長辺○○m・短辺○○mと記述した。
- が址のセクションを含め、復上の上層解説は本文中で記述し、攪乱層は回で表現した。
- 豊高およびピット等の深さは確認面から計測し、ピットについては-○○cmと図中に記した。
- 明確な数値が得られない場合や重複のため明確な形態をえられない場合等は約・○～○cm・推定○○cm・推定○○形と表示した。
- 重複遺構名については実測図中に記載したので本文中ではできるだけ省略した。なお、その表示を土壤にあってはSK○○○、住居址にあってはSI○○○とした。
- プランの不明瞭なものは、その推定範囲を-----で表示した。
- 床質の表現は、ローム面を固くふみしめてある状態を硬くと表現し、軟かいとは自然的な硬質ロームの状態を表現した。
- 二段掘り込みを有する住居址については、上部のベット状部分を上段と表現し、さらにその掘り込み部を下段と表現した。なお、ここでは住居址として取り扱った。
- 出土遺物についての記載は、遺物編・遺構一覧表・まとめ等で取り扱い、重複掲載を避けた。
- 炉址部の掲載は、遺構実測図中に同掲載し、その縮尺を大きくした。
- 方位は矢印方向を北とした。
- レベルの掲載についてはできるだけ同レベルとし、一つの記載をもってあらわした。
- 各遺構の関連図版については住居址一覧表を参照されたい。
- 遺構等の性格・時期等についてはまとめて取り扱った。
- 住居址一覧表の記載方法については、土壤一覧表と同様な取り扱い方をしたので、その項を参照されたい。

第1号住居址(図6)

本址はC4a1を中心確認されたもので、北で第11号住居址、西で第2号住居址と重複している。規模は長径5.17m・短径4.5m程の円形状を呈するものと思われる。壁高は東で43cm、西で25cmを測り、床はほぼ平坦であるが、中央にわずかにくぼんでいる。床面はやや軟かく、炉および壁溝については検出されなかった。ピットは重複部を含めると28ヶ所検出されたが、主柱穴は不明である。中央よりやや東に浅い落ち込みがみられるが、性格は不明である。

第2号住居址(図6)

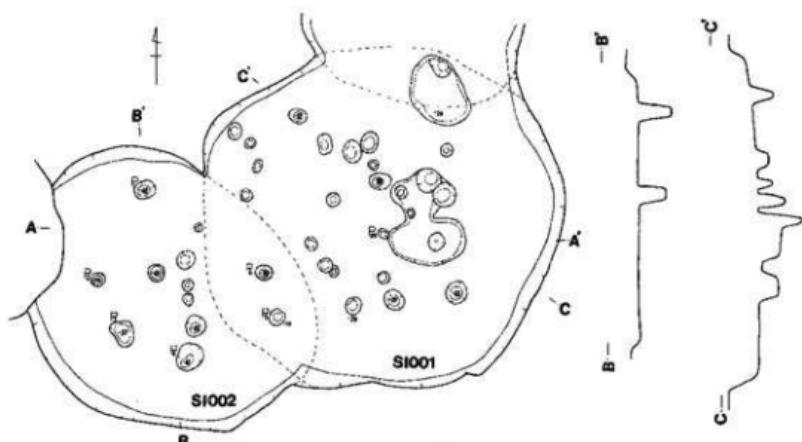
本址はC3a0を中心確認されたもので、西で第1号土壙、東で第1号住居址と重複している。長径方向はN-55.5°-Wを指し、長径4.39m・短径約3.60m前後の楕円形を呈するものと思われる。覆土は暗褐色を呈し、全体としてローム粒・炭化粒子・焼土粒子を含んでいる。壁高は12~17cm前後で、比較的なだらかに立ち上っている。床質はやや軟かく、床面は平坦水平である。ピットは重複部を含めると12ヶ所検出されているが、主柱穴と考えられるものとしてP₁~P₆が適当であろうと思われるが、P₅・P₆については重複部に位置し不明瞭である。

第3号住居址(図7)

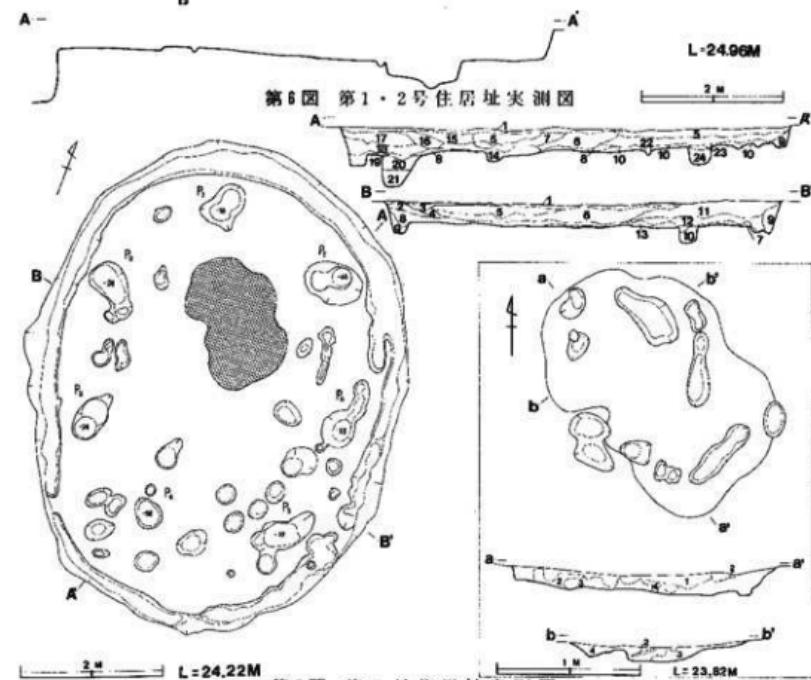
本址はC3b8を中心確認されたもので、主軸方向はN-16°-Wを指し、長径6.8m・短径3.4mの楕円形を呈する。覆土は5層の黒褐色、9・10・12・15~18・23の褐色の他は暗褐色である。全体として炭化粒子・焼土粒子・ローム粒を含み、2・6・12・15・16・22~24層ではハードロームブロックを含んでいる。また14層では焼土塊がみられ、炉址との関連を予測させる。壁はややなだらかに立ち上がり、壁高約30cmを測る。壁溝は、東と西の一部で切れている他はほぼ一周している。床面は一様に硬く、特に中央南側に坐ってはより硬い。また、床面は平坦水平であり、中央よりやや北寄りに炉址が検出された。炉址の焼土確認域は広く、約180×110cmほどで、床面より13cmほどを掘り込んでか埋としており、また、その周辺には浅い窪みがみられることから炉石を配してつくられた石造り炉であったものと思われる。覆土は1・2層で焼土粒子・炭化粒子が多くみられ、3層では熱を受けたハードロームブロックがみられる。4層で焼土とロームの混土となっている。ピットは30ヶ所検出されたが、P₁~P₇の7本が主柱穴と考えられる。

第4号住居址(図8)

本址はC3d0を中心確認されたもので、南東部で第2号土壙と重複している。当初、本址の床面を確認し、精査する過程でさらに床面を切って方形形状の落ち込みが検出された。そのため2つの住居址が重複して存在するものとして調査をすすめた。しかし、調査が進むにつれ、本址とほぼ形態を同一とする遺構が各所に検出されたため、本址も二段掘り込みを有する一つの遺構としてとらえた方がよいと考えられ、結局、第4号住居址と下段の第5号住居址を一基の遺構として取り扱うこととした。



第6図 第1・2号住居址実測図



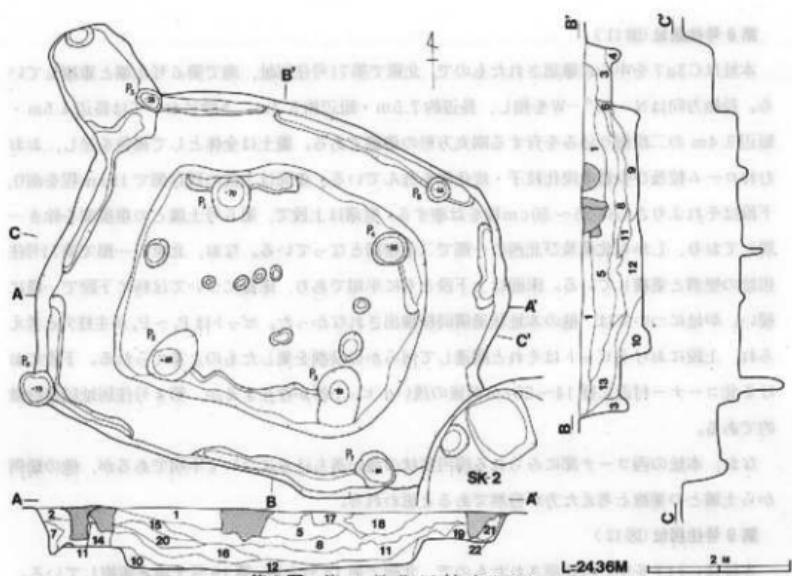
本址の長軸方向はN-67.5°-Wを指し、上段で長辺6.2m・短辺5.3mを測り、また下段は長辺4.2m・短辺3.5mを測り、ともに隅丸方形を呈している。覆土は17・20・21層で黒褐色、1・4・5・12・15・18層で暗褐色の他は褐色を呈し、全体として炭化粒子・焼土粒子・ローム粒を含み、さらに少量のハードローム小ブロックを含んでいる。なお、22層においてはソフトローム・ハードロームブロックを主体としており、壁の第一次崩壊と思われる。上段の壁高は38~55cmで、下段はそれより約35cm前後掘り込まれている。上段の壁溝は、東部の一部を除き途切れはあるが検出され、下段では主として北と南壁下に検出された。床面は上下段ともに平坦で硬く、特に下段における床は全体的に硬い。炉址については、他の二段掘り込み状遺構同様検出されなかった。ピットは17ヶ所検出されたが、P₁~P₄が支柱穴と考えられ、さらにP₅~P₈もそれらと何らかの関連を持つものと思われる。また、下段の中央よりやや西寄りに小ピット群がみられるが、これについては本址状遺構の特徴といえるかも知れない。なお、北東側の張り出し部についてはその性格等不明である。

第7A号住居址(図9)

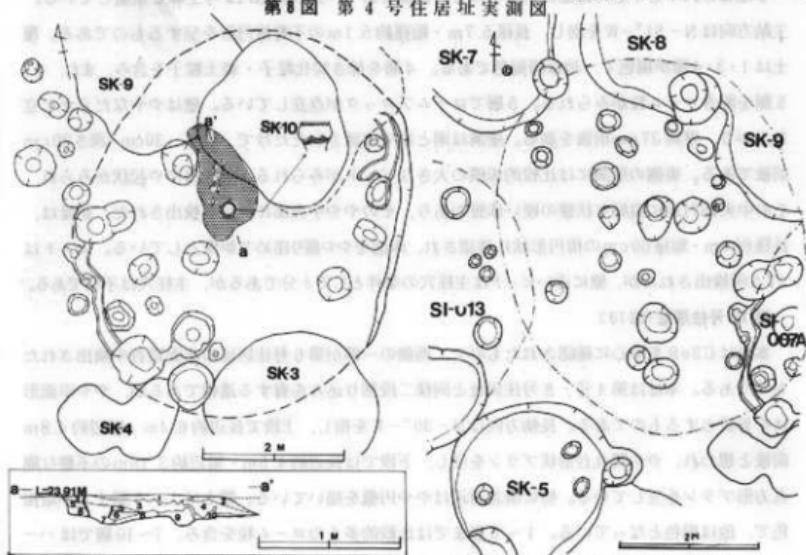
本址はC3d7を中心確認されたもので、北で第9号・10号上塙と、南で第3号・4号土塙と重複している。長軸方向は、一部で検出された壁溝・壁などから、N-40°-E前後を指すものと思われ、平面プランも梢円形状を呈するものと推定される。覆土は全体として褐色を呈し、ハードロームブロックと少量の焼土粒子・炭化粒子を含んでいる。壁高は一部確認された東壁部で15cmを測り、壁溝は西側・東側の一部で検出されただけである。床面はやや平坦であるが、床質はやや軟かい。炉址は埋設土器を伴うもので、炉石も確認された。ピットは15ヶ所検出されたが、支柱穴は不明である。

第7B号住居址(図10)

本址は第7A号住居址として調査を進めてきたが、第7A号住居址の炉址の検出および西側の壁溝の検出と調査がすすみ、その全容がとらえられたことによって、第7A号住居址西側のピット群の存在がもう一軒の住居址の存在を提示した。そのため、さらにC3d6の精査を進めたところ、第7・8号土塙の近辺にも多数のピットを検出した。しかし、住居址として決定づける炉址の検出に至らず、また、比較的軟かい床質のため住居址として取り扱うことに検討を加えた結果、平坦なローム面、多数のピット群、炉址を伴わない住居址の存在が他グリットで確認されたことや、わずかな覆土中にも遺物の存在が認められたこと等により、ここでは、第7B号住居址として取り扱ったものである。ピット群の推定範囲は、図示したように梢円形状の広がりを持つものと思われ、本遺跡の中では中規模の住居址といえよう。



第8図 第4号住居址実測図



第9図 第7A号住居址実測図

第10図 第7B住居址実測図

第8号住居址(図11)

本址はC3a7を中心に確認されたもので、北東で第71号住居址、南で第6号土壌と重複している。長軸方向はN-57°-Wを指し、長辺約7.5m・短辺約5.2m、下段においては長辺4.5m・短辺3.4mの二段掘り込みを有する隅丸方形の遺構である。覆土は全体として褐色を呈し、おむねローム粒及び少量の炭化粒子・炭化物を含んでいる。壁高は上段の残存部で15cm程を測り、下段はそれよりさらに25~30cm程を計測する。壁溝は上段で、第6号土壌との重複部を除き一周しており、しかも北東及び北西の一部で二重壁溝となっている。なお、北東の一部で第71号住居址の壁溝と重複している。床面は上下段ともに平坦であり、床質については特に下段で一様に硬い。炉址については、他の本址状遺構同様検出されなかった。ピットはP₁~P₄が主柱穴と考えられ、上段におけるピットはそれと関連して何らかの役割を果したものと考えられる。下段における北コーナー付近に深14~20cm前後の浅い小ピット群が存在するが、第4号住居址同様特徴的である。

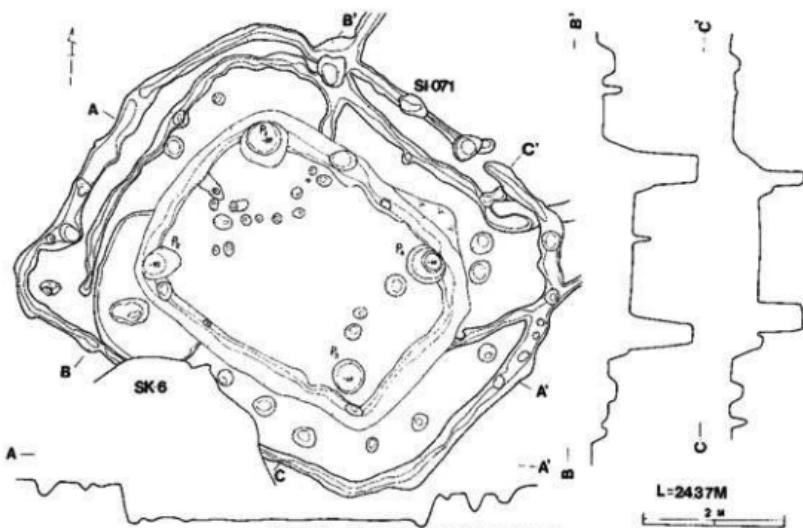
なお、本址の西コーナ部にみられる楕円形状の浅い落ち込みについて不明であるが、他の類例から土壤との重複と考えた方が自然であると思われる。

第9号住居址(図12)

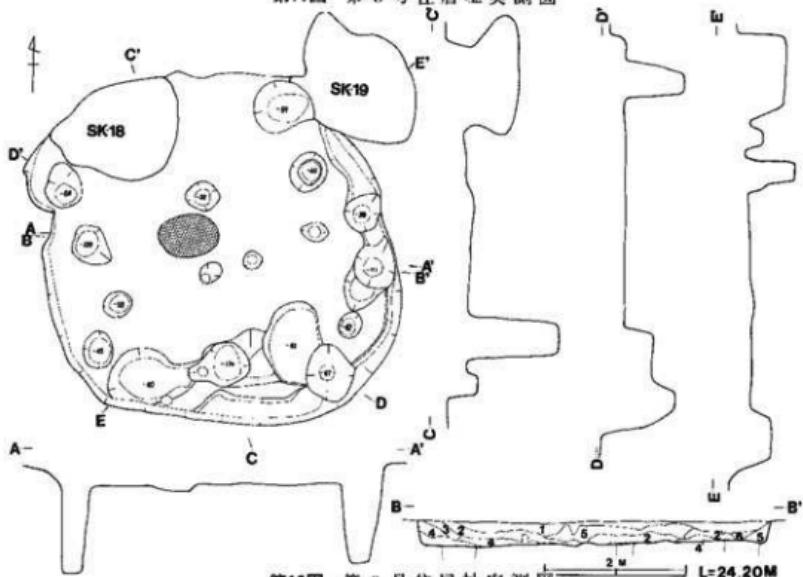
本址はC3f7を中心に確認されたもので、北側で第18号土壌・第19号土壌と重複している。主軸方向はN-51°-Wを指し、長辺約5.7m・短辺約5.1mの不整楕円形を呈するものである。覆土は1・3・4層が褐色で、他は暗褐色である。4層を除き炭化粒子・焼土粒子を含み、また、4・5層を除きローム粒がみられる。5層でロームブロックが点在している。壁はややなだらかに立ち上がり、壁高27cm前後を測る。壁溝は南と東で確認されただけで、幅15~30cm・深さ20cm前後である。東側の壁溝には比較的規模の大きなピットがみられる。床面はやや起伏がみられ、その中央部付近に良好な状態の硬い床質があり、そのやや中央部に炉址が検出された。炉址は、長辺80cm・短辺60cmの楕円形状に確認され、床面をやや掘り窪めて炉床としている。ピットは17ヶ所検出されたが、壁に近いピットは主柱穴の条件として十分であるが、主柱穴は不明である。

第10号住居址(図13)

本址はC3e9を中心に確認されたもので、西側の一部が第6号住居址の床面精査中検出されたものである。本址は第4号・8号住居址と同様二段掘り込みを有する遺構であるが、やや平面形状を異質とするものである。長軸方向はN-30°-Eを指し、上段で長辺約6.4m・短辺約4.8m前後と思われ、やや隅丸台形状プランを呈し、下段では長辺約4.5m・短辺約3.15mの不整な隅丸方形プランを呈している。特に南北両辺はやや円弧を描いている。覆土は1~5層までが暗褐色で、他は褐色となっている。1~6層までは比較的多くのローム粒を含み、7~10層ではハードロームブロックがみられる。7・8・10層を除いては炭化粒子が認められ、2・4・6層では少量



第11図 第8号住居址実測図



第12図 第9号住居址実測図

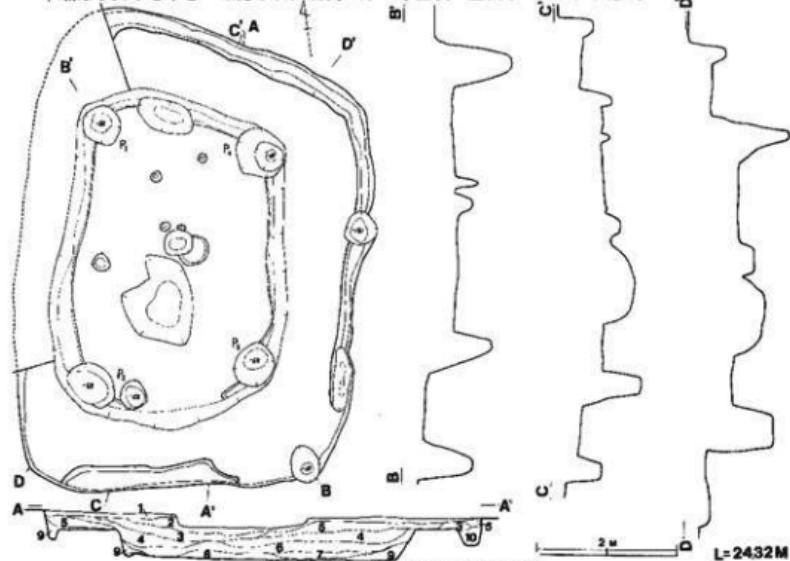
の焼土粒子を含んでいる。全体としてしまりは弱い。壁高は北で35cm、南で13cm程度であり、下段の掘り込みはそれより30~35cmほどである。上段における壁溝は西の第6号住居址との重複部と南東コーナー部で検出されなかったが、他は幅18~30cm・深さ20~35cmのものが検出された。下段については、南側を除き検出された。床質は上段でやや軟かく、下段はそれよりも硬くなっている。特に西と北での床質は硬く良好である。炉址は確認されなかった。ピットは16ヶ所検出されたが、P₁~P₄が土柱穴と考えられる。床面中央付近にも径40cm前後・深さ20~31cmの良好なピットや、また、不定形で深さ40cm程のものもみられ、さらに、やや北寄りに小ピットが点在している。これらの点で他の二段掘り込み遺構との類似点も多い。

第11号住居址(図14)

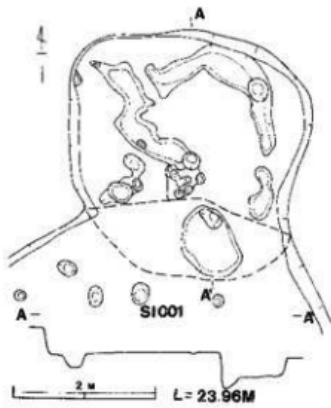
本址はB4 j 1を中心で確認されたもので、1号住居址北側部精査中に重複部が認められて検出されたものである。しかし、その中央部で硬い床面と、その周りの不整な溝および点在する小規模なピットを検出したのみで、炉址等については検出されなかった。遺物は覆土上部より出土しているが、性格規模等不明である。残存する壁高は15~30cm前後で、床はほぼ平坦である。また、土柱穴についても不明である。

第12号住居址(図15)

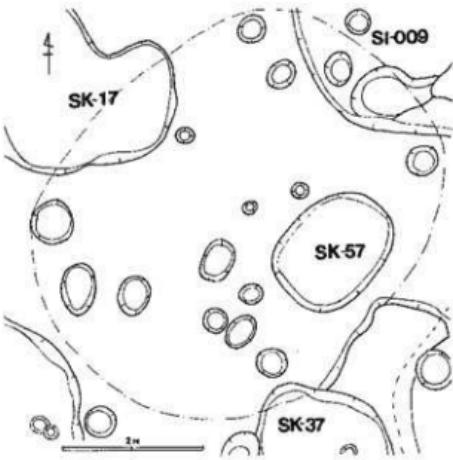
本址はC3 j 6を中心で確認され、北側で第5号土塙と重複している。長径方向はN-79°--E



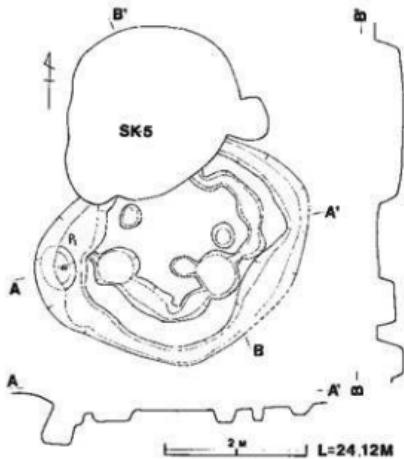
第13図 第10号住居址実測図



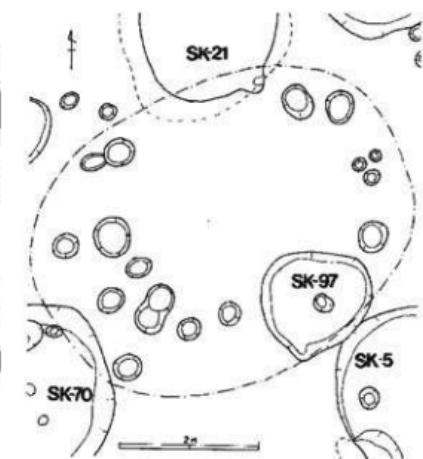
第14図 第11号住居址実測図



第16図 第13号住居址実測図



第15図 第12号住居址実測図



第17図 第14号住居址実測図

を指し、長径約4m・短径約3m前後と推定される不整橢円形を呈するやや小規模な遺構である。本址は第5号土壙周辺部の遺構確認調査の折、壁溝が検出されて住居址の確認がなされたもので、壁部はほとんど削平され、わずかな残存部で8cmを測る。壁溝は二重に廻り、外側で幅23~65cm・深さ13~38cmを測る。内側ではそれより幅が狭くなっている。床面積は少なく、ほぼ平坦水平である。ピットは6ヶ所検出されたがいずれも20cm前後の深さのもので、中でもP₁はオーバーハングして掘り込まれており、深さ45cmを測る。炉址は検出されなかった。

第13号住居址(図16)

本址はC3e5周辺の表土除去後の精査中、長軸を北東方向とする橢円形の住居址として確認し、調査を進めたものであるが、覆土が少なくしかも壁及び炉址も検出されず、プランが不明となつたものである。北東・南西側にピット群と、その中央部付近のわずかな良好な床面を検出したことで、住居址として取り扱つたものである。ピットの配置から推定規模約5~6m×3.5~4m前後の橢円形を呈するものと思われ、ピットは17ヶ所検出された。

第14号住居址(図17)

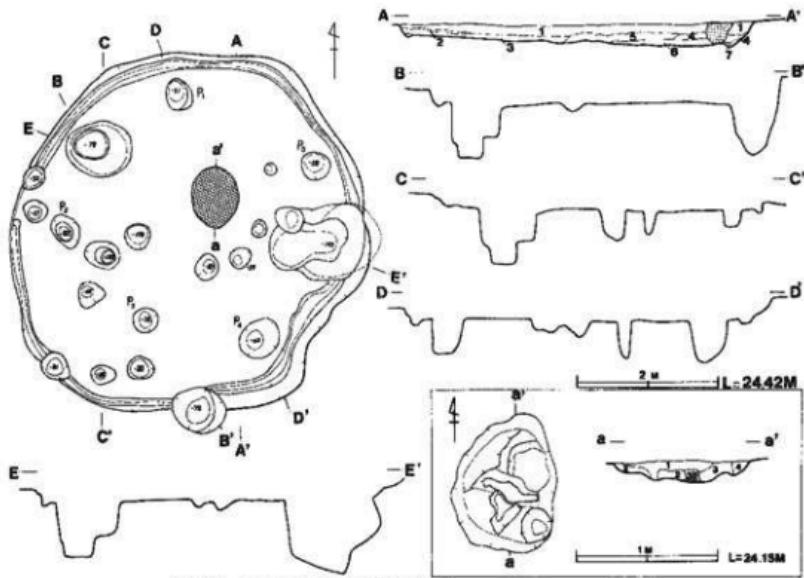
本址はC3g6を中心に確認されたもので、第13号住居址同様プランの明確とならなかつた遺構である。周辺部ではほとんど重複し、壁は南東のごく一部に残存するのみである。炉址・壁溝も確認されず住居址との判断に不的確さを欠くが、周辺部ピット群と中央部に残るやや硬い平坦な床質の検出から住居址として取り扱つた。推定規模は長径約6~7m前後・短径約4~5m前後の橢円形を呈するものと推定される。

第15号住居址(図18)

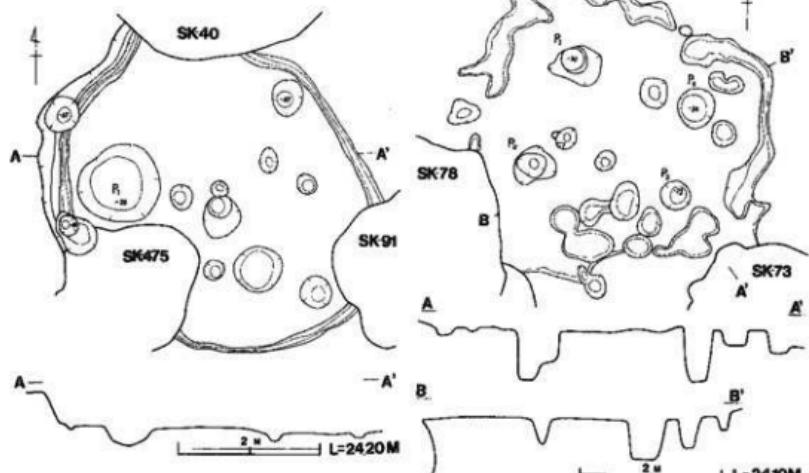
本址はC4g1・h1を中心確認されたもので、当遺跡住居址群の中でも最も東側の谷に近い位置に検出された。本址のほぼ中央より東側半分は調査用道路下となっていたため、2年次に渡って間を置いて調査された遺構である。主軸方向はN-35°Eを指し、長径5.46m・短径4.60mでやや不整円形に近いプランを呈している。覆土は1~5層で暗褐色を呈し、他は褐色である。各層少量のハードローム粒を含み、1~4・5層で極少量の焼土粒子を含んでいる。壁高は15~20cmで、壁溝がほぼ一回している。床面は比較的硬くほぼ平坦水平である。炉址は中央よりやや北東寄りに径87×68cmの橢円形状の範囲で確認され、床面より約20cm前後掘り込んで炉床としている。炉址の覆土は全体として焼土粒子・焼土塊がみられる。ピットは20ヶ所検出され、P₁~P₅が主柱穴と思われる。

第16号住居址(図19)

本址はC3i5を中心に確認されたもので、長径方向N-45.5°-Wを指し、長径5.05m・短径約4m前後の橢円形を呈するプランである。覆土は褐色・暗褐色で、全体としてローム粒・炭化粒子・焼土粒子を含んでいる。西の残存壁高は48cmを測り、壁溝は重複部を除き検出されたが、



第18図 第15号住居址実測図



第19図 第16号住居址実測図

第20図 第17号住居址実測図

炉址については検出されなかった。床面はほぼ平坦で硬くしまり、ビットは13ヶ所検出された。主柱穴は不明である。 P_1 は竪窓穴かと思われる形態を呈している。

第17号住居址(図20)

本址はC3b4を中心確認され、長軸方向はN-65.5°-Wを指す。規模は長辺約4.3m・短辺は不明である。平面形はほぼ方形状を呈するものと思われる。壁は遺構確認調査の段階で削平されて残存せず、壁溝が南北を除き検出された。床は平坦で硬く、がを有しない。ビットは重複部を含め19ヶ所検出され、 P_1 ～ P_4 が主柱穴と思われる。なお、形状・床状・炉址の有無等から二段掘り込みを有する遺構とも考えられるが、上段が検出されず明確でない。

第18号住居址(図21)

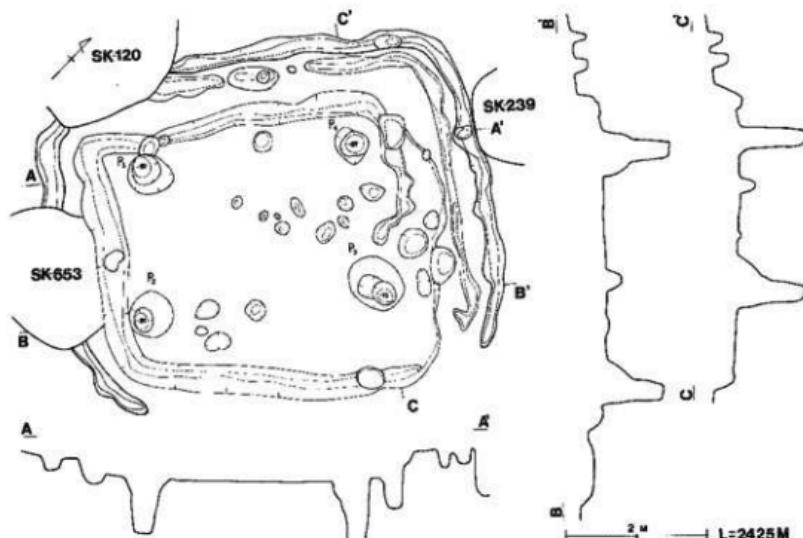
本址はC3a4を中心確認され、北で第79号住居址・第239号土壤と重複している。長軸方向はN-41.5°-Eを指し、規模は上段で長辺6.8m・短辺5.5mを測り、下段では長辺5.04m・短辺約3.6m前後を有する二段掘り込みの割丸形を呈する住居址である。上段の壁高は18cm前後で下段ではそれより32～35cm程掘り込んでいる。上段での壁溝は重複部と南壁部でみられず、下段では東壁の一部を除き検出された。なお、上段での北西・北東で二重壁溝がみられ、第8号住居址と類似するものがみられる。床面はほぼ平坦で、上段より下段で一様に硬くしまっている。炉址は検出されず、他の二段掘り込みを有する遺構と共に通している。ビットは壁溝内を含め31ヶ所検出されており、 P_1 ～ P_4 が主柱穴かと思われる。また、下段北コーナー付近に径20cm前後・深さ16～23cmの小ビット群がみられる点でも他の二段掘り込み状遺構と類似している。

第19号住居址(図22)

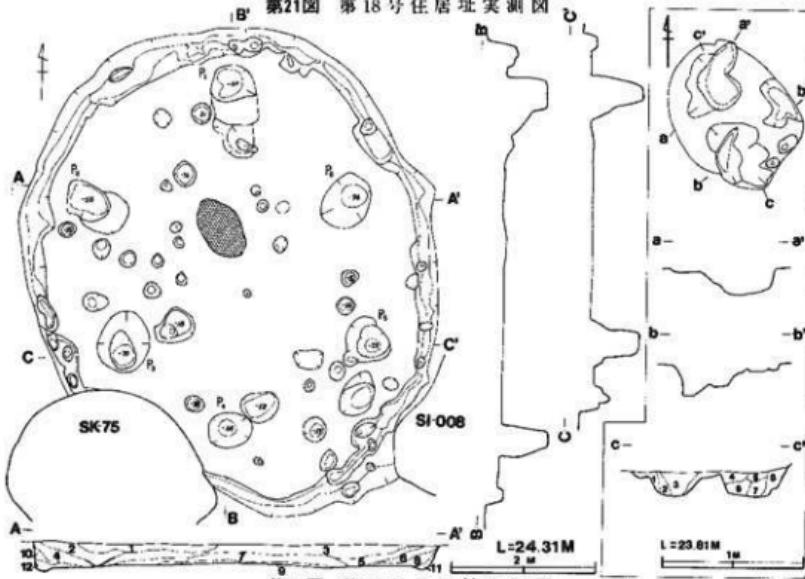
本址はB3j5を中心確認され、南西で第75号土壤と重複している。主軸方向はN-30.5°-Wを指し、長辺7.13m・短辺5.65mの橢円形プランを呈する。覆土は5層の暗褐色・12層の明褐色の他褐色で、10・12層を除きローム粒を含み、全体として炭化粒子・焼土粒子・ハードロームを含む。特に12層では壁面の崩壊によるものと思われる土層を呈している。壁高は25～35cmを測り、壁溝も重複部を除き検出された。また、溝内に不規則に点在する小ビットもみられる。床面は平坦で硬く、炉址は中央よりやや北寄りに位置し、径93×56cmの橢円形の範囲で確認され、床面より15cm掘り込んで炉床としている。ビットは34ヶ所検出され、 P_1 ～ P_6 が主柱穴と思われる。

第20号住居址(図23)

本址はC3h3を中心確認され、南西で土壤と重複している。長辺方向はN-51°-Wを指し、長辺約5m・短辺3.5m前後と思われる。平面プランは不明瞭である。壁溝・が址とともに検出されず、不規則なビット8ヶ所を検出した。東の壁高は40cmを測る。なお、北東の壁状およびA-A'の断面図から数基の重複した土壤とも考えられるが、確定しうる資料が得られず、規模、硬い床質等から住居址として取り扱った。



第21図 第18号住居址実測図



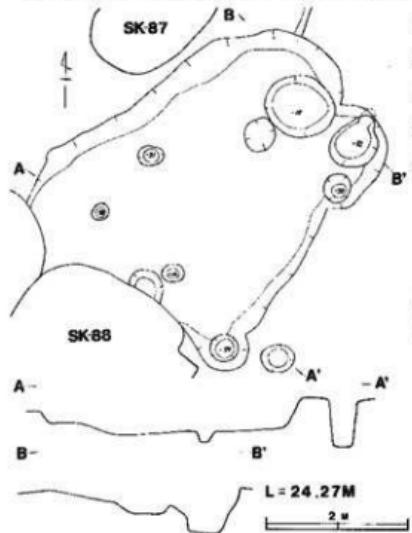
第22図 第19号住居址実測図

第21号住居址(図24)

本址はC3i7に確認されたもので、北で第52号土壙、南で第636号土壙と重複している。長径方向はN-44.5°-Eを指し、長径3.71m・短径3.35mのやや円形に近い椭円形を呈する。覆土状況は全体として暗褐色を呈し、ローム粒・炭化粒子・焼土粒子を含んでいる。壁高は南の残存部で32cmを測り、東と北側では周辺部精査中削平されて不明である。壁溝は重複部を除けば一周しており、床質はやや硬く良好である。炉址は検出されなかった。ピットは20ヶ所検出され、P₁～P₆が主柱穴と思われる。なお、本址は当遺跡の住居址群の中でも小規模な遺構の1つである。

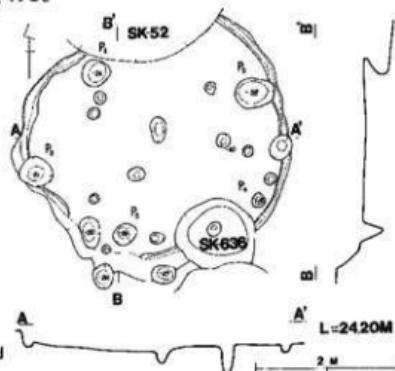
第22号住居址(図25)

本址はC3g5に埋設土器を作う石廻い炉が検出されたことによって確認されたもので、炉周辺部の土壙と大きく重複し、調査過程でまったくプランのとらえられなかった住居址である。壁面も検出できず形状・規模等不明である。炉址を取り囲む様に半径3.5mの範囲内には23ヶ所のピットがみられ、P₈・P₉を中心にしてP₁～P₇のいづれかが主柱穴の役割を果しているものと思われる。炉址は炉石および埋設土器が残存し、炉石のなかには磨石の一部もみられ、また、炉石を抜いたと思われる痕跡も確認された。覆土は1～3・4・16・14層で少量の炭化粒子・焼土粒子・ローム粒を含む褐色土で、7～10層においては焼土が多い。12層は地山と同じであるが、加熱を受けて変化している。なお、本址同様当遺跡における埋設土器を伴う住居址については、その大半がプラン不明であり、地山に近い面でお址が検出される場合が多いところから、表土除去の段階で壁を削平しているものと思われる。また、住居址群の中でも比較的新しい時期のものと考えられる。



第23図 第20号住居址実測図

ラン不明であり、地山に近い面でお址が検出される場合が多いところから、表土除去の段階で壁を削平しているものと思われる。また、住居址群の中でも比較的新しい時期のものと考えられる。



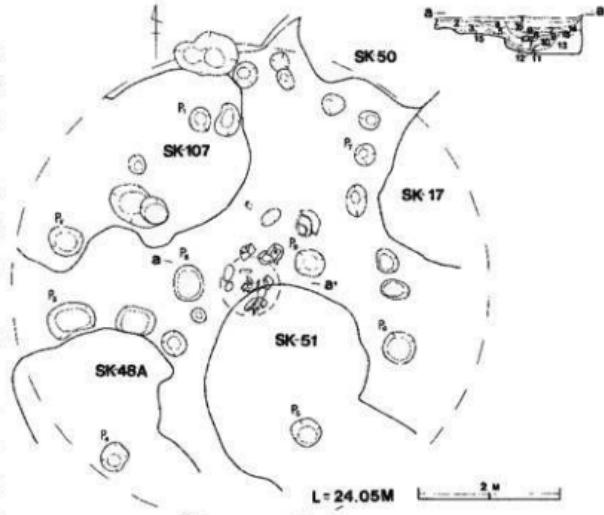
第24図 第21号住居址実測図

第 26 号住居址(図 26)

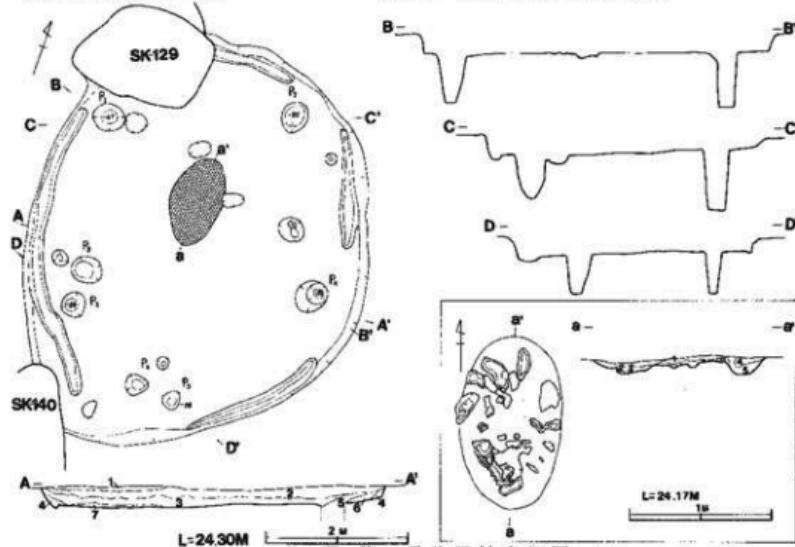
本址は B3h6 を中心に

確認されたもので、北で
第 129 号土壙、南で第 140
号土壙と重複している。

主軸方向は N-6.5°-E
で、長径 6.05 m・短径
4.83 m の楕円形を呈する
プランである。覆土は 4
層の褐色・7 層の明褐色
の他は暗褐色で、1~3·
5 層でローム粒、4·6·
7 層でハドロームブロック
を少量含む。壁高は約
24 cm で、壁溝は部分的
である。床は硬く、ほぼ



第25図 第22号住居址実測図



第26図 第26号住居址実測図

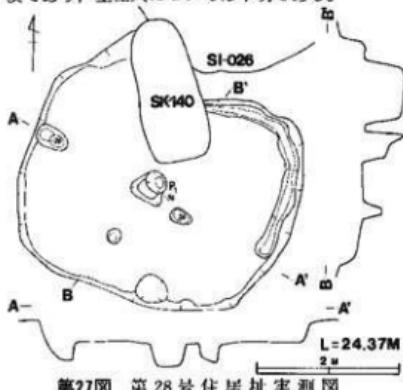
平坦である。炉址は中央よりやや北寄りに位置し、径 1.3×0.7 m の長円形状に確認された。調査の結果、床面より 5~10 cm 挖り込んで炉床としている。炉址の覆土は全体的に焼土が少なく、1 層で炭化粒子が認められ、3 層で焼土塊もみられる。ピットは 11ヶ所検出されたが、P₁・P₂ ないし P₃・P₄ ないし P₅・P₆・P₇ が主柱穴かと思われる。

第 27 号住居址(図 28)

本址は B3 i 7 を中心に確認されたもので、主軸方向は N - 0° を指し、長辺 6.13 m・短辺 4.75 m の楕円形を呈する。覆土は 1・2・4 層で暗褐色、13 層で明褐色の他褐色で、6 層を除きローム粒がみられ、1~8 層では全体として少量の炭化粒子・焼土粒子を含む。また、6・8・9・12・13 層ではハードロームブロックを含む。壁高はほぼ 32 cm 前後で、壁溝もほぼ一周している。床は硬く平坦であり、炉址は中央やや北寄りに径 120 × 80 cm の範囲で確認され、床面より 5~6 cm 挖り進め、炉中心部を圓めよう浅い窪みが検出されたことから石圓い炉であったものと思われる。ピットは壁溝にかかるもの 10ヶ所、床面に 14ヶ所検出された。P₁ あるいは P₂・P₃~P₇ が主柱穴と考えられるが、特に P₁・P₂ では P₁ の方が自然であろう。

第 28 号住居址(図 27)

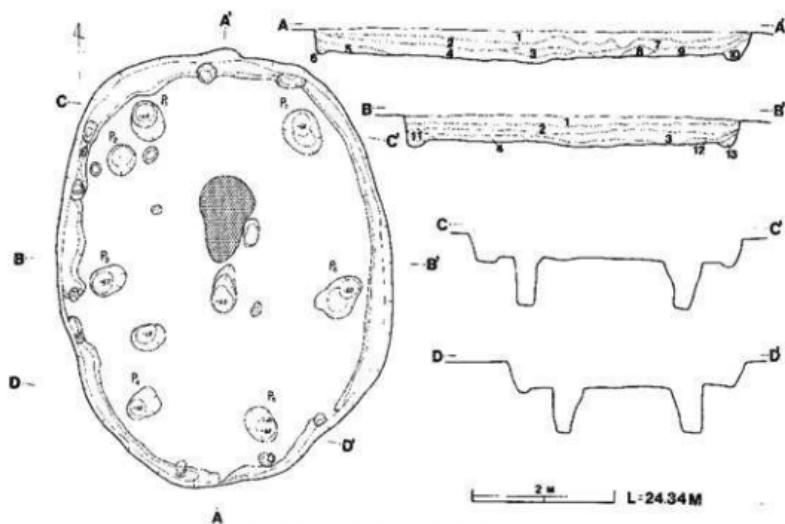
本址は B3 i 5 を中心に確認されたもので、長軸方向は N - 79° - W を指し、長辺 3.9 m・短辺 3.1 m の隅丸方形プランを呈する。覆土は上層で暗褐色、下層で褐色を呈し、全体として少量のローム粒・炭化粒子を含んでいる。壁高は 31 cm 前後で、壁溝は北東コーナーに検出されたのみである。なお、北西コーナーで一部壁が不規則となっているが、第 140 号土壙がつくられた時に崩壊されたことも考えられるが、不明である。床は硬く、平坦で、炉址を伴っていない。ピットは 4ヶ所検出されたが、P₁ は床面のほぼ中央に位置し中心柱と想定されるが、他のピットは小規模であり、主柱穴については不明である。



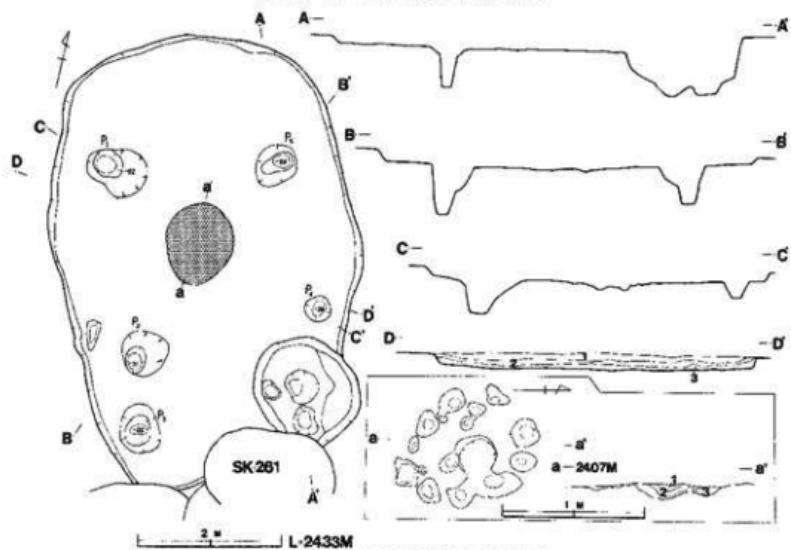
第 28 号 住居址 実測図

第 29 号住居址(図 29)

本址は B3 i 4 を中心に確認されたもので、主軸方向は N - 23.5° - W を指し、長辺 6.56 m・短辺 4.26 m の不整なやや長楕円形プランを呈する。覆土は 1 層で暗褐色、2・3 層で褐色を呈し、全体としてローム粒を含んでしまっており、2・3 層ではハードロームブロックを含む。壁高は 13 cm 前後で、壁溝は検出されなかった。床は平坦でやや硬い。炉址はやや北寄りに位置し、径 114 × 94 cm の範囲で確認され、床面より 10 cm 挖り込んでいる。



第28図 第27号住居址実測図



第29図 第29号住居址実測図

覆土は2層で焼土が多いが、全体としては少ない。かじ中央を開いて浅い窪みがみられることから石匂いがの痕跡が強い。ピットは6ヶ所検出され、P₁・P₂・P₄・P₅は主柱穴と考えてよいであろう。南東コーナー部で径1.6mの浅い落ち込みがみられるが、本址との重複遺構と思われる。

第30号住居址(図30)

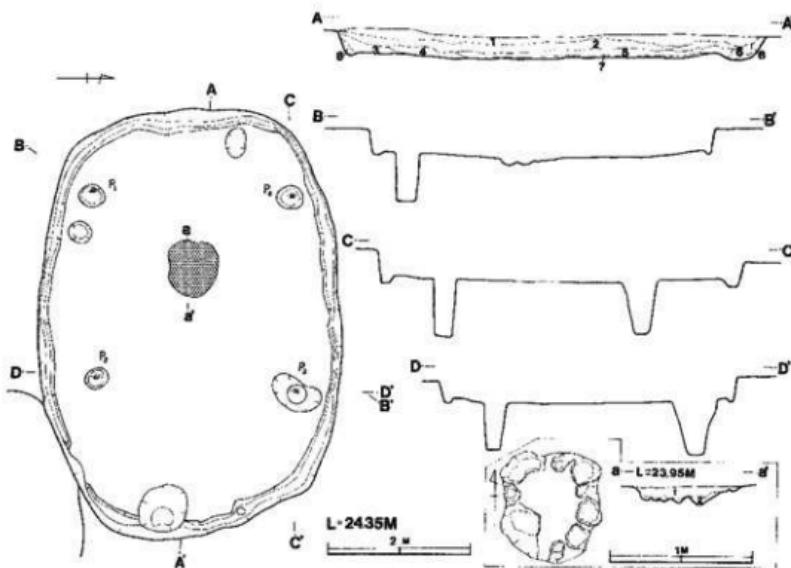
本址はB3f6を中心確認されたもので、主軸方向はN-90°を指し、長径6.0m・短径4.28mの楕円形を呈する。覆土は7層の明褐色を除き褐色で、全体として少量のハードロームブロック・ローム粒を含み、1・2・5層で炭化粒子を含んでいる。8層はハードローム小ブロックを主体とし、第一次埋土と思われる。壁高は27~33cm前後で、壁溝は南東コーナーを除き検出された。炉址は中央や西寄りに検出され、床面より13cm掘り深めてかじ床とし、周囲には浅い窪みがみられることから石匂いがであったものと思われる。炉址の覆土は1層で焼土および炭化粒子を含み、2層は炭化粒子を含んでいない。ピットは東西の浅い窪みも含め7ヶ所検出されたが、P₁~P₅が主柱穴と思われる。なお、本址は他の住居址群の中で、主軸を東西軸上としている唯一のものである。

第31号住居址(図31)

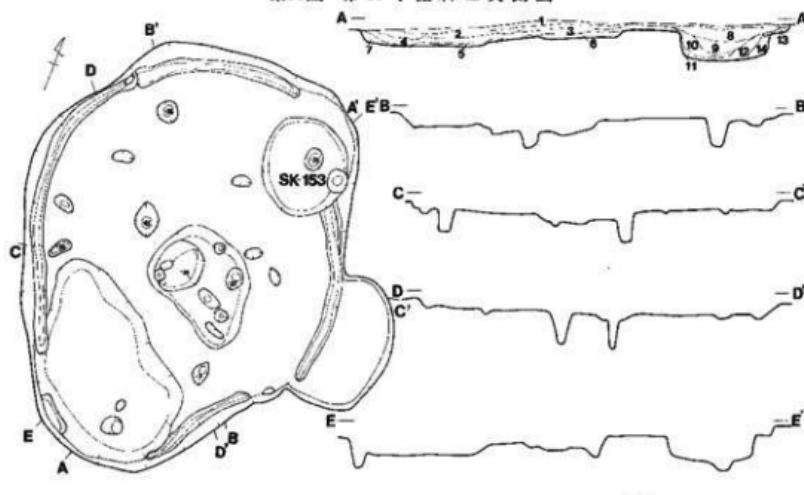
本址はB3f3を中心確認されたもので、長径方向N-5°-Eを指し、長径6.14m・短径4.65mの不整卵形状を呈するプランである。覆土は5・7・8・10・11・13層が褐色で他は暗褐色である。全体としてローム粒を含み、1・9・12層を除きハードロームブロックを含む。壁高は全体的に浅く、6~22cmほどである。壁溝は途切れあるが検出され、床面は南側と北側でやや段差があり、炉址は検出されなかった。ピットは浅い窪みを除き不規則に10ヶ所検出されたが、主柱穴は不明である。なお、土層図から第153号土壤は本址を切ってつくられた遺構であり、また南西コーナにみられる浅い落ち込みは3・4層間で切れていることから本址に伴わない遺構の可能性を考えられる。中央部の落ち込みおよび東の張り出し部分については不明である。

第35号住居址(図33)

本址はB3d8を中心確認されたもので、主軸方向N-39°-Eを指し、長径6.12m・短径5.15mの楕円形を呈している。覆土は2層の暗褐色、7層の明褐色の他褐色を呈しており、全体としてローム粒、7・9層を除き焼土粒子、2層で極少量の炭化粒子、1・3・5・9層でハードローム小ブロックを含んでいる。7層はハードロームブロックでゴツゴツしており、ピット壁の崩壊によるものと思われる。壁高は遺構確認調査の段階で削平されたものと思われ、数センチである。壁溝は北部コーナでよく残り、東と南の一部でも検出された。床面は軟かく、中央や北寄りに埋設土器を伴う炉址が検出された。焼土の範囲は径69×53cmの卵形状に確認され、床面より約18cmほど掘り込んで土器を埋設している。炉址の覆土は1層でローム粒を含み、3層は焼土を多量に含む。4層には少量の炭化粒子・焼土粒子を含み、7層はロームである。土器内覆土は1・2層で



第30図 第30号住居址実測図



第31図 第31号住居址実測図

わずかに炭化物・焼土粒子がみられるが、3層ではほとんどみられない。ピットは8ヶ所検出されたが、他に比べ不規則に点在し、主柱穴は不明瞭であるがP₁～P₄が考えられよう。又P₅も良好でP₁とP₄との関連があるのかも知れない。また、南西コーナー付近にみられる浅い不定形の落ち込みについては不明である。なお、本址は当遺跡の埋設土器を伴う住居址の中で比較的明確になった唯一のもので、埋設土器が加曾利E IIに相当することから、当遺跡の中では比較的新しい時期の遺構といえよう。

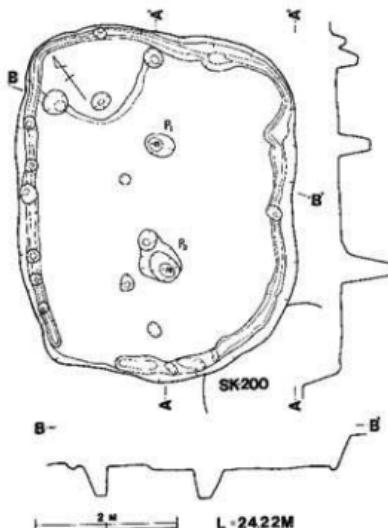
第36号住居址(図34)

本址はC2c6を中心確認されたもので、主軸方向N-22°-Wを指し、長径6.07m・短径3.85mの不整橢円形を呈する。覆土はすべて褐色よりなり、全体としてローム粒、1・2・5層で炭化粒子、2・3層で焼土粒子を含み、比較的しまりをおびている。壁高は最も深いところで49cmを測り、壁溝が西の一部を除き良好に検出された。溝内には部分的であるがピットがみられる。南壁下には溝を切って不整方形状の落ち込みがみられるが、覆土に擾乱がみられることから擾乱壙と思われる。床は良好で硬く、焼土集中ヶ所が4ヶ所確認された。中央よりやや北東よりのものが本址の炉址とおもわれ、径90×65cmで、床より約6cmほど掘りくぼめて炉床をしている。覆土は1層で部分的に焼土粒子を含み、2層では焼土塊がみられる。その他の焼土集中ヶ所については未調査となり不明である。ピットは址内15ヶ所であるが、P₁～P₄が主柱穴と考えられ、南の焼土

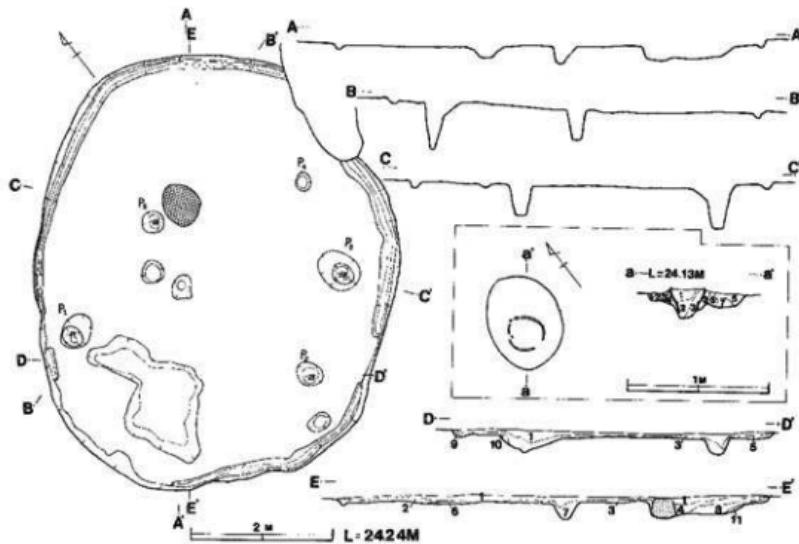
の確認された周辺のピットについては良好であるが、性格は不明である。

第37号住居址(図32)

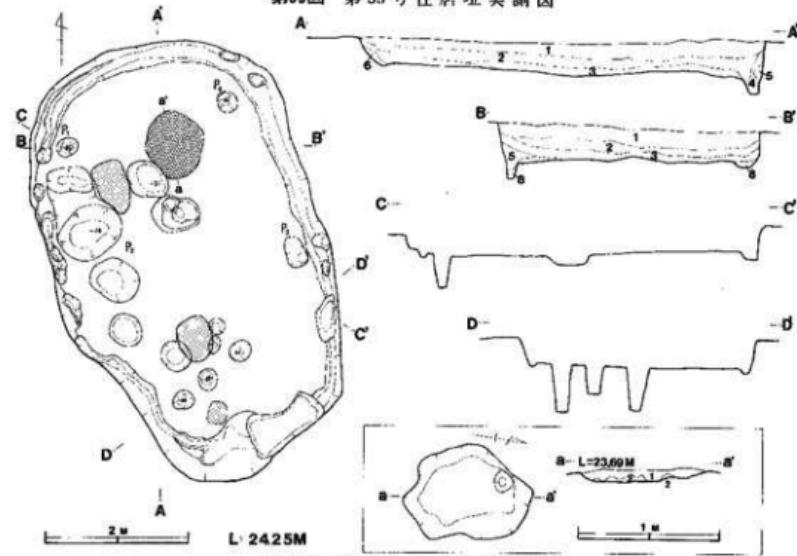
本址はC2c4を中心確認されたもので、長軸方向はN-37°-Eを指し、長辺4.95m・短辺3.85mの隅丸方形を呈し、特に南コーナー部では円形状を呈している。覆土は全体として褐色を呈し、少量のローム粒・ハードローム小ブロックを含んでいる。壁高は南面で43cmを測り、南西コーナーの一部を除き壁溝が検出された。床質は硬く、床面は平坦水平である。か址は検出されなかった。ピットは15ヶ所検出され、P₁・P₂が主柱穴と思われる。



第32図 第37号住居址実測図



第33図 第35号住居址実測図



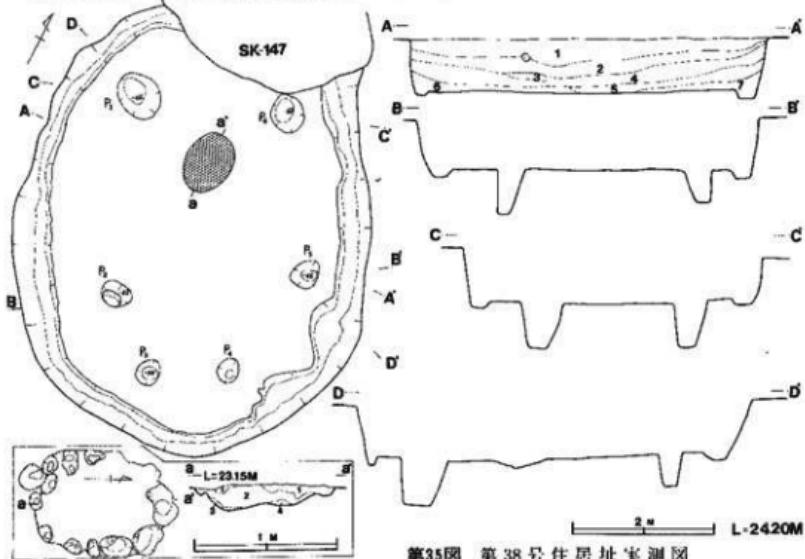
第34図 第36号住居址実測図

第38号住居址(図35)

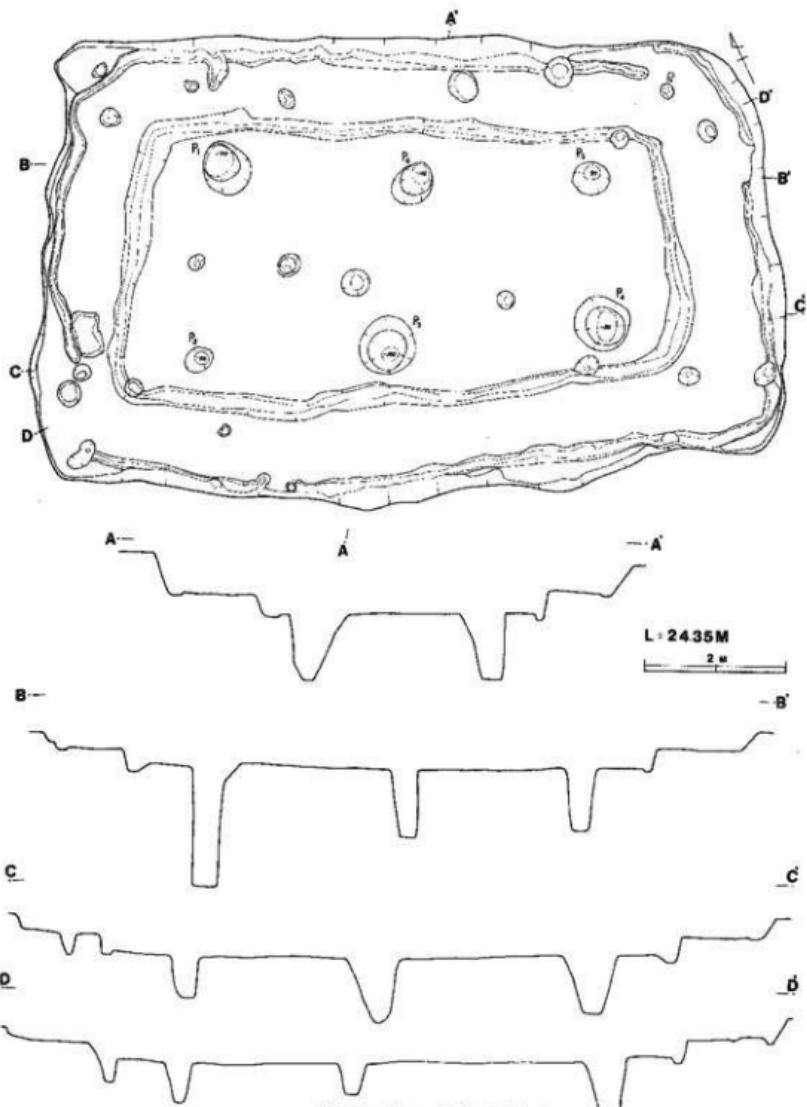
本址はC2b7を中心確認されたもので、主軸方向はN-27°-Wを指し、長辺約6.4m・短辺5.07mの橢円形を呈するものと思われる。覆土は1・2層の暗褐色その他褐色で、1・2層でローム粒を多量に含む。1・2・5層でごく少量の焼土粒子がみられ、1層を除きハードロームブロックを含んで、全体としてしまりをおびている。壁高は73cm前後を測り、当遺跡中最深の壁高を有するものである。壁溝も重複部を除き検出され、床質は硬く中央部ほど良好であり、床面は平坦であるがやや北に傾斜している。炉址は中央よりやや北寄りに検出され、床面より15cm掘り窪み、さらに周辺に浅い窪みがみられることから炉石を配していたものと思われる。炉址の覆土は2層で最も焼土が多く、3層は熱を受け崩れやすいロームとなっている。ピットは6ヶ所検出され、P₁～P₆が柱穴と思われる。

第39号住居址(図36)

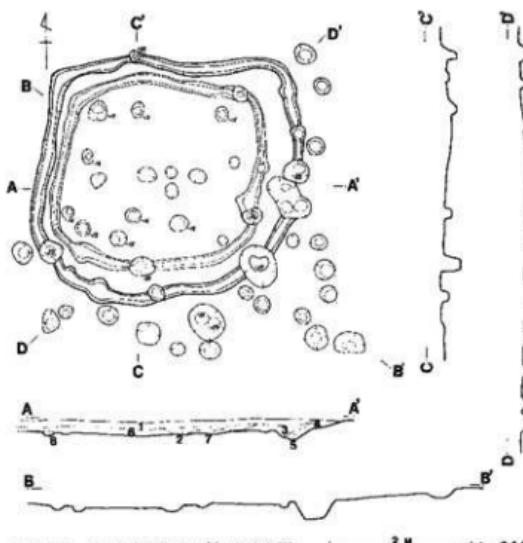
本址はC2e2に確認され、長軸方向N-62°-Wを指し、上段の規模は長辺10.32m・短辺6.49m、下段については長辺7.95m・短辺4.05mの規模を有する本遺跡中最大の楕円形を呈する二段掘り込み造構である。覆土は暗褐色・褐色よりなり、全体としてローム粒・ハードローム粒・炭化物・炭化粒子を含み、焼土粒子はわずかである。壁高は上段で23～26cm、下段でそれより27cm前後掘り込んでおり、壁溝は上下段とともにほぼ一周している。床面は北西方向にやや傾斜するが



第35図 第38号住居址実測図



第36図 第39号住居址実測図



第37図 第40号住居址実測図

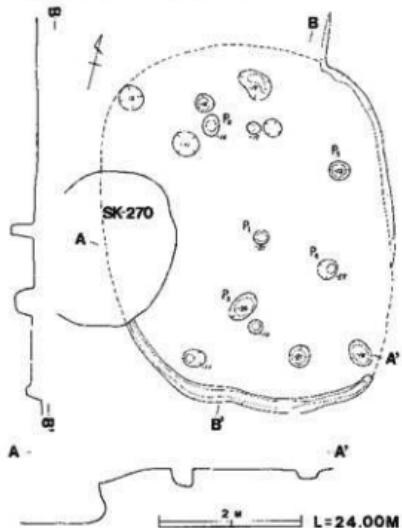
平坦で、下段の床質は硬い。炉址は検出されなかった。ピットは22ヶ所検出され、 $P_1 \sim P_6$ が土柱穴である。なお、本址覆土中からは多量の土器片が出土しており、その大半が床面より上部の20cm前後に多い。また、本址は第4号・第8号・第18号住居址とほぼ同形態をとっているが、土柱穴6本、規模の大きさ、下段床面における小ピット群の存在しない点で異質な

第40号住居址(図37)

本址はC2g3に確認され、長軸方向はN-48°-Wを指し、長辺3.7m・短辺3.5mの不整開丸方形状を呈する。覆土は褐色で、少量のローム粒を含み、4・5層を除きハードローム小ブロック、3・4層で少量の炭化粒子がみられる。壁溝は二重に廻り、床面はややならかな起伏がある。炉址は検出されず、址内および外に多数のピットがみられる。検出された住居址群の中で本址は特異のものといえ、一重壁溝をもつ二段掘り込み造構と異質のものと思われる。

第41号住居址(図38)

本址はC2h3を中心に確認されたものであるが、残存する一部の壁高・壁溝から長軸方向はN-25°-Wで長径約5.3m・短径約4.1m

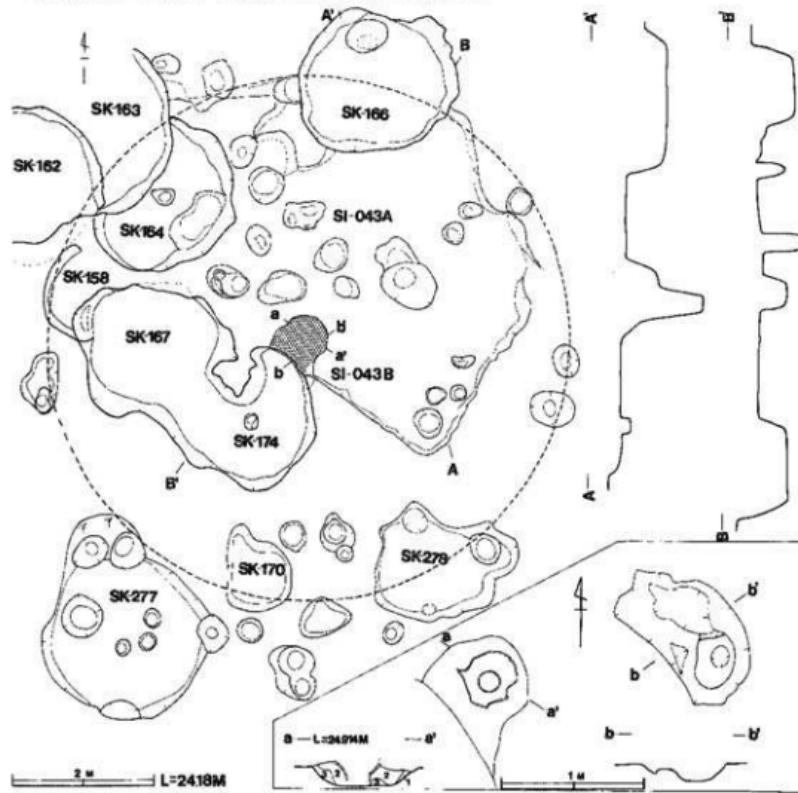


第38図 第41号住居址実測図

前後の楕円形プランを呈するものと思われる。覆土は暗褐色・褐色の層よりなり、ローム粒・少量の焼土粒子・炭化粒子を含んでいる。壁高は南で 15 cm を測り、北西・南東コーナーでは壁が検出されなかった。壁溝は南で検出されたが、炉址については検出されなかった。床はやや軟かく、ほぼ平坦である。ピットは 14 個所検出されたが、P₁を中心 P₂～P₅ がまわり、支柱穴の可能性もあるが、特に P₂・P₅ は浅く不明である。

第 43 A 号住居址(図 39)

本址は C2h8 に確認され、明確に住居址のコーナー部がとらえられたのは南壁部分である。北・西について土壌群によって切られ、規模等不明で、残存壁から方形状を呈するものと思われるが明瞭でない。床はやや硬く平坦で、炉址はみられない。



第39図 第43A・43B号住居址実測図

第43 B号住居址(図39)

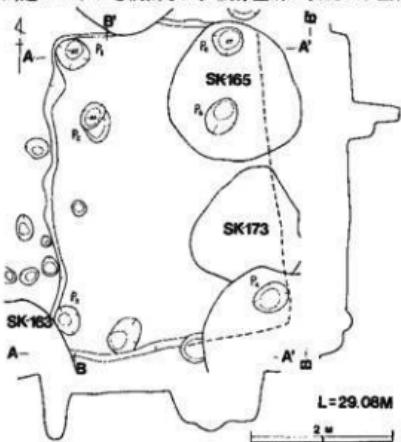
本址は第43A号住居址調査中、南西壁際に埋設土器を作う炉址が検出されたことによって確認されたもので、本址の明確な床面およびプランを検出することができなかった。炉址はローム面より15cmほど掘り窪めて土器を埋設しており、炉址を中心に半径3.5mの範囲には、第43A号住居址に伴うものと思われるピットおよびその他の土壤におけるものを含め、27ヶ所検出されているが、主柱穴については不明である。

第45号住居址(図40)

本址はC2g8に確認されたもので、東側で3基の土壤と重複している。長軸方向はN-4°-Wで長辺4.63m・短辺3.2m前後の方形状を呈するものと思われる。覆土は褐色土よりなり、少量のローム粒・ハードロームブロックを含み、中間層を除き焼土粒子を少量含んでいる。壁高は24~30cm前後で、東壁は土壤との重複のため検出できなかった。また、壁溝はみられない。床面は硬く、ほぼ平坦である。炉址は検出されず、ピットが7ヶ所検出された。 P_1 ・ P_3 ・ P_4 ・ P_6 が主柱穴であろうと思われるが、 P_5 ・ P_6 は土壤内にみられるも壌底面より12cm前後であることから本址に伴うものである可能性が強く、また、 P_2 についても本址の主柱穴の可能性もあるがはっきりしない。

第46号住居址(図41)

本址はC2e8を中心に確認されたもので、北で第54号住居址・西で第222号・160号土壤と重複している。精査の結果、南東・東で壁溝を検出し、また、ほぼ中央部と思われる位置に炉址を、周辺にピットを検出した。残存壁溝の状況から主軸方向はほぼ南北軸上を示すものと思われ、規



第40図 第45号住居址実測図

模は長径約6m前後、短径約5m前後の楕円形を呈する造構と推定される。床は平坦で、やや軟かい。炉址はほぼ中央に位置するものと思われ、床面より約15cm掘り込んで炉床としている。ピットは重複部を含め21ヶ所検出されたが、主柱穴は不明である。

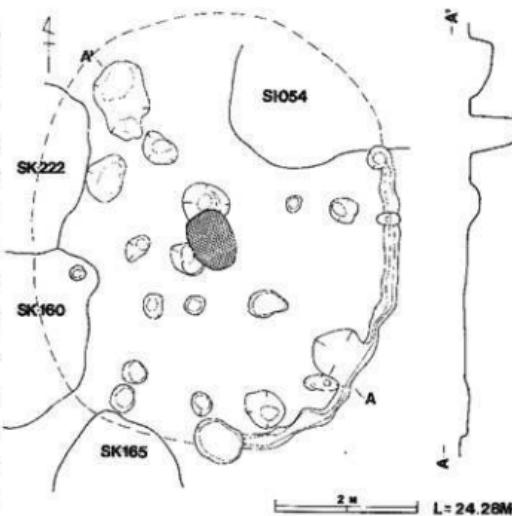
第47号住居址(図42)

本址はC2d5を中心に確認されたもので、表土除去後の確認作業の折、壁溝およびピット群を検出したものである。東で第64号住居址、北西で第37号住居址、南で第50・36号住居址と近接している。長軸方向はN-15°-Eを指し、長径約6m・短径約4.5mの不整

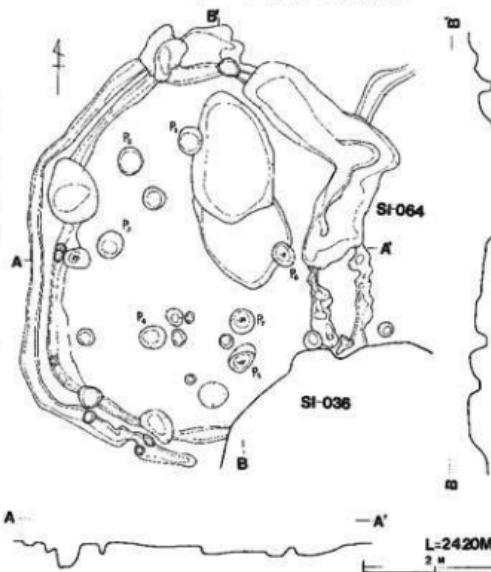
なやや六角形状に近いプランを呈するものと思われる。壁高は不明であるが、特に壁溝においては二重に廻り、北東側では大きな落ち込みがみられる。二重壁溝の性格については重複ないし改築等の可能性も考えられるが、確定しうる資料が得られず不明である。北東の重複した楕円形状の落ち込みについても本址に伴うものかどうか不明である。ピットは溝内の小ピットを除き21ヶ所検出されたが、P₁～P₄・P₆・P₇は位置的にみて主柱穴と考えられるが、P₅・P₈は浅く疑問点が残る。

第49号住居址(図43)

本址はC3f1を中心に確認されたもので、埋設土器を伴う炉址をもつ住居址として、他の本址状遺構同様そのプランがつかめない造構の1つである。壁溝の一部とみられるものが北西・南西コーナーにわずかにみられ、比較的重複の少ない北と南でピット群がみられる。これらのものを含む推定規模は長径約6～7m・短径約4.5～5.5m前後と思われ、形状は楕円形を呈するものと推定される。炉址は中央よりやや北寄りと思われ、径100×85cmの楕円形状の範囲で確認



第41図 第46号住居址実測図



第42図 第47号住居址実測図

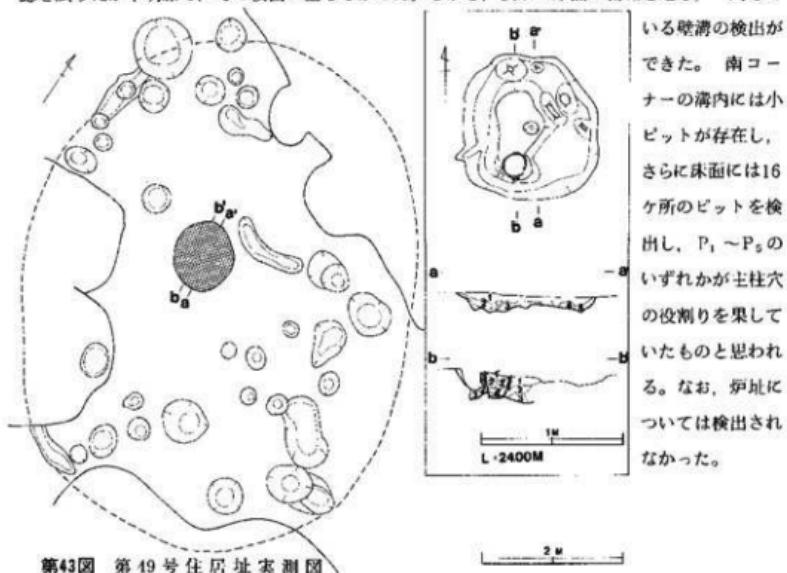
された。これは埋設土器を伴うもので、床面より 20 cm 前後掘り込み、土器を埋設して炉としている。覆土は 1 層で少量の焼土粒子・炭化粒子と豆粒大のハードロームを含み、3 層で多量の焼土塊がみられる。土器内覆土は 1・3 層で多量の焼土、4・5・6 層で焼土の量が少なくなっている。ピットは炉址周辺に 24 ケ所みられるが、主柱穴については他の遺構との重複もあり明確でない。

第 50 号住居址(図 44)

本址は、当初 C2e5 を中心にピット群および一部の硬い床が検出されたことによって住居址としての存在が予測されたもので、調査の結果、楕円形状に一周する壁溝を検出するに及んで住居址として取り扱われたものである。長径方向は N-32.5°-W を指し、長径 5.2 m・短径 4.6 m の規模を有している。床面には多くの小ピットがみられ、炉址は検出されなかった。外部は小ピットが円形状に点在し、この点で本址に伴う可能性が強いが、そうであるとすれば当遺跡において大きな特質となる遺構であろう。

第 52 号住居址(図 45)

本址は C2a4 を中心に確認されたもので、主軸方向をほぼ南北軸上とし、長径 6 m・短径 4.78 m の楕円形を呈する。覆土は褐色で、全体としてローム粒・焼土粒子を含む。土層より壁位置の確認を試みたが不明瞭で、その検出に至らなかった。しかし、軟かい床面の精査を通じ、一周して

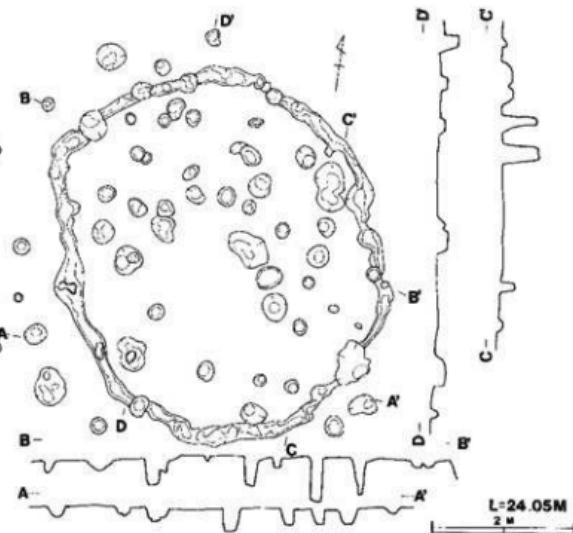


第43図 第 49 号住居址実測図

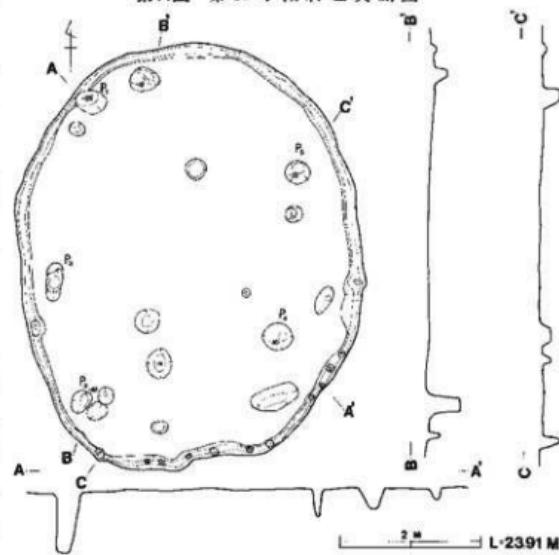
いる壁溝の検出ができた。南コーナーの溝内には小ピットが存在し、さらに床面には 16 ケ所のピットを検出し、P₁～P₅ のいずれかが主柱穴の没割りを果していただものと思われる。なお、炉址については検出されなかった。

第54号住居址(図46)

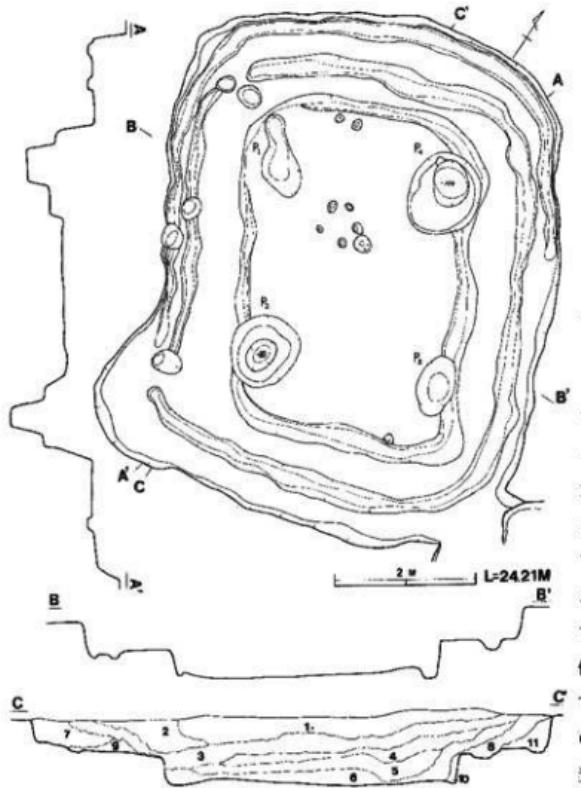
本址はC2d9を中心確認されたもので、床面精査中、もう一つの住居址が重複し、それを第63号住居址としたが、調査がすすむにつれ、二段掘り込みを有する形状が確認され、本址を第54号住居址とし、従って本址は一軒の遺構として取り扱ったものである。本址の長軸方向はN-29°-Wで、上段の規模は長辺7.39m・短辺5.6m、下段で長辺4.9m・短辺3.4mの隅丸方形プランを呈する。覆土は1・2層の暗褐色を除き他は褐色で、全体としてローム粒、7・8・9・10層を除きハードローム小ブロック、1~8層でごく少量の炭化粒子ないし焼土粒子を含んでいる。なお、全体としてしまりをおびている。壁高は38~48cmを測り、下段ではさらに35~45cm掘り込んでいる。壁溝は上段で二重壁溝がみられ、南では壁よりやや内側に検出された。下段は北西コー



第44図 第50号住居址実測図



第45図 第52号住居址実測図



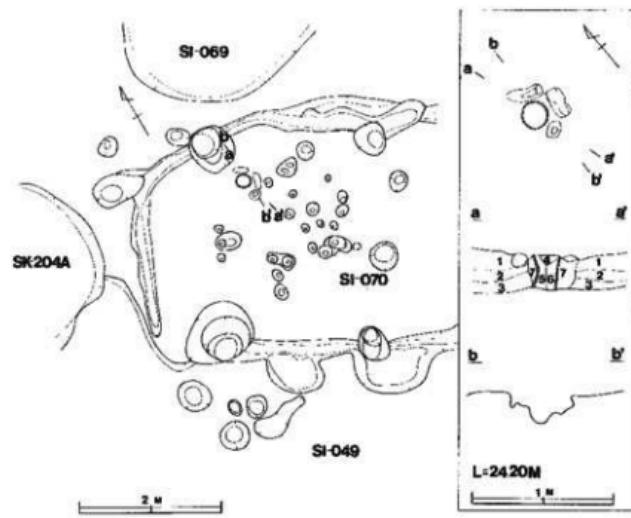
第46図 第54号住居址実測図

4号住居址においても、その重複について明確な資料が得られないため、この点については不明である。

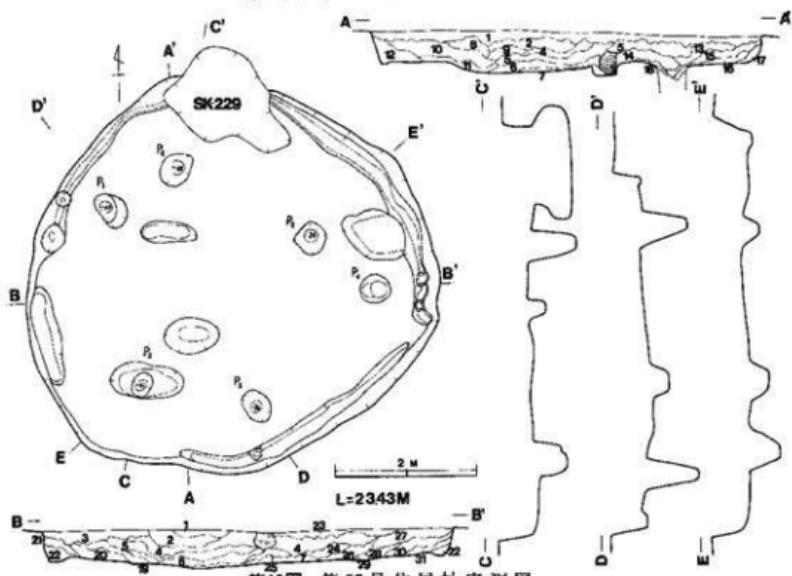
第55号住居址(図47)

本址はC3e1の表土除去後の精査中、埋設土器を伴うが址が検出されてその存在が確認されたもので、すでに周辺の精査で壁が削平され、プランの明確にならなかった遺構である。従って、図示したものはが址部と周辺のプラン実測図である。第70号住居址の覆土上部に炉址が検出され、3ヶの炉石を配し、上面より24cmほど掘り込んで土器を埋設している。1・2・3層は70号住居址の覆土で、7層が掘り込み部である。規模・形状等は不明である。

ナー部を除き検出された。床は硬く、特に下段の方が非常に硬い。炉址は検出されなかつたが、中央よりやや北寄りに小ピット群がみられ、この点では第4号・8号・18号・70号住居址同様の共通点がみられる。土柱穴はP₁～P₄であろうが、P₁はやや不自然な形状となっている。P₂・P₄は二段掘り込み状を呈し、規模も大きい。なお、南西コーナーの張り出し部については土壤との重複とも考えられるが、本址と類似する第4号住居址の北西側の張り出し部とを含めると考えると、本址に伴う可能性もある。しかし、当遺跡では重複遺構が多く、また、本址を含め第



第47図 第55号住居址実測図



第48図 第57号住居址実測図

第 57 号住居址(図48)

本址はB3d5を中心確認されたもので、北で第229号土壙と重複している。長径方向はN-48°-Eを指し、長径5.94m・短径5.44mの不整椭円形を呈する。覆土は4・5・8・23層で暗褐色の他褐色であり、8・11・18層を除きローム粒を含み、ハードロームブロックまたはハードローム小ブロックがほとんどどの層でみられる。炭化粒子・焼土粒子においては大半の層でみとめられるが、下層ほど少なくなっている。壁高は38~44cmを測り、重複も少なく、比較的良好な状態で検出できた。壁溝は南西コーナーと他の一部を除き検出され、やや全体的に浅い。溝内に一部小ピットもみられるが、ほとんど9~11cmの深さである。床面はわずかな起伏があり、やや南に傾斜している。床質については良好で硬く、炉址については検出されなかった。ピットは9ヶ所検出されたが、P₁・P₂・P₃・P₄ないしP₅・P₆が主柱穴と考えられる。

第 58 号住居址(図49)

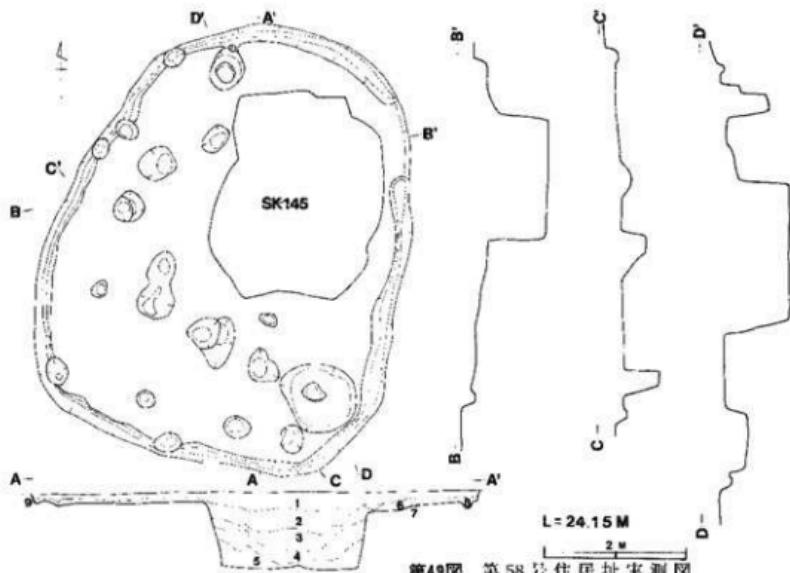
本址はB3d0を中心確認されたもので、址内で大きく第145号土壙と重複している。長径方向はN-21.5°-Eを指し、長径6.3m・短径5.11mを有し、やや不整卵形状を呈している。覆土は1・6・9層が褐色で、7・8層が暗褐色である。7層を除きローム粒を含み、全体として少量のハードローム小ブロックを含み、8層のみ焼上粒子を含む。なお、土壤との重複のため土壙図を同時に掲載したので、ここで土壙の覆土についても触れると、2・3・4層が褐色・5層が暗褐色であり、2・3・4層でハードローム小ブロックとごくわずかの炭化粒子を含み、5層では炭化粒子を含まない。壁高は12~19cmと浅く、壁溝は一部を除きほとんど検出された。溝内ピットは6ヶ所であるが、いづれも14~19cm程度のものである。炉址は検出されず、ピットが13ヶ所検出されたが、主柱穴については不明である。

第 59 号住居址(図50)

本址はB3b5に確認されたもので、南・東で浅い土壙と重複している。長径方向はN-26.5°-Eで、長径約3.3m・短径2.8m前後と思われる比較的小規模な椭円形を呈する遺構である。覆土は褐色よりなり、全体としてローム粒および少量の焼土粒を含んでいる。壁高は15~19cmで、壁溝および炉址はみられない。床面はやや硬く、平坦である。ピットは5ヶ所で、中央に良好なピットがある。

第 60 号住居址(図51)

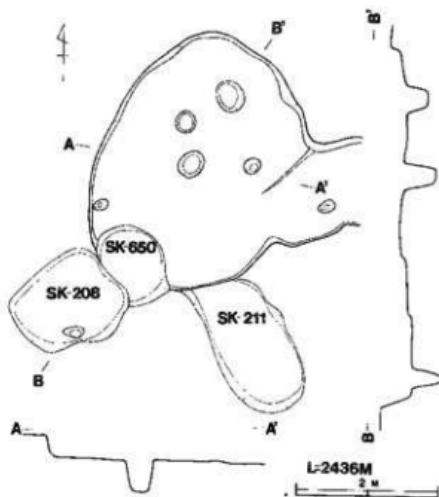
本址はB3b3に確認されたもので、西壁がやや直線状となり、不定形を呈している。最大長5.6m・最大幅約5mを測る。壁高は15cm前後と浅く、壁溝・炉址は検出されなかった。床はやや硬くしまっており、ピットが17ヶ所検出されたが、P₁~P₇が良好である。なお、中央および西の不定形を呈する落ち込みは不明である。



第49図 第58号住居址実測図

第61号住居址(図52)

本址はC3c1を中心確認され、主軸方向N-30°-Wを指し、長径約5.7m前後・短径5.15mの規模をもつ楕円形のプランである。覆土は4-6層の暗褐色の他は褐色で、6層を除きローム粒を含み、炭化粒子は2~5・7~9層でみられ、焼土粒子は3層だけ含んでいる。また、全体としてハードローム小ブロックがみられ、継りをおびている。6層はハードロームを主体しており、これはピット壁の崩壊と思われる。壁高は30~42cmを測り、壁面もしっかりしている。壁溝は重複部を除き検出され、床面はやや硬い。か壇は中央よりやや北寄りに位置し、本遺跡



第50図 第59号住居址実測図

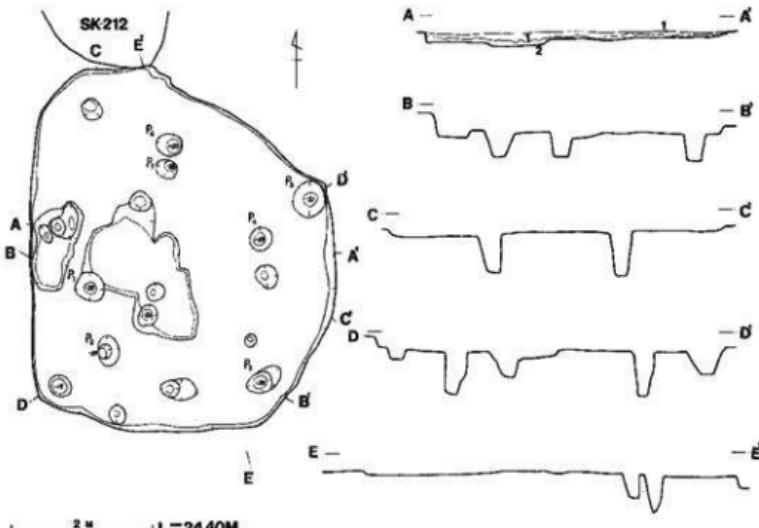
の中で最もよく残存した石圓いかである。炉石には破損した石棒を利用し、計8ヶの石でがを囲んでいる。炉床は床面より20cmを掘り込んでおり、その覆土は、1層でごく少量の炭化粒子・焼土粒子を含み、2・3層で多量の炭化粒子・焼土粒子を含む。4・5層で焼土塊がみられる。なお規模は径70×50cm程である。ピットはP₆の炉址側穴を中心に9ヶ所のピットが駆近くに並び、その内側に浅い小ピットを5ヶ所もつ。主柱穴はP₁～P₅が主柱穴として考えられ、南の重複部のピットは本址に伴うものかどうか不明である。

第64号住居址(図53)

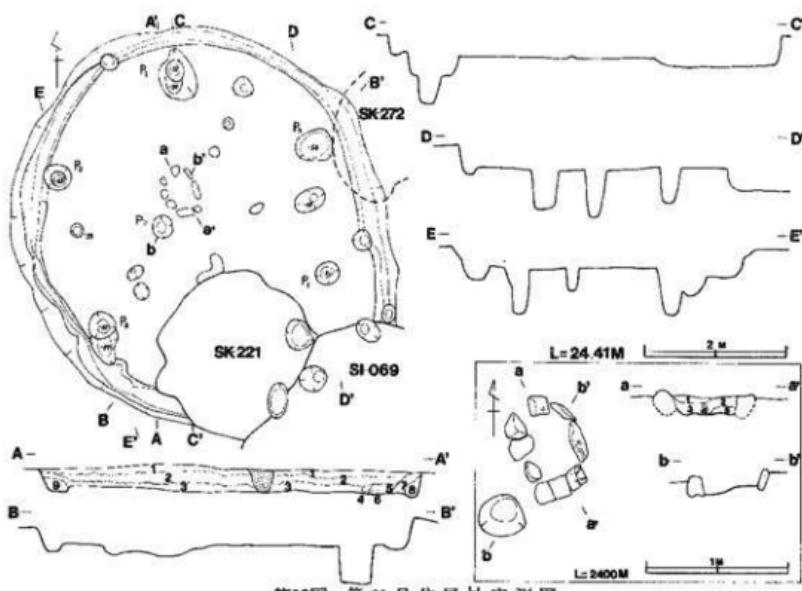
本址はC2d6を中心確認されたもので、長径方向はN-65.5°-Eを指し、長径約6.35m・短径5.3mの楕円形を呈するものと思われる。本址は表土除去後のローム面を精査中に壁溝およびピット群を検出したもので、従って覆土状況・壁高については不明である。壁溝は重複部を除き検出されたものの、特に西で不明瞭となっている。炉址は検出されなかったが、床面に大小多数のピットが検出され、また、中央よりやや南で浅い大きなピットがみられるが、性格不明である。

第66号住居址

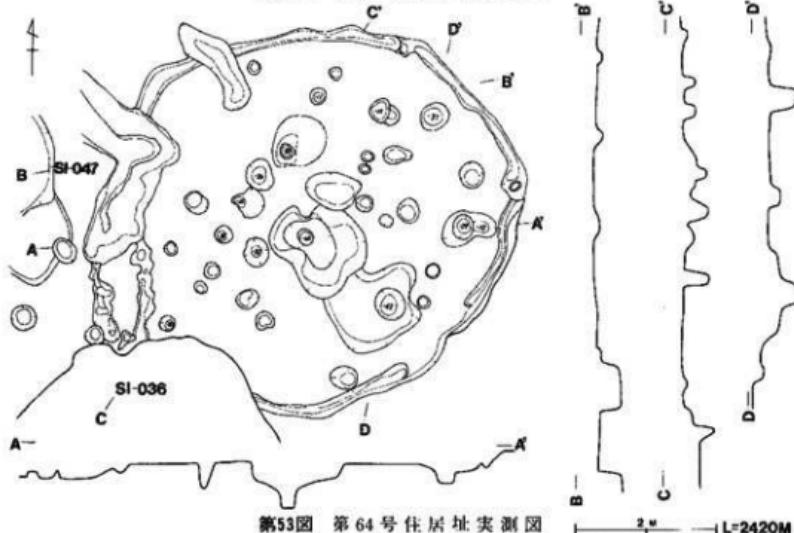
本址はB3a6に確認されたもので、北は作業用道路下となって、本址のほぼ南半分のみが検出された遺構である。推定規模は、長径約3.5m前後・短径2.4mほどの楕円形を呈すると思われ



第51図 第60号住居址実測図



第52図 第61号住居址実測図



第53図 第64号住居址実測図

る小規模なものである。壁高はわずかで、壁溝はみられない。しかし、床は硬く、9ヶ所のピットが検出された。炉址は検出されなかった。

第68号住居址(図55)

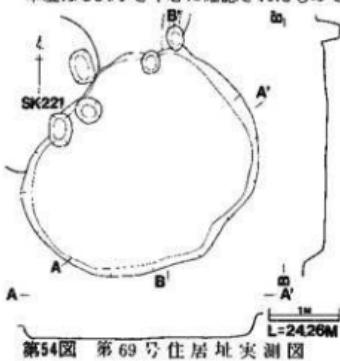
本址はC2a0を中心確認されたもので、長軸方向はN-22°-Wを指している。本址も二段掘り込み状を呈するが、上段・下段の比高差が少なく、上段での平面形が橢円形を呈している点と、下段での小ピット群の存在がみられない点で、他の二段掘り込み遺構とは異質の点がみられる。上段の規模は長径6.32m・短径4.35mで、下段においては長径4m・短径2.38mとやや不整な平行四辺形状を呈するが、南壁はやや弧を描いている。覆土はすべて褐色よりなり、全体として少量のハードローム小ブロック・ローム粒を含み、焼土粒子は1層だけにごく少量認められ、炭化粒子は3層を除き4・5・7層で微量、その他で少量みられる。壁高は上段で41~46cmを測り、下段では13~17cmほどを掘り込んでいる。壁溝は上・下ともにはぼ一層しているが、上段でやや壁の内側にみられる。床面はやや東に傾斜するも平坦である。炉址については検出されなかった。ピットは16ヶ所検出されたが、主柱穴はP₁~P₄と思われる。その他のピットは比較的浅い。

第69号住居址(図54)

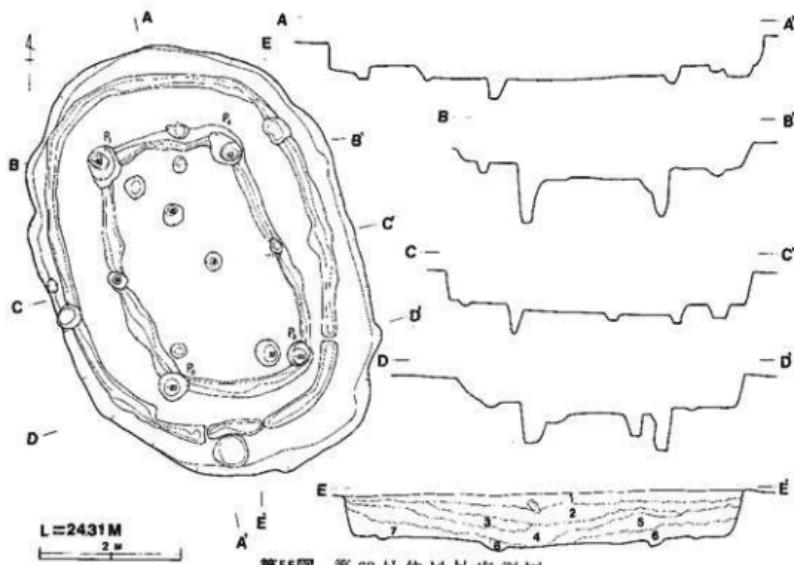
本址はC3d1を中心確認されたもので、長軸方向はN-50.5°-Eを指し、長径3.45m・短径2.75mの不整橢円形を呈する。覆土は暗褐色・褐色を呈し、全体として少量のローム粒・微量の焼土粒子を含んでいる。壁高は32cmで、床面はほぼ平坦である。炉址は確認されず、また、ピットについては3ヶ所検出されただけである。なお、ピットの配置および炉址を伴っていない点と、さらに壁溝を伴っていないことから土壤としての可能性も考えられるが、他の土壤と比べ形状・規模や浅く平坦な比較的硬い床状などから住居址として取り扱った。

第70号住居址(図56)

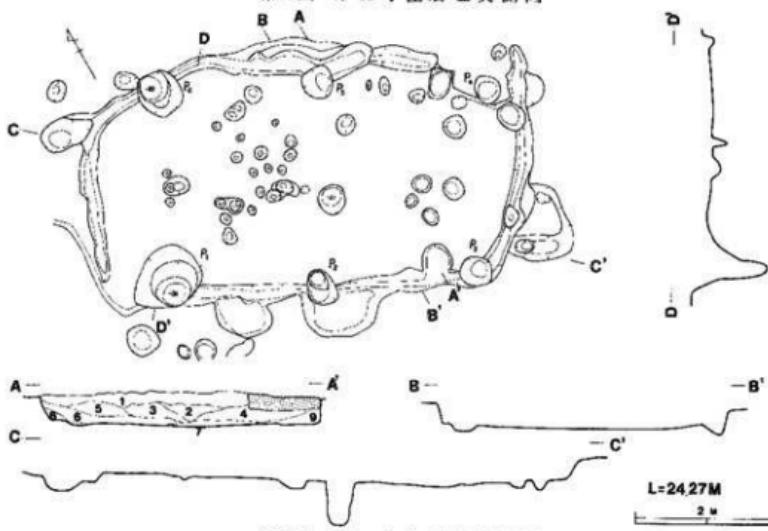
本址はC3e1を中心確認されたもので、長軸方向はN-59°-Wを指し、長辺6.32m・短辺3.6m前後の不整な橢円形を呈する。南と南東壁は直線的であるが、他はやや丸味をおびている。覆土は7層の暗褐色を除き褐色で、1~7層で少量のローム粒、1・4・6・7層でごく少量のハードローム小ブロック、8層を除き炭化粒子、1・5層で焼土粒子を含み、全体としてしまりをおびている。壁高は23~32cmで、壁溝は一部を除きほとんど検出された。床質は一様に硬く、炉址はみられなかった。ピットは、中央よりやや西寄りに小ピット群がみられ、主柱穴はP₁~P₆が想定される。なお、本址の性格に



第54図 第69号住居址実測図



第55図 第68号住居址実測図



第56図 第70号住居址実測図

については、小ピット群の存在と、炉址を伴わない点、床の一様な硬さ、主柱穴の配置、形状等から二段掘り込み状遺構と共通する点が多く、しかも、本址の北東約50cmの位置にごく一部の壁溝が認められることから、二段掘り込みを有する遺構の可能性が強い。しかし、上・下段の段差を確認することができず断定するには至らない。

第71号住居址(図57)

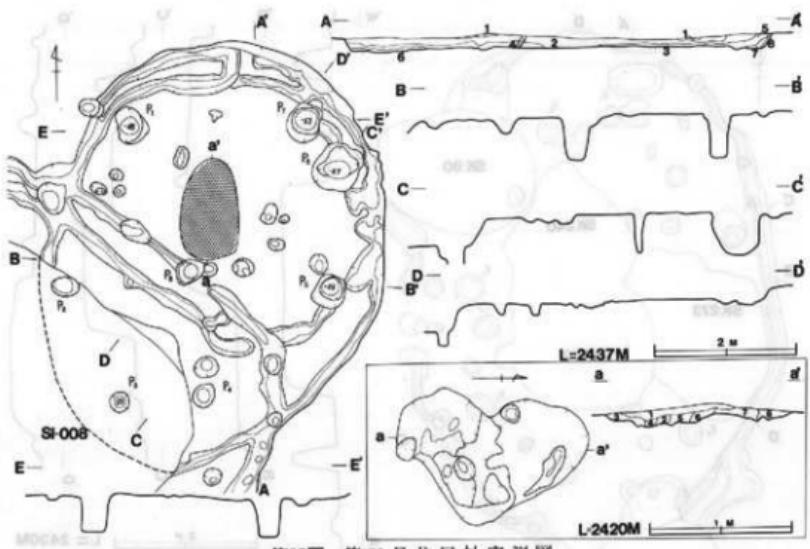
本址はB3j8を中心に確認されたもので、すでにはば南半分を削り取られているため規模等不明である。しかし、残存する壁溝から長径約6m前後・短径4.5m前後と推定され、本遺跡の標準的な規模を持つものと思われる。覆土は褐色よりなり、6層を除きごく少量のローム粒、3・6・8層でハードローム小ブロック、2・4・5・7層で炭化粒子を含む。1層は耕作土である。壁高は18cm前後と浅く、壁溝は重複部を除き検出された。なお、壁溝が一部で二重に廻っている所がみられ、炉址形態、大きさ等から重複または改築の可能性を持っているが、南での内側壁溝が明確にとらえられず不明である。炉址は中央やや北寄りに位置し、径1.4m×0.82mの範囲で確認されたが、調査の結果、床面より約10cm前後掘り込んで炉床とし、形状はややハート形を呈する不定形である。ピットはP₈を中心にしてP₁～P₇が周辺に廻り、P₆・P₇のいずれかを含め主柱穴と考えられる。なお、P₂・P₃は本址床面上より計測するとそれぞれ57cm・65cmとなり、他の主柱穴とはほぼ同程度で、本址に伴うものと考えられる。

第72号住居址(図58)

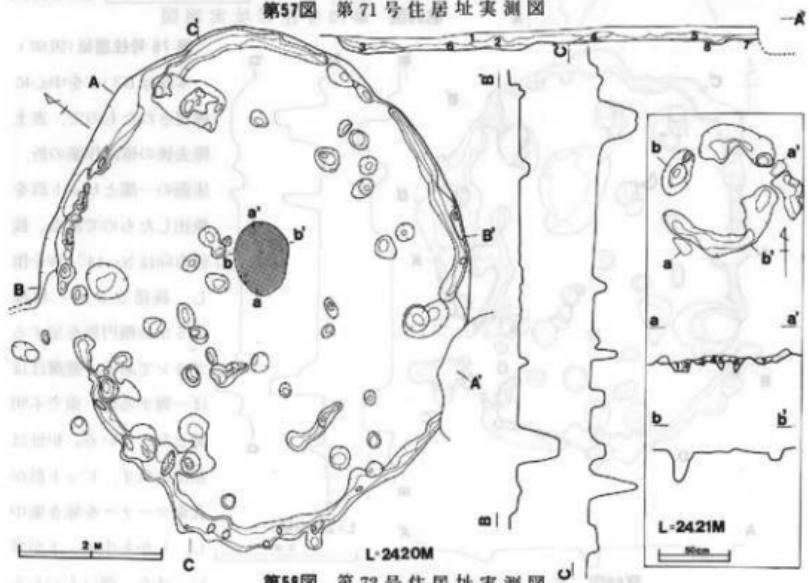
本址はB3j0を中心に確認されたもので、主軸方向はN-45.5°-Eを指し、長径7.25m・短径5.7mの楕円形を呈する。覆土は褐色よりなり、全体として少量のローム粒、3層を除きごく少量のハードローム、1・3・4層で炭化粒子を含み、焼土粒子は微量であるが2・5・8層で含んでいる。さらに、全体的にしまりをおびている。壁高は15～21cmで、壁溝がほぼ一周している。床面は硬く平坦で南西にやや傾斜している。炉址は中央よりやや北寄りに検出され、床を浅く掘り込んで炉床としている。周辺に2ヶの石と窪みがみられることから石囲いがあつたものと思われる。炉址の覆土は全体的に少なく、3・5・6層で焼土ブロックがみられる。ピットは32ヶ所検出され、全体的に浅く、小ピットが多い。

第73号住居址(図59)

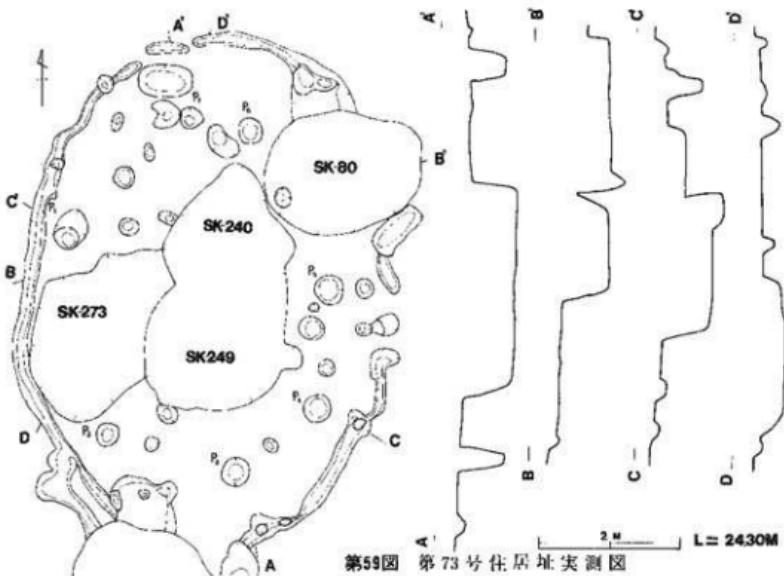
本址はC3a2を中心に確認されたもので、長径方向はN-6°-Eを指し、長径約7.2m・短径約5.3m前後の楕円形を呈するものと思われる。壁高は7～12cmで、壁溝は重複部を除きほぼ一周している。炉址は中央の土壤内と考えられたが、土壤の調査過程で焼土が検出されなかったことから、本址はそれを伴わない住居址と思われる。ピットは比較的小ピットが多数で、P₁～P₅・P₆またはP₇が主柱穴と思われる。



第57図 第71号住居址実測図

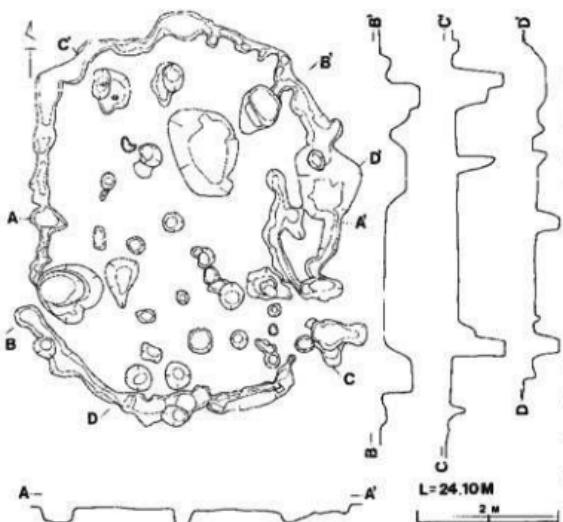


第58図 第72号住居址実測図



第59図 第73号住居址実測図

L = 24.30M



第60図 第76号住居址実測図

第76号住居址(図 60)

本址はB3j1を中心確認されたもので、表土除去後の確認作業の折、床面の一部とピット群を検出したものである。長径方向はN-14°-Wを指し、長径 5.8 m・短径 4.5 mの楕円形を呈するプランである。壁溝はほぼ一周するが、東で不明瞭となっている。が址は検出されず、ピット群が北東コーナーを除き集中し、しかも小ピットが多い。また、深いものもみ

られるが、不定形状が多く、主柱穴については不明である。

第78号住居址(図61)

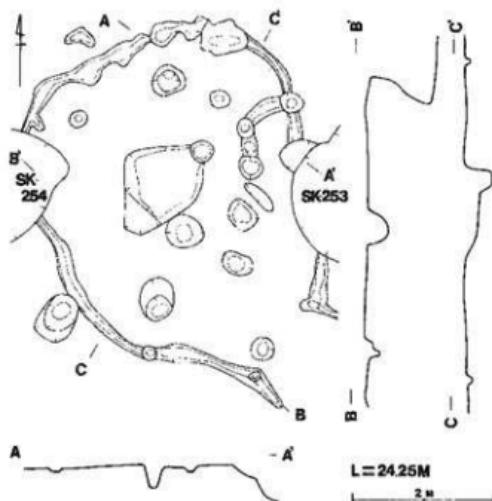
本址はB3j2を中心確認されたもので、表土除去後の確認作業中に吹溝およびピット群を検出したものである。長径方向はN-25°-Wを指し、長径約4.8m・短径約3.7mのやや中規模な遺構で、不整な楕円形を呈している。炉址は検出されず、壁溝が南東コーナー部を除き検出されたが、この南東コーナーと、東の部分で不自然な溝状を呈している。ピットは12ヶ所検出されたが主柱穴については不明である。

第79号住居址(図62)

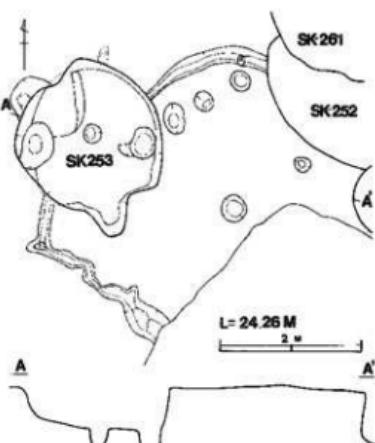
本址はB3j3を中心確認されたもので、東・南で大きく上塙・住居址等と重複し、形状・規模等不明である。検出された壁溝は南でやや不自然であるが、西で弧を描いている。ピットは5ヶ所検出されているが、本址の中心部と思われる位置にピットがみられる。これが本址柱穴の中心的役割を果す可能性をもつものと思われる。

第80号住居址(図63)

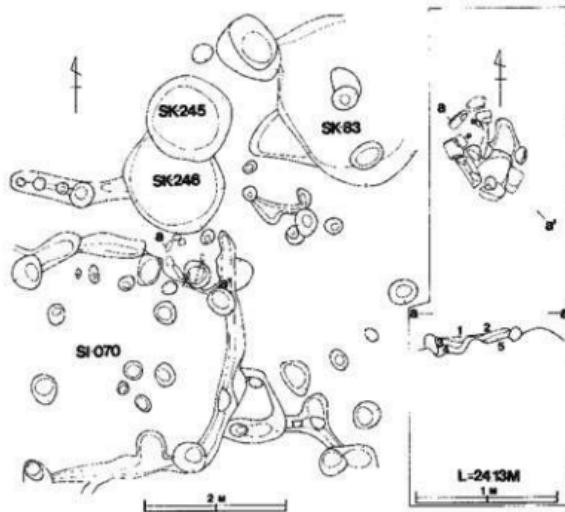
本址はC3e2の第70号住居址調査中、東コーナー部の壁上部に石突いが址が検出されてその存在が確認されたものであるが、他の本址状遺構同様まったくプランのとらえられなかった遺構である。炉址を中心にピットがみられ、これらのピットが本址と何らかの関連を持つものと思われる。炉址は斜約70×50cmの楕円形状



第61図 第78号住居址実測図



第62図 第79号住居址実測図



第 80 号 住居址 実測図

に確認され、周囲に 9 ケの火石が配されており、その内側に 2 片の土器が検出された。埋設土器を伴うものとして調査したが、セクションよりその痕跡は認められなかつた。覆土は 2・4 層で多量の焼土が認められ、他は比較的少ない。

第 81 号 住居址(図 64)

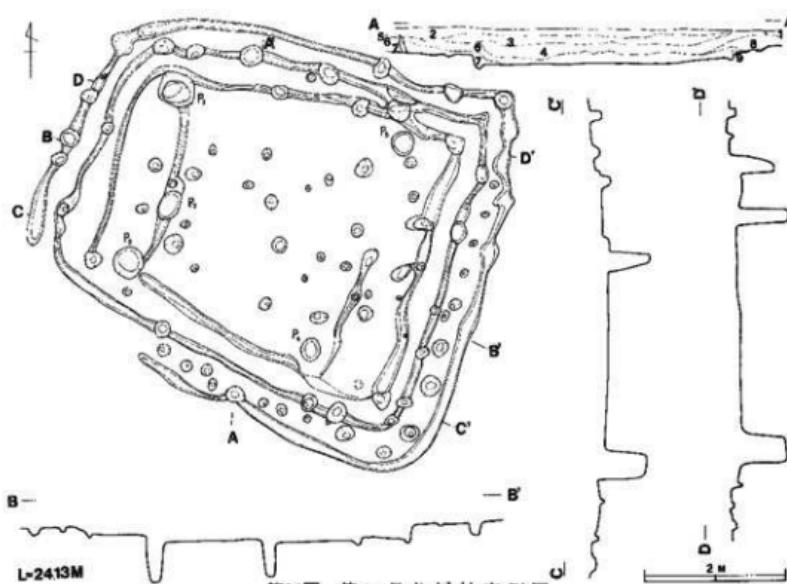
本址は C2i1 を中心に確認されたもので、長軸方向 N-64°-W を指し、最大長 6.45 m・最大幅

5.3 m 前後で、北東コ

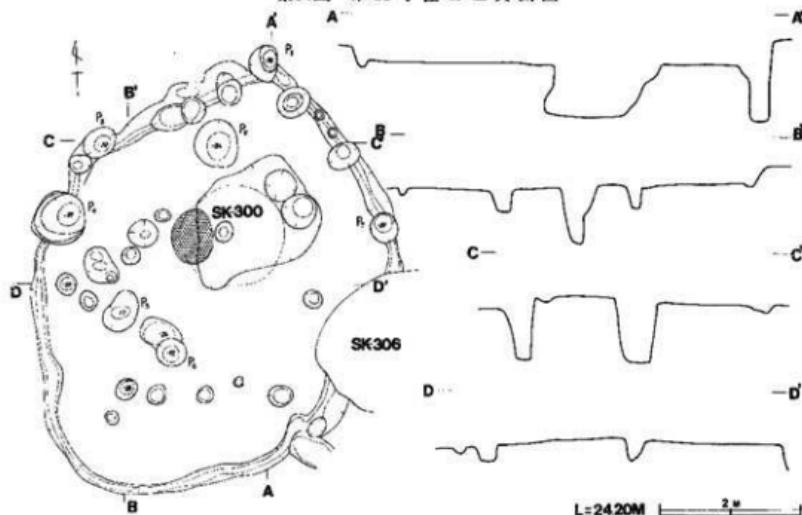
ナーを除き隅丸を呈する不整台形状のプランである。覆土は 2・3・5 層が暗褐色で、他は褐色である。全体としてローム粒・ハードローム小ブロックを含み、2・3・5 層で焼土粒子、2~4・6~8 層でごく少量の炭化粒子を含んでいる。浅い二段の掘り込みがみられるが、これまでに記載した二段掘り込み構造と比べてかなり異質の点が多く、むしろ第 40 号 住居址の形態に近いものといえよう。壁溝をみると 3~4 条の部分があるが、それぞれ浅く細いものである。特に東西の最も内側の溝が不自然となっている。床面は平坦で、硬い。炉址は第 40 号 住居址同様伴っていない。ピットは多数検出され、その大部分は小規模であり、P₁~P₅ が深さ 55~74 cm あり、これらが本址の中心的な役割をもつたものと考えられる。

第 82 号 住居址(図 65)

本址は D2c5 を中心に確認されたもので、中央やや北寄りの位置で第 300 号 土壙と重複している。長軸方向は N-17.5°-E を指し、長径 6.36 m・短径約 5 m 前後のもので、不整形円形を呈している。壁高は南北壁で 24~38 cm を測り、壁溝は東の第 306 号 土壙との重複部を除き検出され、炉址が中央やや北寄りの位置に検出された。炉址は第 300 号 土壙の調査の折、東半分を削り不明となつた。ピットは 31 ケ所検出され、その中で P₁~P₇ は深く、規模が大きい。しかし、柱穴については明確でない。



第64図 第81号住居址実測図



第65図 第82号住居址実測図

第83号住居址(図66)

本址はD2f3グリット周辺部土壙の調査中、9ヶ所の良好なピット群を検出し、床面も硬く住居址の存在が予測されたものであるが、調査の結果、炉址および壁溝は検出されなかつたし、プランも明確とならなかつた。このため住居址としての不的確さがあるが、第291号上壙のピットを併せて考えると、住居址状の遺構が存在していたものと思われ、ここでは住居址として取り扱つたものである。従つて、規模等不明である。

第84号住居址(図67)

本址はD2c5に確認されたもので、炉址および北と南の一部で壁を検出した。形状は、やや梢円形を呈するものと思われ、長径3.4m・短径2.7m前後の規模を有する。壁高は43cmを測る。炉址は径55×45cmの範囲で確認され、確認面より8cmほど掘り込んで炉床を設け、周囲には配石の痕跡が認められることから地床炉であったと考える。覆土は1・2層が焼土粒子が多く含み、3層が焼土ブロックとなっている。4~6層は炭化粒・焼土粒・ローム粒等の混土である。主柱穴については不明である。

第87号住居址

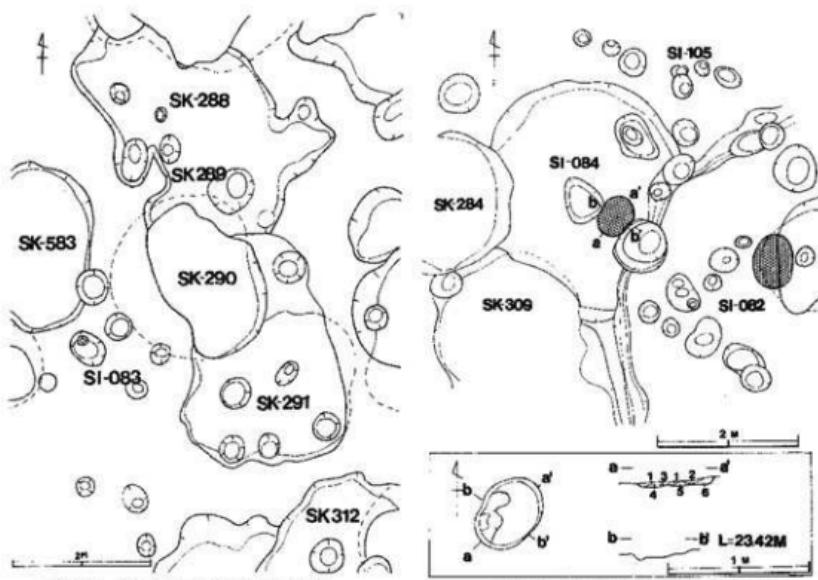
本址はD2d6に埋設土器を伴う炉址が第305号土壤覆土上部で検出されたことによって確認されたものであるが、焼土量が少なく、炉址としての判断に遅れ、すでに炉址周辺を削平してしまつたため、埋設土器を確認したのみで終了した遺構である。

第89号住居址(図68)

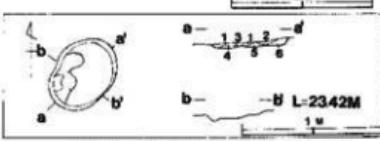
本址はC3j1に検出されたものであるが、炉址周辺部がほとんど他の上壙と重複し、プランが明確とならなかつたものである。炉址より西にわずかに壁溝が確認されたものの、規模・形状等不明である。炉址は西の部分を削られているため不明瞭であるが、推定規模は径71×60cmの卵形状で、確認面から5cmほど掘り込んで炉床をしている。このように浅い炉床はすでに炉址覆土の削平によるものとも考えられる。覆土は1・2・3層とともに焼土を含み、特に3層で多く、4層が焼土ブロックとなっている。炉址を中心にピットがみられるが、土壙に伴うものか、本址のものなのか明確でなく、主柱穴についても不明である。

第92号住居址(図69)

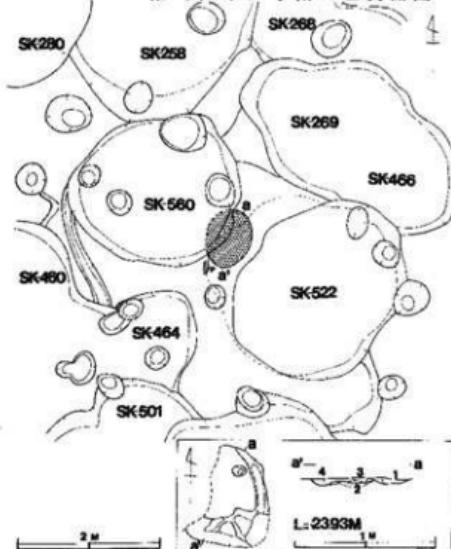
本址はC2j3を中心に確認されたもので、南東で第93号住居址と重複している。主軸方向はN-41.5°-Eを指し、長径約5.2m・短径約4.5m前後と推定され、残存する壁溝から梢円形を呈すものと思われる。壁溝は重複部で不明となっており、北コーナー部で溝内に小ピットがみられる。床面はやなだらかな起伏がみられ、ほぼ中央部に径100×75cmの梢円形状の範囲に焼土が確認された。調査の結果、床面より22cmほど掘り込んで炉床をしているが、炉石を配した痕跡はみられなかつた。ピットは炉址を取り囲むP₁~P₃が良好であるが主柱穴については不明である。



第66図 第83号住居址実測図



第67図 第84号住居址実測図



第68図 第89号住居址実測図

— 53 —



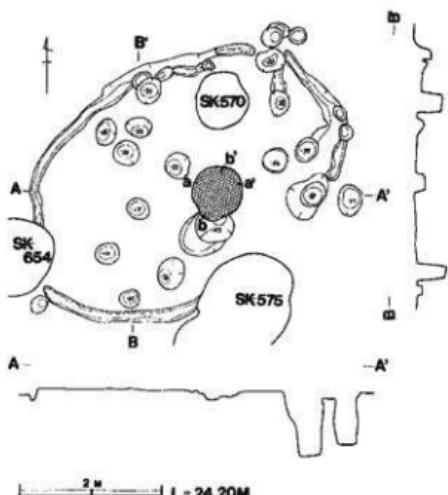
第69図 第92・93号住居址実測図

第93号住居址(図69)

本址はC2j3を中心に確認されたもので、長径方向N-42°-Eを指し、長径約3.7m・短径約3m前後の不整橢円形を呈するものと思われる。壁溝は東と西の一部で切れており、細く浅い。炉址は検出されず、ピットは17ヶ所検出されたが、中でもP₄～P₈は良好なものである。

第94号住居址(図70)

本址はC2j4を中心に確認されたもので、主軸方向N-54°-Eを指し、長径4.8m・短径約3.3m前後の長橢円形を呈している。当初、本址は炉址部のみ確認されたもので、周辺部精査の



第70図 第94号住居址実測図

結果南東部を除き長橢円形に壁溝が検出された。このため壁高はすでに削平して残存せず、炉址周辺部に15ヶ所のピットを検出するに及んだ。炉址は径70cm前後の円形状の範囲で確認され、床面より14cm前後掘り込んで炉床としている。周辺に石圓い炉の痕跡は認められなかった。炉

址の覆土は1層で焼土が少なく、2層が多い。3・4・5層は1層より焼土が少ない。主柱穴については明確でない。

第95号住居址(図71)

本址はC2j6を中心に確認されたもので、長径方向はN-0°を指し、長径3.92m・短径3.1mの不整五角形を呈する。覆土は暗褐色・褐色よりなり、全体としてローム粒・少量の焼土粒子を含んでいる。壁高は14~26cmを測り、壁溝も一周している。床は東にやや傾斜し、炉址は検出されなかった。ピットは12ヶ所検出されたが、中でもP₇~P₉が深い。主柱穴はP₁₀を中心P₁~P₆がまわり、これが、P₁₀と関連をもってその役割りを果したものとも考えられる。

第98号住居址(図72)

本址はC3j6に炉址部のみ確認されたものであるが、住居址に伴うものであるかどうか検討した結果、炉址としての性格づけに問題は残るもの、他の調査地点で検出された炉址から判断し、本址も住居址に伴う可能性が強い。従って、ここでは住居址に伴うものとして取り扱った。

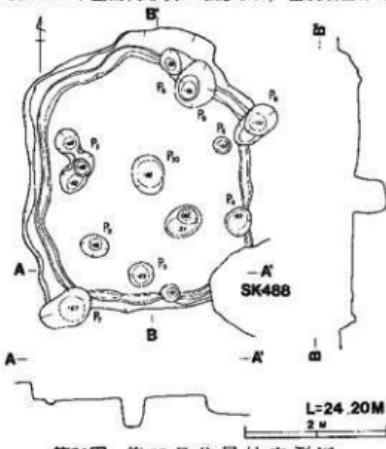
本址の周辺には埋設土器を伴う炉址が検出され、さらに、本址の北に第111号住居址の炉址部がそれぞれ異ったレベルで検出された。そのため、本址に伴うピット等不明で、その他規模等も不明である。

第99号住居址(図72)

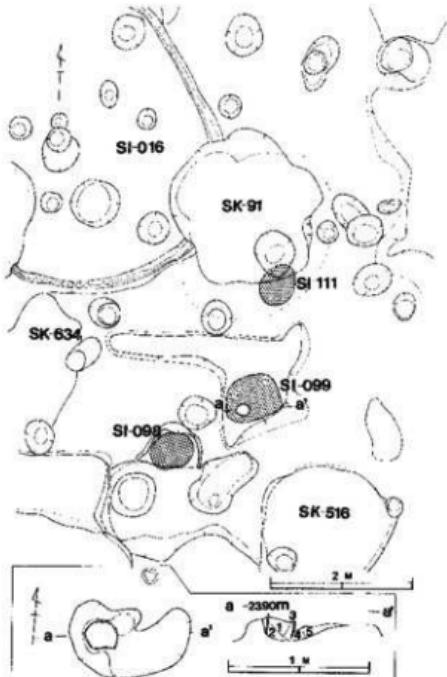
本址はC3j6に埋設土器を伴う炉址のみが確認されたもので、形状・規模等まったくとらえられなかつたものである。周辺に土壤と重複するピットが点在するが、本址に伴うピットがどれかを明確にするには困難である。炉址は、径89×63cmの不整橿円形状に確認され、埋設土器はその南西コーナーで検出された。また、か石が1ヶ検出され、埋設土器を伴う石匂い炉の可能性が考えられる。炉址の覆土は1層で多量のロームと焼土粒子、2・3層で焼土が少くなり、4層ではハードローム小ブロックを主体としている。

第100号住居址

本址はC2j4に確認されたが、北での壁溝と、3ヶ所のピットを検出したのみである。従って、形状・規模等不明であるが、残存壁溝から小規模な橿円形状を呈するものと思われる。この周辺にはほぼ主軸方向を同一とする住居址が3軒ほど重複して検出され、いず



第71図 第95号住居址実測図



第72図 第98・99・111号住居址炉址周辺部実測図

焼土は少ないが、中でも1層が多く、2層でハードローム小ブロック、3・4・5層で炭化粒子を少量含む。ピットは30ヶ所検出されたが、主柱穴は不明である。

第103号住居址(図74)

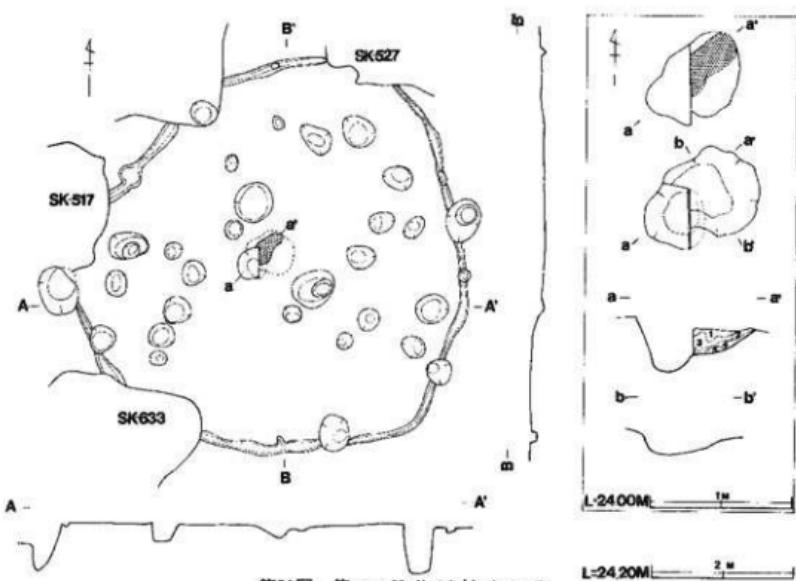
本址はE2g0を中心確認されたものであるが、覆土の範囲を明確にとらえることができず、床面および壁・壁溝とともに不明瞭となった遺構である。当初、床面の検出に努めたが、北東のコーナー付近で床面の段差がみられ、他の遺構との重複があるものと考えられた。中央部に向っての精査がすすみ、中央の東部分に落ち込みがみられたため、この調査を始めたところ、埋設土器を伴う炉址部が検出された。これを中心に住居址の範囲を想定し、壁溝の検出にあたったところ南で完全なものを検出した。これにより逐次壁溝が検出され、結果的には精査のための削平により浅い不明瞭な壁溝を検出した。しかし、北側では検出に至らなかった。従って規模等も不明瞭であるが、推定長径は約5.8m前後・短径4.5m前後であろうと思われる。炉址は床面より20cm程を掘り込んで土器を埋設しているが、1・2・4・5層で焼土が多く3層上面が炉床と思われる。周辺には浅い窪みがみられることから、炉石を配した埋設土器を伴う石囲い炉と考えられる。な

れも中・小規模で、本址もそれらと類似する点が多い。

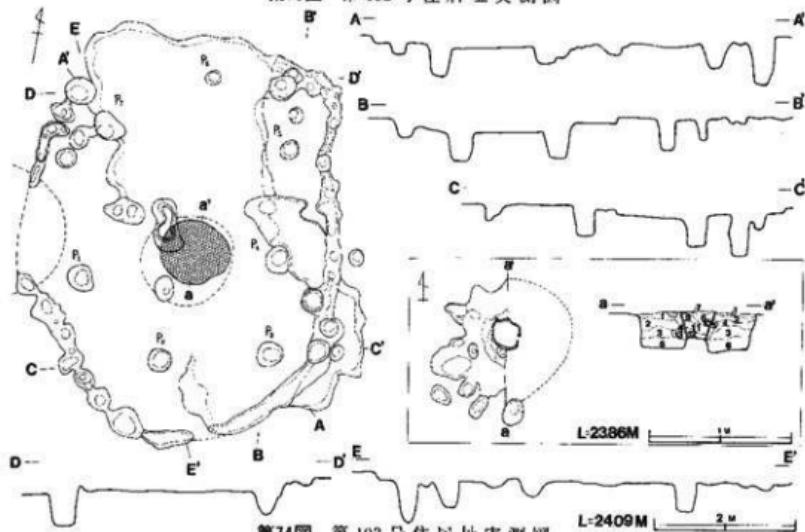
第102号住居址(図73)

本址はD3a7を中心に確認されたもので、長軸方向はN-38.5°-Eを指し、長径約6m・短径5.4m前後の不整楕円形を呈する。覆土は暗褐色・褐色よりなり、全体としてローム粒・少量の炭化粒子を含んでいる。壁溝は重複部を除き検出され、床はやや中央部が低くなっている。炉址は、ほぼ中央に位置し、焼土量も少なく、範囲も狭かつたためその確認が遅れ、すでにその南西部に重複するピットを掘り込んでしまったため、完全な調査を実施することができなかった。残存部から想定し、径85×55cm前後で、床面より15～20cmほど掘り込んで炉床としたもの

と思われる。炉址の覆土は全体として



第73図 第102号住居址実測図



第74図 第103号住居址実測図

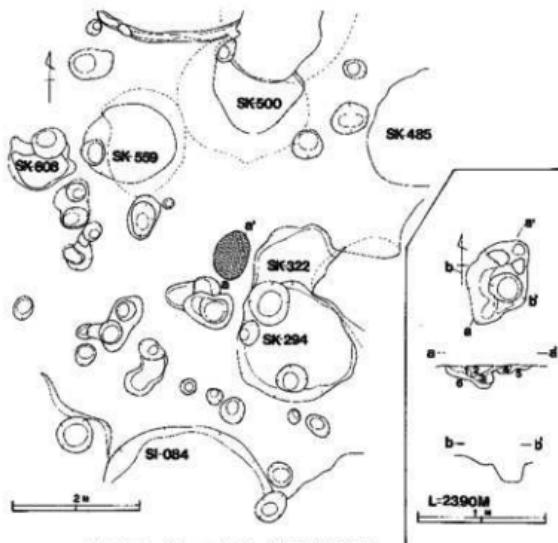
お、7～12層の上器内覆土にもそれぞれ少量であるが焼土粒子を含み、特に10層では炭化粒子が多い。主柱穴は位置的にP₁～P₇であろうと考えられるが、P₆・P₇が他と比べ規模・形状において不自然である。

第105号住居址(図75)

本址はD2a4に炉址のみ検出されたもので、炉址周辺にピット群が存在するが、形状・規模・主柱穴等不明である。また壁溝も検出されなかった。炉址の確認域は径76×52cmで、楕円形である。床面より16cm掘り込んで炉床としている。周辺に石を配した痕跡はみられなかった。炉址の覆土は2層で焼土が多く、他は少量である。1・2層で少量のローム粒、3・5・6層で少量の炭化粒子を含み、2層を除きハードロームブロックを少量含んでいる。

第107号住居址(図76)

本址はC2j4に焼土域のみ確認されたもので、炉址の精査を含め調査未了となった遺構である。従って住居址として取り扱うことに不的確さもあるが、確認の段階で、周辺部のローム面の硬さ、周辺部査定中における出土遺物の量、検出レベル等を考え、ここでは住居址として取り扱った。そのため、図示したように焼土確認域とその周辺部の遺構およびピットの位置等を掲載した。第94号住居址の北側の範囲外に4ヶ所のピットがあり、これらは本址に伴うものと考えてよいであろう。またその床面に点在するピットも本址に伴うものがいくつかあるものと思われる。



第75図 第105号住居址実測図

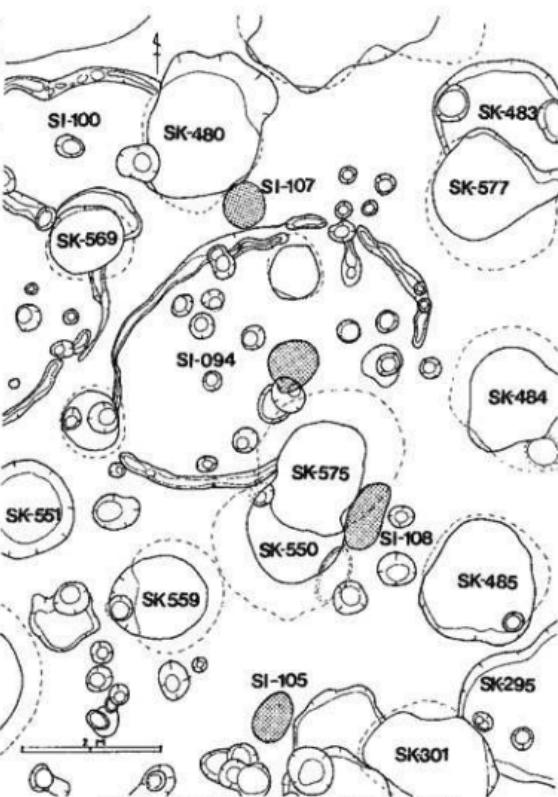
第108号住居址(図76・77)

本址も第107号住居址と同じく、焼土域のみ確認されたものである。従って形状・規模等不明である。この焼土の確認範囲は径約92×55cm前後で、長楕円形状に確認され、その覆土は1層が部分的に焼けており、焼土を含んでいる。2層で焼土ブロックがまじり、焼土・木炭粒子を含んでいる。3層でも焼土がみられる。他は焼土ブロックである。また確認面より8cmほど

掘り込んで炉床としている。周辺部にはがし石を配した痕跡は認められなかった。ピットについてのは、本址についてのものを明確にすることはできなかったが、炉址周辺の3ヶ所のピットは本址のものと考えてよいであろう。

第110号住居址(図78)

本址はC2i6を中心と確認されたもので、中央部で大きく第276号土壤と重複している。本址は276号土壤調査の折、周辺にやや硬いローム面を確認し、住居址の存在が予測されて調査されたものである。調査の結果、部分的ではあるが壁・壁溝を検出し、さらに、周辺に13ヶ所のピットを検

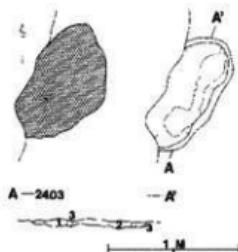


第76図 第107-108号住居址炉址周辺実測図

出した。検出された残存部の壁高は25~35cmで、床はほぼ平坦である。主柱穴は不明瞭であるが、壁周辺ピットは比較的深いものである。なお、南の張り出し部は、B-B'の断面図のように床面に段差があり、重複造構の可能性もある。

第111号住居址(図72)

本址はC3j6に焼土が検出されたことによって住居址として取り扱われたものであるが、周辺部の精査を含め、炉址の調査も未了となつた1つである。特に本址の南に位置する第99号住居址の埋設土器を伴う炉址の検出で、周辺部の精査



第77図 第108号炉址実測図

を完全なものにすることができなかった。レベル的には本址の方が深い。焼土域の周辺ローム面は自然ローム面より硬く、確認の段階でも覆土と思われる部分に遺物が検出されており、またが址のすぐ東には数ヶ所のビットが検出されたため、本址も住居址として取り扱った。

第112号住居址(図79)

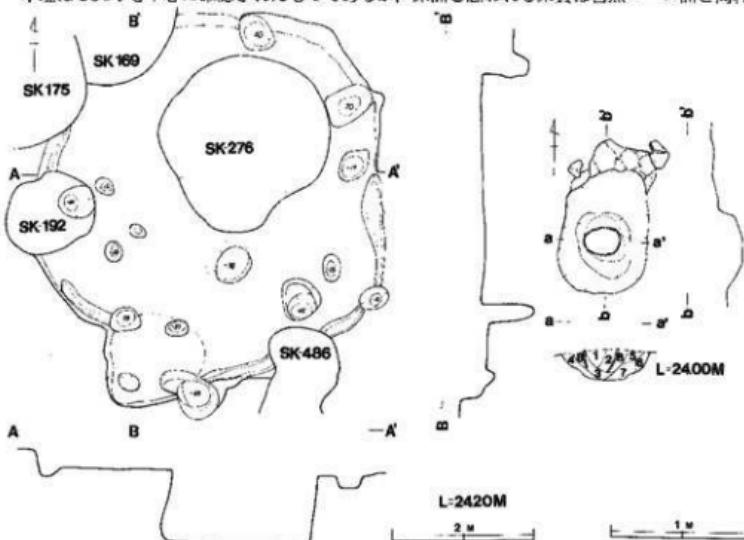
本址はD3a5に埋設土器を伴うが址のみが検出されたもので、形状・規模・柱穴等不明である。確認された焼土の範囲は径 90 × 57 cm で、不整規円形状である。埋設土器は中央より南の位置に検出され、それより北に約 60 ~ 70 cm 離れた位置に 2 つの炉石がみられ、埋設土器を伴う石開い炉と考えた方が自然であると思われる。なおが址の覆土は 4 層で焼上がり少なく、5 層で多量となり、6・7 層になるに従って少なくなっている。8 層は焼土を主体としている。1 ~ 3 層の土器内覆土にはごく少量の焼土粒子がみられる。

○その他の住居址

遺構確認調査の際住居址と判断し、番号を付したものの中で、調査の進捗により土壤となったり他の住居址の一部であることが判明したので、それらについて欠番として扱い、次にまとめた。

第23号住居址

本址はC3c4を中心確認されたものであるが、床面と思われる床質は自然ローム面と同程度



第78図 第110号住居址実測図

第79図 第112号住居址炉址実測図

であり、また、周辺部の精査においても炉址、壁溝、ピットの存在がみられず、住居址として断定しうる結果が得られず欠番となったものである。

第 24 号住居址

本址は C3d3 を中心に確認されたものであるが、第 94 号土壙の周辺部及びその南西にピットが存在し、位置的な面から考えると住居址の可能性をもっている。しかし、炉址・壁溝など検出されず判断に有効な資料が得られなかつたため欠番とした。

第 25 号住居址

本址は B3j7 に確認されたもので、北西で第 30 号住居址、南東で第 118 号土壙と重複している。規模からすると第 12 号・69 号住居址とはほぼ同程度で、しかも平坦なやや硬い床状を呈している。従って、住居址として取り扱う要素はあるものの、ピットが 1 ケ所も検出されず、周辺精査を通してそれらを検出することができなかつたし、炉址および壁溝も検出されず、住居址としての位置づけよりも土壙として取り扱った方が適切であるとの判断で本址を第 656 号土壙とした。

第 32・33・34 号住居址

本址は B3d4 を中心にその周辺に確認されたものであるが、第 32 号住居址については床と思われる確認面は平坦であり、やや硬いものの、規模が 2.2 m 前後とあまりにも小さく、ピット・炉・壁溝も検出されず、住居址の判断には無理があり、第 201 号土壙として本址を欠番とした。また第 33 号住居址についても同様であり、これを第 202 号土壙とした。第 34 号住居址については、調査の進行に伴い、すり鉢状の土壙を呈してきたため、本址を第 203 号土壙とした。

第 42 号住居址

本址は C2h5 に確認されたもので、覆土中より多量の遺物が出土し、床もやや硬質で、平坦さをもち、住居址としての要素を多く有しているが、規模が径 2.6 × 2.3 m の楕円形状を呈し、他の検出された住居址に比べあまりにも小規模であること、また、ピットが南東側に 1 ケ所、炉址・壁溝のみられない点などを考え、住居址としての判断資料に乏しく、ここでは土壙として取り扱い、第 152 号土壙としたものである。

第 44 号住居址

本址は C2g6 に確認されたもので、精査を通してピットが 10 ケ所ほど不規則に検出された。この点で、第 13・14 号住居址同様、多くに住居址の要素を有している。しかし、本址の北での土壙との重複、さらに精査にもかかわらず炉址・壁溝の検出に至らなかつた点で住居址として確定できなかつた。

第 48 号住居址

本址は C2d4 に確認されたもので、当初、確認面では小規模な住居址であろうとの見方を持って調査を進めたが、径 2.7 m 程の遺構にとどまり、炉址及び壁溝・ピットの検出に至らず、住居

址としての要素を多分に欠くところから第 200 号土壌として取り扱った。

第 51 号住居址

本址は C2b5 を中心に、表土除去後の精査を通してその存在が予測されて調査を進めたものであるが、不規則に不定形のピットを検出したのみで、住居址に伴う良好なピットを検出できず、さらに精査を通しても炉・溝の検出にも至らなかった。また、他遺構に比べ出土遺物も少ないとなどから、住居址としての判断資料に欠く点が多く、そのため本址を欠番とした。

第 53 号住居址

本址は C2a3 を中心に住居址の可能性があるとの予測から調査を進めたものであるが、覆土中の遺物の散在、ピットの未検出、炉・溝の検出がされなかことなどにより、単なる耕作中にによる遺物の混在と認め、本址は存在しないものとして欠番とした。

第 56 号住居址

本址は C2a6 の一部に落ち込みが検出されたが、調査用の道路及び、耕土地の一部として使用されたため、住居址として明確にとらえることができず欠番とした。

第 62 号住居址

本址は C2h7 に焼上のみ検出されたものであるが、周辺における精査にもかかわらずピット群が検出されず、床質も自然ローム質に近く、住居址遺構として取り扱う資料が得られなかつたため本址を欠番とした。

第 63 号住居址

本址は第 54 号住居址内に重複遺構として確認されたが、調査の結果、二段掘り込みを有する一軒の住居址となったため、本址を欠番とした。

第 65 号住居址

本址は第 39 号住居址内に重複遺構として確認されたが、調査の結果、二段掘り込みを有する一軒の住居址となったため、本址を欠番とした。

第 67 号住居址

本址は C2a8 を中心にして確認されたものであるが、調査終了に至らなかった住居址である。航測による資料から、長軸方向をほぼ南北軸上とし、長径約 5.6 m・短径約 4.2 m 前後の梢円形を呈する住居址である。床面は不定形を呈する 3 つの落ち込みによって大きく搅乱され、良好なピットを 2 ケ所検出したのみである。炉址はこれらの落ち込みを精査する際には確認されなかつた。なお、中央よりやや西の床面に段差があり、北東・南東コーナーの焼溝とみられる残存形状から本址はもう少し規模の小さい遺構であったことも考えられる。

第 74 号住居址

本址は C3b2 を中心に検出されたものであるが、北の 73 号住居址と重複している遺構として調

査をすすめた。しかし、調査の進行に伴って第73号住居址の壁溝と本址の南の壁溝が結び合ったことにより、一軒の住居址として確認された。そのため本址を欠番とした。

第 75 号住居址

本址は C3d2 を中心にその存在が予測されて調査されたものであるが、ピット群・壁溝・炉址等も検出されず、住居址として取り扱う資料に乏しく、検討の結果欠番とした。

第 101 号住居址

本址は D3c1 にわずかな焼土が検出されたことによりその存在が予測されて調査をすすめたものであるが、周辺部の上塙の調査がすでに先行し、本址におけるピット、床面の広がり、壁溝等を検出するに至らず、住居址として確定できなかったものである。

第 104 号住居址

本址は D2f3 に良好な床面とピットを検出したことにより確認されたものであるが、本址の南第83号住居址に含まれるものとして本址を欠番とした。

第 106 号住居址

本址は D2g4 に確認されたが、か・ピット・壁溝が検出されず、また南の残存壁状から他の住居址に比べ小規模であることから本址を欠番とし、第657号上塙とした。

住居址一覧表

遺跡番号	形 状 方 位	縦 幅 (m)	横 幅 (cm)	伊 里 有 無 形	P数	出土 点数	出 土 遺 物	調 査 因 子
第1号 (C4a1)	円 形	5.17 × 4.50	25~43	×	28	491		図5 図191~209 等2~1, 等68上段-4
第2号 (C3a9)	椭 円 形 N-55.5°-W	4.39 × 3.60	12~17	×	12	166	土器片-EI-EII	図6 等2~2
第3号 (C3b8)	椭 円 形 N-16°-W	6.80 × 3.40	30	石圓い印 北唇+13	30 7 石48	3902	土器半周-EI 白石、磨石3個、石斧4個、鐵石(等2~3、 22~1~8~7、63~1~2、64~11、68~1)	図7 図192~195~ 図209 等2~6
第4号 (C3a9)	圓 丸 方 形 N-67.5°-W	6.20 × 5.30(F)	38~55	×	17 4 石71	4360	土器半周-阿木、片-阿、阿米、EI-EII 鐵石、石斧(等2~4~5~22~6~9~10~12、 64~10)	図8 図198 等7~ 8
第7A号 (C5d7)	椭 円 形 N-40°-E		15	土 基 盤 石 圓い印	15 不明 石82	2638	堆積土層-EI-EII-EIII-EIV (等3~1、22~8)	図9 実9
第7B号 (C5d6)	第7A号住居址西側に検出されたピット跡で鉄鉱は検出されなかった。							図10
第8号 (C5a7)	圓 丸 方 形 N-57°-W	7.50 × 8.20(上) 4.50 × 3.40(F) 25~30	15	×	4 石11	769	土器片-浮島、阿、阿米、EI、圓石、石斧 (等9~1、22~11)	図11 図207
第9号 (C3d7)	不規格円形 N-51°-W	5.70 × 5.10	15~27	地 床 炉 中央+10 小明	17 石22	846	土器片-阿、阿木、鑿、EI、圓台、磨石3個、 鐵石、石斧(等3~2、62~1、64~6)	図12 図192~195 図197
第10号 (C3a9)	圓 丸 合 形 N-30°-E	6.40 × 4.80(上) 4.50 × 3.15(F) 30~35	15~35	×	16 石5	345	土器片-阿、阿木&EI-EII、磨石、鐵石	図13 図195 等3~5
第11号 (B4j1)	1号住居址北側壁面中央部、層 構造不明である。		15~30	×				図14
第12号 (C3d6)	不規格円形 N-79°-E	盤4.0 × 3.0	不明	×	6 石6	586	土器半周(ピット内)-阿木、片一下小野、阿米、 EI、圓石、鐵石、石斧	図15 実10~12 等3~4、23~1~4
第13号 (C3e5)	楕円 形	盤5~6 × 3.5~4.0		×	17 石4	731	土器片-阿、阿木、鑿、EI、石斧3個	図16 実64~9
第14号 (C5g6)	楕円 形	盤6~7 × 4~5		×		351	土器片-阿、EI-EII、朱塗の棒錐、鐵石	図17
第15号 (C4g1)	不 規 格 円 形 N-35°-E	5.46 × 4.60	15~20	地 床 炉 北唇+20	20 石23	892	土器片-阿、EI-EII	図18 実3~5
第16号 (C3i5)	椭 円 形 N-45.5°-W	5.05 × 4.0	西48	×	13 不明 石22	1372	土器片-阿、EI-EII、磨石、鐵石、石斧	図19 実195~197 等3~6、64~3
第17号 (C3b4)	片 形 N-65.5°-W	4.3 × 不明		×	19 4 石14	763	土器片-阿(探い所へ集中)、EI、土器片類、 鐵石	図20
第18号 (C3a4)	圓 丸 方 形 N-41.5°-E	6.8 × 5.6 5.04 × 3.60	16 32~36	×	31 4 石18	1893	土器片-阿木(多)、EI-EII、磨石	図21
第19号 (B3j5)	椭 円 形 N-30.5°-W	7.13 × 5.65	25~35	地 床 炉 北+15	34 6 石16	1456	土器片-EI-EII、片-阿、EI (等4~1、23~2~3~8)	図22 実13~15
第20号 (C3b3)	N-51°-W	5.0 × 3.35	40	×	8 石22	1362	土器片-阿、EI-EII、磨石、鐵石、石斧	図23 実23~9
第21号 (C3i7)	椭 円 形 N-44.5°-E	3.71 × 3.35	32	×	20 5 石4	6	土器片-EI、圓石	図24
第22号 (C3g5)	炉址部のみ検出・平緩3.5m以内に23ヶ所のピットあり。			土 基 盤 石 圓い印	23 石1	56	土器半周-EI、伊弉諾土器-EI、片-EII、時 石(復土上部)(等4~2、23~10~13)	図25 実16

住居址一覧表 (図-実測図、拓-拓影図、写-写真の各号図をあらわす)

地質番号	形 状 方 位	底 模 (m)	深 度 (cm)	炉 場 在 無	P数	出土 量	出 土 通 地	系 統 判 別
第 26 号	楕 圆 形 (B3b6) N - 63° - E	5.05 × 4.83	24	地 壤 層 5 北 - 5 ~ 10 第 5	11 石1	161	土器片 - E I, 泥の実の炭化物	図 26 図 24-3
第 27 号	椭 圆 形 (B3i7) N - 伊	6.13 × 4.75	32	石 壤 層 4 北 - 5 ~ 6 石1B	24 6 石1B	726	土器片完 E, 片 - E II, 錐石, 石斧	図 26 図 19-7, 20- 2, 24-4, 64-8 石1B
第 28 号	椭 圆 形 (B3i8) N - 79° - W	3.9 × 3.1	31	×	4 不明	228	土器片 - 椭, 石器, 泥の実の炭化物	図 27 図 20a 光18
第 29 号	不規則圓形 (B3i4) N - 23° - W	6.56 × 4.26	13	石 壤 層 4 北 - 10	6 4 石35	700	土器片 - 圓, 長条形石器	図 29 図 20B 石34-6 写真 68 下段 - 6
第 30 号	椭 圆 形 (B3i6) N - 90°	6.0 × 4.28	27~33	石 壤 層 4 西 - 13	7 4	169	土器片 - 圓 - E I, E II, 錐石, 磨石	図 30 図 20I 写真 4-6
第 31 号	不規則圓形 (B3i3) N - 3° - E	6.14 × 4.65	6~22	×	10 石10	517	土器片 - E I	図 31 写 5-1
第 35 号	椭 圆 形 (B3d8) N - 39° - E	6.12 × 5.15		土 壤 層 4 北 - 18	8 4 石4	101	手標土器 - E I, 片 - E I, 錐石	図 33 図 19-1 写真 2-3
第 36 号	不規則圓形 (C2e6) N - 22° - W	6.07 × 2.85	49	堆 床 炉	15 石4	1355	土器片完 (内上) - 石1, 片 - 鹿角・阿・鈴・玉1	図 34 図 20-5 写真 4-24-1
第 37 号	椭 圆 形 (C2e4) N - 37° - E	4.95 × 3.85	43	×	15 石2 G17	619	土器片 - 圓, 片 - 鹿角 (鉄頭 (E I) + 玉) (4-5, 23-6-7)	図 32 図 19-1, 901 写真 2-21
第 38 号	椭 圆 形 (N - 27° - W)	6.40 × 5.07	73	石 壤 層 4 北 - 18	6 6 石18	1455	土器片 (ビット内) - 阿1, 上器片 磨, 石1 (石 器), 磨石2個, 錐石, 石斧3柄	図 35 図 23-5-6 写真 2-3, 5-6-2
第 39 号	椭 圆 形 (C2e2) N - 62° - W	10.32 × 6.49	23~26	×	22 6 G73	7668	上器片 - 地水, 石1a, 片 - 地水, 鹿角, E I (3-6, 1-2-3, 23-12, 24-2-11)	図 36 図 24-31 写真 1-2-3-6
第 40 号	不規則圓形 (C2g3) N - 48° - W	3.70 × 3.50		×	多數 石4	239	土器片 - 圓 - E I	図 37
第 41 号	椭 圆 形 (C2h3) N - 29° - W	5.30 × 4.01	15	×	14 石6	88	土器片 - 阿 - 阿夫 - E I	図 38
第 43A 号	雨で洗出されたソーラー換出, 北と西市廻 大, 積存壁より方形容			×	826 石18	上器片 - 圓 - E I, 錐石, 磨石, 研磨	図 39 図 25-4	
第 45B 号	砂利地盤出。その他の不明。			土 壤 層 4 - 27 + 16 - 不明			手標土器 - E I	図 39 実 32
(C2h8)								
第 45 号	方 形 (C2g8) N - 4° - W	4.63 × 3.20	24~30	×	7 4~6 石2	518	土器片 - E I	図 40
第 46 号	椭 圆 形 (C2e8) 指定断面断点	6.0 × 5.0		堆 床 炉 中央 - 15 - 6-9 石16	21 石6 石2	354	土器片 - 圓 - E I	図 41
第 47 号	不規則圓形 (C2d5) N - 15° - E	6.0 × 4.5	不 明	×	21 石6 石2	65	土器片 - E I	図 42
第 49 号	椭 圆 形 (C3f1) N - 45° - W	6~7 × 4.5~5.5		土 壤 層 4 北 - 20 石3	282	手標土器 - E I, 片 - E I, 石 I, 錐石	図 43 図 33 写真 25-5	
第 50 号	椭 圆 形 (C2e5) N - 52° - E	5.20 × 4.60		×	多數 石5	392	土器片 - 圓 - E I	図 44
第 52 号	椭 圆 形 (C2e4)	6.0 × 4.78		×	16 石5 石2	102	土器片 - 圓 - E I	図 45 写真 4-4

住居址一覧表

(図-実測図、拓-拓影図、写-写真の各号をあらわす)

調査番号	形 状 方 位	幅 (m)	長 (cm)	高 さ 基 準	地 質 形 態	P値 半火 石数	土 石 量 石数	古 物 遺 物	馬 鹿 園 表
第 54 号 (C249)	馬 大 方 形 N-29°-W	7.39 × 5.60	38~45	×	P1563 土器半片・E I・E II・片-阿米・磨・E I・ 石26 磨石・磁石・石英 (57-5-6, 25-8-9-11-12)	4	1563	土器半片・E I・E II・片-阿米・磨・E I・ 石26 磨石・磁石・石英 (57-5-6, 25-8-9-11-12)	図46 図192 写34~35
第 55 号 (C3e1)	第 70 号住居址上部で印地部のみ残 土 壁 塵 説 石 地 い が	6.30 × 5.11	12~19	×		4	1323	歩道土器・E I・片-阿米・E II・石圓・印 地用石(田石・磨・G・磨石・石英)	図47 図191・205 写36 写6-5
第 57 号 (B3d2)		5.04 × 5.44	38~40	×	P194 土器半片・E I・E II・磨石 石15 石1	9	194	土器半片・E I・E II・磨石	図48 写37 写7-3
第 58 号 (B3d0)		N-21.5°-E	6.30 × 5.11	12~19		15	329	上器片-E I・E II・田石 石14 小片	図49 写38 写7-4, 26-3
第 59 号 (B3b5)	馬 円 形 N-26.5°-E	3.30 × 2.80	15~19	×	P20 土器片-片・E I 石2	5	20	土器片-片・E I	図50 写7-1
第 60 号 (B3b3)	不 定 形	5.60 × 5.0	15	×		17	24	上器片-阿米	図51 写7-2
第 61 号 (C3c1)	馬 円 形 N-30°-W	5.70 × 5.15	30~42	石 地 い が 北 + 20	P2336 土器半片-E I・片-阿米・磨・E I・E II・石圓 石19 磨石 (58-1-2, 65-1)	14	2336	土器半片-E I・片-阿米・磨・E I・E II・石圓 石19 磨石 (58-1-2, 65-1)	図52 図203・206 写38
第 64 号 (C2d6)	馬 円 形 N-65.5°-E	6.35 × 5.30		×		多數 不明	279	土器片-阿米・E I 石2	図53 写8-3
第 66 号 (B3a6)	馬 円 形	約 3.50 × 2.40		×	9				
第 68 号 (C2a0)	馬 円 形 N-22°-W	6.32 × 4.35	41~45	×	P863 七器片-片・E I・E II 石13	16	863	七器片-片・E I・E II	図55 写8-4
第 69 号 (C3d1)	不整馬円形 N-60.5°-E	3.45 × 2.75	32	×		4	863	七器片-片・E I・E II	図54 図192 写8-5, 26-1, 62-3
第 70 号 (C3e1)	小散馬円形 N-59°-W	6.32 × 3.60	23~32	×	P122 上器片-E II・磨石・磁石 石3	多數 不明	122	上器片-E II・磨石・磁石 石3	図55 写40 写8-6, 26-4
第 71 号 (B3j8)	准定馬円形 N-17°-E (准 定)	6.0 × 4.50	18	地 底 い が 北 + 10		36	439	土器片(底)-E I・片-阿米・E I・磨石・石 等	図57 写41 写9-1, 3-25-13
第 72 号 (B3j0)	馬 円 形 N-45.5°-E	7.25 × 5.70	15~21	石 地 い が 北 +	P410 土器片-E I・E II 石17	32	410	土器片-E I・E II	図58 図209 写42~43
第 73 号 (C3a2)	馬 円 形 N-6°-E	7.20 × 5.30	7~12	×		6	482	土器片-片・阿米・E I・磨石	図59
第 74 号 (B3j1)	馬 円 形 N-14°-W	5.80 × 4.50		×	P1513 土器片-E I・磨石 石13	1513	土器片-E I・磨石	図60 写9-5 写26-8	
第 75 号 (B3j2)	不整馬円形 N-28°-W	4.80 × 3.70		×		12	237	土器片-片	図61
第 79 号	山と南で大きく土壁と他の住居跡とで 接し、形状複雑で不明である。			×	5	54	土器片-E I	図62 写9-8	
第 80 号 (C3e2)	第70号住居址東コーナー部の壁上部で印 地部のみ残存。			石 地 い が	118	118	土器片-片・E I・石圓・石片	図63 図203・205 写2-6	
第 81 号 (C2i1)	馬丸小散馬円形 N-64°-W	6.45 × 5.30		×	P3474 土器片-片・E I・石圓・石片 石59	多數 不明	3474	土器片-片・E I・石圓・石片	図64 図191 写44 写5-1, 26-2+ 7+9
第 82 号 (D2e5)	不整馬円形 N-17.5°-E	6.36 × 5.0	南 24 北 38	地 底 い が 堆		31	1213	土器片-E I・E II・磨石・磁石	図65 写10-2

住居址一覽表

(図-火薬図、拓-拓影図、写-写真の各号図をあらわす)

遺構番号 位 置	形 状 高 度 方 位 (m)	幅 高 (cm)	炉 坑 有無 形	P D	出 上 主穴 穴数	出 土 遺 物	文 通 号	
第 83 号 (D213)	D213-9-8 ド掘削に 9 ケ所のビット検出・底質灰。		×	9	97 心3	土器片-EⅢ	図 66	
第 84 号 (D245)	新 内 志 3.40 × 2.70	43	地 底 仰 面 板	不明	142 石4	土器片-附	図 67	
第 87 号 (D246)	新 305 号土器復元下部で炉坑のみ検出。 (32 箇のみ)。		上 基 構 造		160 石1	刮削工具-EⅢ、土器片-灰末-EⅠ-EⅡ、 石1	図 26-5	
第 89 号 (C311)	炉坑周辺が焼過地と看作。内にわずかに 壁塗が確認されただけである。		地 底 仰 面 板	不明	529 石12	土器片-EⅢ	図 68 号 26-6	
第 92 号 (C213)	前 内 志 N-41S-E	5.20 × 4.50	地 底 81 中央 22	推3	745 石19	土器片-E、土器片-附、灰末-附-EI、 土器片底、磨石、石斧、石刀 (弓26-11-27-1-62-5)	図 69 図 191+192 図 195 号 26	
第 93 号 (C213)	小 壁 塗 有 否 N-42° E	3.70 × 3.0		×	17 石14	1122 石14	図 69 図 192 号 10-3-62-4	
第 94 号 (C214)	長 椎 内 志 N-54°-E	4.80 × 3.30	地 底 仰 面 板	16 石9	469 石9	土器片-灰末-EI、磨石、砾石、石斧	図 70 図 192+209 号 10-4-62-6	
第 95 号 (C216)	不 壁 表 内 志 N - 0°	3.92 × 3.10	14~26	×	12 石8	258 石8	土器片(底面)-灰末、片-附-EI	図 71 号 47
第 96 号 (C316)	炉 坑 のみ検出。第 99 号住居址が北東部 南西側に位置。		地 底 仰 面 板	8	175 石5	土器片-EI-EII-EIII	図 72	
第 99 号 (C316)	炉 坑 検出。窓辺に土壤と重複するビット ト地点。		上 基 構 造 石圓い印		230 石15	刮削工具-EⅢ、磨石	図 72 図 191 実 号 10-5-27-3	
第 100 号 (C214)	北で壁塗の一帯と 3 ケ所のビットを検出。			×	65 石1	土器片-灰末-E		
第 102 号 (D3a7)	小 壁 塗 有 否 N-38° E	6.0 × 5.40	地 底 仰 中央 20	不明	1059 石16	土器片-附-EI-EII、砾石 4 個	図 73 号 10-6	
第 103 号 (E2d0)	推 定 不 壁 新 内 志	5.80 × 4.50	上 沈 埋 造 石圓い印	孔7	283 孔7	刮削工具-EⅢ、片-EI、磨石	図 74 図 192+195 実 46 号 27-4-5	
第 105 号 (D2a4)	炉 坑 おも び 住居周辺にビット群検出。		地 底 81	16	22	土器片-附	図 75	
第 107 号 (C214)	炉 坑 おも び 住居周辺にビットを検出。		地 底 81				図 76	
第 108 号 (D2a6)	炉 坑 検出・ビット不明		地 底 81				図 76 図 27	
第 110 号 (C216)	部分的壁塗・焼過地、周辺 13 ケ 所のビットを検出。	25~30	×	13	29		図 78	
第 111 号 (C316)	伊 丹 おも び 数ヶ所のビットを検出。		地 底 81	61	磨石		図 72	
第 112 号 (D3a5)	均質土を伴う炉底部のみ検出。		上 基 構 造 石圓い印		845 石42	刮削工具-EⅢ、片-EI-EII、同石、砾石	図 79 対 49~50 号 27-2-6-7	

(2) 土 壤

当遺跡において検出された土壌は 633 基にのぼり、すべて縄文期にあたるものである。なお、調査中 2 基存在すると思われた土壌が 1 基に統合されたものなどもあり、それらは欠番として取り扱ったため末番号が 657 号となっている。本遺構も住居址同様かなりの数にのぼり、従って、次の様な観点に立って一覧表記述・実測図作成にあたった。

- 位置の表示はグリッド名 1 をもって示した。
- 方向は NOW・NOE と表示し、いずれも北より西に東に何度長径方向が位置しているかを示したものである。なお上段が開口部長径方向を示し、下段が基底部長径方向を示したものである。
- 形状表示は、上段を開口部形状(上部掘り込み面形)、下段を基底面形状とし、中段を開口。基底ともにはば同形態をとる場合とした。また推定〇〇形とは、重複により残存壁状がわざかために形状を明瞭に判断しない場合で、他の類似・壁状から〇〇形となるであろうと想定した形態である。その中でも特に不明瞭なものは「?」を付した。
- 規模の記載は上段を開口部直径、下段を基底部直径とし、前の数字をその直径。後を粗細としてそれぞれ記す。なお、重複および不整形のため明確な計測ができる場合は約〇〇前後・約〇〇×〇〇・約〇〇～〇〇とし、不定形にあっては参考規格として東西〇〇×南北〇〇・東西〇〇と記した。さらに、その中でも特に不明瞭なものは「?」を付した。また、中段にだけ表示したもののは開口部直径を表す。
- 確認高および基底高はその概高レベルであり、単位は cm である。
- 出土点数は破片数を示したものであるが、当遺跡は遺構の密度が高く、重複部分が多いため、本数は必ずしもその遺構の正確な出土点数を示すものではない。ここではそれぞれの遺構の性質・特徴および遺構間の比較検討資料として記したものである。なお下段は石の出土点数を示したものであるが、これは自然石を含めた数である。また空欄は算出しなかつたものである。
- 備考欄は基底面形・断面形と壁高・壁状・ピット数・出土状況・出土遺物の順で次のような略号をもって記述した。なお、それぞれの頭で特記したいものは()で書いた。
 - 基底面形……平・平坦、丸・丸底状、中→や中央に隆起、斜→す鉢状、北傾→北側傾斜、凹凸→起伏の激しいもの
 - 断面壁高……B 65 → 円筒状(浅いものから深いものを含めて) 壁高 65 cm, F 可大 → 袋状土壌の可能性が大きい。
 - P 65 → 袋状土壌で壁高 65 cm, OH 50 → 基底面より 50 cm 上のところよりオーバーハングがみられる。
 - 東〇H 40 → 東側にオーバーハングあり。基底面より 40 cm 上のところよりオーバーハングがみられる。
 - ピット数……P 4 → ピット 4ヶ所あり、CP 3 → 中央にピットをもち計 3ヶ所あり
 - 出土状況……上出多→上部に出土物が多い、中上出多→中位から上部にかけて出土が多い、上下出多→上部より下部にかけ全体的に出土物が多い。
 - 出土遺物……土器壳→完全土器、土器半完→半完成土器、(床面)→床面出土、(直上)→床面直上出土、炉壺土器→炉世理段土器
 - 阿→阿玉合期、阿末→阿玉合末期、勝→勝坂式、E I a → 加曾利 E I a 期、大→大木式、函合→縄文式土器の器台
- 分類……次の形狀規格等をもってそれぞれの土壤を分類し、次の記号で記した。なお、規模は重複が大きいため木末の開口部形状を失っており、本項では基底部形状をもってその分類にあたった。また、袋状土壌の可能性をもつものは袋状土壌として取り扱った。
- 関連図版……図一遺構実測図 実一遺物実測図 写一写真

基 底 面 形	基 底 面 状	壁 高	基 底 短径・横 模	ピット の 有 無 お よ び 位 置	發 土 種 (可 能 性)	円 壁 状 土 壤
三 角 形 (袋状→F 1 種 筒状→B 1 種)	丸底(D 模)		200 cm 以上	持たないものの 中央に持つもの 中央外に持つもの	F 1 種 F 2 種 F 3 種	B 1 種 B 2 種 B 3 種
内 形・球円形 不 定 形 (袋状→F 2 種 筒状→B 2 種)	球状平底 凹凸激しい (袋状→F 3 種 筒状→B 3 種)	60 cm 以上	200 cm 未満 150 cm 以下	持たないものの 中央に持つもの 中央外に持つもの	P A 種 P B 種 P C 種	B A 種 B B 種 B C 種
			150 cm 未満	持たないものの 中央に持つもの 中央外に持つもの	P D 種 P E 種 P F 種	B 1 種 B 2 種 B 3 種
			200 cm 以上	持たないものの 中央に持つもの 中央外に持つもの	P G 種 P H 種 P I 種	B 1' 種 B 2' 種 B 3' 種
			200 cm 未満 150 cm 以上	持たないものの 中央に持つもの 中央外に持つもの	P J 種 P K 種 P L 種	B A' 種 B B' 種 B C' 種
			150 cm 未満	持たないものの 中央に持つもの 中央外に持つもの	P M 種 P N 種 P O 種	B 1'' 種 B 2'' 種 B 3'' 種

土 壤 一 覧 表 (No. 1)

測定番号	方 向	開口部形状 高底部形状	開口部径 (cm) 底面部径 (cm)	標高 基底高	出土 点数	備 考	分類	出 流 図 版
第 1 号 (C3a0)	N65E	不整規円形	285 × 265 232 × 240	24.16 23.28	814 410	平。一部 P 88・OH 70, F 4, 土器片一例・阿末・E I (多)・E II, 硬土・暗褐色・褐色・全体として炭化物を含む。	B I'	図 87-1 等 2-2 等 2-1
第 2 号 (C3d0)	N17E	椭 圆 形	330 × 270	24.24 23.46	1388 石 9	半, B 76, CP 6, 土器片一例・阿末・F 4, 硬土・上部灰化あり・全体として炭化物を含む。	B I	
第 3 号 (C3e7)		円 形	239 × 215 195 × 190	23.93 23.43	136 612	半, B 50, CP 5, 土器片一例・阿末・F 4, 硬土・下部灰化あり・全体として炭化物を含む。	B B'	図 99-1
第 4 A 号 (C2e7)		円 形	約 72 楕圓	23.90 23.07	46	小ビットである。B 83, 土器片一例。	B I	
第 4 B 号 (C2e7)	N45E	椭 圆 形	85 × 72	23.90 23.15	4 AK 金 7	小ビットである。B 75。	B I	
第 5 号 (C3e6)	N74E	不整規円形	255 × 231	23.93 23.34	217 石 5	平, B 50, P 2, 土器片一例・阿末・硬土・暗褐色・褐色・全体として炭化粒子と無土性を含む。	B E'	図 102-4 等 29-2
第 6 号 (C3b6)		不 定 形	約 850~700	24.16 22.56	2064 4238	丸, 180, 面積盛大・上部で複数通路と気泡可視性あり・土器半完一例・F 4, E I (多)・E II・E III・一灰斑・炭化物。	B b	実 51・52・231
第 7 号 (C3d6)	N	不定規円形	283 × 170	24.02 23.60	83	平, B 42, P 2, 土器片一例・E I, 硬土・壁近い無土性ハーフコーン・ロット・中央部で上下間に無土性子と炭化粒子を含む。	B C'	図 104-1
第 8 号 (C3d6)		椭 定円形	約 230 楕圓	24.10 23.51	376 石 10	平, B 50, P 1, 土器片一例・E I, 硬土・暗褐色・褐色・下層部をのぞき無土性子と炭化粒子を含む。	B B'	図 106-1
第 9 号 (C3d7)		椭 定円形	約 250 楕圓	23.90 23.31	467 石 9	北側斜, B 50, P 0, 中上出多・土器片一例・阿末・E I・E II, 硬土・少量の無土性子と炭化粒子を含む。	B I'	図 106-1
第 10 号 (C3d7)		椭 圆 形	130 × 100 約 240 楕圓	24.24 22.77	925 4732	平, P 147, OH 80, P 1, 10cm 上 E 3~D 硬土ブロック・上下出多・土器片一例・阿末・E I (少)・E II・E III・出比較的多量の炭化物・無土性子。	B C'	実 53~56 等 29-1 等 29-3~4~5
第 11 号 (C3e7)	円 形	145 × 135 206 × 225	23.71 23.01	743 石 14	平, P 70・OH 45, P 2 (少), 上下出多・土器片一例・阿末 (少)・E II・E III	B C'	図 87-2 等 29-6	
第 12 号 (C3e7)		椭 定円形	約 310 楕圓	24.11 22.95	838 石 19	平, 一部 OH, B 116, P 7, 中上出多・土器半完一例・土器片一例・E I。	B B'	図 103-5 等 29-7~8 等 57-58
第 13 号 (C3c8)	N	不定規円形	220 × 204 205 × 183	24.17 23.70	312 石 2	半, B 47, CP 2, 上出多・土器片一例・E I・E II, 硬土・全体として炭化粒子を含む。	B B'	図 104-3
第 14 号 (C3f0)		円 形	約 190 楕圓	24.12 23.55	110	半, B 54, P 1, 上出多・下凹あり・土器片一例・阿末・E I, 硬土・全体としてしまり弱い・少量の無土性子を含む。	B C'	図 100-1 等 11-2
第 15 号 (C4e1)		不整規円形 不整規界形	約 80 楕圓 約 220 × 185	24.15 23.00	197	半, P 115・OH 50, 上下出多・下部より阿玉期・多量炭化物出, P 0, 土器片一例。	F A	等 11-3, 29-8
第 16 号 (C3f5)	N50W	不整円形 底面円形	約 100 楕圓 220 × 180	24.11 23.22	342 石 13	半, F 89・OH 60, P 0, 上下出 (上出多)・土器片一例・阿末・E I, 硬土・各部に炭化粒子と無土性子を含む。	F A	
第 17 号 (C3g5)		不 定 形	約 270 × 265	23.91 23.49	581 石 8	半, B 42, P 0, J 出多・土器片一例・E I, 硬土・暗褐色・炭化粒子と無土性子を含む。	B b	
第 18 号 (C3f6)	N23W	半椭円形狀 椭 圆 形	175 × 135 180 × 173	23.81 23.09	42	丸, F 72・OH 60, P 0, 9 号住吉後出土・下部炭化物の無土性子 (J)・土器片一例。	D	
第 19 号 (C3e8)	N36W	不整規円形	212 × 142 181 × 120	24.11 23.42	234 石 16	半, F 69・OH 50, P 0, 土器片一例・E I。	B I	
第 20 号 (C3e5)	N29E	椭定規円形	約 250 × 170	24.10 23.68	76 石 1	半, B 42, P 0, 土器片一例・E I。	B A'	図 104-1 等 11-4

土壤一観表 (No. 2)

調査番号 位置	方 向	調査地形 高低差形状	開口面積 (cm) 底面積 (cm)	底高さ 底底高さ (cm)	出上 点数	地 質	地 質	分類	用 途 地
第 21 号 (C345)	N10E	横 円 形	245 × 197 295 × 258	24.15 23.20 石 9	497	半、F95・OH67、P0。中上出多、上層片一河、 E1、石序。	F I	Ⅳ80-1 Ⅴ11-4 Ⅳ29-10	
第 22 号 (C346)		推 定 円 形	約 200 前後	24.12	435	半、F95・OH20、P1。土器半片-E1、片-河+E1。 鐵土-褐色、灰土粒子-炭化物を含む。	F II	Ⅳ59 Ⅴ30-3-4	
第 23 号 (C347)	N50W	横 円 形	380 × 320	24.10 23.05	651	半、B105、P2。上当多、土器片-灰土、片-河木 (多)、E1、E1、鐵土-石序、鐵土-褐色、炭化物 と灰土粒子が多く含まれる。	B III	Ⅳ60-61 Ⅴ30- 5-9 Ⅵ191	
第 24 号 (C348)		推 定 円 形	約 155	24.20 23.85	102	半、B32、CP2。土器片-E1、E1、鐵土-褐色、 全体として炭化物が多く見せつ。	B II	Ⅳ89-1	
第 25 号 (C349)	N41.5W	不整地凹形	264 × 248 248 × 247	24.15 23.45 石 7	502	半、西O1、F9170、P4。中上出多、I型陶器-E1a、 E1-E1(多)、鐵土-褐色、灰土-褐色、炭化物 と灰土粒子を含む。	F III	Ⅳ60-2 Ⅴ30-1- 2-7 Ⅵ62-63	
第 26 号 (C350)	N73W	不 定 形	163 × 131 243 × 228	24.06 23.11	170	半、F95・OH60、P0。下中出少、下粗粘土出 などは黒泥透けてかに鉄色あり、片-河木、E1。	F I	Ⅳ50-2 Ⅴ11-5	
第 27A 号 (C351)	N21W	不 整 地 形	約 200 前後	24.12 340 × 290	1462 G20	半、F112、OH80、P0。土器片-灰土、E1-E1a、 片-河木、E1-E1、鐵土-褐色、鐵土-褐色、石質 古跡り、鐵土-全体として炭化物を含む。	F I	Ⅳ91-1 Ⅴ30-10 62-68-3 Ⅵ64-66	
第 27B 号 (C352)		推 定 円 形	約 250 前後	24.12 23.63	274	半、B49、P1(未熟)。	B III	Ⅳ91-1	
第 28 号 (C353)		円 形	約 50 前後		6	小ピット、土器片-灰土。	B I		
第 29 号 (C354)	N23W	円 形	約 200 前後	24.05 250 × 230	150 23.06 石 19	半、F100・OH63、P1、30 cm 上出、土器片灰土、 鐵土-上層に炭化物粒子と鐵土粒子を含む、下層で ハーフドーム-フロットタ土を含む。	F III	Ⅳ82-3 Ⅴ67	
第 30 号 (C355)		不 整 地 形	推定 250 前後	24.06 推定 320 前後	469	半、F55・OH55、P4。土器片-灰、E1、鐵土- 褐色、下層でハーフドーム-フロットタ。	F III	Ⅳ90-1	
第 31 号 (C356)	N51W	不整地凹形	225 × 172 270 × 204	24.23 23.08 石 11	823	半、F115・OH72、P0。全体的に炭化物-鐵土多量、 下出多、土器片-E1、片-河、E1、鐵土-褐色、石序。	F I	Ⅳ80-3 Ⅴ30-11 Ⅵ68	
第 32 号 (C357)		不 碎	半 碎	24.10 23.60	186 石 2	半、F50-50-南4OH、P1。土器片-E1。		Ⅳ102-7	
第 33 号 (C358)	N60W	横九方形状 不整地凹形	236 × 123 160 × 42		76	半、B145、P0。片-河。	B II	Ⅳ107-1 Ⅴ63- 11	
第 34 号 (C359)		不 碎 不 碎		24.08 33.58	40	半、B50、P0。SK35との重複大、土器片-本網。			
第 35 号 (C360)		不 碎	約 200 前後?	24.06 23.60	221 石 4	半、B48、P2。中上出多、下出少、土器片-河、E1。 鐵土-鐵土-石序。	B C		
第 36 号 (C361)		推 定 円 形	220 × 230	24.05 23.44	235 石 1	半、B65、CP3。上出多、土器片-河、E1、鐵土- 石序、鐵土-褐色、全體として炭化粒子と鐵土 粒子を含む。	B II	Ⅳ102-7	
第 37 号 (C362)		推 定 円 形	約 205 前後 約 180 前後	23.99 23.38	270 石 2	半、B61、CP2。上出多、土器片-河、E1、片-河、 鐵土-E1、鐵土-褐色、鐵土-褐色、褐色、全體として 鐵土粒子と炭化粒子を含む。	B II	Ⅳ69 Ⅴ30-13	
第 38 号 (C363)		不 碎 不 碎			22	B65、P1。土器片-E1。			
第 39 号 (C364)		不 定 形	約 290 × 300	24.00 22.79	658 石 11	半、F121・OH80、P0。中上出・下出少、土器片- 河木、E1、鐵土-褐色、鐵土-褐色、褐色、多量の 炭化物を含む。	F I	Ⅳ80-4 Ⅴ70	
第 40 号 (C365)	N78E	横 円 形	268 × 230 305 × 281	23.95 22.63	699 石 5	半、F132・OH75、CP3。上下出、土器片あり、土 器片-河、河木。	F I	Ⅳ87-5	

土壤一観表 (No. 3)

土壤番号 位置	方 向	断面形状 基底形状	断面部径 (cm)	堆積高 基底高 (cm)	地 質 学 的 考 察	分類	開 拓 圖 版	
第 42 号 (C3h9)		河 形	約 260 前後	23.97 23.43	64 石1	半、B54, P3, 上下出あり、上部片-EI。壤土 - 全体として炭化物、炭化粒子、壤土粒子を含む。	B I'	図 101-1
第 43 号 (C3d6)		推定円形	約 200 前後	24.20 23.25	62 石1	平、B90, P0, 土壌片-EI。	B A	
第 44 号 (C3h8)		推定円形	約 200 ~ 205	23.06 23.58	161 石1	半、B38, P1, 土壌半完 - 不明。片-EI + EI。壤土 - 細褐色、褐色。少量の炭化粒子、壤土粒子を含む。	B C'	実 71
第 47 号 (C3h5)		不整円形	約 230 前後	23.65 23.10	163 石5	西斜、B46, CP2, 上下出、上部半完-EI, 片-EI。 壤土 - 中下層にハーフドームブロックが目立つ。	B I'	図 101-2 実 73
第 48A 号 (C3g5)	N61E	不整円形	215 × 160 180 × 155	23.95 23.38	402 G12	半、B57, P0, 土壌片-片-EI, 壤石-4%。壤土 - 全体として少量の炭化粒子、壤土粒子を含む。	B A'	
第 49B 号 (CJg5)		不整円形	約 110 前後 約 93 前後	23.38 23.09	48A 金1	平、B29, P0。	B I'	
第 49 号 (C3i3)		推定円形	約 150 前後	23.90 23.44	99C 金1	半、B46, P1, 南 S100-90 と重複大。壤土 - 粒子 から褐色 - 全体として少量の壤土粒子、炭化粒子 を含む。	B 3'	
第 50 号 (C3i6)		不整円形	250 ~ 260 220 ~ 230	24.15 23.56	275 G3	平、西斜、B60, P0, 上出多、上西片 - 稀。阿来 壤土 - 褐色から暗褐色 - 比較的壤土粒子と炭化粒子 を多く含む。	B I	図 95-1
第 51 号 (C3g6)	N6W	椭 圆 形	310 × 228	24.00 23.40	84	平、B60, CP1, 土壌片 - 阿来。	B I	
第 52 号 (C3h7)	N3W	小整円形 椭 圆 形	340 × 300 343 × 316	23.91 22.66	98A G12	半、南東 OH56, F125, P1, 土壌片 - 片-EI。 石1, 石2, 石3, 壤土 - 多量の炭化粒子を含む。	P I	図 82-4 号 68-1 号 68-1 及 1
第 53 号 (C3e8)	N52E	不整円形	255 × 225 228 × 194	23.86 23.24	433 G3	中、B62, P2, S1005床曲確認、中上出多、土壌半 完-EI(大木の)、片-EI。壤土 - 上層で多量の炭 化粒子、壤土粒子を含む。	B C	写 30-12
第 54 号 (C3e8)	N89W	推定円形	220 × 190	24.17 23.52	不詳	半、B65, P1, SK13 と重複。土壌片 - EI。	B C	図 104-3 号 31-1
第 55A 号 (C3h0)		推定円形	約 180 前後	24.03 23.63	122 石1	平、B40, P2, 土壌片 - EI。	B C'	
第 55B 号 (C4b1)	N25E	不整円形	143 × 117	不 明	55A	不明。		
第 56 号 (C3h0)	N61E	不 定 形	203 × 175 256 × 221	24.03 22.90	273 石2	平、F113, OH45, P0, 上下出多、15 cm 上深 穴形出、土壌片 - 阿来、石2。	F I	図 80-5 号 31-3 号 74
第 57 号 (C3e7)	N44E	椭 圆 形	184 × 139	不 明	564 石4	軽度平而より、上出多、S1014含む、P0, 土壌片 - EI。		
第 58 号 (C3f7)	N18E	晴丸形	約 130 × 110	不 明	15	軽度平而より、P0, 土壌片 - 阿来。		
第 59 号 (C3h9)		不整円形	約 250 前後	23.98 22.93	892 石4	半、西 OH + P 可 105, OH 約 55, P3, 40 cm 上炭化 粒子上、中上出多、土壌半完 - EIa, 片 - 阿来 - EI, 石1, 石2, 砂褐化。	P I	図 89-2 実 75 号 12-1, 31-4, 66-1 ~ 3
第 60 号 (C3h9)	N2W	推定円形	263 × 210 約 200 前後	24.00 23.54	243	半、B46, CP4, P よりの角土あり、土壌完(表面) - 阿来、壤土 - 上層で多量の壤土粒子と炭化粒子を含む。	B B'	写 97-5 号 31-2 号 76
第 61 号 (C3i8)	N47W	不整円形	258 × 230 210 × 200	24.00 23.27	391 石3	半、東斜、B75, P27, LT 上出多、中上 出多、EI - EI + EI。	B I	写 99-2 号 31-5 号 77
第 62 号 (C3h8)	N5E	不整円形	176 × 158 182 × 157	23.80 23.32	222 石4	半、北 OH + F155, P0, 上出多、土壌片 - EI, 壤 土 - 壤土 - 砂褐化 - 分佈として炭化粒子と壤土粒子を 含む。下層でハーフドームブロック。	P A'	

土 壤 一 覧 表 (No. 4)

土壤番号 位 置	方 向	開口部形状 基底部形状	開口部直径 (cm) 基底部直径 (cm)	標高(m) 高差高	出土 点数	備 考	分類	考 え 因 素
第 63 号 (C411)	不 定 形	不 洋	不 列	145 石 5	145	半、凹不列、CP6。2 基以上の収容可能あり。土器片・陶片・瓦片。	B b	
第 64 号 (C3a3)	不 定 形	約 250 × 200 不 洋	不 列	36 石 5	36	凹凸あり、無 B. P1?。土器片 E - E II。	B b	実 78
第 65 号 (C3a4)	N 88W	直定円形	240 × 194 約 190 × 150	23.74 23.00	306 石 7	下、B74. P6. 上下出多。底面凹あり。上凹片 - 開口 - E I - E II。無 B. 極色。どの面でも炭化粒子と無機粒子を含む。	B A	回 93 - 3
第 66 号 (C3g4)	円 形	約 240 の後	23.95	347 石 4	下、B71. CP5. 中上出土多。土器半光 - E II。	B II	回 99 - 3 実 79	
第 67 号 (C314)	円 形	約 240 の後 約 215 後	24.11 23.29	44 石 1	下、B83. P3. 無土 - 軽微色。全体としてハーフドーム小ブロックが目立つ。	B II	回 103 - 1	
第 68 号 (C314)	N 65E	横 圆 形	223 × 300 195 × 185	24.11 23.36	32 石 3	内、B81. CP1. 上土、土器片 - E I - E II。無土 - 全体として薄土。炭化粒子。無土粒子含む。下部でハーフドーム小ブロック。	B B	回 97 - 1
第 69 号 (C3a4)	N 55W	横 圆 形	146 × 134 107 × 93	24.01 23.30	62 石 12	下、B71. P6. ナメ片 - E II。無土 - 極色。底下層暗色 - 少量の炭化粒子 - 無土粒子含む。	B I	回 94 - 1
第 70 号 (C3e5)	N 33W	横 圆 形	257 × 232 221 × 201	24.01 23.62	605 石 12	下、B39. P3. 土器片 - E I。無土 - 軽微色。底下層暗色。底下層ハーフドームブロックを主体としている。	B III	回 101 - 3
第 71 号 (C3e4)	無 定 形	約 270 後廻	24.08	524 石 4	半、B55. CP7 (海に不定形藻類もみあわる)。中下出土多。土器半光 - E II - E I。片 - E II。底土。石伸び。	B II'	回 105 - 3 実 31 - 6	
第 72 号 (C3d4)	直定円形	約 240 後廻	24.20	236 石 5	半、B55. CP7 (良好 P 多い)。中下出土多。土器片 - E II - E I。石伸び。	B II'	回 105 - 3	
第 73 号 (C3e5)	無 定 形	約 190 後廻	24.09	290 石 6	下、B45. CP4 (良好 P 多い)。下下出多。土器片 - E I - E II。凹凸。無土 - 中層まで暗褐色。下部でハーフドーム小ブロックが目立つ。	B B'	回 104 - 2	
第 74 号 (C3b5)	群 常 川 村	約 210 後廻	24.12	186 石 3	下、B55. CP2. 土器片 - 開口 - E II。	B II'		
第 75 号 (C3a5)	N 86W	不整地円形	300 × 251 264 × 236	23.97 23.54	182 石 9	半、B43. CP2. 底面より石伸び。約 10 cm 上に暗色石伸び - E II。土伸び - E II。石伸び。暗色しまりあり。	B II'	回 97 - 4 実 4 - 1
第 76 号 (C3b3)	円 形	約 170 後廻	24.10	54 石 2	半、B55. CP1. 土器片 - E I。無土 - 少量。炭化粒子。全体として少量の無土粒子と炭化粒子を含む。	H H'	75-31 - 7	
第 77 号 (C3h4)	N 61W	混 容	200 × 149	23.57?	223 石 1	半、底平 (平野部市街地)。P2. 土器半光 - E I。片 - E II。E I。石伸び。	F 3	回 93 - 3 実 80 75-12 - 2 32 - 1
第 78 号 (C3c4)	不 定 形	約 260 後廻	24.16	1031 石 19	下、F120 + OH80. 上下出多。P3. 上器半光 (片上) - E Ic. 平片 - E Ia - E Ic. 片 - E II. 石伸び。石伸び。	F II	回 90 - 3 実 81 - 85 75-12 - 3 32 - 2 - 3 - 6 - 7	
第 79 号 (C3c5)	無 定 形	約 180 後廻	24.09	60 石 14	半、B45. CP4. 土器片 - E II。	B B'	回 104 - 2	
第 80 号 (C3a2)	N 75E	横 圆 形	227 × 172 213 × 220	24.14 23.28	457 石 8	半、北と南 OH - F94 + OH75. P1 (-19 cm) 25 ~ 35 cm 上に無土ぬ出。上下出多。土器片 - 開口 - E II。底土。	B II	回 86 - 1
第 81 号 (C3c3)	N 10W	不 定 形	220 × 220 236 × 220	23.75 23.02	214 石 3	半、西 OH - F73 + OH64. P6. 上下出多。上器半光 - E I。片 - E I。E II。無土。無土 - 保土 - 保土あり。褐色。少量の火候。	F 1	回 83 - 1 実 32 - 4 - 5
第 82 号 (C3d3)	円 形	約 120 後廻	24.07	226 石 4	半、B33. P3. 中上出土。土器片 - 開口 - E II。E II。中凹部上部で炭化粒子。無土粒子。ロム利全含む。	B 3'		
第 83 号 (C3a3)	N 9W	不整地円形	255 × 201	23.96 23.65	294 石 1	半、やや暗色あり。B31. CP4. 土器片 - 開口 - E II。褐色。少量の火候。底土 - 少量の炭化粒子と無土粒子を含む。しまりあり。	B II'	回 97 - 6

土壤一覧表 (No. 5)

測定番号	方 向	幅(±)×長さ(±) 断面(±)形状	基盤高さ(cm)	壁厚さ(cm)	壁高さ(cm)	出 土	地 点	考 察	分類	考 考 取 扱
第 84 号 (C313)	N 6 E	矩形	197 × 185	23.96	63		半, B36, CP3, 土基打-EI。		B B	No. 99-4 第 12-4
			179 × 181	23.60	63					
第 85 号 (C312)		不整円形	約 250 前後	23.96	749		半(内に盛り込みあり), B45, PC, 上下両面、 土基打一側面, EI-EI, 丸方。		B I	No. 95-3
				23.48	G1					
第 86 号 (C313)	N 46 W	矩 形	約 254 × 230	23.96	745		半, B40, CP2, 上下出張, 土基打一側, 地上 面, 地下面, リムブロック立つ・全体として 複数個の塊状化粒子を含む。		B I	
		小断面形状	約 212 × 200	23.56	745					
第 87 号 (C313)		不 定 形	最大幅 310	23.81	507		半, B45, P1, 土基打 地上-EI。		B b	
		最小幅 210	23.36	507	G1					
第 88 号 (C313)	N 74 E	小 斜 面 形	約 237 × 230	23.93	34		半, B62, P0, 上下出, 土基打一面, 心材, 地上 面, 全体としてリムブロック化粒子を含む。		B I	No. 95-2
			約 232 × 213	23.31	34					
第 89 号 (C314)		不 定 形	約 300 × 250	24.02	66		半, B46, P1, 土基打一面, EI。		B b	
		斜 面 形	23.56	66	G1					
第 90 号 (C313)	N 63 E	矩 形	約 210 × 250	23.84	106		半, B73, P1, J, 下出, 土基打 地上-木, 石等。		B B	No. 94-5 第 86
		不整円形		23.11	106					No. 93-1
第 91 号 (C316)		本 定 形	約 210 前後	23.60	319		半, 南東OH49-50-P68, P0(南東Pは柱位置 横49-50cm), 中上出張, 土基打(EI)-EI, 上面 木板, 地上-EI, 片, 地上-EI-EI。		F I	No. 94-1 第 87-91
	N 10 W	不整円形	212 × 232	22.92	92					No. 93-2-5
第 92 号 (C318)	N 80 E	不整円形	250 × 169	23.08	586		南斜面O1163-1-P75, P1, 土基打(底面)-一時 木, 片-木板, EI-EI-EI, 地上, リムの炭化物。		F C	No. 86-2 第 92-94 8-10
			215 × 173	23.23	414					
第 93 号 (C314)		J 形	約 135 前後	24.16	84		半, B66, P1, 土基打 EI, 地上, 地上, 10層。 粘膜化・下部をバートローラーでラック立つ。		B 3	No. 100-2
		形 114 前後	23.30	84	G1					
第 94 号 (C349)		本型形態	約 220 前後	24.04	281		半, B62, CP4, 上下出, 土基打一面, EI(多)・ G1, 地上, 地上一面まで粘膜化, 炭化粒子と機上 粒およびリム板を垂直的に含む。		B I	
第 95 号 (C313)	N 24 W	矩 形	約 160 × 100	24.08	64		半, B64, P1, 土基打一面, 地上, 全体として上層 地脚部, 下脚部で粘膜化, 少量のリム板, 多量の炭化物。		B I	
		不整円形	後 7	23.44	64					
第 96 号 (C314)		不 定 形	約 250 前後	24.18	205		半, B58, P1(東西壁Pがないものと思われる), 北でSK78と取扱人, 地上-EI。		B I	No. 90-3 No. 93-9
				23.80	205					No. 95
第 97 号 (C316)		不 整 圆 形	約 150 前後	23.98			半, B41, CP1,		B 2	
				23.57						
第 98 号 (C313)	N 29 W	矩 形	317 × 234	24.14	359		半, B75, CP3, 2段の上端との重複性あり。 上下両面, 土基打 地上-EI-EI, 地上, 地上- 褐色, 全体的にリム板と炭化粒子。		B B	No. 104-5 第 96
		不整円形	295 × 215	23.39	317					No. 93-7
第 99 号 (C316)	N 8 W	不定形	約 270 × 200	24.00	150		半, B60, P4, 土基打一面, 石頭-骨石。		B I	
				23.40	G1					
第 100 号 (C313)		不 定 形	203 × 163	24.08	106		半, 南OH-B54, P1, 土基打 地上-EI, 地上, 地 上-大きな塊状化。		F b	No. 86-3
				23.54	G1					
第 101 号 (C314)	N 32 W	矩 形	236 × 160	24.23	83		半, B56, P2, 土基打-EI, 地上-粘膜化・粘化・ 白褐色, 全体として少量のリム板と炭化粒子, 粘 土粒子を含む。		D	No. 101-4
			164 × 141	23.67	83					
第 102 号 (C314)		不整円形	約 105 前後	24.23	103		西R, B74, P0, 土基打 EI-EI-EI, 心材,		B I	No. 94-2
				23.49	G1					
第 103 号 (C312)	N 46 W	矩形	約 330 × 250	23.98	154		重複人不明, B38, P1, 土基打-EI。		B I	
		不整円形	後 7	23.60	154					
第 104 号 (C313)	N 10 E	不整円形	不 确	23.97	3		SK86-87-S120と重複大のため不詳, P1, B48。			
				23.49	G1					

土壤一覧表 (No. 6)

測定番号	方 向	箇口部形状	箇口部形状 (cm)	底面形状 (cm)	底面高さ (cm)	出 口 点数	質	分類	周 遍 因 素
第105号 (C3e3)	N11W	不整形円形	約90×80 底 後	不 明	不 明	1	軟弱後元、P0、土器片-E I。		
第106号 (C3e7)	N	不 整 形	200×193	24.10 22.96	半、B144、P0 (底101×96 cm浅い底をもつ)	BA	民107-2		
第107号 (C3e5)	N25E	規 定 不整形円形	約280×225	24.11 23.48	264	半、B63、P0 (底102×93 cm深く、これに側面するPあり)、土器片-瓦片、底面-凹凸、底土-暗褐色、輪郭部-部分的に灰化粧子と炭化粧子。	B II		
第108号 (C3e4)	N74E	規 定 不整形円形	約330×約200 前 後 ?	24.18 23.46	375	半、B72、P6 (底壁垂直P3、本並に食むものかどうか不明)、土器片-瓦片、底石。	B II		
第109号 (C3d4)	N	規 定	約98直後	23.99 23.44	39	半、B55、P0、I.下凸、小規模土壤。	B I'		
第110号 (B3b9)	N88W	不整形円形	253×226 222×192	24.00 23.36	157 76	半、B64、CP1 (底29 cm)、中上凸多、土器片-瓦片-E I。	BB	民88-2 写12-6	
第111号 (B3g0)		不 整 形	約105～110 約100～80	24.10 23.47	67	半、B65、P0、山少、土器片-瓦片-E I-E II。	B I	民84-3	
第112号 (B3g0)	N56W	舟 形 状	296×149 263×133	23.91 23.25	160 石1	半、B65、P1 (底壁下-31 cm)、中上凸多(神土-出多)、側土-底下降下で暗褐色・微褐色、全体的にハーフロームブロック状立つ。	B g	民107-3	
第113号 (B3g9)	N41E	椭 圆 形	149×143 130×114	24.11 23.08	67 石1	半、B103、P0、加古谷台土、中上凸多、土器片-瓦片、底石、底土-一層、黄褐色、輪郭部-部分的に灰化粧子立つ。	B I	民96-4 写97 写33-11	
第114号 (B3b9)		圓 形	約117直後 約100直後	24.18 23.56	49 石5	半、B62、P0、土器片-瓦片-E I、鐵土-暗褐色、輪 台-全体として灰化粧子しまりあり。	B I		
第115号 (B3g8)	N	不 定 形	315×292	24.23 23.16	61 石4	丸、B107、P1、底石-側土-上層網目、下層暗褐色、どの層にもハーフロームブロックを含む。	B b		
第116号 (B3g9)	N56E	椭 圆 形	247×230 224×213	24.11 23.48	63	半、B63、CP4(中央にビット・落ビットを有する)、土器片-瓦片、底石。	B I	民99-5 写13-1	
第117号 (B3g8)		圓 形	264×258 243×246	24.20 23.72	30	圓、B48、CP1 (底32×深さ31 cm)、輪上-褐色、全體として空壁のハーフローム・ハーフブロック、部分的に灰化粧子と灰化粧子を含む。	B I'	民97-2 写13-2	
第118号 (B3g7)		圓 形	261×256 245×243	24.18 23.62	74 石1	半、B36、P2(中央深さ42 cm)、土器片-E I、鐵石	B II	民100-9	
第119号 (C3e3)	NSW	椭 圆 形	148×124 102×86	23.96 23.47	64 石1	半、B49、P0、土器片-瓦片。	B I'		
第120号 (C3e3)	N13W	規 定 形	約231×180 約205×150	23.81 23.52	17	半、B29、CP2、土器片-瓦片。	BB	民99-6	
第121A号 (B3g8)	N42W	規 定 形	124×100 99×90	24.20 23.58	16	半、B62、P0 (底外側に小ビットあり)、土器片-瓦片、輪上-褐色、上層で灰化粧子を含む。	B I		
第121B号 (B3g8)		不 整 形	24.20 23.60			小ビット(底深さ60 cm)、121A号土器片浅い裏打ち込み。			
第122号 (B3f8)		不 整 形	108×86 81×68	24.12 23.36	28 石1	丸、B62、P0、土器片-瓦片、底石。	D		
第123号 (B3g9)	N62W	椭 圆 形	102×74 74×51	24.05 23.54	1	半、B51、P0、土器片-瓦片-E I、鐵土-褐色、全体的にハーフローム小ブロックを含む。	B I'		
第124号 (B3g9)	N88E	不整形円形	216×194 181×172	24.02 23.92	34 石1	半、B50、P2(底27×50 cm・深さ67 cmのU字)、上端にE I、底土-下層網目・鐵石、輪上-褐色、全体としてハーフローム小ブロック状立つ。	B C	民101-5	

土壤一観表 (No.7)

通査番号 地名	方 向	高さ 基準高さ 形状	標高部 (m) 最高部 (m) 最低部 (m)	標高 高さ 低さ	北 東 南 西	第 老	分類	実 測 面 積
第125号 (B411)	方 向	高さ 基準高さ 形状	約250 m以上 210 ~ 220	23.97 23.36	152	平、B59. P1 (上層102 × 70 cm × 3-70 cmのビット), 上多、土器片-E1a, 土器片-K1a, 灰土	B 1'	34100.6 5.98 14.13-3, 34.1-
第126号 (B3e9)	N 9W 海 岸	158 × 135 135 × 117	24.15 23.30	11	平、B58 (セクションより口部あり, 形状特徴あり), 灰土の取崩れ, P9, 灰土-A1a, 灰土-B1a, 灰土-C1a, 灰土-D1a, 多いローム。	B 1		
第127号 (B3e9)	N 47W 海 岸	164 × 156 146 × 140	24.15 23.83	80	平、B32. P3 (山腹, 地面以下ビット深さ55 cm), 地面付近灰土, 土器片-A1a, 灰土-B1a, 灰土-C1a, 灰土-D1a, 下層ごろよりアーチ, 少量ロームブロック。		面103-3	
第128号 (B3e5)	N 50E 不定形	約250 × 200 190 × 145	24.07 23.71	1	平、B36. P3 (23 ~ 32 cmの深さのビット), 灰土-上層限界, 灰陶片, 少量の焼上灰土を含む。	B C'		
第129号 (B3e5)	本 家 郷	175 × 127	24.07 23.48	1	平、B59. P0. 山で026作と重複し過剰な土器片-E1a。	B b		
第130号 (B3e4)	N 28E 不定形	298 × 165	24.06 23.90	9	山頂あり, 調い山腹風溝(深さ16 cm前後), 土器片-A1a, 灰土-B1a, 灰土-C1a, 灰土-D1a, 少量のハーフロームと灰化粒子を含む。	B e	34108-1	
第131号 (B3e4)	不 定 形	不 定	24.06 23.86	1	起伏あり, 調い山腹風溝(深さ20 cm前後)。		面106-1	
第132号 (B3d4)	N 58W 不定形	110 × 98	24.18 23.40	1	平、B78. P1.	B 3	面13-4	
第133号 (B3e6)	N 3E 本 家 郷	約330 × 135	不 定	13	平、P1. 軒曲と写真よりのアーチ, 土器片-E1a。	B b		
第134号 (B3d9)	河 谷	246 × 245 251 × 261	24.13 23.47	186 259	平, 土壌を除き01150-M66, CP3 (山腹限界36 cmと土壌下P-51-55), 半円形下層あり, 土器片(E1a), E1b, 片-E1a。	P I	面87-6 大98-2/34-4	
第135号 (B3c9)	N 69W 堆 積 物	91 ~ 71 90 ~ 61	不 明	7	平, B. P0. 河床によるデータ。			
第136号 (B3c9)	N 46E 不 定 形	196 × 75	24.20 23.63	17 61	丸, 菱形, B57. P0. 灰土-褐色, ローム柱, 少量の灰化粒子, 灰土粒子を含む。	B b	面107-4	
第137号 (B3b8)	N 48E 不 定 形	184 × 113	24.23 23.98	8	圓, 調い済み, 高さ25 cm, P0.	B b	面108-2	
第138号 (B3c9)	不 定 形	約150 m後	24.08 23.60	11	平, B48. P0. 土器片-ビット, 灰土-全体的にハーフロームブロックを含む, わずかに灰化粒子を含む。	B 1'	面94-4	
第139号 (B3c9)	N 31E 海 岸	144 × 106 121 × 122	24.13 23.63	5	平, B50. P1. 灰土-褐色-暗褐色-少量の灰化粒子を含む。	B 3'	面94-5-面13-5	
第140号 (B3b5)	N 12W 調 度 度	208 × 146	23.70 23.13	1 右2	平, B57 (S1028床面より), P0.	B a		
第141号 (B3b9)	不 定 形	約120 m後 90 ~ 98	24.12 23.49	37 右7	平, B63. P0. 土器片-ビット, 灰土-褐色-暗褐色-少量としてローム柱, 上層で灰土柱と灰化粒子を含む, 灰化わずかに斑状。	B 1	面94-6	
第142号 (B3b9)	N 23E 海 岸	81 × 79	24.23 23.78	1	円内, B45. P0. 灰土-褐色, 明褐色, 3層-ハーフローム小ブロックを含む。	B c		
第143号 (B3b7)	円 形	約80 m後	24.13 23.65	25	平, B48. P0 (底部下部円形の調い落ち込み), 灰土-褐色, 明褐色-正体, 灰土層で灰化粒子を含む。	B 1'	面13-6	
第144号 (B3b7)	本 家 郷	約95 m後 68 ~ 64	24.06 23.56	1	平, B50. P0. 大型窓片出土, 上多, 上部-E1a, 灰土-褐色, 灰土層で灰化粒子を含む。	B 3'	面94-7	
第145号 (B3e0)	N 45R 海 岸	236 × 196 232 × 190	23.72 22.87	11 右3	平, B55 (SI058床面より), P0.	B A	面7-4	

土 壤 一 覧 表 (No. 8)

測定番号 付 番	方 向	集口部形状 基盤地形状	洞口直径 (cm) 高底約差 (cm)	標高 (m)	風 向	方 向	分類 別 準 国 誌	
				高さ 点数				
第147号 (C2a7)		不 定 形	310 × 221	23.86 22.95	268 56	北. B93 (S1036 立高 35 cm). P0.	B b	
第148号 (C2f4)	NSE	八角形 不規則形	344 × 172 230 × 52	23.96 23.03	41	半. B93. P0. G0. の傾斜で外側に立ち上がる。当 處は地盤の急落、土砂片・砾石・E I. E II. E III.	B a B I	
第149号 (C2g4)	N40W	不 定 形 磚瓦反射	109 × 150 178 × 143	23.97 23.75	50	半. B22. P0. 土砂片・砾石・E I. 基礎地盤が比較 的あり、風土一褐色。全体としてハーフドーム段・風土 粒子を含む。	B a B I	
第150号 (C2g5)	性 定 形	約280 前後 約250 前後	23.97 23.08	106 62	半. B89. P0. 加 E. 飲食場所。	B I		
第151号 (C2b4)		六角形	206 × 174 157 × 130	23.84 23.38	42	田東壁下立地最も多く。B46. P0. ハーフドーム上 部・土砂片・E I.	B I B II	
第152号 (C2b5)		椭 圆 形	約257 × 241 約230 × 218	23.70 23.46		半. B24. P1. S1042 として測定し土壤の史観。		
第153号 (C2f4)	N18W	椭 圆 形	148 × 123 136 × 115	24.16 23.61	22	中. B55. CP2. 下出. 土砂片・E I.	B I B II	
第154号 (C2g5)	N25E	半 圆 形 木箱形	約220 × 250 約235	23.85 23.25	303 47	半. B60. P1. 土砂片・E I. 土砂片・風土一少 量の風土のみ。全体としてごく少量の風土粒子と風化 粒子を含む。	実100 国191	
第155号 (C2f7)	N55E	不規則形	206 × 172 182 × 144	23.96 23.26	330 610	半. B70. P1 (SK214に従う切削特大)。下山あり。 風土・E I. 砂岩・風土・E II. 破壊色・褐色。全体 として・風土と少量化の風化段階・E I. 風土。	B 3	
第156号 (C2b5)	不 定 形	274 × 235 266 × 212	23.88 22.75	268 272	半. F113. OH80. P0. SK150系を除きOH. 中上出多・土砂片・E I. E II.	F I	国82-1	
第157号 (C2f4)	N50E	不 定 形	330 × 315	24.08 23.31	330 67	半. B27. P0. 上出片・風土・E I. E IV. 風土一 褐色・風化色・少量化の風化段階・しまりあり。	B b	国107-5
第158号 (C2b7)		不 定 形	約210 前後	23.87	355	SK167 との重複大過量泥・土砂片・E I.		
第159号 (C2g5)		椭 圆 形	約210 前後	23.14	206	半. B72 (北でOHあり。OH70. F寸人). P0. SK167の過量泥・土砂片・E I. 風土一褐色・少量化の 風化段階・しまりあり。	P I	
第160号 (C2f7)		不規則形	268 × 265 約230 前後	23.86 23.44	180 石 4	半. B42. CP2. 上出あり。土砂片・E I. E II. E III. 風土・E I. 褐色・風化粒子・風土粒子を含む。	B I	国98-3
第161号 (C2f5)		小 穴 形	約238 × 236 約265 × 250	24.09 23.20	279 石 1	半. F89-OH73. P0. 上出多・土砂 片・E I. E II. E III. 風土・E I. 褐色・風化段階・少量化の 風化段階を含む。	F I	国80-6 国101 614-2 34-5
第162号 (C2g7)		不 定 形	約220 約220	23.99 23.09	105 G 3	半. F90-OH60. P0. 中上出多・上砂泥 (次回) ・不規・片-E I (多). 砂岩・風土一褐色・しまりあり。	P I	国83-3 実102
第163号 (C2g7)		椭 圆 形	約230 × 255	23.96	279	半. B75. P0. 土砂片・E I. E II. E III. 石 5	B I	国96-3 実94- 6-7 実103 ~ 106
第164号 (C2b7)	N33E	椭 圆 形	220 × 約160 180 × 約140	23.93 23.21	181 G 3	半. B71. 半. B72. CP2 (小砂ビット深さ30 cm). 土 砂片・E I. E II. E III. 風土一褐色・少量化の風化段 階・少量化粒子を含む。	B 2	国97-3
第165号 (C2f8)		不規則形	約190 前後 約175 ~ 160	23.87 23.12	582 G 15	半. B75. CP2 (S1045と重複・S1045のものの引 き性あり)。土砂片・E I. 鹿鳴。	B B	国102-1
第166号 (C2g8)	N82E	不規則形	238 × 203 約200 前後	23.69 23.15	476 G 3	半. B56. CP1 (北砂ビットとS1045のもの). S1045 の土砂・土砂片・E I. E II. E III. 砂岩・風土。	B B	国99-7 実107 914-3. 35-1
第167号 (C2b7)		不 定 形	約200 前後	23.90 23.15	222 G 3	半. B75. P0. 石砂被り上出・土砂片・E I. E II. E III. 砂岩 ・風土・褐色から黄褐色へ。少量化・風化段階・風土 粒子を含む。	B A	国14-4

土壤一観表 (No. 9)

調査場所 名	方 向	開口部形状 基底面形状	開口部高さ(cm) 基底面高さ(cm)	腐葉層 英式A 石炭	出 土 量	性 質	考 察	分類	便 利 度 指 標
第168号 (C2g6)	N79E	不整形 基底面形状	200 × 170 225 × 190	23.87 23.12	76	平, F75, OH55, P0, 上下面(SK159付属), 木炭片一塊・E1。		F A	
第169号 (C2g6)	N65W	無定形	247 × 210 約224 × 180	24.06 23.25	326 石3	平, B81, P2, 1.5%光-E1, 片-E1, 深土- 褐色・全土として炭化粒子と鐵土粒子を含む。	B C 3	実108 %35-2-	
第170号 (C2g8)		不 規 形	約90	不明		平, B5, 小ビリットである。E1炭片一塊・E1-E1, 四石・礫石・礫岩・石炭。	B b	実109 %62-10 35-4	
第171号 (C2g6)	N62W	不整形 凹形	190 × 165 175 × 150	23.88 23.14	73	平, B74, P0, 中上部多, 土炭片-E1, 深土- 褐色・ごく少部分ハドロームブロック・鐵土粒子を含 む・しまりあり。	B A	実110 %35-5	
第172号 (C2g7)		無 定 形 不 規 形	約150 前後	23.75 23.40	38 G1	平, B35, P1, 土炭片-E1-E1。	B D		
第173号 (C2g8)	N17E	無 定 圓 錐 角 急		23.69 23.43	211	平, B26, P0, SI045との遺物含む。土炭片-E1。	B a	実14-3	
第174号 (C2g8)		圓 形	約190 前後	23.90 23.15	82?	平, B75, CP1, 土炭片-E1-E1, 砂石・礫石・ 鐵石。	B B	実111 %14-4, 35-6	
第175号 (C2g6)	N25E	不整形 凹形	約180 × 145 188 × 180	24.18 22.91	244 G2	平, F127(西半)OH176, P1, 加E灰料出土, 土炭 片光(赤色) - E1。	F C	26.82-6 実112- 113 %14-5.35- 8-10	
第176号 (C2g9)		無 定 形 凸 円 形	約215 前後 約200 前後	24.10 23.61	94	平, B49, P0, 土炭片-E1, 深土-大部分褐色・ 少部分-白色・全土としてハドロームブロック・鐵土 粒子を含む。	H F	実95-6	
第177号 (C2g9)		圓 形 不 規 形	約200 前後 約230 前後	24.05 23.56	348 4	平, B49, P1(SK178内壁と並排), 土炭片-E1, 褐色・褐色・少部分の板状粒子・炭化粒子を含む者なし よりあり。	B D	実98-1	
第178号 (C2g9)		小 圓 形	約200 前後 約180 前後	24.05 23.23	110	平, F82(西OHあり・ド可大), P0, 上炭片-E1, 褐色と白色として少部分のコーム状や擦土粒子と 鐵土粒子を含む。	F A	実89-5	
第179号 (C2g9)		不 規 形	約200 前後	23.90 23.32	126	平, F40大・F40H55, P1, 上炭片-E1-E1, 石炭・鐵土・褐色・全土としてハドロームブロック・ 少部分の炭化粒子と鐵土粒子を含む。	F C		
第180号 (C2g9)		不 規 形 圓 形	約170 前後 約200 前後	23.97 23.22	158 石4	平, F75(北OH37), P0, 褐成土混込み, 土炭片- E1。	F A	実114	
第181号 (C2g7)		無 定 形 不 規 形	路110 前後	不 明	166	SK277の遺物群, 平, 浅いビニカル状土層(河疇土 り), P0, 土炭片-E1。			
第182号 (C2g9)	N42W	無定形 凹形	225 × 190 213 × 230	24.10 23.25	366 石13	平, 中央北側, F85(西OH・F3大), P2(中央 は浅い), 上下多, E25-36-E1, 石炭・礫石・ 鐵石。	F B	実98-1	
第183号 (C2g9)	N4W	圓 形	202 × 183 180 × 155	23.90 23.36	172 石1	平, B55, 南壁>P1あり, 深土-褐色・少部分の炭化 粒子を含む。	B C		
第184号 (C2g9)		無定形	約130 前後	23.65 23.23	15	平, 四周, B42, P2, 土炭片-E1。	H F		
第185号 (C2g9)		不 規 形 根	約250 × 165 23.36	23.95 石4	111	平, 南西附, B80(内西OHあり・OH53・P49), P2, 土炭片-E1, P-E1。	B b	実115 %35-9	
第186号 (C2g6)		無 定 形 凸 円 形	約250 前後 約220 前後	23.96 23.47	156 石4	平, B49, P1, 中上部多, 土炭片-褐色, 中央は深 い落ち込み, 深土-褐色・少部分のローハク・P49C- ハドロームブロック。	H F	24.105-1	
第187号 (C2g9)		無定形	約195 前後	23.98 23.59	27 石1	平, B39, P0, 上下少, 土炭片-E1。	B A		
第188号 (C2g9)		無 定 形 凸 円 形	約200 前後	不 明	44 石3	P0, 土炭片-E1。			

土 壤 一 覧 表 (No. 10)

測定番号 位 置	方 向	圓柱形状 盤底部形状	盤口直径 (cm) 底盤部直径 (cm)	高 温 烘 風速高 点数	出 土 地 名	考 察	分類	開 挖 図 版
第188号 (C210)		盤 定円形	約100前後	不 明 含む	188A	SK188 A 基底灰, P0。		
第189号 (C2g9)		不 定円形	約205前後	24.06 23.57 石3	160 平, B49, P0 (表面下は浅い孔込み), 上下多, 土 表面・風干・E1, 石少, 褐土一部缺, 少量ローム粒, 多く少量の砂粒子を含む。		第103-2 号 14- 6, 36-2	
第190号 (C2f0)	N 73 E	盤 定円形	207 < 200 197 < 179	24.06 23.51 石2	328 平, B55, P2, 土塊片・風干・E1, 地上, 橙色・ 全体としてローム粒と少量の風化粒子を含む, しまり あり。		第101 T 号 14- 6	
第191号 (C2i0)		不 定円形	約240前後	24.27 23.67	238 平, B60, P2, 土塊片・風干,		B I	
第192号 (C2i0)	N SW	不整形円形	約120前後	24.27 23.78 石3	193A 平, B49, P0。 含む		B I'	
第193号 (C2i9)		不 定 形 不整形円形	約220前後	23.98 23.06 石11	539 半, F92+OH165, P0, 地面近くより一箇出土, 上 多, 土質不定・毛干, 片-E1, 土塊片, 地上少 量の液化粒子と鐵石等。		第116 号 35-7, 36-1	
第194号 (C3g1)		不 明	不 定 形 不整形円形	不 确 定 44.2	258 CP1, 南でSK228と大きく重複, 残存跡より不整 形か, 土塊片・毛干。			
第195号 (C3h1)		盤 定 形 不整形円形	約180前後 約182前後	23.95 23.42 石3	86 平, B53, P3 (中央に浅い溝があり), 上塊片・風干・ E1・E2, 褐土一部缺, 少量のローム粒・ローム・B C 小ブロック・やわらかさあり。		第105-1	
第196号 (C3g1)		不 定 形 不整形円形	約140前後	23.96 23.45	半, F51, P1 (西壁下部), ピットより), SK228 と連動品, 褐土・シルトのローム粒, 全体として液化粒 子と細粒子を多少含む。		B I	
第197号 (C2f0)	N 65 W	盤 定 形	266 < 190 260 < 170	23.90 23.27 石7	323 半, F92+OH158, P1, 上多, 土塊片-E1- E2, 褐土一部缺, 風化粒, 全体としてローム粒や液 化粒子を含む。		F C	
第198号 (C2h6)		盤 定 形	約215前後 約165前後	24.06 23.33	半, B23, P0, SK169と連動品。		B A	
第199号 (C2f0)	N 56 E	不 定 形 不整形円形	205 < 185 235 < 206	24.10 23.20 石1	205 半, 面片, F90+OH50, P3, 上下多, 出水土表 面あり, 土塊片-E1, 片-E1, 土塊片, 風干。		第99-4 号 117 15-1, 2, 36- 3-6	
第200号 (C2d4)		盤 定 形 不整形円形	約280前後 約255前後	24.12 23.68 石1	172 半, B44, P0, 土塊片-風干。		B I'	第98-2
第201号 (B3e3)	N 55 H	圓 丸 形	250 < 220 23.79	24.02 23.79	半, B23, P1 (深さ55cm), 土塊片-風干-E1。		B a	第13-4
第202号 (B3e4)		盤 定 形	約170前後 23.78	24.02 23.78	半, B24, P0, 土塊片-風干, 磨石, 石屑。		B A	第13-4
第203号 (B3d3)		不 定 形 不整形円形	190 < 150 23.28	24.08 23.28	204 半, すり鉢状80cm, P0, 土塊片-風干・E1, 磨石。		B b	
第204号 (C2e0)		不 定 形 不整形円形	250 < 255 220 < 230	24.16 23.41 石8	783 半, 北西OH40+P1大75, CP1, 中上多, 31cm 上半風化層上, 土塊片-E1, 片-E1(多)・E2。		F I	第88-3 号 36- 4-5 第118-119
第205号 (C2e0)		盤 定 形	約80前後 不 明	24.16 不 明 含む	204A 半, B17, P? (いずれも小瓶瓶), 土塊片-風 干。			
第206号 (B3c6)	N 21 W	不整形円形	約113前後 約87前後	24.20 24.03 3	253 < 189 79 半, B67, P0, 上面出土のみ(1箇所), 土 塊片-E1, 地上・地下解説無し, 橙褐色・少量液化 粒子を含む。		B C'	
第207号 (B3c6)	日 形	不 定 形	約113前後 約87前後	24.12 23.45	半, B67, P0, 上面出土のみ(1箇所), 土 塊片-E1, 地上・地下解説無し, 橙褐色・少量液化 粒子を含む。		B I	

土 壤 一 覧 表 (No. 11)

調査番号 及 び 位置	方 向	開口部形状 高さと形状	開口部幅 (cm) 基準面 (cm)	被覆高 基準面 高さ	備 考	分類 固 有 通 道 版
第207号 (B3c6)		不整凸形	約103前後	24.06	平、B50、P0。上部45cm上半部土砂出土。上部 約85~71 23.56 47 下層で鐵性子と炭化粒子を含む。	B I' 実120 号36-7
第208号 (B3b5)	N 46E	不 整 斜方形狀	140 × 133	24.12	平、B42、P15(雨軟下限さ45cm)。鐵土一塊色。全 体として少量の鐵性子と炭化粒子を含む。	固 94-11
第209号 (B3b4)	N	格 内 形	168 × 144	24.17	平、B16、P15(いすれも底なし)。鐵土一塊色。下層 153 × 129 24.01 褐色。全体的に鐵性子と炭化粒子少ない。	固 101-9 号15-
第210号 (B3a5)		長 扁 円 形	約280 前後	24.20	道路下側面。雨半分側面。平、B55、CP13。上部 23.65 E-I。鐵土一塊色。少量のローム粒。ごく少量の 炭化粒子を含む。	号38-8
第211号 (B3b5)	N 34W	不定 不整 直角 円 形	約210 × 108	24.16	丸、B26、P0。	固 105-4
第212号 (B3a3)	N 19W	不整圓形	222 × 190	24.15	平、B8、P2(北壁下限さ13cm落ち込みあり)。鐵土 24.07 褐色。上層の鐵性土がわずかにみられる。	固 102-2
第213号 (B3d6)	N 13W	不整圓形	約190 × 150	不 切	乾燥による。P0、B(鐵色不明)。	
第214号 (C2g7)	不 定	不 定	23.96	70	平、B45、P0。下下部(10cm E-I)粘土あり。土 23.51 砂石 石2	
第215号 (C2i9)	N 42W	不定指円形	155 × 140	23.85	平、B60(北壁38-E-Iあり)、P2(上部55cm 190 × 130 23.25 石3 上半部粘土層。土基半充てなし。E-I)。	P 3 実 121 号36-9
第216号 (C2g0)	N 42E	風定扁円形	170 × 150	24.06	SK189南西側面。B40、平、P1(黒帯トピット一箇 23.66 所である)。	B C' 号14-6
第217号 (C2f6)	N 71.5W	不整長卵形	135 × 74	23.90	平、B55、P0。上端E-I。	B T'
第218号 (C2d7)		不整圓形	約190 ~ 180	24.00	平、南一部餘きOH、E-I大55、OH70、上部出多。 約220 前後 23.15 石9	P I 号 87-3
第219号 (C2c3)	円 形	約120 ~ 135	24.18	224	平、F85、OH55、上土山多。P0、土基充てなし。 約150 ~ 160 23.33 石4 E-I。	固 81-7 号37- 2-3 実 122 ~ 123
第220号 (C2e9)		不整 円 形	約180 前後	24.08	平、北OH45 ~ F4(約60、中上部(42cm上部隕 約150 ~ 150 23.48 石5 E-I) - 掘出し)。P1、上端充てなし。E-I、石4、鐵土、鐵 石5。	P C 号 86-4 号37- 1-5 実 124 ~ 125
第221号 (C3d1)	N 40E	不整指円形	242 × 265	23.83	平、B43、P0、S1061と遺物豊富。土砂片一例。 約200 前後 23.40 石7 E-I。	B A'
第222号 (C2e7)	N 88E	不 定 不整指円形	約230 ~ 240	23.95	平、F116 ~ OH62、P0。上部出多。19cmと60cm 約335 × 300 22.79 石18 上に粘土層あり。土砂片-E-I。E-I、石4、鐵土、鐵 石5。	P I 固 83-7
第224号 (C3d1)	円 形	約180 前後	24.14	96	平、B48、CP2、土塊一例。E-I。	B B'
第225号 (C2e7)	N 36W	格 内 形	117 × 103	24.01	平、B25、P0。土砂片一例。鐵土一塊色。全体とし 107 × 89 23.76 33 て少量のローム粒。炭化粒子と鐵性土を多く含む。	固 94-12
第226号 (C3b1)	円 形	約230 前後	24.17	497	平、B03、P0。上下多少。一例。土砂片-E-I。E-I、石4、鐵 23.24 石4 E-I。 上全体的に鐵性土と炭化粒子を含む。	実 126 ~ 129 号15- 4, 57-4-6
第227号 (C2f10)	不 定	不 定	20.10	20	SK199-197と重複大。鐵性土不明。B22前後。土 23.88 石2 砂石-E-I。	
第228号 (C3h1)		推定円形?	約230 前後	23.94	平。北西斜。B50、P0、SK194-227重複。	B I'

土 壤 一 覧 表 (No. 12)

測定番号 位 置	方 向	基盤地形状 高さ(厘米)	高さ(厘米)	標高(米) 高さ(厘米)	出 口	性 質	考 察	分類	采 集 区 域
第229号 (B3e5)	不 定	約150 × 125 約170 × 170	56 23.21	24.15 石1	半 半、F44 + OH52, P0, S1057と重複物質。土器 片、石器。	F b	西81 9 等7 3		
第230号 (C2e8)	内 心	約160 × 160	24.05 23.42	半、半 半、E1, 石器。	F c	西86 5			
第231号 (C2e5)	不 定	東西222	23.87 23.56	22 24.05	半、B37, P0, SK234過渡層。土器片-E1, 石器。		西91 ~ 2 24.15 ~ 5		
第232号 (C2e7)	N71E 不整形P形	142 × 94 135 × 64	24.03 23.77	半(過渡層過渡)、B26, P0, 土器-白色、少量の ローム質。ハーフドーム小ブロックを含む。	B I	西94 ~ 12			
第233号 (C2e0)	N44W 不定地形E 石	約190 × 160 約23.77	24.11 23	半、B34, P0, S1054と重複。土器片-E1。	B A'				
第234号 (C2e5)	N69W 不整形P形	213 × 186 279 × 247	23.83 22.64	228 石1	半、F116 + OH76, P2, 上下出多、土器半完-E1, 半-白色、E1, 石器。	F I	西91 2, 7/15 ~ 5 東130 ~ 131		
第235号 (C2e0)	不 定	不 规	24.00 23.56	半、B44, 西側でSK186と重複。			西105 ~ 1		
第236号 (C2e6)	N75W 不整形P形	210 × 185 255 × 250	24.10 22.98	105 石1	半、F112 + OH66, P0。	F I			
第238号 (B3j4)	N65W 格 内 形	132 × 130 172 × 140	24.05 23.33	105 石2	半、F72 + OH59, P1, 土器片-白, 土器-褐色。 全体としてローム小ブロック。Cと少量の炭化粒子と 鐵磁土を含む。	F 3	西96 ~ 6 西9 ~ 6, 15 ~ 6		
第240号 (C3a2)	N3W 不整形P形	約210 × 150	23.81 23.22	H33 G4	半、B59, P3(S1073の可能性大)。土器片-E1, E1, 石器。	B C'	西93 4 西9 4		
第241号 (C3g2)	不 规	約250 崩壊?	24.03 23.13	半、B59 崩壊?	ゆるい段取りあり。B90, P1(大きい段)と落ち込みあり 土器片-E1-E1-R1, 土器片。石器。				
第242号 (C3e2)	不 整 形	約250 崩壊? 約220 崩壊?	24.02 23.52	229 G13	半、B57, C5, 土器片-E1, 石器-白色。 窓-白色。段落-崩壊。全体的に少量の炭化粒子 を含む。	D	西88 4 西68 上段-2		
第243号 (C3b2)	N62W 不整形P形	235 × 174 303 × 231	23.93 23.01	671 2517	半、F92 + OH60, P0, 上出多、上部完 E1b, 石 器-白色、E1, 石器。窓-白色。土器片-褐色。全体的 にローム質。少部分に炭化土。鐵土粒。	F I	西82 5 等37 ~ 8, 西68 下段-7		
第245号 (C3e2)	内 心	約 90 崩壊 約110 崩壊	24.07 23.45	半、F62 + OH52, P0。		F I			
第246号 (C3e2)	N125W 格 内 形	153 × 180 134 × 117	24.07 23.50	140 石1	半、B57, P0。底面より一筋出土あり。土器片-白 色。土器片-褐色。少量化。全体として少量の炭 化粒子と鐵土粒を含む。	B F			
第247号 (C3b2)	N45W 格 内 形?	約300 × 250 不 规?	半	65 石1	半(表面のため模様等不明顯)。CP5, 土器片-E1 (多)。草石。				
第248号 (C3b2)	N525W 不整形P形	122 × 115 125 × 99	65 石1	半 半	半、OH-。F169, 小1山多、P0, 土器片-白, 土 器-褐色-褐色-褐色-褐色へ。全体として少量の炭 化粒子。しまりあり。	F I	西93 ~ 4 西9 ~ 4		
第249号 (C3b2)	内 心	約200 約206	23.92 23.23	209 石1	半、F169, P0, 土器片-褐色-E1-E1, 窓 -白色相思。(1箇所)鐵土粒と炭化粒子を含む。	F I			
第250号 (C3b2)	N38W 不整形P形	約320 × 250 23.11	23.86 23.11	230 石1	半(底面)。F169, P0, 土器片-褐色-E1-E1, 窓 -白色相思。(1箇所)鐵土粒と炭化粒子を含む。	F I	西108 ~ 3		
第251号 (C3b2)	N85W 最 良 形	149 × 70 123 × 63	23.86 22.96	102 石1	半、半OHあり。B90, P0, 土器片-E1。	B I	西108 ~ 3		
第252号 (B3j4)	N39W 格 内 形	約230 × 190	23.98 23.65	351 G6	半、B3A, P0, 土器片-E1。	B A'	西9 ~ 6, 15 ~ 6		

土 壤 一 覧 表 (No. 13)

測定番号	方 向	風 景 形 状	高さ (cm)	面積 (cm)	測 定 点	名	分類	地 面 取	
第253号 (B3j1)	不 動 形	約200 ~ 210	23.98	111	A. B65, CP2(赤・青色)ビートはS1079の40cm, 1.25m - H-E1. 石灰化・少量のカルシウム質・H. 小ブロック状付近。		D	3988-5	
第254号 (B3j2)	不 動 形	約200 ~ 205	23.53	61	平. F92 + OH50, P6, E1下. 土壌 - 河床(砂).	F I	3681 1. 737-7, 38-1		
第255号 (C3g2)	NSEW	整 定 形	約240 × 180	23.97	78	平. B70, P1 + 基盤-E1.	B C		
第256号 (C3g2)	不 動 形	約200 × 150	23.03	157	平. B58, B64, P2(成い大きなぬち込みあり). 砂でSK241+255+260 ° 大きくやや偏. 砂状不明瞭. 土石E1.				
第257号 (C3i2)	円 形	約240 × 240	23.39	41	平. B67, P6(小山頂上に深さ90cmの深い表込みあり. 土塊化・E1. 地上 - 地下 - 地表. 土体として炭酸化を含む).	B I	3495-5		
第258号 (C3i1)	NSEK	不 動 形	約300 × 225	24.10	451	平. B65, P3, 土壌半面 E1, 土・砂・P1. 土 壌 - 灰色・暗褐色・少量の炭酸粒子と粘土粒子を含む。		表 132	
第259号 (C3h1)	不 動 形	約160 周囲	不 命	36	平. B67 50cm, P9. 斜面が直上りのデータ. 土石 - E1. 地上 - E1. 地上 - 地下 - 地表ロームあり. 燃料堆土と思われる。				
第260号 (C3g2)	不 動 形	約170 周囲	23.97	23.06	平. B91, P2(水際で不動形ピットである).	D			
第261号 (B3j4)	N 90	不 動 形	191 × 157	23.98	42	平. 土石47 + E1 28, P1(深さ14cm, 80 × 80cm). 土石E1. 石灰化・土色・褐色・鉄褐色. 土体としてE1. 地上少部分の枝葉土と炭化枝子を含む。		3495-7 79-6,	
			185 × 142	23.20	61			13-6	
第262号 (C3c2)	不 動 形	約145 × 150	24.02	65	平. B17, P6. 土壌半面(E面) - E1, 土 - E1.	B F	表 133 3438 2		
第263号 (B3i3)	不 動 形	約188 × 164	24.08	65	大. B29, P6. 上部一片 - 地上 - 灰色土体・少量のハーフロームロック・表面の鐵粒子と炭化粒子を含む(部分的)。	D	3495-6		
第264号 (B3i6)	N65W	准定格地形	約250 × 214	24.11	130	平. B55, P1. 土石E1 - E1 - E1. 地上 - 灰色・土石少部分の炭酸物. 土面上ハーフローム小ブロックが立つ。	B E		
第265号 (C2h2)	圆 形	約192 × 191	23.75	1032	平. F95, P6. 中上出多. 土壌 - 灰色, 土-E1. 14石・鐵石・鐵石・心材. 地下 - 地上層の鐵粒子と粘土粒子立つ. 下部は少。	F I	表 81 4 表 124 号 16-1. 38-3		
第266号 (C3b6)	N13E	不 動 形	約150 × 130	不 命	267	平. B92, P6. 土石E1 - 地上よりのデータ. 土石E1. 土・灰土 - E1. 石灰。	D		
第267号 (B3i7)	N38E	不 動 形	約210 × 190	24.27	63	平(ゴツゴツしている). B31, P6. 土壌 - P6.	B A'		
第268号 (C3i1)	整 定 形	約160 周囲	24.10		平. B42, P6.		B A'		
第269号 (C3i2)	N50W	圆 形	約210 周囲	23.78	147	平. B51, P6. 土石E1 - 地上 - E1.	B F		
		不 動 形?	23.27						
第270号 (C2i2)	N57E	椭 圆 形	232 × 190	23.92	550	平. F85, OH45, P6. 中上出多. 土石E1 - E1. 灰土・鐵土・鐵石・鐵石へ・上部で炭酸粒子と粘土粒子立つ. 下部は少。	F I	表 38-4-7	
			236 × 218	23.07	613				
第271号 (B3i7)	椭 圆 形	130 × 114	24.27	135	平. B31, P6. (沿片 - 地上 - 地下 - 地表 - E1. 地上 - 灰色・暗褐色・褐色・少量の炭酸化を含む)。	B a			
第272号 (C3c1)	不 動 形	約175 × 190	23.99	120	平. B50. 北東OH + P6. (西片 - 地上 - E1. 地上 - 灰色・暗褐色・褐色・土体としてE1 - E1 - E1 - E1. 地上少部分の鐵粒子を含む)。	B b			
第273号 (C3b2)	不 動 形	不 命	24.00	90	平. B48 + P6. 土石E1 - E1. 石灰。	B b	表 9-4		
			23.55	81					

土 壤 一 覧 表 (No. 14)

測定番号 位置	方 向	開口部形状 底底部形状	開口部横幅 (cm) 底底部横幅 (cm)	底 部 高 度 cm	出 土 量 kg	考 察	分類 等 級	測定 場 所
第274号 (C212)	N18W	不整圓形	225 × 94	24.00 23.64	半, B36, P0.		B I'	
第275号 (C213)		不整圓形	約100前後	不 明	40	軸面ダーテより、土壌半-EIc。	半 2.16 2.3. 38 5.6	
第276号 (C214)		不整圓形	約240前後 約250前後	23.65 22.64	1239 617	半, F101-OH76, P0, L4E-E.	F I	
第277号 (C217)	同 向	同 形	約230前後	23.92 23.66	半, B26, CP5.		B II'	
第278号 (C218)		不 定 形	約200 × 160	不 明		不明。	B b	
第279号 (C219)	N45K	不 定 形	約120 × 75	24.06	半, B66.			
		不 定 形	約200 × 160	23.49				
第280号 (C219)		不整圓形	約210～220 約195～200	23.50	半, B56 (北OHあり・P可あり), P0, 上断片-EI.		F A'	
第281号 (B3b6)	N64K	不整圓形	約200～120 前 表	24.28 23.86	半, B42, P2.		B II'	
第282号 (D223)	N3E	不 定 形 不整圓形	23.78 242 × 217	347 25.4	半, F136-OH80, 秋土堆出土あり, P0, 土器半 (底) - E1b, N-EI-EI, 大水。		F I	半 1.37～1.40 2.39～2.4
第283号 (D233)		不 定 形 不整圓形	約200前後	23.40 22.27	440 612	半, F113-OH80, 下断部より粘土塊出土。P1, 土器半(EI, 土器半-EI, 内心-筋)。	F II	同 89-3 号 21-1
第284号 (D244)		不 定 形 不整圓形	約200前後 約160～180	23.85 22.85	225 石6	半, B100, 北西OH50・P可あり, P1, 上断片 E1, 地上-下層, 黄褐色・褐色・コーム小プロット タブ立つ・少藍の灰化跡土粒を含む。	F C	同 86-8 号 39-5
第286号 (D244)	N17E	不定圓形	約250 × 200 前 表	23.80 23.13	半, B57, P0 (南底) 不規則形の深さ15cmの窓孔 みあり), 土器半-EI, 岩石・筋心・石斧。		B I	
第287号 (D245)	N26E	不定圓形	約235 × 180 底 表	23.92 23.27	153 27.3	半, B65, P1, 土器片-4-EI.	B C	同 109-2
第288号 (D245)		不 定 形 不 定 形	23.85 23.20	350 G13	半, B65, P2 (2基以上の土壤との重複可能性大), 土器片-4-EI.			
第289号 (D244)		不 定 形	約150前後	23.80 33.52	187 石2	半, B28, P1 (東壁), 全段大のため堅板・形状不 明瞭, SK290との重複部, 上断片-4-EI, 同G13		
第290号 (D243)	N27W	不整圓形	216 × 143	23.79	260	半, F91-OH48, P0, 上断半(底) - 4-EI, 岩石,	F I	同 83-2 号 143 39-6
		不整圓形	約225前後	22.86	石9			
第291号 (D244)		不 定 形 不 定 形	23.74 23.04	348 G6	半, F47-OH不規, P5 (SI1083の可能性あり), 半OHあり, 上断半(底) - E1c, 片一列心, 筋心, 右斜。	F b	同 90-2 号 144	
第292号 (D244)		不 定 形 不 定 形	23.80 23.90	322 石4	半, 南OH65-P90, P3, 重複連續可能性高い, 土 器片-EI-EI, 石。	F b	同 109-1 号 16-4	
第294号 (D245)	N57W	規 列 形	201 × 175	24.90	半, B90, P3 (北西ピットはS1105の可能性あり), 土器片-4-EI, 地上-下層, 全体として少量の灰 化粘土と現生土を含む。	B C	同 17-4	
第295号 (D245)	N74E	不整圓形	305 × 255 281 × 219	23.68 23.17	194 石5	半, B51, CP7, 重複連續の可能性あり, 土器片-EI-EI, 地上-下層, 地上-1-2-3-4-5-6-7-8-9-10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-72-73-74-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90-91-92-93-94-95-96-97-98-99-100-101-102-103-104-105-106-107-108-109-110-111-112-113-114-115-116-117-118-119-120-121-122-123-124-125-126-127-128-129-130-131-132-133-134-135-136-137-138-139-140-141-142-143-144-145-146-147-148-149-150-151-152-153-154-155-156-157-158-159-160-161-162-163-164-165-166-167-168-169-170-171-172-173-174-175-176-177-178-179-180-181-182-183-184-185-186-187-188-189-190-191-192-193-194-195-196-197-198-199-200-201-202-203-204-205-206-207-208-209-210-211-212-213-214-215-216-217-218-219-220-221-222-223-224-225-226-227-228-229-230-231-232-233-234-235-236-237-238-239-240-241-242-243-244-245-246-247-248-249-250-251-252-253-254-255-256-257-258-259-260-261-262-263-264-265-266-267-268-269-270-271-272-273-274-275-276-277-278-279-280-281-282-283-284-285-286-287-288-289-290-291-292-293-294-295-296-297-298-299-300-301-302-303-304-305-306-307-308-309-310-311-312-313-314-315-316-317-318-319-320-321-322-323-324-325-326-327-328-329-330-331-332-333-334-335-336-337-338-339-340-341-342-343-344-345-346-347-348-349-350-351-352-353-354-355-356-357-358-359-360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386-387-388-389-390-391-392-393-394-395-396-397-398-399-400-401-402-403-404-405-406-407-408-409-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-450-451-452-453-454-455-456-457-458-459-460-461-462-463-464-465-466-467-468-469-470-471-472-473-474-475-476-477-478-479-480-481-482-483-484-485-486-487-488-489-490-491-492-493-494-495-496-497-498-499-500-501-502-503-504-505-506-507-508-509-510-511-512-513-514-515-516-517-518-519-520-521-522-523-524-525-526-527-528-529-530-531-532-533-534-535-536-537-538-539-540-541-542-543-544-545-546-547-548-549-550-551-552-553-554-555-556-557-558-559-560-561-562-563-564-565-566-567-568-569-5610-5611-5612-5613-5614-5615-5616-5617-5618-5619-5620-5621-5622-5623-5624-5625-5626-5627-5628-5629-5630-5631-5632-5633-5634-5635-5636-5637-5638-5639-5640-5641-5642-5643-5644-5645-5646-5647-5648-5649-5650-5651-5652-5653-5654-5655-5656-5657-5658-5659-5660-5661-5662-5663-5664-5665-5666-5667-5668-5669-56610-56611-56612-56613-56614-56615-56616-56617-56618-56619-56620-56621-56622-56623-56624-56625-56626-56627-56628-56629-56630-56631-56632-56633-56634-56635-56636-56637-56638-56639-56640-56641-56642-56643-56644-56645-56646-56647-56648-56649-56650-56651-56652-56653-56654-56655-56656-56657-56658-56659-56660-56661-56662-56663-56664-56665-56666-56667-56668-56669-566610-566611-566612-566613-566614-566615-566616-566617-566618-566619-566620-566621-566622-566623-566624-566625-566626-566627-566628-566629-566630-566631-566632-566633-566634-566635-566636-566637-566638-566639-566640-566641-566642-566643-566644-566645-566646-566647-566648-566649-566650-566651-566652-566653-566654-566655-566656-566657-566658-566659-566660-566661-566662-566663-566664-566665-566666-566667-566668-566669-5666610-5666611-5666612-5666613-5666614-5666615-5666616-5666617-5666618-5666619-5666620-5666621-5666622-5666623-5666624-5666625-5666626-5666627-5666628-5666629-5666630-5666631-5666632-5666633-5666634-5666635-5666636-5666637-5666638-5666639-5666640-5666641-5666642-5666643-5666644-5666645-5666646-5666647-5666648-5666649-5666650-5666651-5666652-5666653-5666654-5666655-5666656-5666657-5666658-5666659-5666660-5666661-5666662-5666663-5666664-5666665-5666666-5666667-5666668-5666669-56666610-56666611-56666612-56666613-56666614-56666615-56666616-56666617-56666618-56666619-56666620-56666621-56666622-56666623-56666624-56666625-56666626-56666627-56666628-56666629-56666630-56666631-56666632-56666633-56666634-56666635-56666636-56666637-56666638-56666639-56666640-56666641-56666642-56666643-56666644-56666645-56666646-56666647-56666648-56666649-56666650-56666651-56666652-56666653-56666654-56666655-56666656-56666657-56666658-56666659-56666660-56666661-56666662-56666663-56666664-56666665-56666666-56666667-56666668-56666669-566666610-566666611-566666612-566666613-566666614-566666615-566666616-566666617-566666618-566666619-566666620-566666621-566666622-566666623-566666624-566666625-566666626-566666627-566666628-566666629-566666630-566666631-566666632-566666633-566666634-566666635-566666636-566666637-566666638-566666639-566666640-566666641-566666642-566666643-566666644-566666645-566666646-566666647-566666648-566666649-566666650-566666651-566666652-566666653-566666654-566666655-566666656-566666657-566666658-566666659-566666660-566666661-566666662-566666663-566666664-566666665-566666666-566666667-566666668-566666669-5666666610-5666666611-5666666612-5666666613-5666666614-5666666615-5666666616-5666666617-5666666618-5666666619-5666666620-5666666621-5666666622-5666666623-5666666624-5666666625-5666666626-5666666627-5666666628-5666666629-5666666630-5666666631-5666666632-5666666633-5666666634-5666666635-5666666636-5666666637-5666666638-5666666639-5666666640-5666666641-5666666642-5666666643-5666666644-5666666645-5666666646-5666666647-5666666648-5666666649-5666666650-5666666651-5666666652-5666666653-5666666654-5666666655-5666666656-5666666657-5666666658-5666666659-5666666660-5666666661-5666666662-5666666663-5666666664-5666666665-5666666666-5666666667-5666666668-5666666669-56666666610-56666666611-56666666612-56666666613-56666666614-56666666615-56666666616-56666666617-56666666618-56666666619-56666666620-56666666621-56666666622-56666666623-56666666624-56666666625-56666666626-56666666627-56666666628-56666666629-56666666630-56666666631-56666666632-56666666633-56666666634-56666666635-56666666636-56666666637-56666666638-56666666639-56666666640-56666666641-56666666642-56666666643-56666666644-56666666645-56666666646-56666666647-56666666648-56666666649-56666666650-56666666651-56666666652-56666666653-56666666654-56666666655-56666666656-56666666657-56666666658-56666666659-56666666660-56666666661-56666666662-56666666663-56666666664-56666666665-56666666666-56666666667-56666666668-56666666669-566666666610-566666666611-566666666612-566666666613-566666666614-566666666615-566666666616-566666666617-566666666618-566666666619-566666666620-566666666621-566666666622-566666666623-566666666624-566666666625-566666666626-566666666627-566666666628-566666666629-566666666630-566666666631-566666666632-566666666633-566666666634-566666666635-566666666636-566666666637-566666666638-566666666639-566666666640-566666666641-566666666642-566666666643-566666666644-566666666645-566666666646-566666666647-566666666648-566666666649-566666666650-566666666651-566666666652-566666666653-566666666654-566666666655-566666666656-566666666657-566666666658-566666666659-566666666660-566666666661-566666666662-566666666663-566666666664-566666666665-566666666666-566666666667-566666666668-566666666669-5666666666610-5666666666611-5666666666612-5666666666613-5666666666614-5666666666615-5666666666616-5666666666617-5666666666618-5666666666619-5666666666620-5666666666621-5666666666622-5666666666623-5666666666624-5666666666625-5666666666626-5666666666627-5666666666628-5666666666629-5666666666630-5666666666631-5666666666632-5666666666633-5666666666634-5666666666635-5666666666636-5666666666637-5666666666638-5666666666639-5666666666640-5666666666641-5666666666642-5666666666643-5666666666644-5666666666645-5666666666646-5666666666647-5666666666648-5666666666649-5666666666650-5666666666651-5666666666652-5666666666653-5666666666654-5666666666655-5666666666656-5666666666657-5666666666658-5666666666659-5666666666660-5666666666661-5666666666662-5666666666663-5666666666664-5666666666665-5666666666666-5666666666667-5666666666668-5666666666669-56666666666610-56666666666611-56666666666612-56666666666613-56666666666614-56666666666615-56666666666616-56666666666617-56666666666618-56666666666619-56666666666620-56666666666621-56666666666622-56666666666623-56666666666624-56666666666625-56666666666626-56666666666627-56666666666628-56666666666629-56666666666630-56666666666631-56666666666632-56666666666633-56666666666634-56666666666635-56666666666636-56666666666637-56666666666638-56666666666639-56666666666640-56666666666641-56666666666642-56666666666643-56666666666644-56666666666645-56666666666646-56666666666647-56666666666648-56666666666649-56666666666650-56666666666651-56666666666652-56666666666653-56666666666654-56666666666655-56666666666656-56666666666657-56666666666658-56666666666659-56666666666660-56666666666661-56666666666662-56666666666663-56666666666664-56666666666665-56666666666666-56666666666667-56666666666668-56666666666669-566666666666610-566666666666611-566666666666612-566666666666613-566666666666614-566666666666615-566666666666616-566666666666617-566666666666618-566666666666619-566666666666620-566666666666621-566666666666622-566666666666623-566666666666624-566666666666625-566666666666626-566666666666627-566666666666628-566666666666629-566666666666630-566666666666631-566666666666632-566666666666633-566666666666634-566666666666635-566666666666636-566666666666637-566666666		

土壤一覽表 (No. 15)

地盤番号	方 向	断面形状	断面形状 (cm)	厚さ (cm)	上土 高さ (cm)	点数	編	考	分類	地 潜 記
第297号 (D244)	不 定	不 定	不 定	23.86 23.18	251 26	平, F 66・OH 30, P 0, 土28cm, E。		P b		
第298号 (D243)	N 29 E	不整規四角	198 × 174 178 × 153	24.02 23.96	543 59	平, F 95・OH 55, P 1, F 4大, 七芯半分-E 1a, 土27cm-E 1, 壤土-粉砂質, 粘土, 全体として多量の炭化け物と粘土を含む。		F C	第100-4 実145-8 147 59-8	
第300号 (D245)	不 定	不 定	約150前後	23.50 22.74	143 G 1	平, F 26・OH 35, S 1062の床面で露底, P 0, 土27cm, E。		F A		
第301号 (D245)	不 定	不 定	約200 × 150	23.86 23.13	139 61	平, F 73・OH 6, P 0, 上土20cm, 土25cm-E 1, 土21cm-E 1, 壤土-粉砂質, 粘土-炭化け物を含む。		F b	第16-5, 17-4	
第302号 (D246)	不 定 日影	約235 × 250 約264 × 269	23.74 22.86	462 617	半, F 85・OH 55, P 2(北側OH下に良好ビットあり), 土26cm-E 1-E 1, 石灰。		F B	第112-2 実148-5 16-6, 39-7-40-5		
第303号 (D246)	不 定	東風195	24.08 23.60	162 61	半, F 48, P 2(北側下, 土27cm-E 1、 E 1)			B b	第112-2 実13-4	
第304号 (D245)	N 42 W	格 内 形	182 × 142 223 × 191	23.35 22.88	35 石1	平, F 47・OH 30, P 0, 黒苔生土, 雨落葉色いが本 土はもとより上部より剥離されていてと思われる。上 部岩片-石灰。		F A'	第112-2 実149-5 39-9	
第305号 (D246)	不 定	不 定	23.38 22.58	152 61	半, F 80・OH 65, P 0, 上部片-阿木, E, 壤 土-多量ローム質と粘土, 全体的に炭化け物と粘土を 含む。					
第306号 (D246)	推定円形	不 明	23.38 22.54	305A 61	平, F 84・OH 45, P 0, 含む					
第306号 (D246)	N 90	格 内 形	234 × 213 239 × 208	23.38 22.66	568 石7	起伏あり, 東OHあり, F 22-3, OH約40, P 0, 土 28cm-阿木, E 1-E 1a, E 1-阿木, E 1, 壤土,		F B	第150-152-2 40-7-4	
第307号 (D245)	不 定	不 定	195 × 140 約230 ~ 245	23.78 22.62	78 62	平, F 116-3 黒苔を除き OH 70 - P 0, -泥炭-阿 木, 石灰, 壤土-全体として砂質土と炭化け物を含 む。中にはアリ-炭化け物。		F I	第83-6	
第308号 (D244)	推定円形	約200前後	23.80 22.80	296 614	半, 北北OH- P 1可100, P 1, 上部岩(粘土)-E 1大, E 1-E 1。			F C	第93-2 実153-4 40-6	
第309号 (D244)	推定円形	約255前後	23.80 22.80	98 618	半, 土26cm-OH約55-P 1可100, P 1, 土25cm-阿木, E 1-E 1。			F B	第93-2 実63-1	
第310号 (D245)	不 定	不 定	約200前後	23.76 23.12	320 616	平, B 64, P 3, 上部片-阿木-E 1。		B C	第40-1	
第311号 (D245)	推定円形	約120前後	23.76 23.12	85 613	平, 北北OH- B 64, P 0, 七芯-E 1, E 1-E 1, 壤 土-石炭。			B I	第154-40-8- 63-3, 17-1	
第312号 (D214)	不 明	不 明	23.80 23.12	300 612	半, B 68, P 不可, 南でSK571と並置のため形状異 様不明。土28cm-阿木-E 1, 石灰。					
第313号 (D245)	不整規四角	155 × 131 136 × 112	23.85 23.48	33 石6	平, H 37, P 2, 七芯半分-E, 壤土-褐色-少量ロ ーム質-少量の炭化け物と粘土を含む。			B F	第101-10 実155	
第314号 (D247)	N 58.5 E	不 定 円 形	約235前後	23.80 23.48	39 石6	平, B 32, CP 3, 土25cm-E。		B F'	第105-4	
第315号 (D246)	N 75 W	不整規四角	約250 × 200	23.48 23.00	440 石2	平, B 23, CP 1, 土26cm-E 1, 石灰。		B F'		
第316号 (D246)	不 定	不整規四角	約190 × 170	23.48 23.00	292 石5	平, B 48, P 0, 土25cm-E 1。		B A'		
第317号 (D243)	N 37 W	不 定	不整規四角	23.88 23.28	176 石1	平, B 60, P 0, 土25cm-E 1, 石灰。		B A	第17-3	

土 壤 一 覧 表 (No. 16)

測定番号	方 向	測定位置 基準標高(m)	測定高さ(cm)	測定高さ 基底高さ(cm)	測定高さ 次数	測 定 者	分類	固 有 土 壤
第319号 (D2f4)	不 定 形		23.96	237		平, F116, OH16, P0, 土壌片- E. I., 黄色・褐色・褐色・中等として少量の灰白色子と粘土粒子を含む。	F I	固 84-3
不 等 円 形	約 240 回数	22.80	252					
第320号 (D2f5)	N45W	推定地図名	約 230 ~ 230	23.78		平, B67, P0, OH, 土壌片-E.I.	B I	固 109-1
			23.11	197				
第321号 (D2e6)	不 定 形		23.75	217		平, 南OH約40, F105, P0, 上部半泥・剥離・E.I., 黄色・褐色・褐色・中等として少量の灰白色子と粘土粒子を含む。	F A	固 156-2 17-3
N25E	推定地図名	約 225 × 190	22.70	47				
第322号 (D2e5)	不 定 形 不 等 圓 形?	約 130 回数	23.95	47		平, B59, P0, 南半部SK294と301に高さ, 12cm 上に半泥状の凹凸・上下凹・上部半泥(E.I.)- E.I.	B I'	固 157-2 18-3, 17-4, 40-7
			23.32	751				
第323号 (D2e6)	N59W	不 等 圓 形?	206 × 182	23.68	87	平, B48, CP3, 土壌片- E.I., 黄色・褐色・中等として少量の灰白色子と粘土粒子を含む。	B B'	固 98-5 18-1
			187 × 161	22.20	751			
第324号 (D2g6)	不 定 形	約 235 × 215	23.68	42		平, B30, CP3, 土壌片- E.I.	B B'	固 98-5
		約 215 × 193	23.38	62				
第325号 (D2g7)	不 等 圓 形	約 250 ~ 265 約 145	23.68	40		平, B45, P2, 土壌片- E.I., 黄色・褐色・中等として少量の灰白色子と粘土粒子を含む。	B 3	
			23.03	51				
第326号 (D2g6)	推 定 形	約 225 回数	23.70	241		平, B53, P0(山に高い處で沿みあり), SK327と 347の遺物類。上部半泥-E.I. 片・黃色・石斑。	B I'	固 110-2 固 165 18-2, 1-40-9, 65-3
			23.17	62				
第327号 (D2g6)	不 定 形	約 250 × 225	23.70	84		平, F100, OH70, P0, SK326と遺物類。土壌片 - E.I., 黄色・褐色・中等として灰化粧子と 無機性子を含む。	B b	固 110-2 固 18-1
			22.70					
第329号 (D2g7)	整 地 口 以 後	約 190 回後	23.68	47		平, B54, P0, 土壌片- E.I., 黄色・褐色・Cく少 量の灰白色子を含む。	B A'	固 111-3 固 17-8
		約 168 回後	23.14	71				
第340号 (D2f7)	推 定 形	約 130 × 100 高 底?	23.68	46		平, B56, P0, SK331と332の遺物類。		固 111-3
			22.88	61				
第331号 (D2f6)	不 定 形	約 220 回後の E. I. 形?	23.68	258		平, B50, P0(西側下14cmの深い部分), 土壌層より 少し左側に灰白色子の可能性あり。本京は同様のもの か。土壌片- E.I., 黄色・褐色・石斑。	B b	固 111-3 固 17-12 6-6, 63-12
			22.68	61				
第332号 (D2f6)	不 定 形	約 240 回後	23.68	396		平, 南OH・E.I.可見80, P0, 上部片- E.I., 黄色・中等 として灰化粧子と粘土粒子を含みしまりあり。	F I	固 111-3 固 17-8
			22.88	610				
第333号 (D2f5)	推 定 形	約 175 回後	23.70	134		平, 南北OH・E.I.可見50, P0, 土壌片- E.I.	A'	固 111-4
		約 165 回後	23.11					
第334号 (D2g5)	不 定 形	△	23.70			平, B58, P2.	B b	固 111-4
			23.12					
第335号 (D2g5)	不 定 形	約 90 × 75	23.20			平, B18, P0.	B b	固 111-4
			23.02					
第336号 (D2f5)	推 定 形	約 225 回後 約 205 回後	23.70	104		平, B35, P3 (SK334A内を含む)・上部多・基底 - E.I.	B E'	固 111-4 固 18-1
		23.35	E I					
第337号 (D2f6)	不 定 形	不 清	23.72	118		平, B56, P2, 上部片- E.I., 黄色・褐色・中等として 灰白色・少量の灰白色子と粘土粒子を含む。	B b	固 17-6
			23.16	615				
第338号 (D2g6)	不 定 形	約 200 回前の E. I. 形?	23.67	324		平, 南北OH・E.I.可見85, P0, 上部片- E.I., 黄色・中等 として灰白色子と粘土粒子を含む。	F b	固 110-1
			22.72	612				
第339号 (D2g7)	不 定 形	約 210 回後 約 190 × 160	23.66	166		平, B66, P2, 上部片- E.I., 黄色・褐色・基底。	B C	固 110-1 固 63-13
		約 165 回後	23.00	62				
第340号 (D2g7)	不 定 形	約 190 回後	23.66	47		平, B29, P2, 土壌片- E.I., 黄色・褐色・中等として少 量の灰白色子と粘土粒子を含む。	B C'	固 105-4
		約 165 回後	23.51	石				

土 壤 一 覧 表 (No. 17)

土壤番号	方 向	高 底 形 状	標 高 (m)	基底標高 (m)	底 深 度 (cm)	底 深 度 (cm)	出 口	性 質	考 察	分類	面 積 四 坂
第340号 (D2b8)		無 定 形	約200 前後	23.80	171	半、B40、P6。此と南東でSK356と587に大きく重複。土砂・河床・砾石・礫石。		B A'	田106 2 号158~ 159 1, 41~1, 63 14		
第341号 (D2c8)	N63W	不 定 形	226 × 151	23.80	297	半、F122・OH80 P6。土砂片・河床・砾石・細砂・漂砂・漂砾・褐色・油褐色。含水量・透水性とし て少量の炭化物と硫酸鉄を含む。		F 1		田114-1	
第342号 (D2c7)	N54W	不 定 形	248 × 183	23.80	167	半、兩面OH30 P6(少72) P1。土砂片・河床・砾石・褐色・C < 少量の炭化物と硫酸鉄を含む。		F C	田85-1 号41~ 3, 63?		
第343号 (D2c7)		無 定 形	約190 前後	23.80	154	半、北斜、B50、P6。土砂片・河床・E1~		B A'			
		不 定 形	約170 前後	23.30	424						
第344号 (D2c6)		無 定 形	約80 前後	23.80	91	半、到達、石OH45 P6(少52) P6(南壁下は他土壤の あらしきか)。土砂片・E1、山等。		F 1			
第345号 (D2d7)	N37E	不 定 形	約350 × 280	23.78	378	半、E56、P6。2基重複の可塑性大。土砂片・河床・E1、E2。鐵土・土壤鉄褐色。少量のハリ根と根 枝を含む。		B F			
第346号 (D2b6)		不 定 形	約230 × 250	23.77	64	半、B29、P6。周辺多く重複。透水性。1291~ E1~					
第347号 (D2g5)	N72E	不 定 形	246 × 165	23.70	232	半、上部OH45 P6(少76) E38-E1・E2。砾石・ 巖石・漂砂・砂を含む等あり。		F b	田110 2 号18~ 1, 63-4		
第348号 (D2g4)		無 定 形	約220 前後	23.74	364	半、到達、B69、P3。雨露出しに砂り込みすぎか 土砂片-E1-E2。		B C	田113-1 実160 万41-6		
第349号 (D2g4)		不 定 形	約185 箔筒の 内 形 ?	不 確	116	半、B約60~70前後か。P6。		B A	田113-1		
第350号 (D2g5)		不 定 形	約230 前後	23.75	416	半、E56 P6(少79) P1。土砂片・河床・風化・ 炭化・硫酸鉄多量の鉄土粒子と炭化粒子を含む。		P 3	田111-2		
第351号 (D2g5)		無 定 形	約130 前後?	不 確	30	半、B不明、P1。上部半充(実由) - E II。			田111-2 2, 41~		
第352号 (D2g6)		不 定 形	約250 前後	23.70	176	半、F103・OH60 P6。土砂片・E II。			田181 2, 17~3		
第353号 (D2g7)	N31E	不 定 形	約230 × 210	23.66	739	半、F110・OH110 P6。上部山砂、上部半充(实 由)-E I、片-河床-E II、漂石、石砾。		P 1	田111-1 2, 41~ 4, 5 実162		
第354号 (D2g7)		無 定 形	約300 前後	23.66	353A	半、B84、P4。		B C	田111-1		
第355号 (D2b7)		無 定 形	約240 前後	23.66	60	半、B45、P1。土砂片-E II。風土-風上漂砂混生 ごく少量の炭化物、硫酸鉄。鐵土等を含む。		B F	田118-3		
第356号 (D2a8)	N38W	不 定 形	約200 × 195	23.80	252	半、F100・OH42 P6。出来形はSK349の草疣面 側面。上部-E I。		P 1	田84-5 実163		
第357号 (D2b9)	N40W	不 定 形	約250 × 235	23.80	119	半、B不明(SK357B基底部より25cm奥)。P6。 土砂片-E I、石砾。		B a	田114-1		
第358号 (D2b9)		無 定 形	約125 × 115	23.10	357A	半、B40、P2。		B F	田114-1		
第359号 (D2b8)		無 定 形	約210 前後	23.80	68	半、B37、P1。土砂片-E II。		B 3			
		無 定 形	約140 前後	23.82	68						
		無 定 形	約115 前後	23.45	石1						

土 壤 一 覧 表 (No. 18)

遺跡番号	方 位	開口部形状	幅1部径(cm)	縦深さ(cm)	土 壤	備 考	分類	開 深 底 面
第359号 (D2e8)	N 2W	不 定 形 △ 不整形	約200 × 157	23.82 23.06	57	平, F 76 · OH65, P 0, 土器片 - E, 少量灰片。	F A	
第360号 (D2c8)		不 整 形	約230 前後	23.78 約225 前後	177 61	平, B 98, P 0, 土器片(火炎), 破片, 灰土, 磁器片等。比較的多く、比較的多量のコム灰。少量化した灰と焼けた灰が混む。しまり感有。	B I B II	約96-2 実164 54-41-7
第361号 (D2d7)		規 定 形	約250 前後	23.77 約205 前後	92 33	平, B 37, P 3 (SK345+582 重複含む), 土器片 - E, 灰土。	B III	
第362号 (D2e8)	N 2E	規 定 形 △ 不整形	約310 × 235 約250 前後	23.70 23.35	198 271	平, B 35, P 4, 土器片 土木 - E I。	B III	約118-2
第363号 (D2e8)		不 定 形 △ 不整形	約270 前後	23.70 約230 前後	292 23.29	平, B 41, P 1, 土器片 - 土木, E I, 灰土。	B III	約118-2
第364号 (D2f8)		規 定 形	約250 前後	23.70 22.89	282 石4	平, B 90, CP 2, 土器片 - 土木, 灰土 - 下層灰褐色, 白褐色。全般として少量のローム灰や灰土粒と灰化物、灰化粘土を含む。	B III	約112-1
第365号 (D2f8)	N 16W	不 定 形 △ 不整形	約290 × 265	23.70 22.88	249 石3	平, F 82 · OH78, P 0, 土器片 - 土木。	F I	約112-1
第366号 (D2f9)	N 20W	規 定 形	249 × 223	23.70 23.20	351	平, B 50, CP 2, SK 363+365 物理, 土器片灰褐色, 灰土 - 土木, 灰土, 少量のローム灰 - ローム小ブロック, 灰化粘土。	B IV	約112-1 実166-167 54-41-8-9-10
第367号 (D2g9)	内 形		250 約240-220	23.70 23.34	48 石1	平, B 36, P 4 (中段に人骨灰付ピットをもつ), 土器片, 灰土, 灰化粘土, ハード - ハード小ブロックとごく少量の灰化物。燒土粒を含む。	B III	約103-4 実18-2
第368号 (D2g8)	内 形		105-110 131-127	23.72 22.69	82 421	平, F 84 · OH45, P 0, 土器片 - 土木, 灰土。	F I	約81-5
第369号 (D2e7)		規 定 形	約180 前後 約160 前後	23.70 23.36	227 石1	平, B 40, P 3 (SK382 上のコット不明瞭), 土器片 - 土木, 灰土 - 灰色土, 少量のロームブロック - 全体灰化土灰と灰化粘土を含む。	B C	約105-2
第370号 (D2e7)	N 7S	規 定 形 △ 不整形	278-約250 250-約225	23.70 23.27	79 石1	平(わずかに中央部凹), B 43, P 3, 灰土 - 灰色。多量ローム - 少量の灰化粘土と灰土粒を含む。	B III	約106-3
第371号 (D2f7)	N 52W	不 定 形 △ 不整形	約200 × 170	23.70 22.18	80	平, B 52, P 2, 土器片 - 土木。	B C	約106-3
第372号 (D2d7)	N 65 E	不 定 形 △ 不整形	213-197	23.68 22.38	97 石6	平, P 130 · OH67, P 0, 土器片 - 土木 - 灰土, 灰土片。	F A	約92-1 実21-2-65-4
第373A号 (D2d4)	N 90	規 定 形 △ 不整形	約250 × 230	23.91 22.82	702 石19	平, 土OH10 · P 1 (コット), 土器片(底面) - E I, P 1 - 土木, E I - E II。	F II	約109-2 実168
第373B号 (D2d5)		規 定 形	約210 前後	23.91 22.84	375A 灰1	平, B 107, 北 - MOH, P 0,	B I	約109-2
第374号 (D2e4)		不 定 形 △ 不 整	不 确 定	23.70 22.84	16	平, B 86, P 1 (中段部), 灰褐色と遺物混, ブラン不規則, 土器片 - 土木。	B b	
第375号 (D2e5)		不 定 形	約240 前後	23.70 23.16	47 石2	平, B 54, P 3, 灰褐色(底面)に土器あり, 土器片 - 土木 - E I。	B b	
第376号 (D2e5)		不 定 形 △ 規 定 形	約170 前後	23.78 22.88	28 G 6	平, F 90 - 土と灰OH30, OH7P1, SK307 遺物灰, 土器片 - 土木。	F C	
第377号 (D2e5)		規 定 形	約200 前後	23.78 23.46	平	平, B 32, CP 3, 周辺部との差異大。	B B'	
第378号 (D2e5)		規 定 形 △ 不整形	約230 × 180 約230 前後	23.74 23.42	98	平, B 32, P 0, 土器半削(底面) - E I c +	B A'	実169 実42-1

土 壤 一 覧 表 (No. 19)

測定番号	方 向	調査断面形状	開口部形状	開口部形状 (cm)	等高線 基底部分 (cm)	等高線 最高部分 (cm)	等高線 最低部分 (cm)	出水 点数	備 考	分類	周 遍 固 定
第38A号 (D2e9)	推 定 内 形	約140 斜傾		23.70	181	平、B66(内でわずかにOH)、P0、土器片-阿。			B 1		
		約140 斜傾		23.04	石2						
第38B号 (D2e9)	推 定	木	22	23.70	379A	平、B66、P0、内と東で高強度。					
	小量持門形			23.05	石む						
第38C号 (D2f9)	推 定 内 形	218 斜傾		23.70	199	平、B66、P0、上部片-阿、石、礫石・礫岩。			B C	第170 号 42-2	
		198 斜傾		23.10	石1	表土-褐色・赤色、全体的にローム化を示すブロック多く、少量の炭化粧・焼土片含む。					
第381号 (D2f9)	推 定	約200 × 127		23.72	47	平、B26、T3(いずれも良好)、土器片-E。			B 3'		
不準持門形		約185 × 117		23.46							
第382号 (D2d7)	N 86.5 E	推定内形	237 × 約174 不 明	23.74	179	平、B 不明(切端部表面から約50mm後)、上部片-E1、礫石・礫岩、表土-褐色、全体として少量の炭化粧・焼土片含む。				第105-2 号 63-5	
			222 × 約165	23.17	石1						
第383号 (D2e5)	推定内形?	約200 斜傾		23.70	232	平、B24、CP1、土器片-E。				第17-3	
		約200 斜傾		23.46	石2						
第384号 (D2f5)	N 10 W	不準持門形	190 × 183	23.74		平、B54、P1(内壁下-良好)、土器片-阿、礫石・			B C'		
			23.20			礫石-					
第385号 (D2f6)	N	不準方形	約170 × 150	不 明	87	平、B 不明、P2、土器片-E1。			B a	第17-6	
		約170 × 150	不 明								
第386号 (D2e8)	推 定 内 形	約200 斜傾		23.72	88	平、B42、P1、土器片-P1-E、表土-褐色・比較的多いローム化。全体的に少量の炭化粧・焼化粧・焼土片を含む。			B C'	第96-2	
		約200 斜傾		23.30	石1						
第387号 (D2d6)	N 2 W	不 定 形	約275 × 235	22.74	318	平、南OH25・P98、P0、土器片-E、礫石-褐色・強度増加、油脂味、中間位で多量の炭化粧及び炭化物含む。			P 1		
不準持門形			22.75	石3							
第388号 (D2d8)	N 39.5 W	推 定	319 × 約250	23.72	318	平、南OH約45・P96、P1、土器片-E、片-褐、タリの炭化粧、土器片薄。			P 1	第93-1 号 171	
不準持門形			22.76	石8						42-5	
第389号 (D2e7)	N 55 W	推 定 内 形	150 × 125	23.71	38	平、B40、P1(北東壁下-やや弱い)、土器片(頭部)-阿、石-E。			B 3'	第17-2-174	
			23.31							5-42-3-4-7	
第390号 (D2d7)	推 定 内 形	約200 斜傾		23.70	228	中、東と西の一部でOH約35、P可96、P1、土器片-E1-阿、石、礫石・石。			F C		
		約200 斜傾		22.74	石1						
第392号 (D2d8)	推 定 内 形	約180 斜傾		23.70	268	平、B90、P0、上部片-阿、表土-褐色・少量化・炭化粧少、表土に子を含む。			B A	第93-1 号 175	
		約180 斜傾		22.80	石5					42-2, 42-8	
第393号 (D2e9)	丙 形	約190 斜傾		23.70	65	平、丙内、P85、南と北OH約50個後P0、土器片-阿、石、礫石。			P A	第109-3 号 18-1	
		約190 斜傾		22.85	石1						
第394号 (D2d9)	推 定	約240 斜傾		23.65	108	平(ゆるい起伏)、B43・CP3(中央ピット良好・深さ不明)、土器片-E1-EII、EIII、EIV片薄、礫石。			B E	第109-3 号 18-1	
不準持門形		約200 斜傾		23.22	65						
第395号 (D2d0)	N 18 W	不準持門形	243 × 188	23.64	516	平、B70、P2、土器片(表面)-E1a、片-E1。			B C	第176-177	
			223 × 173	22.94	石4					5-42-6-9	
第396号 (D2d0)	推 定 内 形	約165 斜傾		23.64	385A	平、B52、P0。			B A'		
				22.12	石2						
第397号 (D2d0)	不 定 形	不 明	23.70	185		平、B77・OH50、南OH下Pあり、P1、土器片-阿、石、表土-褐色・少量化・少量のローム小ブロック多く少量の炭化粧・焼土片含む。			P b		
			22.93	石2							
第398号 (D2f0)	日 形	約65 斜傾		23.72	131	平、B66、P0、小量持土壤、土器片-阿、砾、石3、			B 1	第21-4	
			22.86	石1		礫石。					

土 壤 一 覧 表 (No. 20)

場所番号	方 向	開口部形状	開口部深度 (cm)	底面形状 (cm)	底面高さ (cm)	出 土	層	考	分類	出 土 因 素
第395号 (D210)	N 53 E	不整方形	約 85	23.72	197	平、B86、P0、土壌色・底。			B a	
			約 83	22.86	718					
第400号 (D210)	内 形	約 80 前後		23.72	38	平、B87、P0、土壌色・底。			B 1	
				22.85	713					
第401号 (D210)	N 44.5 W	格子形	106 × 98	23.70	134	平、F90・OH52、P0、土壌色・底。			F 1	第 43-1
			238 × 214	22.80	64					
第402号 (D2a4)	N 40.5 W	不整四角形	249 × 220	23.74		平、B82、P0、縦上端中央に既に地出土、土基部一 塊、砾石、鐵土一帯褐色→黑色→暗褐色へ、全体 として下部の軟化色と黒色を含む。			B A	第 113-1
			215 × 179	22.92						
第403号 (D2a5)	不 定 形	約 165 前後		23.73	121	平、F85・OH65、P1、土壌色・底。			F C	第 113-1 第 18- 1
		正方形形		22.88						
第404号 (D2a4)	N 12 W	格子形	229 × 195	23.75	552	平、B93、P3(いずれも良好)、土基部(底面) 黄 色、戸一側、同色。			B C	第 113-1 第 17- 179 号 43-2+3
			193 × 172	22.82	46					
第405号 (D2a5)	不 定 形	約 230 前後		23.73	741	平、F85・OH70、P0(底部×ピットはSK406のも のか?)、土壌色・同色・E 1。			F 1	第 113-1 第 18- 1, 43-4
			約 230 前後	22.88	617					
第406号 (D2a4)	直 立	約 260 前後		23.73	369	平、B50、P3(底面×37のピットは二段階の込み 状)、土壌色一例・E 1。			B 1	第 113-1
		木製円筒		23.14	63					
第407号 (D2a5)	内 形	約 250 前後		23.71	388	平、B85、CP2(室内の2×40ピットは壁上部で切れ る)、土壌色・E 1。			B 1	第 88-5 第 180 号 18-4
		約 225 ~ 235		22.86	572					
第408号 (D2a6)	N 16 E	不整四角形	227 × 140	23.71	65	平、B24、P1(東北・良好)、上部E 1、壁土一 塊、下部多量コムブ、全体的に軟土性子と軟 粘子を含む。			B 3'	第 108-5 第 18- 4
			211 × 110	22.47	44					
第409号 (D2a1)	N 35.5 W	複合型円筒	220 × 108		23.77	AL、H28、P0。			D	
			23.49							
第410号 (D2a1)	直 定	約 125 前後		23.76	8	平、B28、P0、板土一塊色・馬少量の地上粒子と軟 粘子を含む。			B V	
		不整圓形	約 124 × 104	23.46						
第411号 (D2a1)	直 定 形	約 107 前後		23.77		平、B31、P0。			B V	
		約 85 前後		23.46						
第412号 (D2a1)	直 定 形	約 125 前後		23.77		平、B32、P0。			B V	
		約 110 前後		23.45						
第414号 (D2a0)	N 6.5 W	不整圓形	152 × 114	23.79	4	平、B31、P0。			B V	第 94-8
			142 × 89	23.47						
第415号 (D2e1)	不整圓形	300 × 241	23.70	231		平(底面横断面に丸みをもつ)、B87、P3、土壌色一 塊。			B C	第 103-6
		266 × 193	22.83	511						
第416号 (D2e0)	直 定 形	約 200 前後		23.79	460	平、B7n、P1、土壌色一塊色、河床・E 1、壁土一 塊(底面)・同褐色、比較的多いローム粒、全体的に多 い灰化粒、表面の壁上部で軟化。			B C	
		約 195 前後		22.95	515					
第417号 (D2a1)	不 定 形	約 200		23.70	207	平、F82、内側OH40、P0、土壌色-E 1。			F 1	
		不整圓形		22.88	61					
第418号 (D2a1)	直 定 形	約 240 前後		23.73	79	平、B38、P0、南北でSK417と大きく差異。			B V	
		不整圓形		23.35						
第419号 (D2a1)	不 定 形	約 260 前後		23.68	13	平、B46、P1、南北でSK415と大きく差異。			B V	
		不整圓形		23.22						
第420号 (D2a0)	不 定 形	約 260 前後		23.67	146	平、F97・西OH52、P1、土壌半光-E 1a、砾石・ GK。			F b	第 110-3 第 43- 5
		不整圓形		22.70	56					

土 壤 一 覧 表 (No. 21)

測定番号	方 向	測定地形 及座標形状	測定位置 (cm)	高さ (cm)	断面	考	分類	北緯 座標
第421号 (D2e)	N19E 不 定 形	約215×190	23.64	282	平(上部), B72, P0, 土壌片-河床・E1, 石砾。		KC116-2	支181
		前 後 ?	23.12	62		B b	54 43-6	
第423号 (D2d)	東 定 形	約175 145	23.65	293	平, B73, P0, 土壌片-河床・E1,		KC115-1	
		不規則形	前 後 ?	22.92	65		B 1	
第424号 (D2d)	不 定 形	約175 145	23.66	293	半, F120(北西OH35×P74), 土壌10cm 枝の下 少砂礫もみあり, 二段階-側, 泥炭20cm-落合・葛 石・石砾。	F b	KC115-1	支182
		前 後 ?	22.48	68			54 43-7	64 7
第425号 (D2g)	不 定 形	約185 前後	23.65	229	半, B91, P1(北東壁下深さ32cm), 土壌片-河床。	B C	KC115-1	支43-8
		不規則形?	約185 前後	22.74				
第426号 (D2e)	不 定 形	約180	23.70	245A	平, B25(ゆるやかな立ちあがり), 小P2,	B b	KC115-1	
			23.45	合計				
第426号 (D2e)	不 定 形	約180 前後	23.70	12	平, B31, P1, 土壌片-河床。	B C	KC115-1	
		不規則形	23.35					
第427号 (D2e)	N82E 不 定 形	170 × 160	23.73	7	平, 北と北西OH63・P63, P1(西OHドット突出 6cm), 土壌片-河床・E1。	F b	KC115-2	支183
			23.10	71			54 43	12
第428号 (D2e)	N48E 不 定 形	133 × 98	23.74	35	平, F94・OH30, P0, 土壌片-河床。	F b	KC115-2	
		約165 前後	22.80	61				
第429号 (D2e)	不 定 形	182 × 150	23.68	105	半, B49, P2, 土壌片-河床・E1,	B 3'	KC115-2	
		不整規形	167 × 135	23.19	71			
第430号 (D2e)	不整規形	約200 前後	23.80	105	半, B40, P1, 土壌平光-河床, 小P1, 土壌片 の高さの傾度。	B C	KC114	54 43 10
			23.40					
第431号 (D2e)	不 定 形	約180 × 140	23.72	82	平, F92・OH70, P0, 土壌片-E1。	F b	KC116-2	
		約165 前後	22.80	71				
第432号 (D2e)	不 定 形	約160 × 110	23.80	50	不規, B不規, P2, 土壌平光 E1-E1,		KC112-2	支185*
		不整規形	前 後	50				185 54 43 9-11
第433号 (D2e)	不 定 形	約250 × 200	23.80	154	平, B46, P0, 土壌片 E1,	B P		
		不整規形	前 後	23.34				
第434号 (D2e)	N42E 不 定 形	不 距	23.60	433A	平, B45, CP1,	B b		
			23.35	347				
第434号 (D2e)	不 定 形	東西120 前後	23.60	77	平, B61, P0,	B b		
			23.19					
第435号 (D2e)	不 定 形	不 距 不 距	23.74	116	平, B34, P2(良好), 上部泥炭-泥炭・黒化		KC115-2	支187
			23.40	76				
第436号 (D2e)	粗 宽 四 形	約150 前後	23.68	62	平, B51 (OH10×P4), P0, 土壌片-河床・ 黑色, 黄土, 黄色・全地に少量の灰化物混在。	B 1'		
			23.17	71	鐵生長子少量。			
第437号 (D2b)	N63E 不整規形	222 × 188	23.70	77	半, B63, P0, 土壌片-河床, 黄土, 布紋色・極少 少量の炭化物・表土性子合む。	B A	KC116-2	
		208 × 175	23.07	46				
第438号 (D2b)	不整規形	約180 前後	23.70	167	平, B65, P2(水たまりあり, 灰化), 上部河床・大 E, 順土, 順土-順坡性・褐色, 全地的にローム小ゾ ック, 灰化物と鐵生長合む。	B C	KC116-2	
		約165 前後	23.05	74				
第440号 (D3b)	K135E 不整規形	235 × 217	23.74	109	平, 泥炭を含むOH48・P85, P0, 土壌片-河床・ E1, 黑化。	P 1		
		235 × 238	22.89					
第441号 (C2e)	不整規形	180 × 150	23.90	12	平(わずかに起伏あり), B29, P1, 土壌片 E1,	B 3'	KC100-5	
		155 × 127	23.61					

土 壤 一 覧 表 (No. 22)

測定番号 位置	方 向	測定面形状 基底面形状	測定面積 (cm) 基底面積 (cm)	標高 (m) 基底高 (m)	出土 点数	地 名	分類	開 拓 面 積
第442号 (C2j7)	N 5W	不整規四角	240 × 185 220 × 148	23.90 23.30	153 石2	平, B 60, P 3 (いずれも良好), 土器片 - 阿木・E I・ E II (表), 瓦上 - 黄褐色。全体として少量の焼土粒子 と炭化物を含む。	B 3	田102-6
第443号 (C2j8)	N 42W	推 定 不整規四角	210 × 150 23.44	23.90	279 石1	平, B 46, P 3 (東と西北下良好), 土器片 - 阿木・E I, E II (表), 瓦上 - 黄褐色。②部のローム層。全体として少量の炭化物 と焼土粒子を含む。	B C B 3'	田106-4 万188 5×6
第444号 (C2j8)	N 19E	不整規四角	195 × 165 161 × 142	23.90 23.42	122	平, B 46, P 3 (南側下に表), 土器片 - 阿木・E I, E II (表), 瓦上 - 下灰土 - 黄褐色。少量の焼土粒子と炭化物を 含む。土器片を含む。	B 3'	田106-4 万18 5×6
第445号 (C2j9)	推 定 不整規四角	約150前後 約120前後	23.90 23.28	23.90	182	平, B 62, P 1, SK 444 と遺物記, 灰土 - 黄褐色。 褐色。比較的多量のローム層。少量の燒土粒子 - 陶 器片 - 烧土块を含む。	B 3	万18-5-6
第446号 (C2j9)	不 定 推 定 内 極	約180前後 約190前後	23.90 23.05	182 石3	平, F 85 + OH 52, P 0, 土器片 - 阿木・E I, 砂岩・ 砾石・鶴嘴・瓦片。	F A	田64-2 万18-6	
第446号 (C2j9)	推 定 内 極	約180前後	23.90	446A 石2	平, F 85 + OH 52, P 1,	F C	田64-2 万18-6	
第447号 (C2j9)	不 明	不 確	23.90	不確	起状あり、一部燃として大型柱であり、直徑面のわ ずかな段差から數段の窓の設置可能性がある。土器片 - 阿木・E I。			
第448号 (C2j9)	不 定 形	東西190前後 北北150前後	23.88 23.38	353 石2	平, B 50, P 2, SK 147 遺物記, 土器片 - E I (大 きな), 片 - E I・E II・E III, 砂岩。	B b	万189 万44-2, 63-6	
第450号 (C2j9)	推 定 不整規四角	約230西後 約220南後	23.94 23.11	117 石4	平, B 83, P 0, 上器片 - 阿木・E I, 砂岩・礫 石。	B I	万19-5-6	
第451号 (C2j8)	推 定 不要場所?	約210 × 180	23.83		平, 南部, B 37, P 2, 土器片 - E。	B C'	田115-4	
第452号 (C2j8)	不 定 形 形 形?	約250前後	23.80 23.16	91	平, B 64 (前面ゆるい傾斜 - 一部段差, 一部窓) - 遺物記 (人) CP 1, 上器片 - RI - E I。	B I	田115-4 万19- 1	
第453号 (C2j8)	推 定 不整規四角	約150 × 100 前 後?	23.89 23.61	100 石1	平, B 19, P 2, 土器片 - 阿木・E, 砂岩。	B 3'	田114-3	
第454号 (C2j9)	推 定 不整規四角	約200前後	23.82 23.43	56	平, B 39, P 0, 土器片 - 阿木・E II。	B A'	田114-3 万19- 6	
第454号 (C2j9)	推 定 不整規四角	約150前後	23.82 23.45	45A 石2	平, B 37, CP 1 (良好)。	B 2'	田114-3 万19- 6	
第455号 (D2a8)	N 48W	不整規四角	222 × 170 195 × 153	23.80 23.42	27	平, B 33, P 1, 土器片 - 阿木, 瓦上, 粉色。全体と して少量のローム層・炭化粒子を含みしきりをおび て。	B C'	田100-7
第456号 (D2a8)	N 26W	不整規四角	180 × 135 150 × 122	23.80 23.40	29	平, B 49, P 3, 土器片 - 阿木, 瓦上 - 黄褐色, 粉色。 全体として少量の焼土粒子と炭化粒子を含む。	B 3'	田102-3
第457号 (D2a9)	N 65E	推 定 不整規四角	約175 × 135 前 後	23.78 23.62	平, B 46, P 0 (表面) は本社に付うものでないと思 われる - 炭化粒子可塑性あり, 上器片 - E II, 木の実の 炭化物。	B I'	田114-4 万19- 5	
第457号 (D2a9)	不 明	不 確	23.78 23.62		平, B 16, P 3。		田114-4	
第458号 (D2a9)		不整規四角	216 × 190 262 × 252	23.75 23.08	平, F 87 + OH 53, P 0, 土器半光 (底面) - 阿木, 片 - 阿木 (多), E II。	F I	田81-8 万19- 5, 44- 3-10	
第460号 (C2j9)	N 84E	推 定 推 定 内 極	270 × 210 244 × 191	23.96 23.50	201	平, B 46, CP 3, 上器片 - E II, 灰土 - 粉色。全体 として少量の焼土粒子と炭化粒子を含む。	B B'	田117-1
第461号 (C3j1)	推 定 形 形	約230前後?	24.05 23.53	336 石1	平, B 52, CP 2, 上器多, 土器片 - E II。	B F'	田117-1	

土壤一覧表 (No. 23)

測量番号	方位	凹凸地形状	第1剖面 (cm)	第2剖面 (cm)	高さ (cm)	底質	性状	分類	実測図版
第462号 (D2d9)	N 22W	無 定 不整地形	215 × 180 前 後	23.70 23.22			Y. (西斜), B45, P2 (南斜下浅い), 木立混生下に SK463のO部あり, SK424遺物群。	B C'	図115-1 号19-
第463号 (D2d9)		不 定 約120斜坡		23.68 22.46			Y. F120, P0, OH-灰, SK424遺物群。	F 1	図115-1 号19-
第464号 (C3j1)	N 33E	推 定 不整地形?	約170 × 130 前 後?	24.05 23.54	182 石8		平, B51, CP2, 土壌片・削木・E。	B 2'	図117-1
第465号 (C3j1)		变 化 不整地形?	約180 前後	23.75 22.90	57 石6		Y. B85, P0, 土壌片-E I, 破片・石礫。	B A	
第466号 (C3j2)	N 50W	無 定 不整地形?	約190 × 160 前 後?	23.78 22.28	42		此状あり, B50, P0, 土壌片-E II。	B A'	
第467A号 (C3j2)		木 刻 残 遺	東側約180 前 後	24.00 23.58	282 石2		半(西斜), B42, P1, 土壌片-阿木・E Ia・E II。		
第467B号 (C3j2)		木 刻 約120 前後?		24.00	467A		半(西斜), B41, P0。		
第468号 (C3j2)		推 定 地形	約260 前後	24.02 23.25	58 石3		Y. B77, P3 (P-42を含む), 土壌片-E I。	B 3'	図114-2 号19-
第469号 (C3j2)		木 刻		24.02 23.24			平, B78, P0, 亜酸土壌の盛生か, 上泥片-E I。		図114-2 号19- 3 32191
第470号 (C3j2)		不 定 形	東西約120 前 後	23.98 23.00	199 石2		半, F90・OH68, P1 (残りものである), 土壌片-阿木。	F 6	図114-2 号19-
第471号 (C3j3)	N 79E	推 定 不整地形?	約200 × 135 前 後	24.02 23.55	23		Y. B47, P1, 土壌片-阿木・E Ia。	B 3'	
第472号 (C3j3)		推 定 不整地形?	210 前後	23.95 22.40	97		半, B55, P1, 土壌片-E II, 褐土-褐色・少量の 炭化物・植生なしを含む。	B C'	
第473号 (C3j3)	N SE	不整地形?	302 × 225 260 × 217	23.95 22.95	194 石3		平, B100, P5, 土壌片-阿木・E Ia・E II, 褐土- 褐色・全体としてローム小ブロック・植生なし・ごく 少量の炭化物と炭化粒子を含む。	B 3	図89-6
第474号 (C3j5)	*	推 定 不整地形?	約180 前後	23.80 不 明	414 石4		B, P0, 土壌片-E I, 墓石・鉄石。		実194 号63-7, 34-11
第475号 (C3j5)		不整地形?	約185 前後	23.80 23.20			平, B60, 黒-OH32, P0。	B A	
第476号 (C3j6)		不整地形?	約300 前後	24.05 23.43	177		Y. B62, P3, 土壌片-阿木-E I・E II。	B 3	実195 号44-12, 25-1
第478号 (C3j6)		不 明 木 刻		24.05 23.44	363 石3		半, B61 (成層状より延200~220前後の凹形か), CP4, 土壌片-E I・E II, 墓石・鉄石。		
第479号 (C3j7)	N 38W	推 定 不整地形?	約220 × 170 前 後	24.03 23.44	323 石3		平, B59, CP3, 土壌片-E I・E II, 墓石・鉄石。	B B'	図110-4
第480号 (C3j8)		不 定 形	東西100-左 北 120	24.03 23.03	479A 石4		半, F97・OH90, P0, 土壌半定-E, 墓石・褐土- 褐色→暗褐色→褐色へ・ローム小ブロック立つ。 少量の炭化物と植生なし。	B a	図110-4
第480号 (C214)	N 2E	不 定 形 不整地形?	195 × 197	23.60 22.63	174 石4		半, F97・OH90, P0, 土壌半定-E, 墓石・褐土- 褐色→暗褐色→褐色へ・ローム小ブロック立つ。 少量の炭化物と植生なし。	F A	実196
第481号 (C215)		推 定 地形	約100 前後	23.96 22.80	74 石2		起伏あり, F116・OH65, P0, 土壌片-阿木。	F A	図92-3

土壤一観表 (No. 24)

調査番号	方 向	開-100cm 約100cm (cm)	標高 (m)	地 帯	考	分類	四 地 区 記	
位 置		基盤面形状	英式等高 (m)	基点名	点型			
第482号 (C2+5)	N 28W	整 定 不整円形	約220 × 160 22.80	23.95 石3	200 中中起伏あり。P. 116 + OH 63, P. 0, LOH 56等が 出土。上部完(底面) - E 1a, B - 頂点 - E 1。	F A	四 92-3 号 197 四 19-4, 45-2+4	
第483号 (C2+5)		粗 定 形	約200 前後	24.00	207 半。E 55, P. 2(良好), 土器片 - E 1, 陶土 - 灰色, 燒褐色, ハードコム, プロット, 单体として少量の火 化柱子, 乾土柱子を含む。	B C	四 91-4	
第484号 (C2+5)		木 定 形 人型渦形	約220 前後	23.45 22.45	146 石1 右1	半。F 142 + OH 90, 南OH 111, 木質下脚に塊出 し, 木質半 - E 1a, 片 - 頂点 - E 1, 右底 - 磐石。	F I	四 84-1 号 196~ 四 200 号 45-3-6-5
第485号 (D2+5)		木整半形 不整円形	約170 前後	23.80 22.60	133 石3	半。F 120(南を除きOH 57 + F 1大), F 1(隔壁上), 土器片 - E 1a, E 1。	F C	四 86-9
第486号 (C2+7)		木整渦形?	約110 ~ 130	24.00 22.70	24.00 A4	半。F 130(OH 65 沿線), P. 0, 南とSK 487と大よ く半径 - 土器片 - E 1。	F I	四 81-6
第487号 (C2+7)		木整地図? ~ 150 前後?	約200 × 140 22.70	24.00 石1	209 石1	半。F 130 + OH 72, P. 0, 上脚片 - 頂 - E 1,	F I	四 81-6
第488号 (D2+6)	N 27E	不整地図	162 × 139 143 × 129	23.85 23.38	15 石1	半。F 47, P. 1, 土器片 - E 1, 陶土 - 灰色, 单体と して少量の土器片 - 灰化柱子を含む。	B 3	四 113-3
第489号 (D2+7)		粗 定 形	約260 ~ 280	23.85	23.48	半。F 127, P. 6, 土のやや盛り出しにせき從横の可能 性あり, 土器片 - E 1, E 1, 石片。	B I	四 115-3
第490号 (D2+7)	N 62W	木 定 形	140 × 93 130 × 77	23.78 23.58	半。B 20, P. 2(△地に跡がない可能性ある), 土器片 - E 1a。	B b		
第491号 (D2+7)		不整円形	約180 前後 約160 前後	23.95 23.35	半。B 60, P. 2, 南 - 部OH あり, 土器片 - E 1。	B 3		
第492号 (C2+9)	N 78E	粗 定 形	213 × 167 228 × 190	23.80 23.26	16	半(AKH), F 54 + OH 47, P. 0, 土器片 - 頂点 - E 1,	F A	四 114-3 号 201 四 45-5
第493号 (D2+9)	N 90	粗 定 形	181 × 162 174 × 142	23.80 23.00	半。B 80, CP 3(良好), 土器片 - 頂 - E 1。	B 2	四 98-4 号 19	
第494号 (C2+10)		粗 定 形	約230 前後 約200 前後	23.94 23.45	44	半, B 49, CP 6(いずれも良好), 土器片 - E 1。	B I	四 116-1 号 19 四 20-1
第495号 (D2+10)		粗 定 形	約260 前後	23.94 23.45	308 G7	半, B 49, CP 3, 土器片 - E 1, 磐石。	B I	四 116-1 号 20-
第496号 (D2+10)		粗 定 形	約270 前後	23.76 23.16	337 石1	半, B 60, P. 0, 土器片 - 頂 - 頂点(多), E 1, 磐石 上面 - 土器片, 全体として極少量のハーフコム片, 灰 化柱子, 陶土柱子を含む。	B I	四 116-1
第497A号 (D3+1)		整定内形?	約250 前後	23.90 23.46	半, B 44, P. 0, 土器片 - E 1。	B I	四 116-1	
第498号 (D2+10)		整 内 形	105 × 75	23.90 不明	不明, 497Aより細い, P. 0。		四 116-1	
第499号 (D2+10)	N 36E	粗 内 形	145 × 120	23.90 23.55	半, B 35, P. 1.	B 3		
第499号 (C3+1)		不 明	長 明	23.75 22.92	半, B 83, P. 0.			
第500号 (D2+5)		不整円形	約140 前後 約210 前後	23.83 22.48	半, F 135 + OH 75, P. 1(南OH 1上に深い溝み), 土 器片 - E 1a, 片 - E 1。	F I	四 92-2 号 45-8	
第501号 (C3+1)		粗定円形?	約160 前後	23.76 23.16	半, B 80, P. 0, SK 502と礫物混, 土器片 - 頂点。	B A	四 116-1 号 202	

土壤一覧表 (No. 25)

地番	方 向	開口生形状	断面形状 (cm)	深度 (cm)	土 壤	考	分類	測量調査
			基底形状	基底距離 (cm)	基底高	点数		
第502号 (C3+1)		無定形?	約 240 斜面	23.75	138	平、B59、P6、土基半充・阿木、片・阿木。	B F	第116-1 号 203
第503号 (D2+7)		無 定 形	約 200 斜面	23.80	44	平、B39、P3、土基斜-E、心土・礫石、礫土・細砂、少量ラーム柱。底面近く多量の植生集中。	B C'	第115-4
第505号 (D3+4)	N 9 W	不 定 形	約 200 × 200	23.50	石3	平、F125・OH43、P0(壁)と植生ビットは本底と同様、土基半充-E、片一側、阿木、上路有隙、明石。	F I	第85-8 号 204 第191
第506号 (D2+6)		不 定 形	約 230 斜面	23.82	59	平、B75、北東一部OHあり、P2、土基半充-E、片・E、礫土・褐色、全体として少量の植生粒子と土塊化を含む。	B E	第87-4 号 45-6 大 203
第507号 (D3+1)		不 定 形	約 230 × 210	23.07		平、B63 (S245)との接続部はなだらか)、P1、上路有隙、E1、底面は暗褐色、全体として少量のロム小ブロック等。	B B	第116-1
第508号 (D3+1)	N 33 W	△ 疊層凹形	約 240 斜面	23.80	204	平、B92、P6、土基斜-E、心土・褐色・暗褐色・比較的多量のロム柱・少量の灰白色・植生粒子を含む。	B I	第116-1 号 45-7
第509号 (D3+1)		無 定 形	約 240 斜面	23.21	29	平、B51、P4、土基斜-E。	B E'	第105-5
第510号 (D3+2)		無定形?	約 200 斜面	23.80	210	平、B73、P6、上路片・阿木-E、礫土・褐色・全体として極少量の植生粒子と灰白色を含む。	B A	第116-1
第511号 (D3+1)		無定形凹形	約 230 × 180	23.80	354	平、B77、P6、土基半充(底面)・阿木、片・阿木-E。	B A	第206 号 45-9
第512号 (D3+2)		無定形?	約 260 × 270	23.80	137	平、B30、P3、土器片・阿木-E、礫石。	B E'	第116-1
第513号 (D3+5)		無 定 形	約 230 × 170	23.80	328	平、F90、P6、上路片・阿木-E。	F A	第90-5
第514号 (D3+5)	N 68 W	不整層凹形	約 210 × 110	23.87	114	平、北東部がOH45・P77大77、P6、上路片・阿木-E、E1、中間部は暗褐色、後傾斜、全般的にE1・E2柱・少量灰白色と微上傾斜。	F A	第83-4 号 207 446-1
第515号 (D3+7)		無定形?	約 220 斜面	24.00		平、B55、CP2、土基斜-E。	B F	
第516号 (D3+6)		不整層凹形	約 200 × 160	24.00	407	平、B108、P1、土基斜-E・阿木-E。	B C	
第517号 (D3+6)		不 定 形	約 200 斜面	23.00	石10	平、B58、P6、土基半充-阿木、片-E。	B A	第206 号 191
第518号 (D3+1)	N 15 W	無 内 菱	316 × 270	23.65	255	平、B65、P6、土基斜-阿木-E1、礫土・褐色・全体として少量の灰白色・植生粒子を含んでいる。	H I	第119-2 号 45-10
第519号 (D3+1)		無 内 菱	291 × 250	22.70	石5	平、B15、P3、土器片-阿木-E1・大木。	H I	第119-2
第520号 (C3+4)	N 62 W	不整層凹形	約 150 × 100	23.90	209	平、B56、P2、土基斜-E、片-E、E1、礫土・褐色・石柱、礫土・褐色・全体として少量のロム小ブロックが目立つ。	D	第209-210 446-4
第521号 (C3+4)		無 内 菱	約 160 斜面	23.37	石9	平、B53、P2、土器片-阿木-E1・E1、礫土・褐色・E1・E2柱・ロム小ブロック・植生粒子と灰白色を含む。	B C'	
第523号 (D3+2)		無 定 形	約 180 斜面	23.68	85	平、B66、P0(中央に延 80cm の不定形溝跡があり深さ 15cm)、土基充、植・阿木-E1。	B A	第119-2 号 211 20-2, 46-2+3
第524号 (D3+2)	N 76 W	不整層凹形	105 × 90	23.67	128	平、B100、P6(上部堅硬より)、上路片-阿木-E1、礫石。	B I	第119-2
			58 × 50	22.67	G1			

土壤一覧表 (No. 26)

地番番号 位 置	方 向	開口部形状 基底形状	開口部深さ(cm) 基底面積(cm ²)	基盤具 基底高 高さ:	備 考	分類	周辺 因数
第525号 (D3e1)	N41.5E	不 定 不整地凹形	約210 × 175 約175 × 140	23.67 22.95	平、B72、P0。	B-1	図119-2
第526号 (C3j7)		准定円形?		23.71 約160 石抜	50J 石10 平、F55 + OH48、P0、SK638と過湿程、周辺部 大きなOHあり、土器片・阿・E1、礫土・褐色・埴輪灰 ・少量の鐵土粒・炭化灰含む。	F A'	
第527号 (C3j8)		不 定 形 凹 形		24.16 約230 石抜	38J 石3 平(内斜)、F131 + OH46、P2、表面不規則は母の崩 壊か、土器片・E1(多)、壁。	F B	図117-2 563- 9
第528号 (D3e2)		不 定 形 不整地凹形		23.80 約215 × 220	26J 石3 平、H OH28 ~ 45 + P85、P0(裏側)は浅い溝ち込み から、上器片・E1-E1、回れ、礫土・褐色・少量の 鐵土粒子と炭化灰を含む。	F E	図92-4
第529号 (D3e2)	N37W	不 定 不 整 地 凹 形	約141 × 100	23.12 石5	125 平、H OH40 + P70、CP1(D好)、土器片・E1-E1	F 2	図92-4
第530号 (D3e2)		不 規 不 規 形 另		23.67 23.44	平、B23、P0、転倒と断面図よりのデータ。		
第531号 (D3b2)		准定円形	約150 司坂	23.98 23.37	平、E1、P1、褐色・褐色あり・褐色・明褐色・少 量の炭化灰・薄土粒子を含む。	B 3	
第532号 (D3d3)		不 規 不 規 形 另		23.95 23.22	400 平、B23、P0、上器片・阿木・E1、砾石。		
第533号 (C3j8)	N17W	不 定 不整地凹形	約306 × 200 前 後	24.16 23.33	248 石5 平、B83(北を除きOHあり・P1あり)、P0、隔壁下 は浅い溝ち込み、土器片・E1。	F 1	図117-2
第534号 (D3d2)		准 定 不整地凹形 前 後	約140 × 120	23.95 23.21	195 E1 平、B74、P0、土器片・阿木・E1、土側の足、蟲 子。	B 1	図68-4
第535号 (D3a3)		不 規 不 規 形 另		24.00 23.31	231 G5 平、B60、P1、上器片・E1-E1。		図119-1
第536号 (D3b2)		不 規 不 規 形 另		23.80 23.16	W、B64、P1、柱状状況より延210分後の円形を示 するものか。薄45。		図117-3
第537号 (D3d2)		不 規 不 規 形 另		23.80 23.16	W、B64、P1、西側壁状況より延150~170分後の円 形を示すものか。		図117-3
第538号 (D2e8)		不 定 形 另	東西193 × 南 北 136	23.50 22.75	106 E1 柱状あり、B75、基底部不規則溝込み、P0、土器 片・E1、壁。	B 6	図110-3
第539号 (D2d8)		不 整 地 凹 形 另		23.62 23.03	平、B59、P2、南北に溝を引くやかな段差あり。市 道可通性あり、土器片・E1。		図110-3
第540号 (C3j9)		不 定 形	約125 前後	24.00 23.55	111 E1 平、B45、P0、土器片・阿木・E1、壁G。	B b	図117-2
第541号 (C3j2)	N59E	不 整 地 凹 形	243 × 約200 217 × 約175	23.96 23.16	116 E1 平、壁厚80、P1(裏側は浅い溝ち込み)、壁十一褐色、 全体として少量の炭化粒子と灰土粒子を含む。中空 部内ローム塊あり。	B C	図101-8
第542号 (C3j3)		不 規 不 規 形 另		23.96 23.31	平、B65、P0、土器片・阿木、呑合。		図101-8
第543号 (D3a2)		准 定 不 整 地 凹 形	約230 前後	23.96 23.17	平、B81、P0、壁上・褐色・比較的多量のローム粒、 較少量の灰土粒子、炭化粒子を含む。	B 1	図119-1
第544号 (D3b1)	N48.5E	准 定 不 整 地 凹 形	223 × 約200 約205	23.82 23.07	90 丸、B75、P3、土器片・E1、石井。	B 3	図102-5

土壤一覧表 (No. 27)

地図番号 位置	方向	緑山高形状 高さの形状 基底基底 (cm)	緑山高 基底高 (cm)	出土 基底名 点数	備 考	分類	固連同版
第545号 (D2a9)	不整地形?	東面 195 東面 178	23.72 23.34	85 石4	平, B38, P6, 土器片-E。	B A'	固114-4 号19-5
第546号 (C210)	北 不整地形	約170高底	24.03 22.68		平, B35, P6, 濃土-褐色。比較的多量のローム粒。 全体として細粒の炭化粒子。少部分に炭化物を含む。	B A'	固117-1
第549号 (D3a2)	不定形	約200高底	23.98 22.93	158 石9	平, 南西OH, F1大105, P6(南半世帯は肥沃層か ・円形を呈すると思われる)。土器片-灰土, 破石, 破 石, 石片。	F b	固118-1 号46-6
第550号 (D3a3)	NNE 不整地形	203 x 177 254 x 242	23.80 22.74	902 石5	平, F100, OH40, P1, 土器片-灰土, 破石, 破 石, 破石-褐色, 褐褐色瓦豆, 少量ロームブロック・甚 少部分の陶土粒子と炭化粒子を含む。	P I	固84-6 号46-10
第551号 (D2a4)	円 形	145 94	23.80 23.15		平, B65, P6, 土器片-E。	B I	固95-7
第552号 (C311)	N39E 不整地形	255 x 233 255 x 237	23.80 22.92	73 d11	平, F88, OH50, P3, 上器片-灰土, 濃土-褐色, 褐色。比較的多量のローム粒。陶土粒子。炭化物を含 む。	F I	固85-4 号20-3
第553号 (D3a3)	N7W 不定形	163 x 102 104 x 56	24.00 23.15	19	平, B85(OH4, P4あり), 土器片-E。	F b	固119-1
第554号 (D3a4)	N78W 不整地形	235 x 200	23.78 22.93	253 石4	平, B85(西西OH), CP2, 土器片-灰土, 木。	B I	固85-5
第555号 (D3b3)	不定形 約300高底		23.84 22.72	231 石5	平, B112, P2(いわゆる浅い), 北側不整形(重複) 特征あり。上器片-灰土。	B b	固117-3
第556号 (C4g2)	不定形 不 明		24.32 22.97		柱状, 鋸, P135(生OHあり), P6, S1015のピット と重複。上器片-灰土。	B b	固212 号3-5 号46-12
第557号 (D3e3)	不整地形 約120 x 140		23.21 22.81	286 石6	平, B40(ST1088底より), P6, 土器片-灰土, 破 石-石片。	B I'	号21-3
第558号 (D3e4)	不整地形 約150 x 130 前 後?		23.94 22.75		平, F可大119(生OH), P6, 土器片-E, 破石。	F I	固213 号20-4, 72-11
第559号 (D2a4)	円 形 不整地形 約140高底 約160 x 120		23.83 23.03		平, F89, OH40, P6, 土器片-灰土, 濃土-褐色, 褐色として多量のローム粒, 少量の炭化粒子と炭土粒 子を含む。	F I	
第560号 (C3j1)	N80 横 円 形	248 x 204 213 x 191	24.06 23.45	74	平, B61, P4, 土器片-E。濃土-褐色, 灰土と してロームブロック少量付立つ。全体的に炭化粒子と 陶土粒子を含む。	B C	固103-7
第561号 (D3a5)	不定形 約245高底		23.87 23.37	444 石11	平, B50, P2(壁紙下良好), SK611と調和物, 北部 片-灰土, P1, 等。	B I'	
第562号 (D2c7)	N54E 横 円 形 前 後?	約160 x 130	23.78 23.41	41	平, B37, P1, 土器片-灰土-E。	B I'	
第563号 (D2f9)	不定形 円 形 約220高底		23.63 22.82	276 石3	平, F81, OH45, P6, 土器片-灰土, 破石, 磨 石-下部灰褐色, 上部褐色, 比較的多量のローム粒と 多量の陶土粒子と炭化粒子を含む。	P I	固112-1 号20-5
第564号 (D2e0)	N72W 不整地形 約160 x 165 前 後?		23.62 23.00		平, B62, P1。	B C	固108-8
第565号 (D3e1)	N80E 不整地形 後?	280 x 220高 約155高底	23.76 23.05	74 石5	平, F71 + OH40, P6, 土器片-灰土, 破石, 石片。	F A	
第566号 (D2c6)	不明 不明		23.80 23.37		平, B43, P2。		
第567号 (D3a6)	N37W 横 式 不整地形 後?	280 x 220高 約155高底	23.87 23.18	691 石3	平, P169, OH53, P6, 土器片(底面)-E1b, 片-灰土-E1-E2。	F I	固117-4 号214 号46-11, 47-1

土壤一覧表 (No. 28)

地塊番号	方位	測定断面状況	測定断面 (cm)	測定高さ	測定方法	測定結果	参考	分類	土壤調査
第560号 (D3e6)	北 定 位	約220×160 不整地凹形	23.87	567A	V, B52, P0.			B A'	第117-4
		約 7	23.35	分合					
第561号 (D2e4)	不定 定	約210~220	23.80			半, F95+OH55, P0.		F I	第113-1
	不整地凹形	約210~220	22.85						
第562号 (C2j4)	N74E	不定 定	約109~90	23.90		半, F76+OH40, P0., 土器片-K。		F I	第91-5
	不整地凹形	約128~110	23.15						
第563号 (C2j4)		推 定	約130~80	23.90		半, B17, P0.		B I'	第91-5
	不整地凹形		23.73						
第564号 (C2j4)	N15W	円 形	約77断続	23.85		不明、良好な状態。			
	斜 斜	95×80	4.5m						
第565号 (D2g4)		推 定	約250断続	23.80	19	A, B28, P4, 土器片-K。		B C	
			23.92						
第566号 (D2g7)		不定 定	168×152	23.80	58	半, F95+OH45, P0., 土器片-K。		F I	第81-2 N46-9
	不整地凹形	238×225	22.62						
第567号 (E2g6)	N26W	不定 定	110×73	23.86	31	半, B87(少少で根糸あり・S1 087 のビットと重複) P0., 土器片(灰青)ーE1c。		B I	第215 号47-4
			22.99						
第568号 (D2g5)		推 定	約200断続	23.83		半, F145+OH90, P0.		F A	第92-2
	不整地凹形		22.38						
第569号 (D2e3)	N58W	不定 定	163×141	23.90		半, B112, P0., 土器片ー陶片、土器片等。		B I	第21-1 00191
			124×103	22.78					
第570号 (C2j5)	N34W	不定 定	約204×165	24.00		半, F106+OH80, P0.		F A	第91-4
	不整地凹形	約 7	22.94						
第571号 (D2g3)	K67W	推 定	約300×250	23.76		半, B62, CP3.		B B	第91-3
	斜 斜	4.5m	23.14						
第572号 (D2g3)	N66E	不定 定	271×255	23.76	255	半, 東と西の一帯(OH35+P1)、土器片ー陶 片・繩・E1。		F I	第91-3
			288×243	22.95	E.5				
第573号 (D2e1)	N	不定 定	約180×160	23.69	189	半, F95+OH99, P0., 土器片ー陶片。		F A	第110-1
	不整地凹形	153×125	22.94						
第574号 (D2e3)	N9W	不定 定	239×181	23.74	63	半, B72, P0., 土器片(未定)ー陶片ー陶片 ーE1、繩等。		B A'	大-216 T/20-6 45-5+7-8
	不整地凹形	222×165	23.02						
第575号 (D2d2)		推 定	約150×90	23.92		半, F65, P0.		F I	第109-2
	長方形		23.27						
第576号 (D2e3)		推 定	約200×160	23.80		半, B30, P0.		B A'	第106-2
	斜 斜	23.41							
第577号 (D2e3)		推 定	約160断続	23.87		半, B59, P2.		B C	
			23.28						
第578号 (D2h3)		不定 定	窓内約180	23.40		半(あり)、B20, P0.		B b	第21-1
			23.20						
第579号 (D2e6)		推 定	約200断続	23.70		半B38, P1.		B C	
			23.32						

土 壤 一 覧 表 (No. 29)

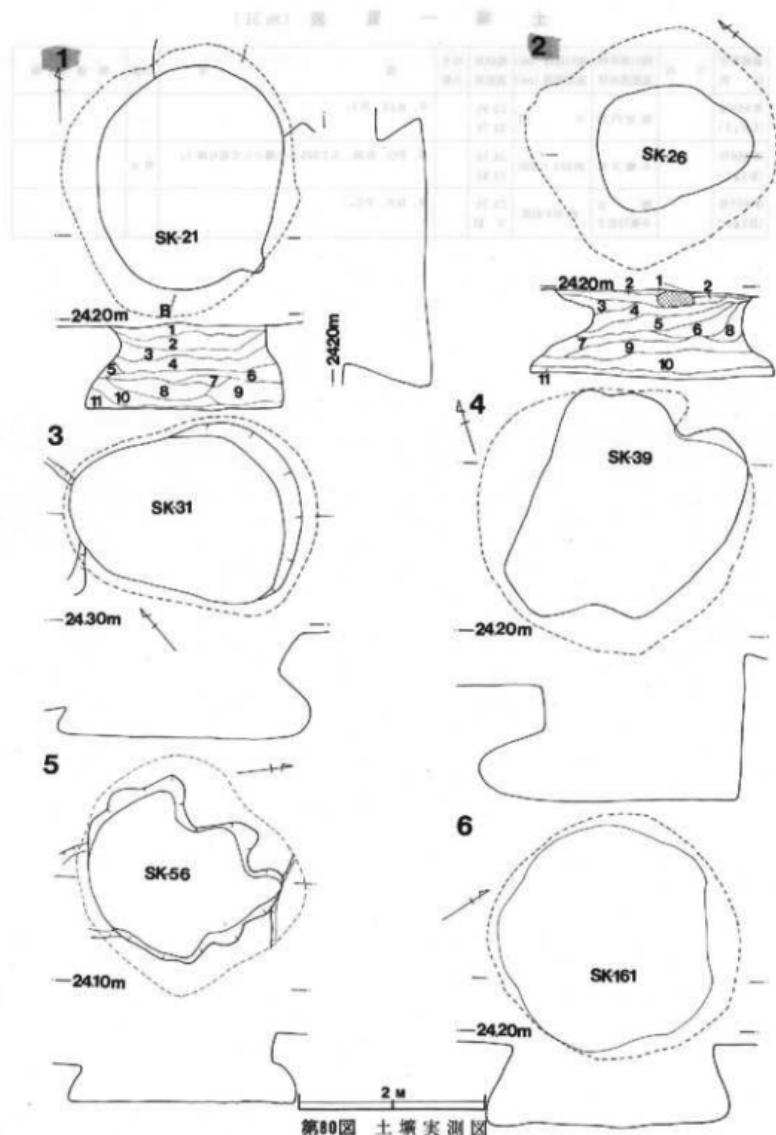
測定番号	方 向	断面形状	断面深度 (cm)	基底形状	基底深度 (cm)	断面形	地 面	地 下 层	分類	固 定 因 素
第507号 (D215)	不 定 形		23.71			A, B21, P2,			D	N109-1
			23.50							
第599号 (D245)	直 出		23.78			A, B25, P1,			B C	
	不 等 阶 段	約200段	23.53							
第600号 (D244)	不 定 形	不 明	23.80			A, B37, P0,			B b	N109-1
			23.43							
第602号 (D247)	三 角	約135	23.86	138		中央ふくらむ。P98, P0, OH50, 125R-1側・K 本・最右・右斜。			F A	7081-10
	不 等 阶 段	214 × 158	22.82	110						
第603号 (D247)	N SSE	不 等 阶 段	約180 × 120	23.80		A, F80 + OH60, P0, 土2R-E,			F A	
			約215 × 160	23.00						
第604号 (D243)	不 定 形	約180	23.76			A, B63, P0, 土2R-E, E,			B A	
			23.13							
第607号 (D247)	N NW	不 等 阶 段	約215段	23.70	62	A, F109 + OH60, P0, 土2R-E, 硫石,			F I	3092-1 3-21-2
	不 等 阶 段	358 × 約200	22.61	65						
第608号 (D244)	不 定 形	東西100段			23.83	起伏あり。B37, S1105の柱と下層? P0, 土2 片一斜。			B I'	
					23.46					
第609号 (C313)	N70W	不 等 阶 段	207 × 158	22.63		A, F12b + OH55, P0, 土2R-E,			F A	7014-2 7/19-3
第610号 (C314)	推 定 仰 形	約120段			24.02	A, B39, P1,			B 3'	
第610号 (C314)	推 定 仰 形	約160段			24.02	A, B39, P2,			B C'	
					23.63					
第611号 (D346)	不 定 形	約290段	23.97	158	半, B65, P0, 变更で市街の干渉性あり。上2R-E, 中・M1-E, E1, 灰白・褐色・全体として少部分 のワーム小ブロックが見つ。	B b				
				23.12	77					
第612号 (D343)	N 21 E	不 等 阶 段	223 × 180	22.77		A, F96 + OH50, P1, 土2R-E,			F C	7085-6
第613号 (D344)	不 等 仰 形	約230段			23.85	A, F62 + OH25, P0, 土2R-E,			F I	3-21-3
第614号 (D244)	推 定 不 等 仰 形	約180段	23.92		半, B64, P0,				B A	70109-2
			23.28							
第616号 (D240)	N30W	椭 圆 形	100 × 92	23.80		A, B49, P0,			B 1'	7094-9
			80 × 92	23.40						
第619号 (D3d1)	N65W	椭 圆 形	約253 × 210	23.72	267	A, B52, P0, 土2R-E,			B 1'	70105-5
	不 等 阶 段	約20	23.20	273						
第620号 (D3e1)	N 35 E	不 定 形	約200 × 185	22.93		A, F77, P0, 土2R-E,			F A	7083-5
第622号 (D3b6)	不 定 形	不 明	23.87			A, B102, P0, 土2R-E, 石膏。			B b	70117-4
			22.85							
第623号 (D3b7)	N30W	不 等 阶 段	193 × 140	23.65	119	A, B75, P0, 土2R-E, M-E, E1, OH50,			D	70117-4 実218
			149 × 100	22.90	273					
第624号 (C313)	推 定	約120段	24.00			A, F22 + 成・OHあり, P0, 土2R-E,			B 1'	
	不 等 仰 形		23.78							

土 壤 一 覧 表 (No. 30)

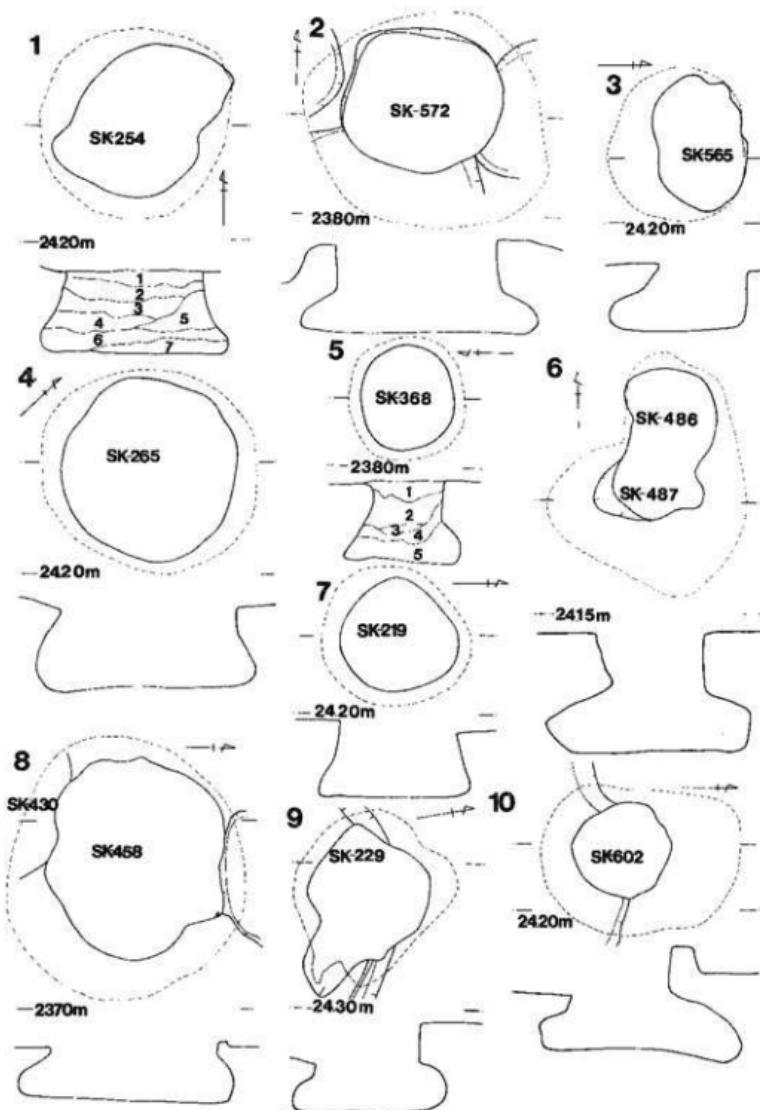
土壤番号	方 向	断面形状	断面深さ(cm)	断面形状	高さ(cm)	出上 点数	性 質	考	分類	国 地 号
第631号 (D3e 3)	北 定 不整円形	不 明 不 明	139	S1088 北西コーナーで複数、S1088 外周部陥り込み、立地データよりB型の深い不整円形状の土壌である。P1あり。路盤未下。					7521-5, 47-6	
第632号 (D3e 3)	北 定 円 形?	不 明 不 明		S1088 の西で複数 S1088 外周部陥り込み、立地データよりB型の深い不整円形状の土壌である。P1あり。路盤未下。					7521-5	
第633号 (D3a 7)	不整円形?	不 明	24.03 23.33	170			干、H70, CP2, 土器片-E1。		国108-6	
第634号 (C3j 5)	不整(角部) 試?	東西130 約?	23.90 23.35				干、B56, P0。		B1'	国108-7
第635号 (C3j 6)	不 明	北 晴	23.90 33.60				干、B30, P0。			国108-7
第636号 (C3j 7)	推定円形	約115前後	不 明				干、CP1, B型干草と思われる。S1021 底部からは灰(20cm前後)。			
第637号 (C3j 7)	推定円形	約77前後	24.04 23.53				干、B51, P0。		B1'	国94-10
第638号 (C3j 7)	円 形	約130前後	23.71 23.15	40 41			干、P56・OII50, P0。周辺強度大きなOIIあり。土器片一例。		F1'	7547-2-3
第639号 (C3j 7)	不 明	北 晴	23.70 23.15	17			調査未了のため不明。土器片-E1。			干47-5
第640号 (C3j 7)	不 明	不 明	23.70 23.15				調査未了のため不明。			
第641号 (D3a 5)	N83E	推 定 不整地円形	約190×140 約	23.07 23.35	20		干、B82, P1, 土器片-E1。		B3	
第641号 (D3a 6)	推 定 不整地円形?	南北270前後	23.90 23.72				干、B18, P2。		B3'	
第642号 (D3a 5)	N 6 E	推 定 小整地円形	約250×180	23.87 23.02	17 石1		干、P85・OII約65, P0, 土器片-E1。		F1	国90-5
第643号 (D3a 4)	推 定 不整円形	約205前後	23.78 22.98	66			干、P108・OII不明, P0, 土器片-E1。		F1	干219~220 7547-7
第644号 (D3a 3)	推 定 不整地円形?	東西230×4 北280前後?	23.90 23.26	15			干、B64, P1。		B1'	国119-1
第645号 (C3j 4)	推 定 不整地円形	南北	23.98 23.42				干、B56, P0。		B1'	
第646号 (D3a 3)	不 定 形	不 明	23.85 23.00				干、B85, P0。南に近くのびて不定形を呈し、底面造形の可能性もあり。未來は内形を呈していたとも考えられる。		B b	国119-1
第650号 (B3b 5)	N27W	不整地円形	115×100 約 95×92	24.20 23.86			干、B34, P0。		B1'	国94-11
第651号 (D24 9)	N25W	不整地円形? 約120×100		23.73 23.35			干、B38, P0。		B1'	国109-3
第653号 (C3b 3)	推 定円形	約180前後	23.40 23.80				干、B20, CP2。		B1'	
第654号 (C2j 4)	不整円形	約75前後 約90前後	23.88 不 明				不 明			

土 壤 一 覧 表 (No. 31)

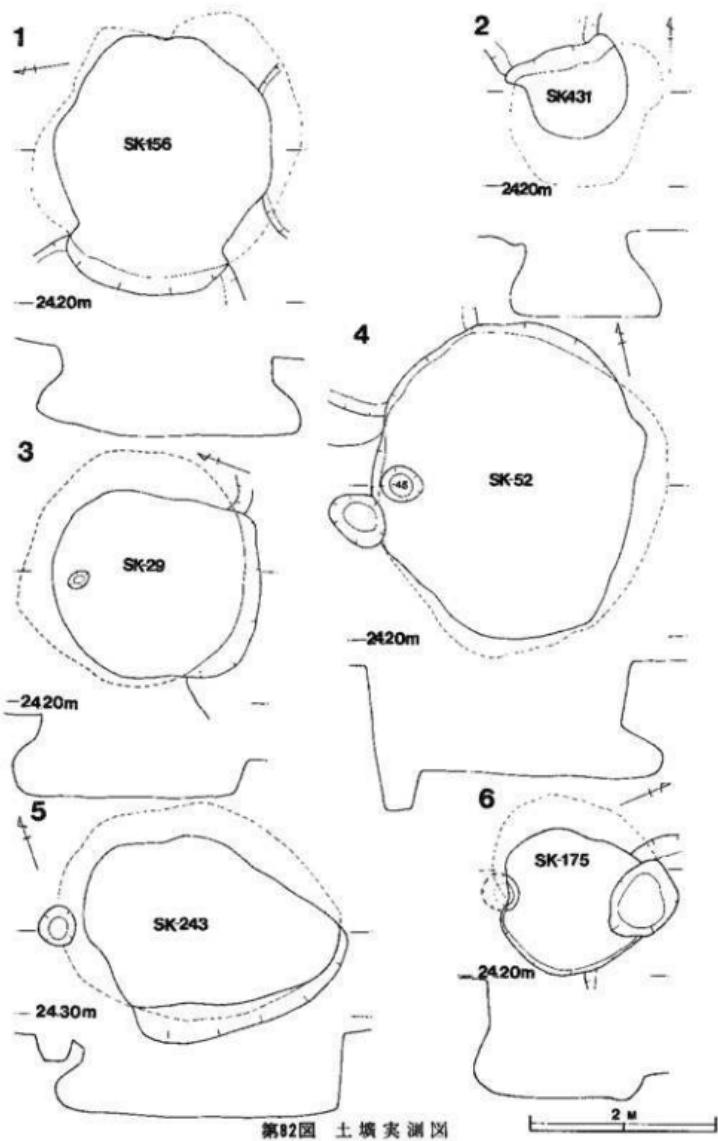
土壤番号 位 置	方 向	断面形状 基底形状	断面深度 (cm) 基底深度 (cm)	標記番 号	出土 点数	性 質	考 察	分類	腐 殖 質 板
第 655 号 (D2g3)	北 定 东	不 明	23.95 23.76			平, B19, P3,			
第 656 号 (B3g7)	不 确 定	約 310 × 300	24.18 23.82			V, PO, B36, SI 025 を土層として取り扱う。	B A		
第 657 号 (D2g4)	北 定	約 310 的 像	23.76 不明			平, B 不, P0,			



第80図 土壌実測図

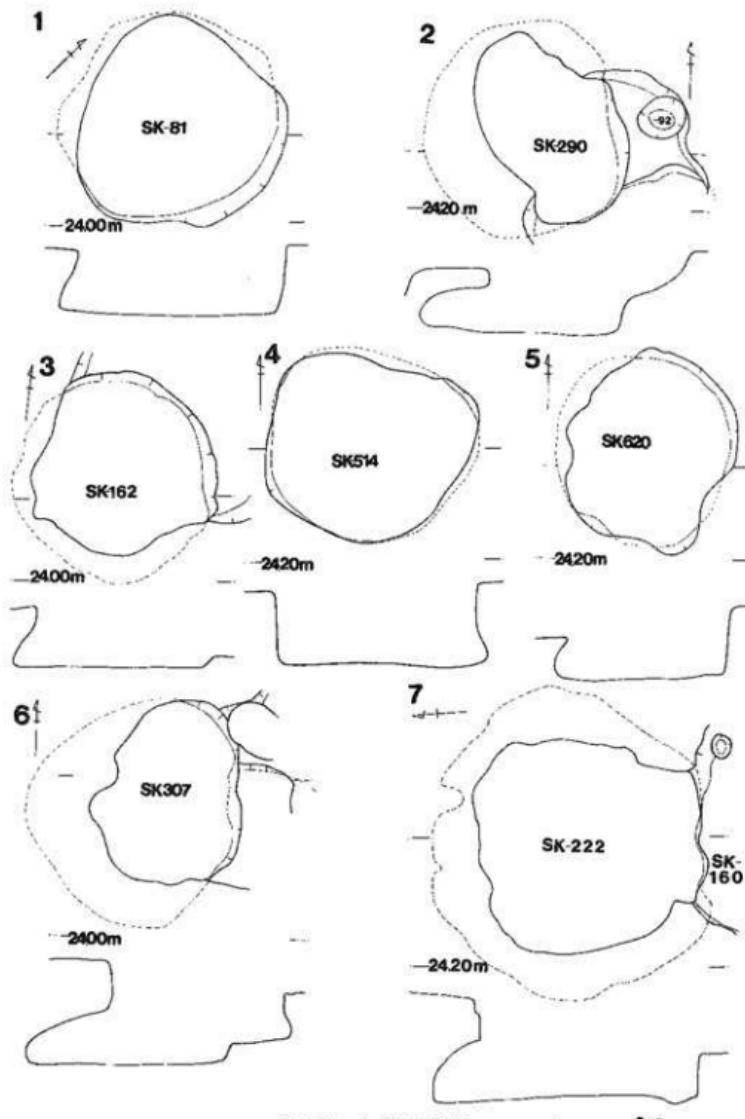


第81図 土壌実測図



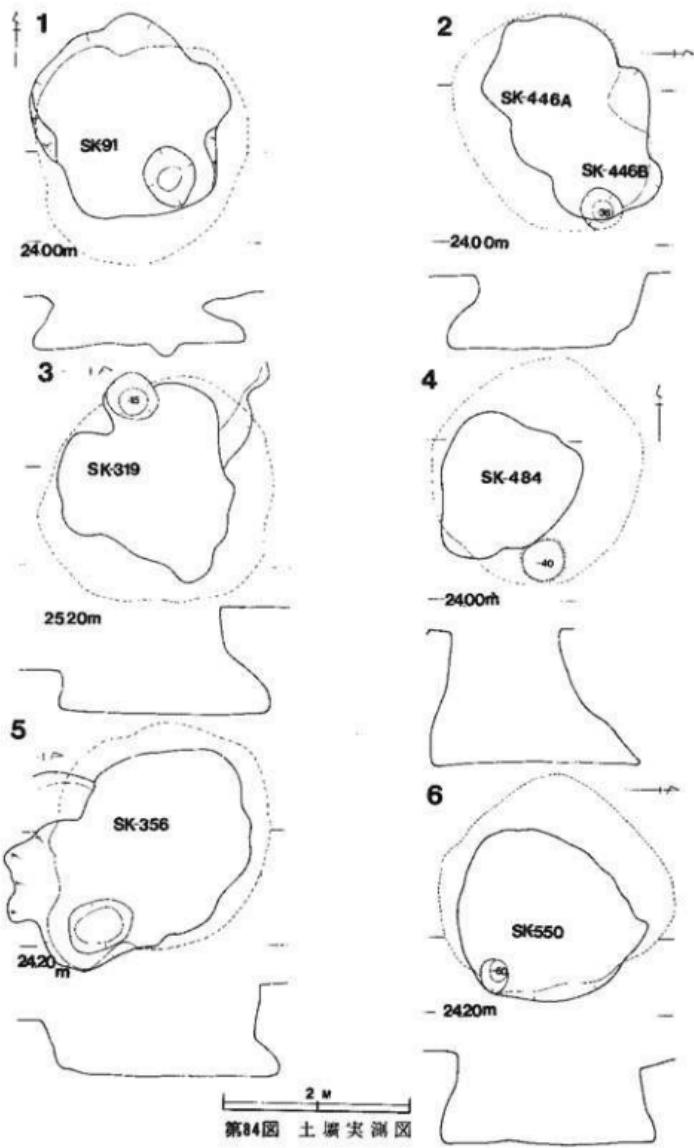
第82図 土壌実測図

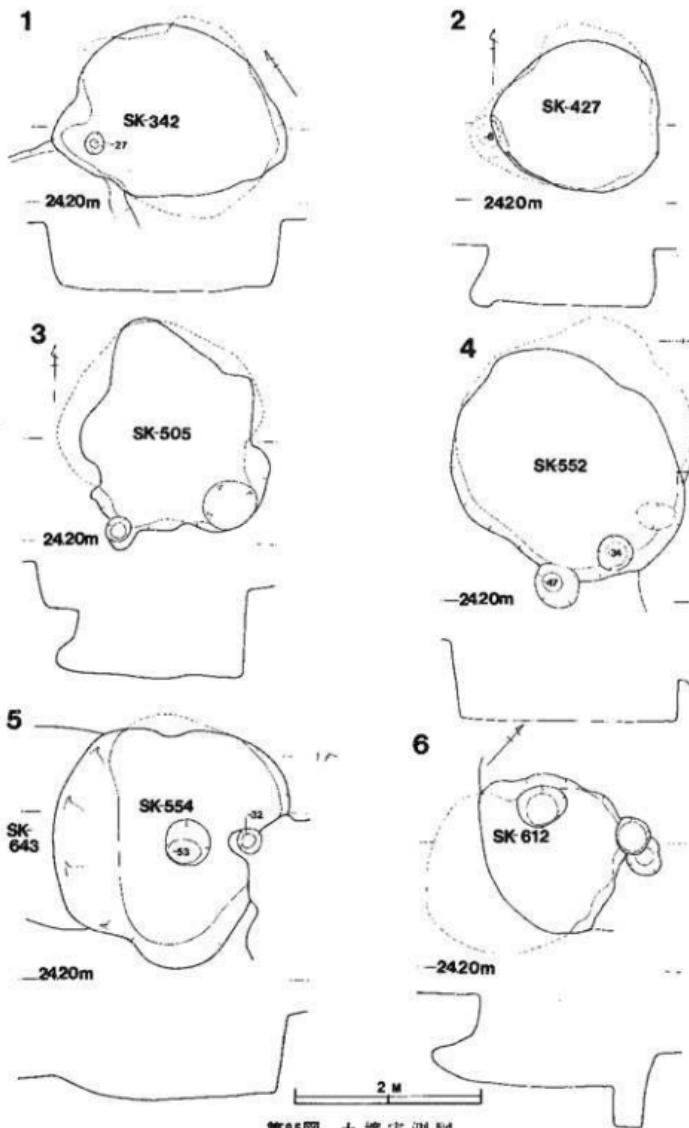
2 M



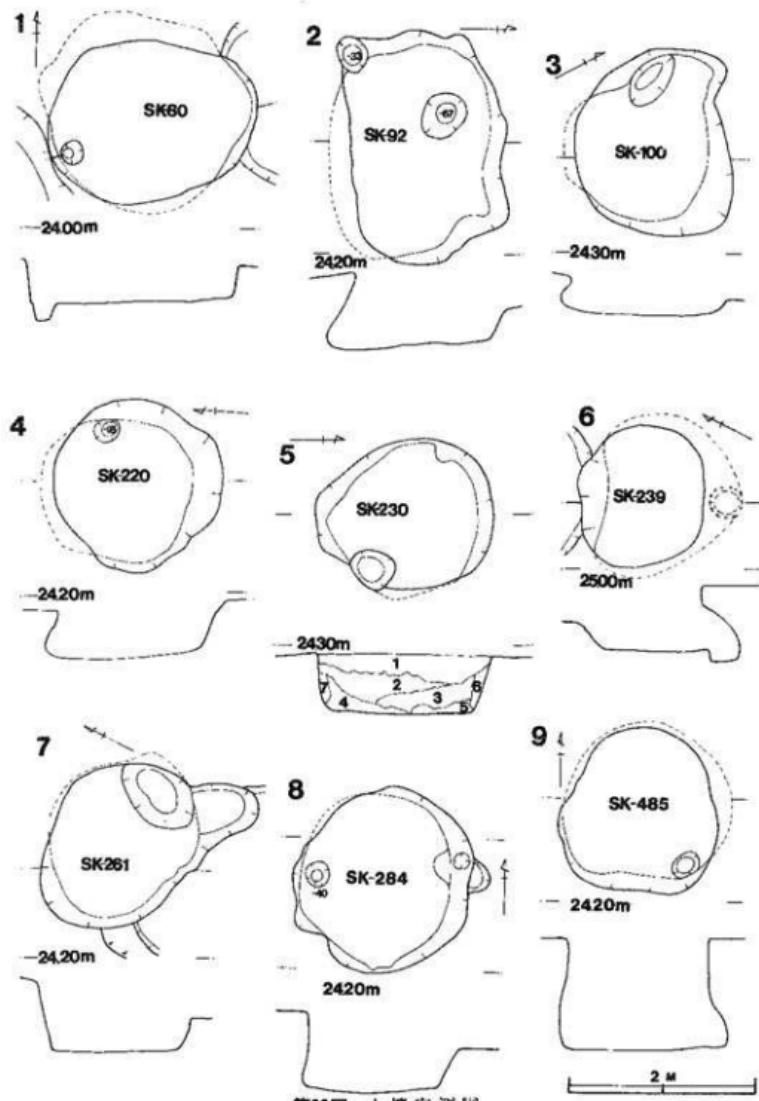
第83図 土 壤 実 測 図

2 M

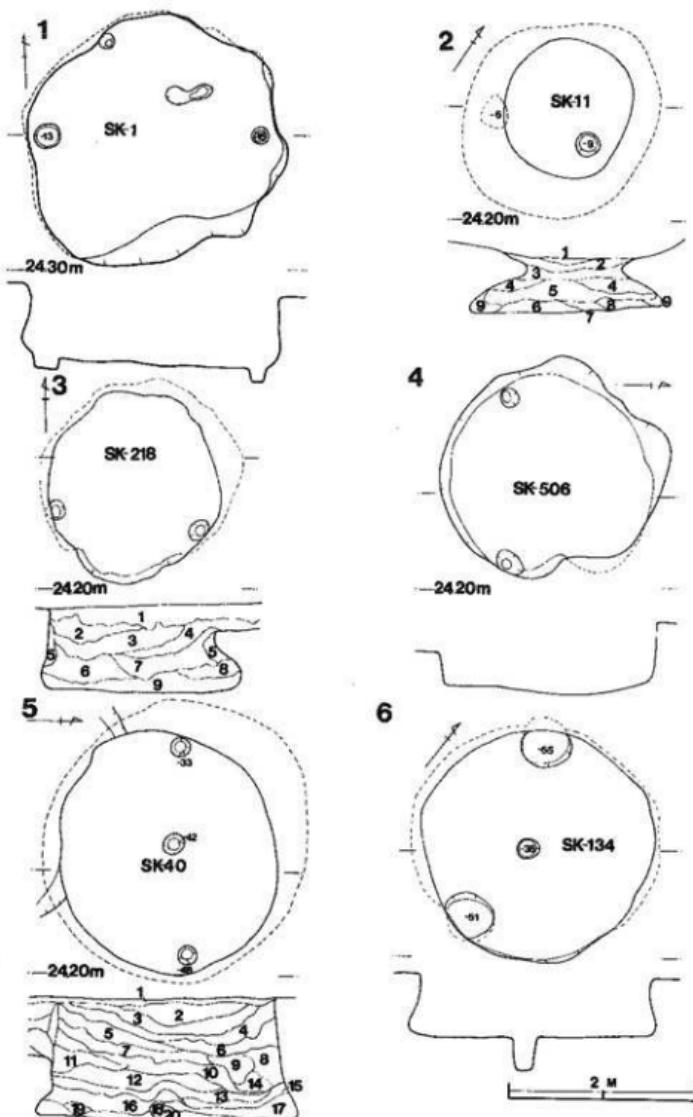




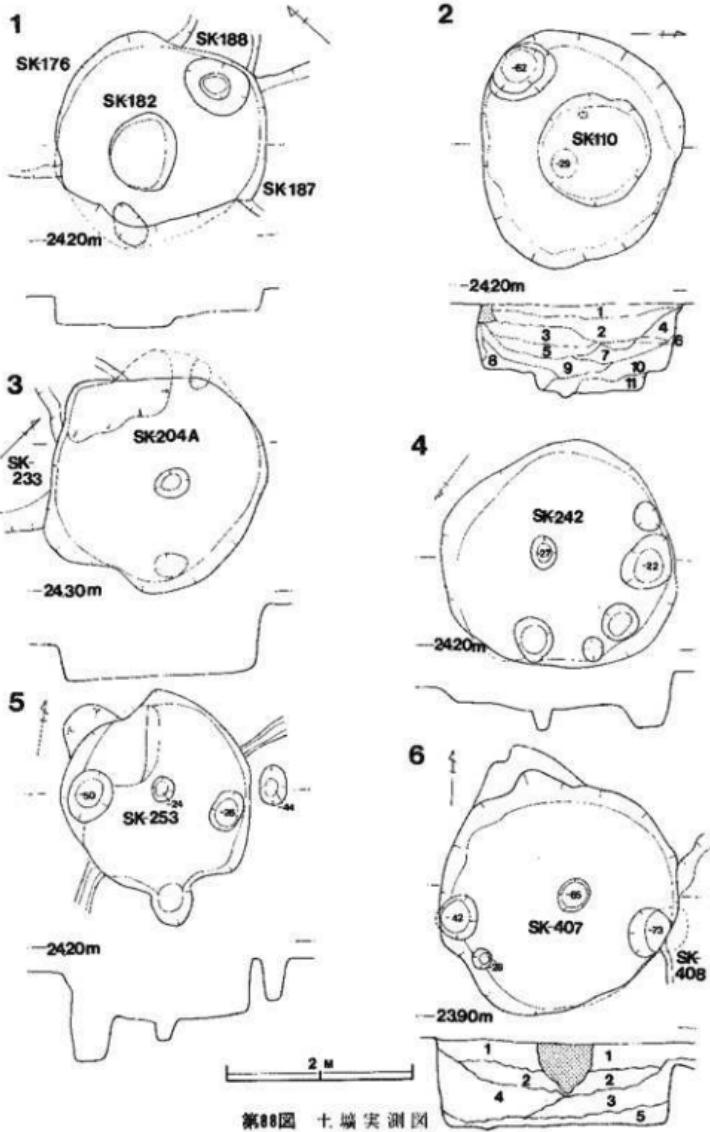
第85図 土壌実測図



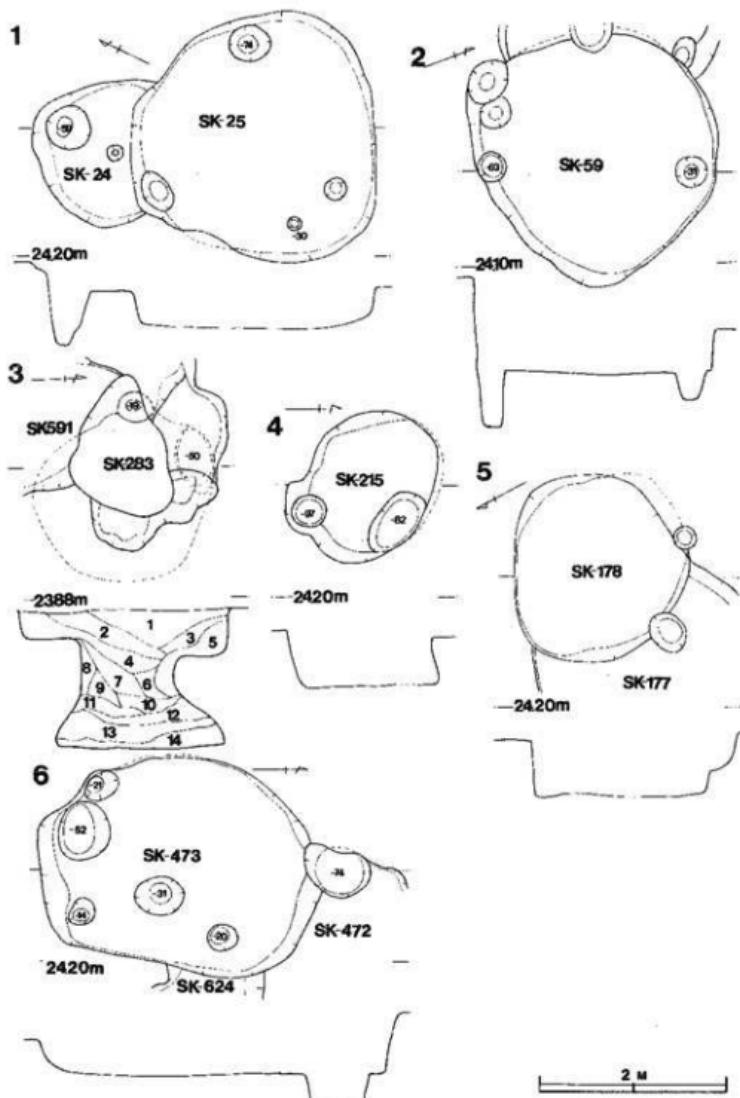
第86図 土 壤 実 測 図



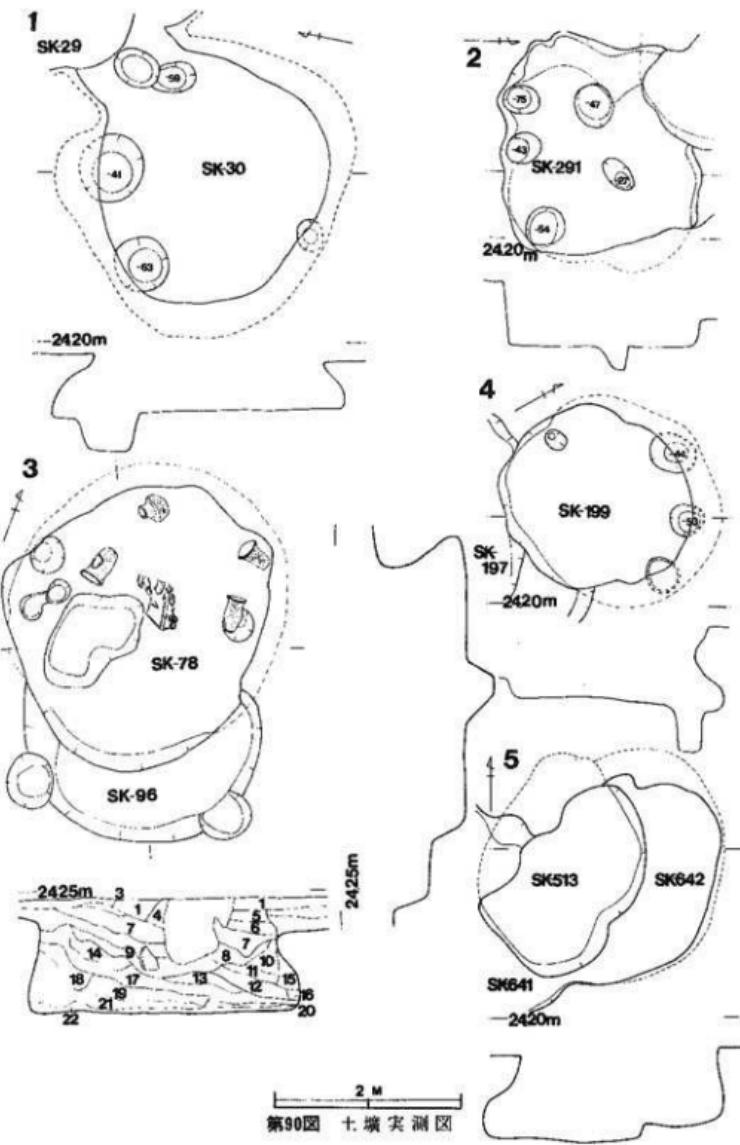
第B7図 七 塚 実測 図



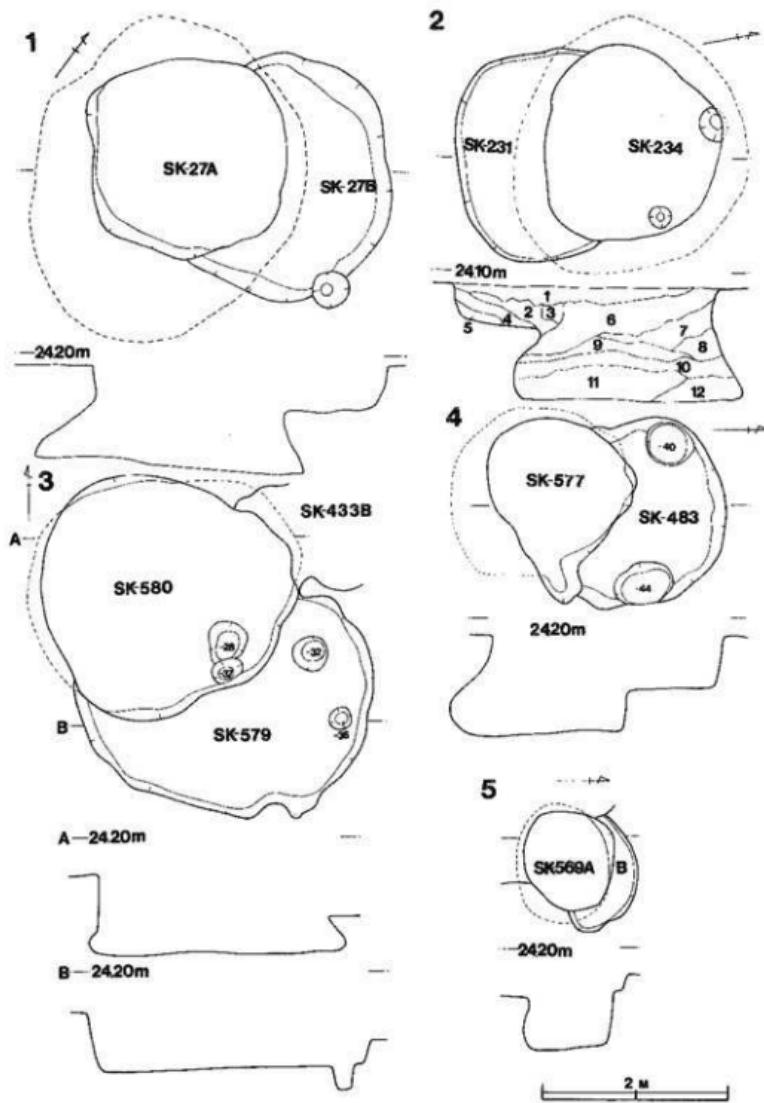
第88図 土壌実測図



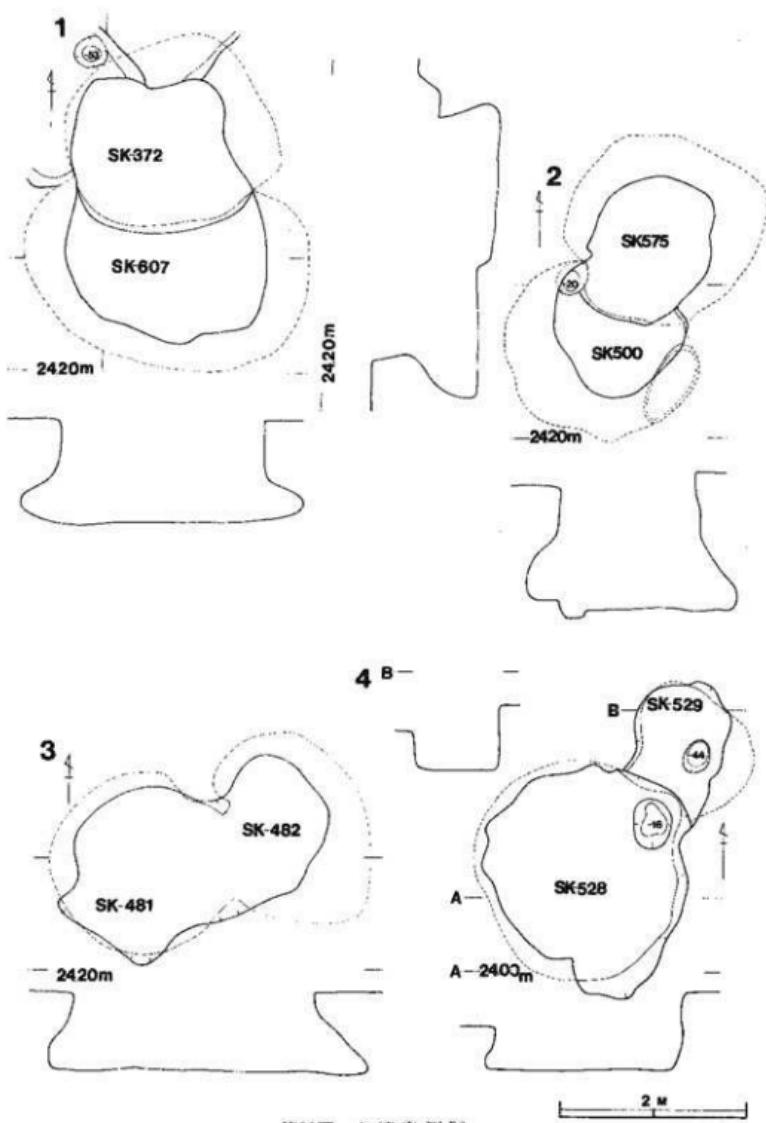
第88図 土壌実測図



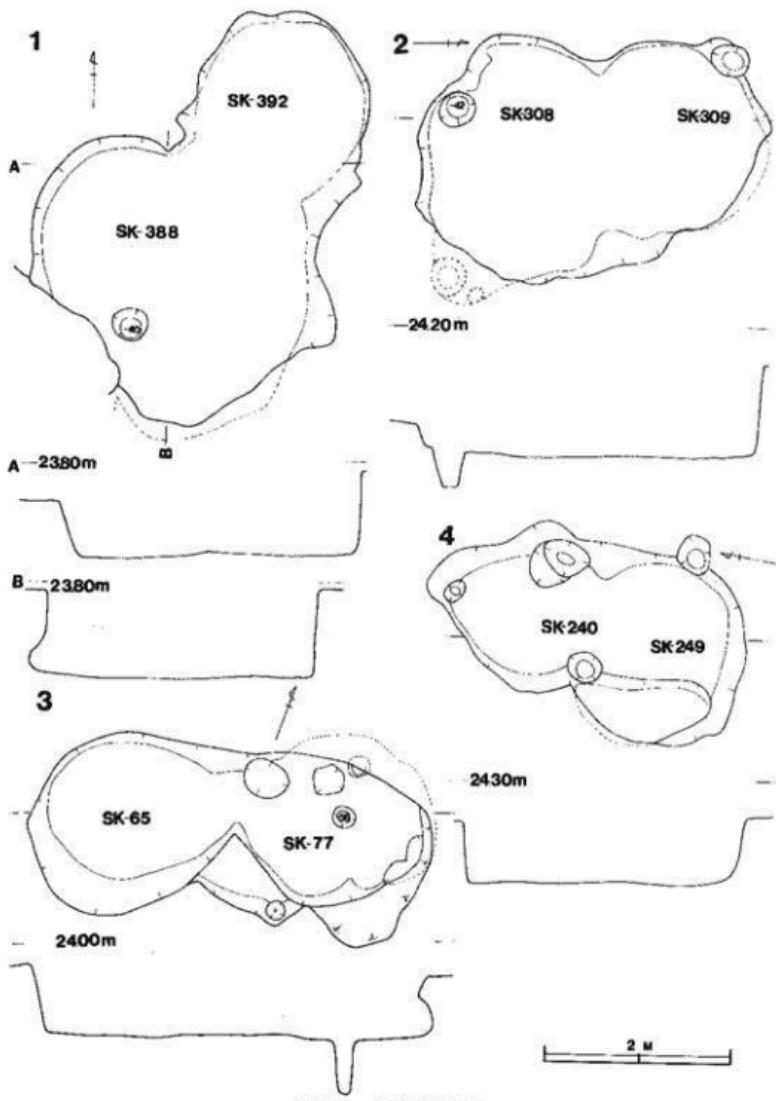
第90図 土壌実測図



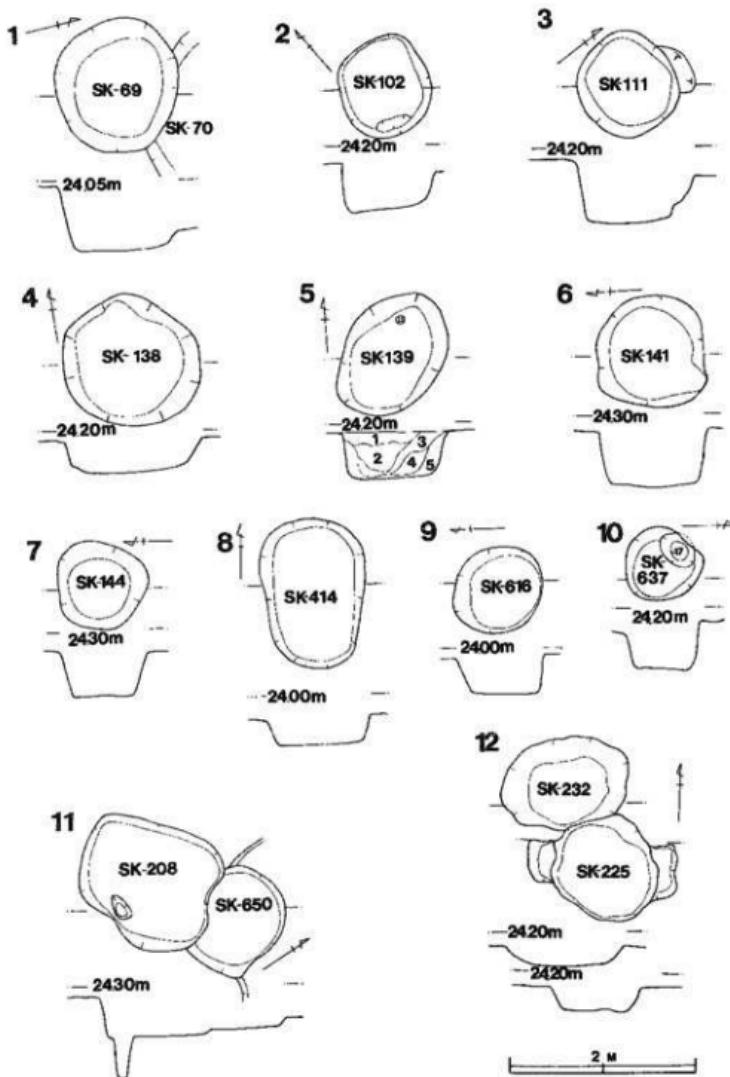
第91図 土壌実測図



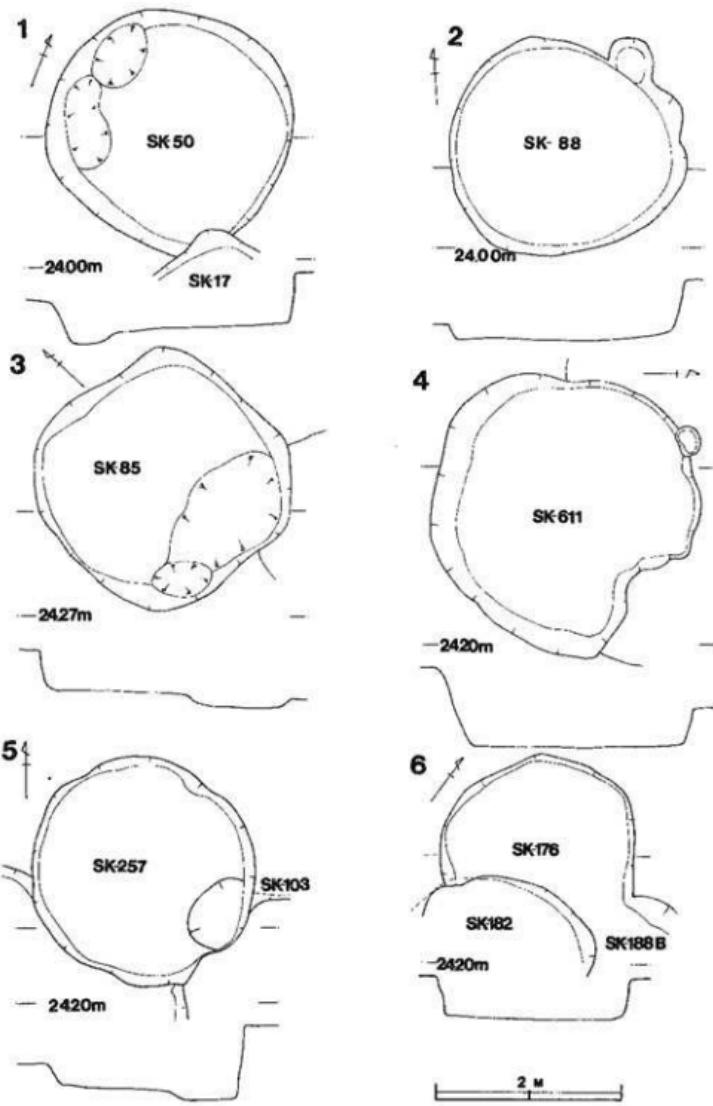
第92図 土壌実測図



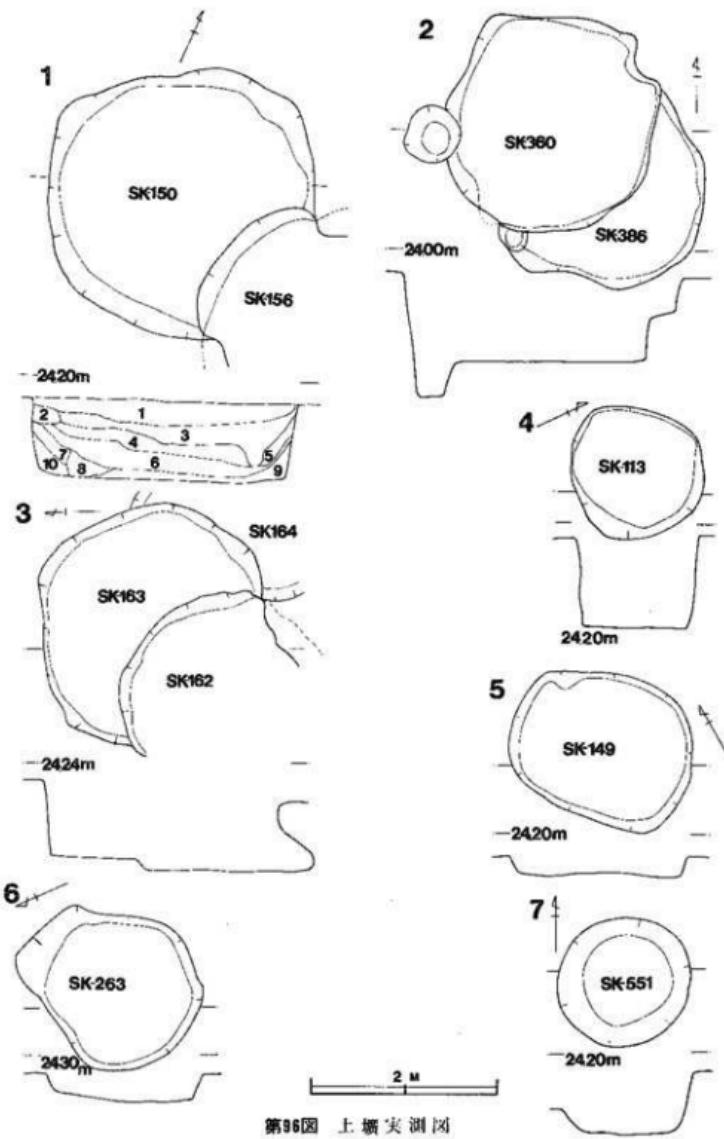
第93図 土壌実測図



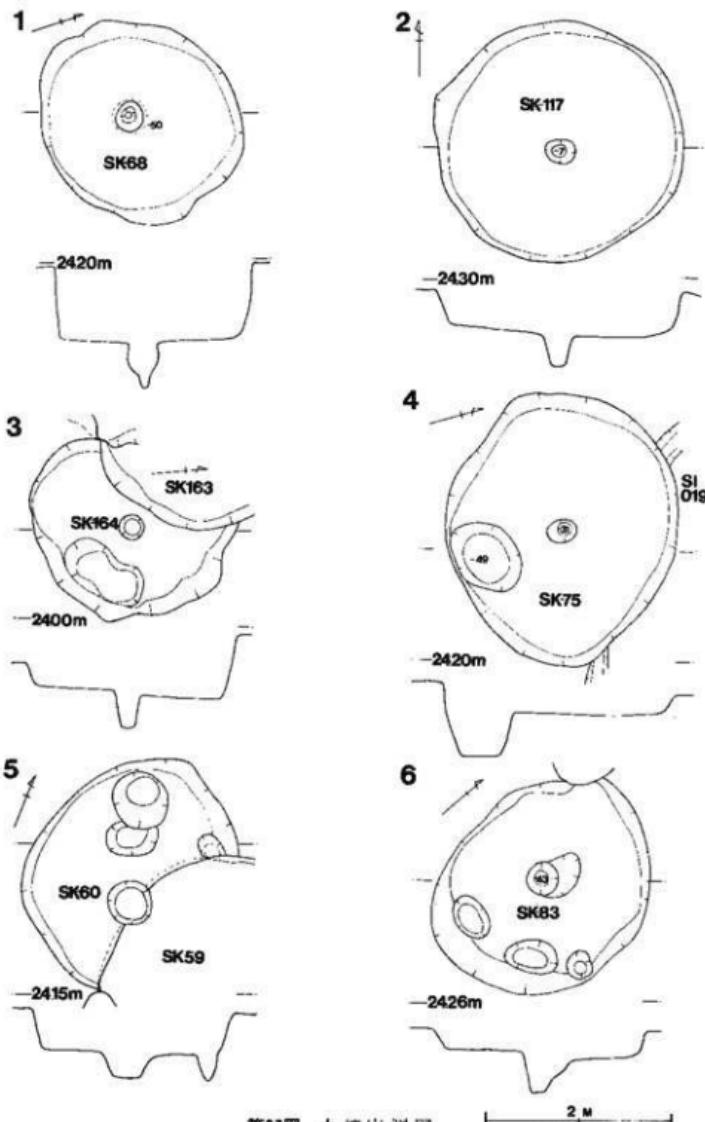
第94図 土壌実測図



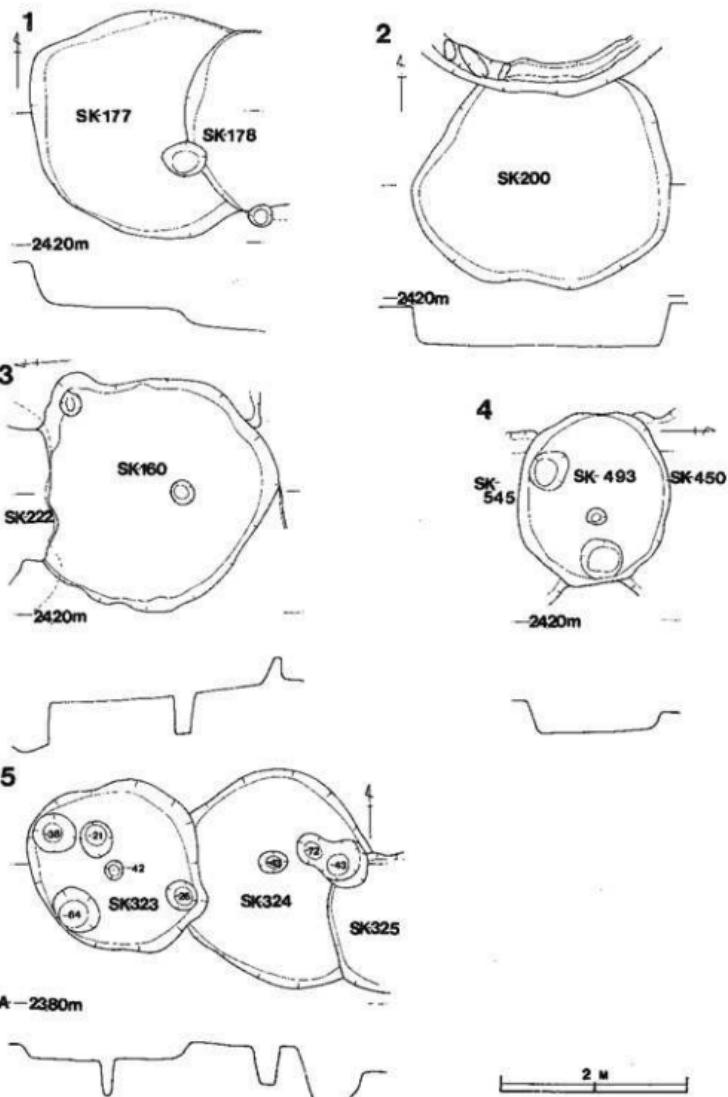
第95図 土壌実測図



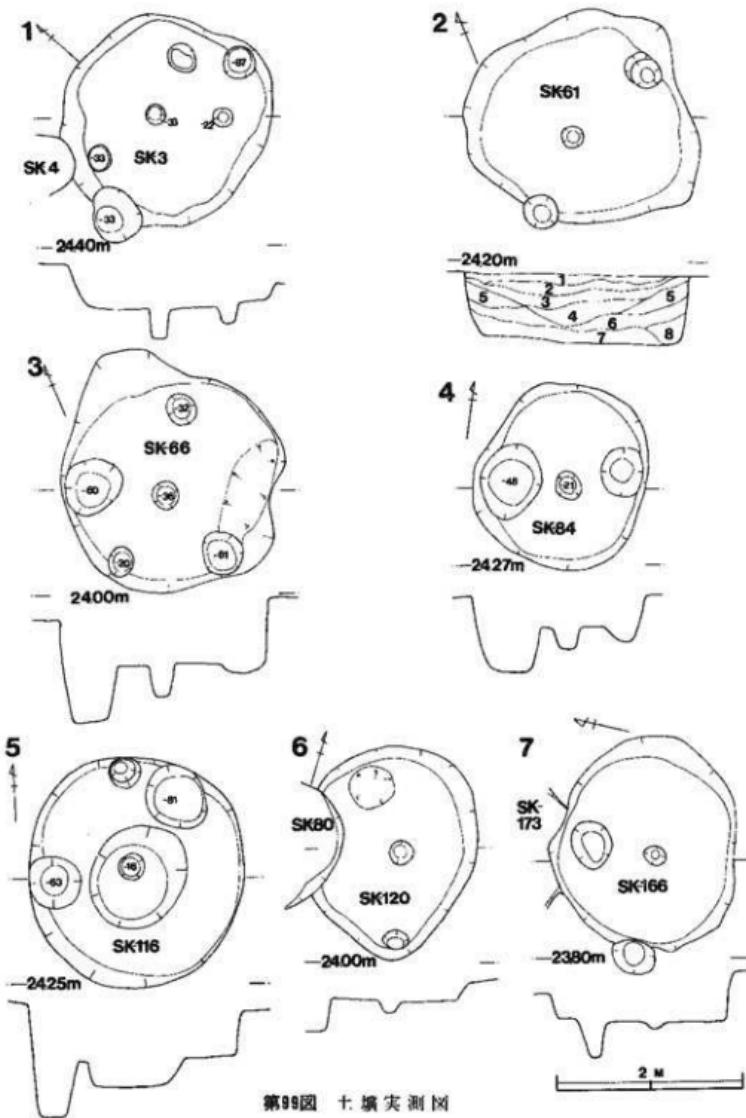
第96図 上塘実湖図



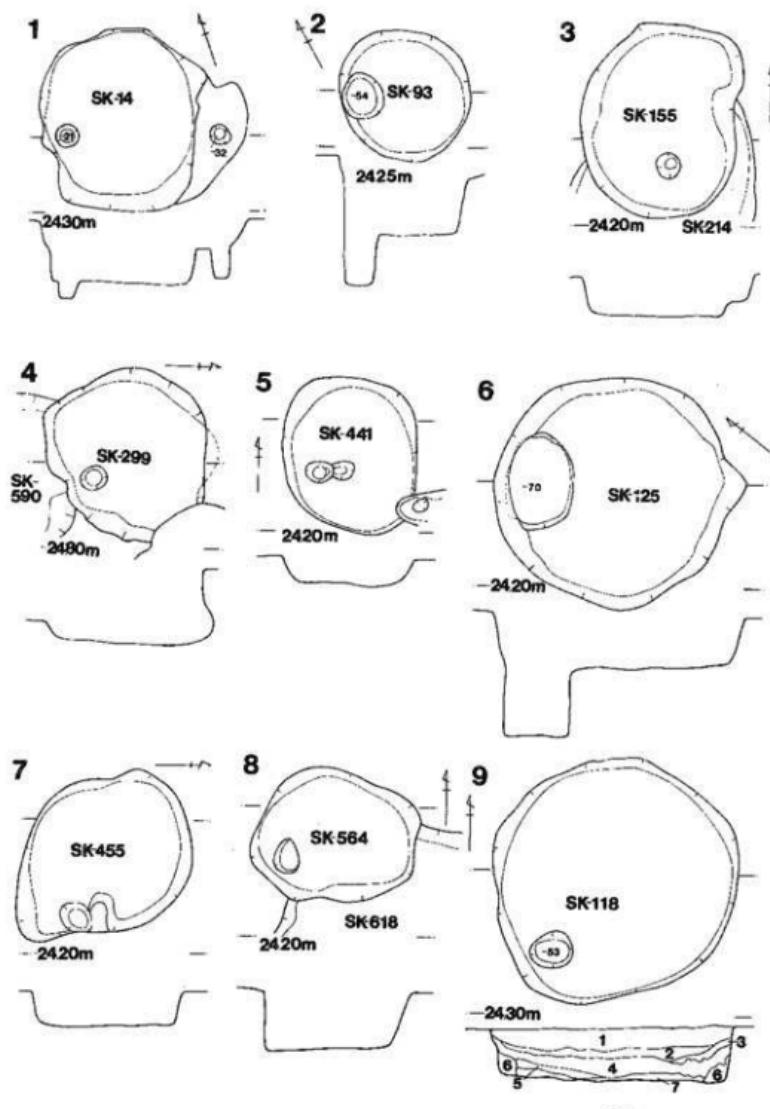
第97図 土壌実測図



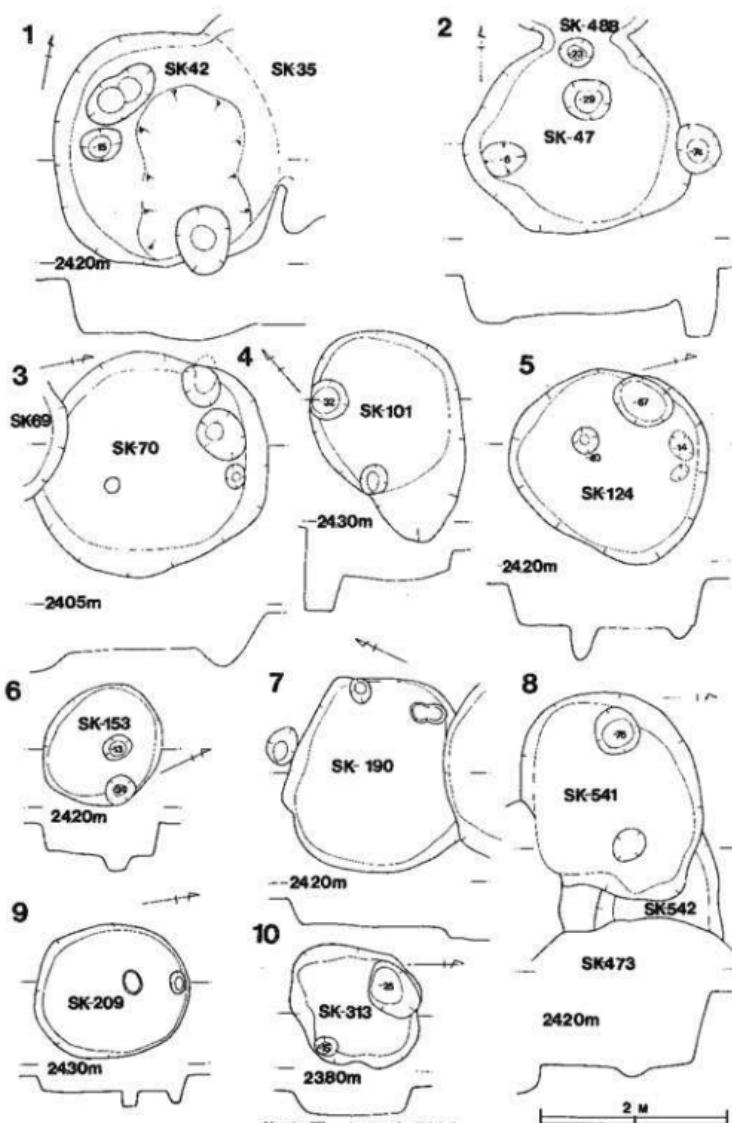
第96図 上 墓 実測図



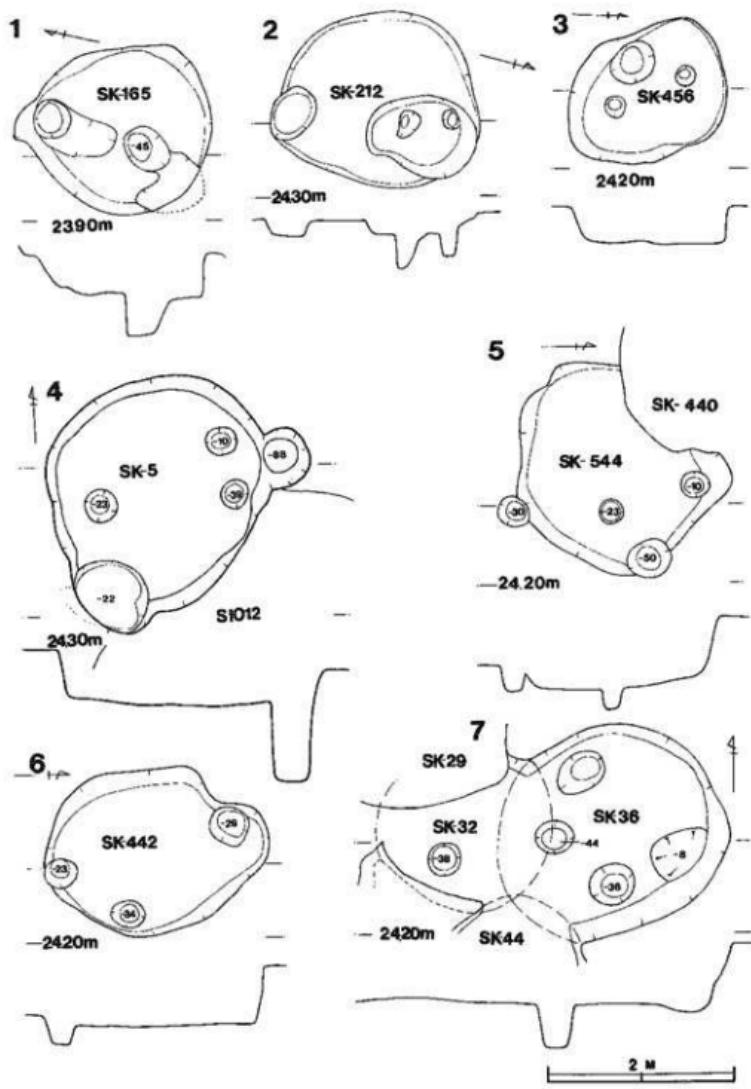
第99図 土壌実測図



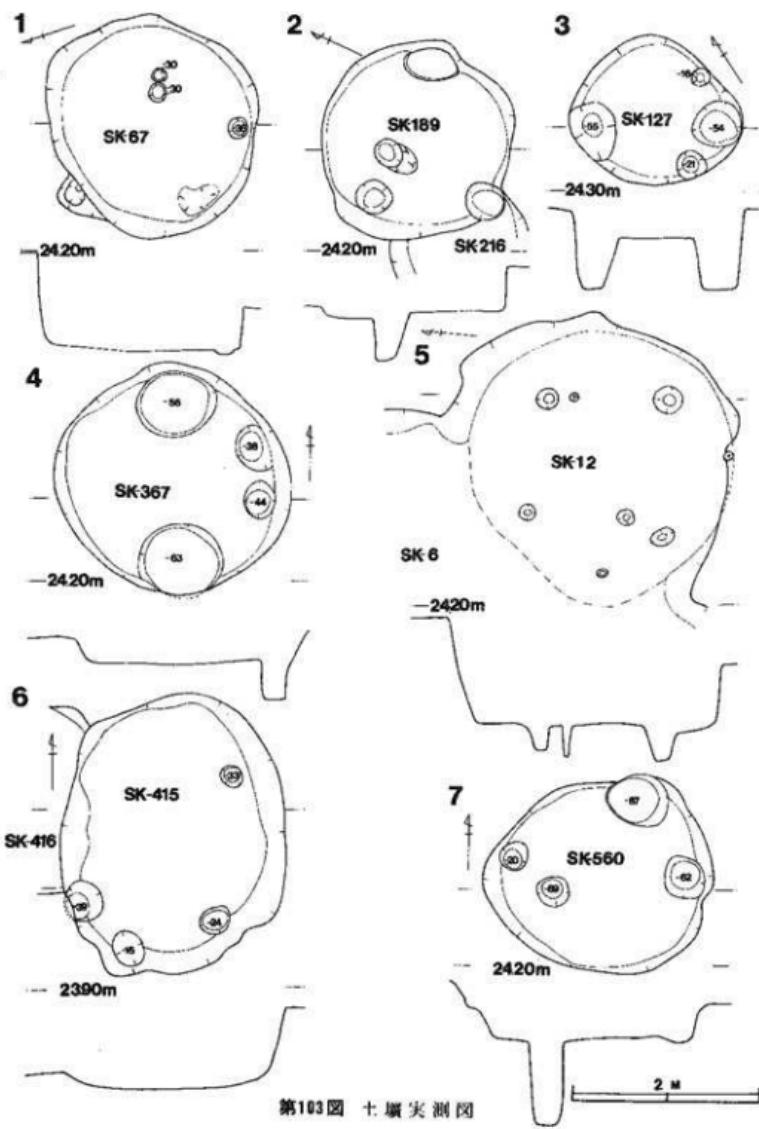
第100図 土壌実測図



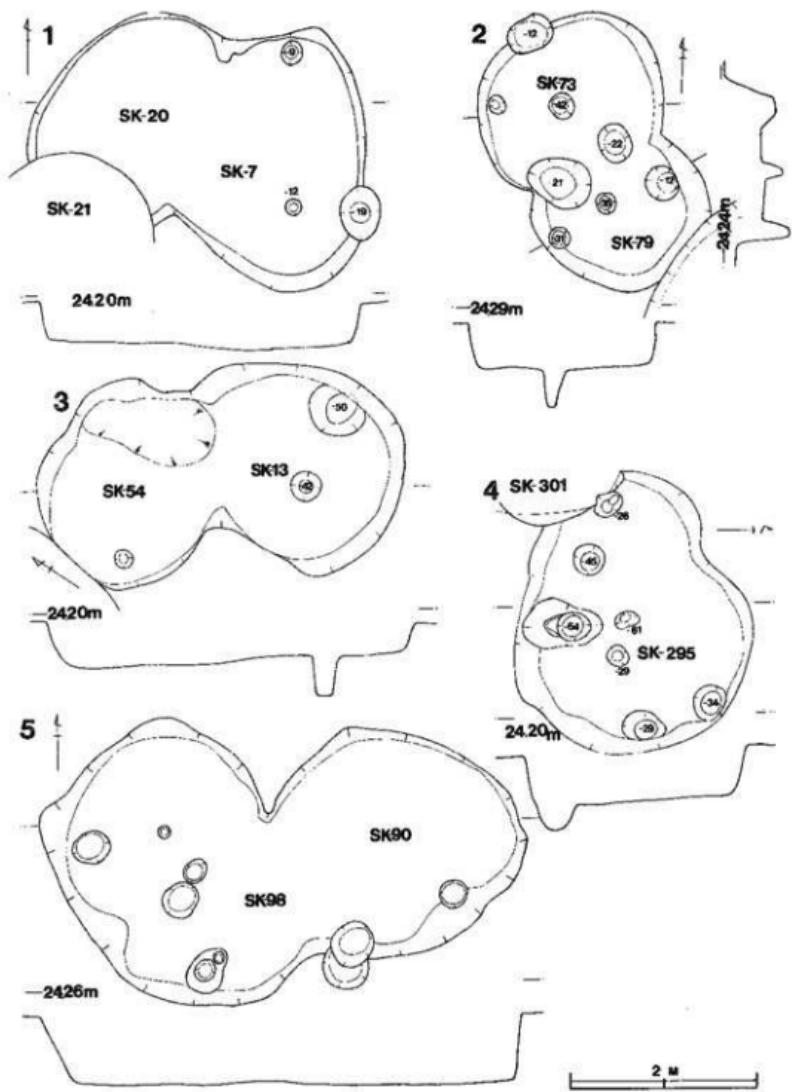
第101図 上壤実測図



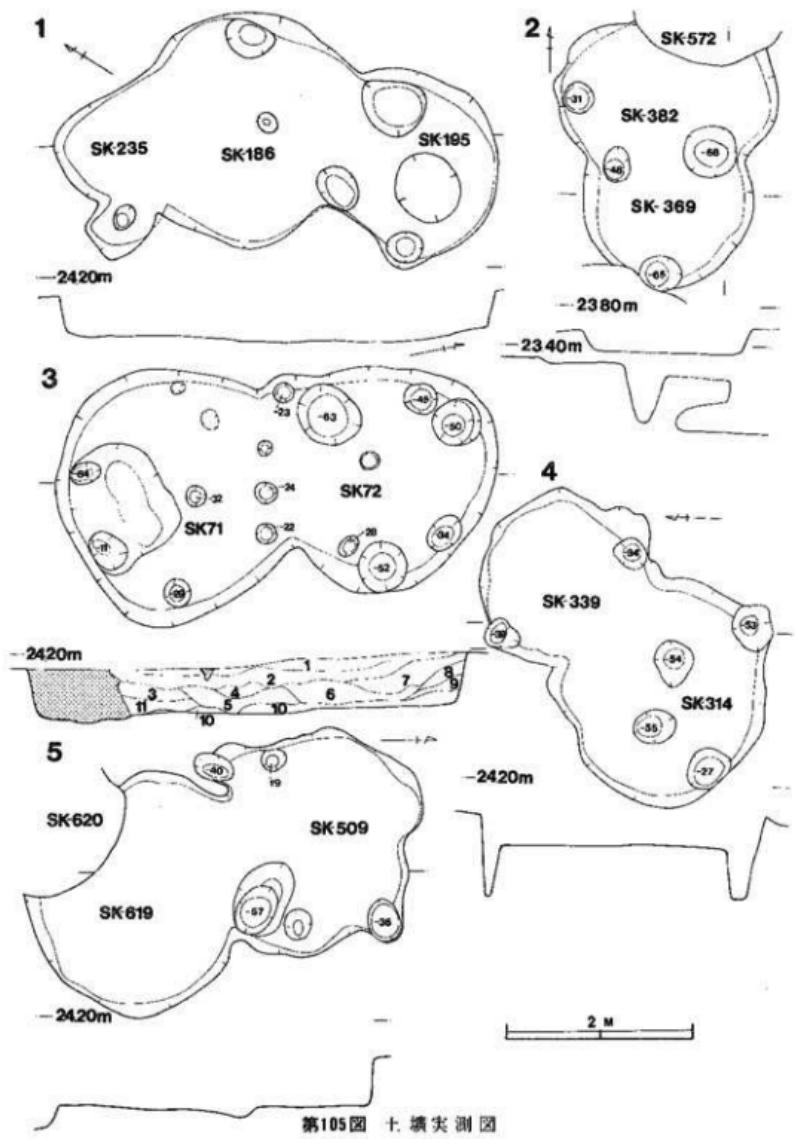
第102図 上 壤 実 测 図



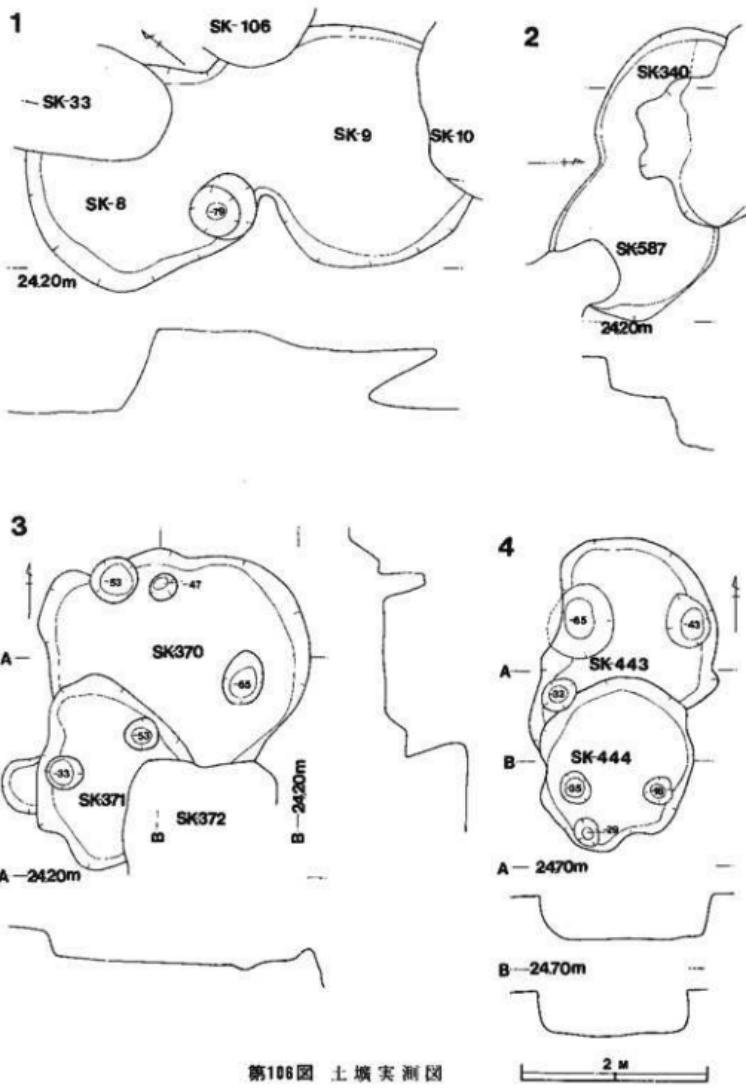
第103図 土壌実測図



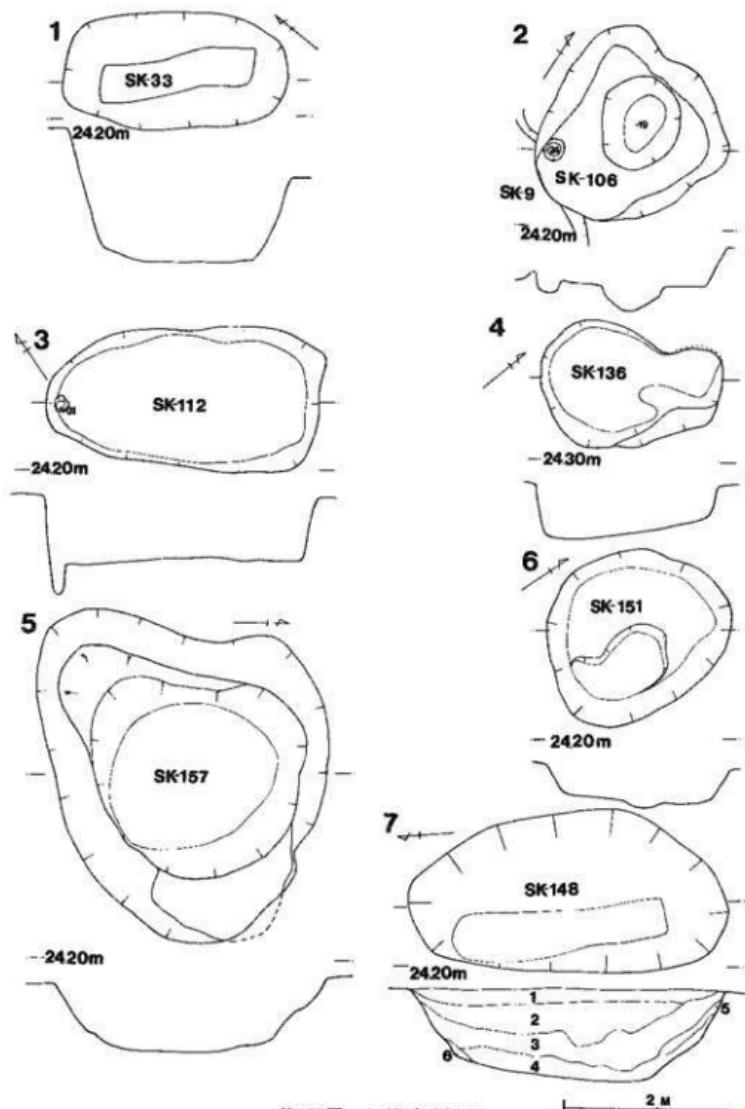
第104図 土壌実測図



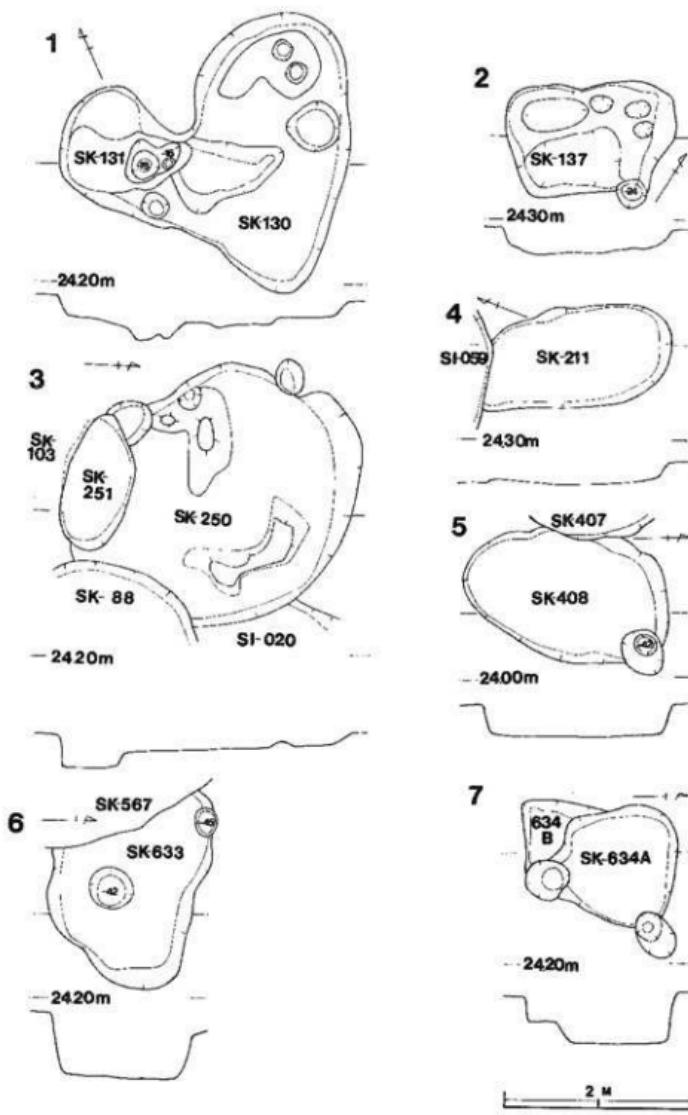
第105図 土壌実測図



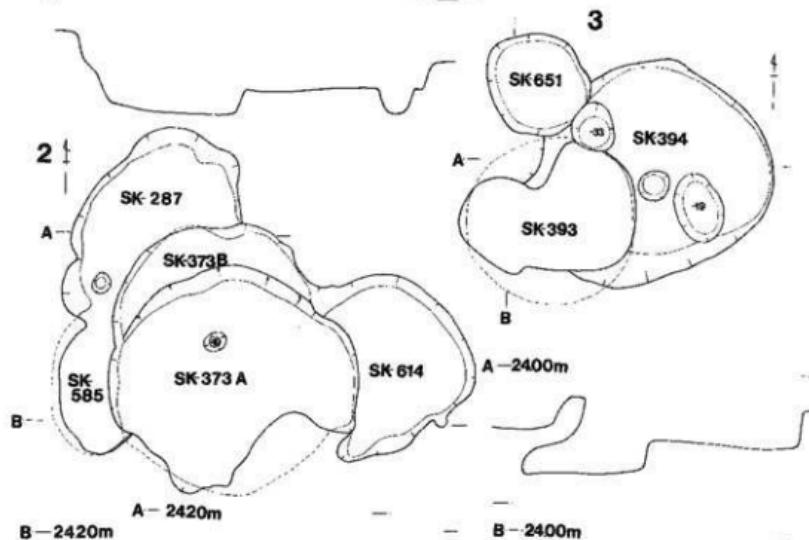
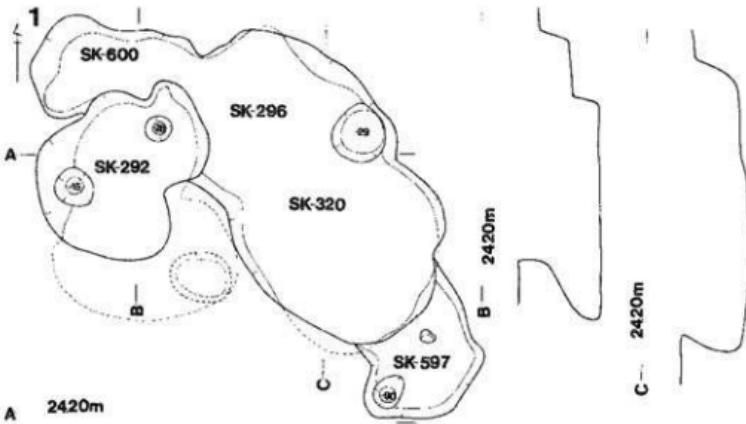
第106図 土壌実測図



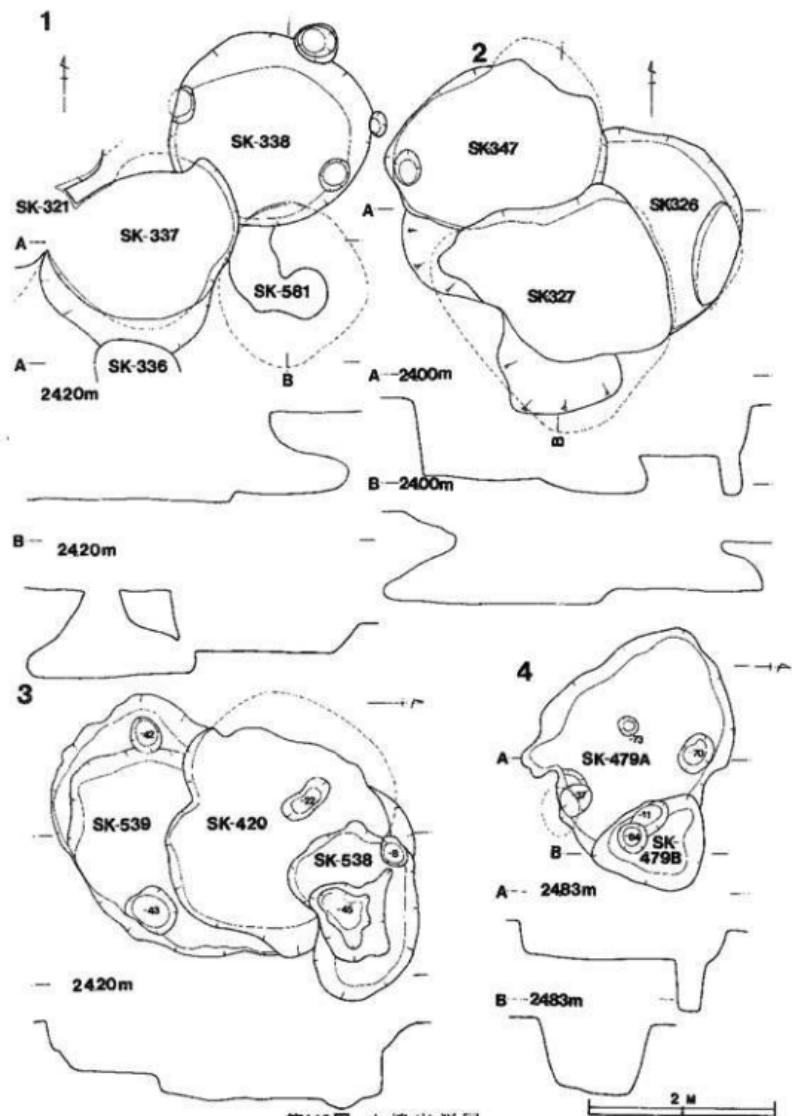
第107図 土壌実測図



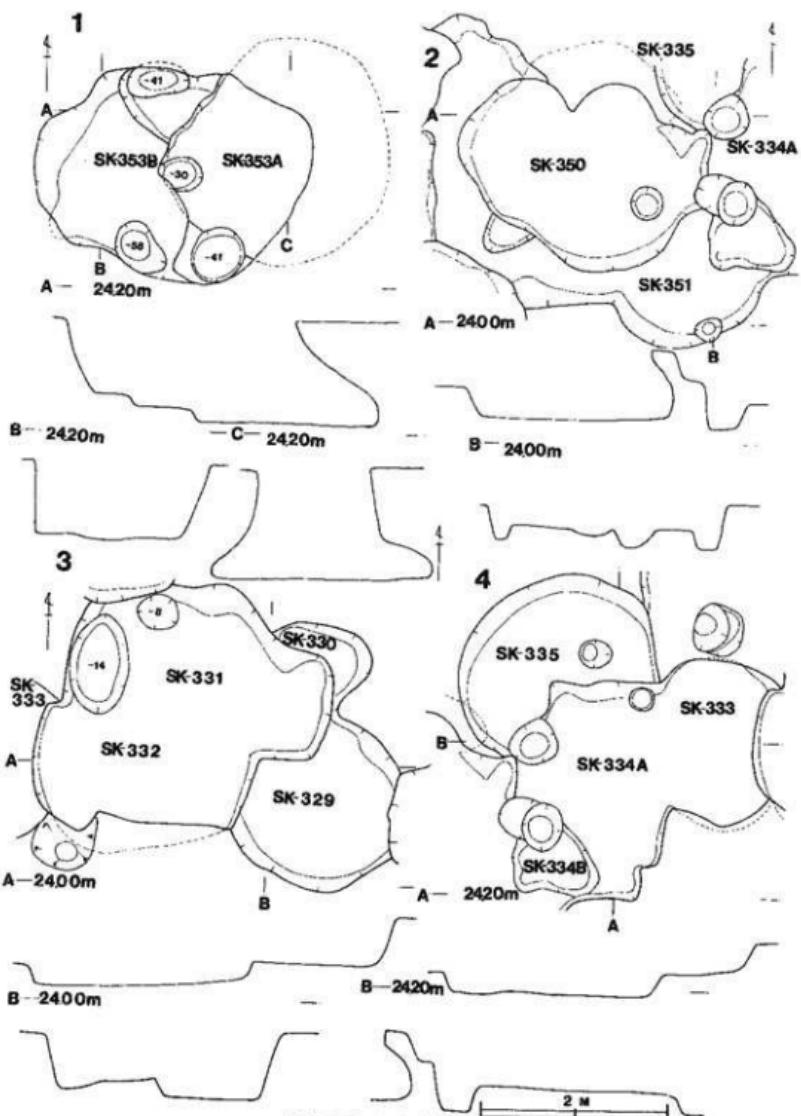
第108図 土壌実測図



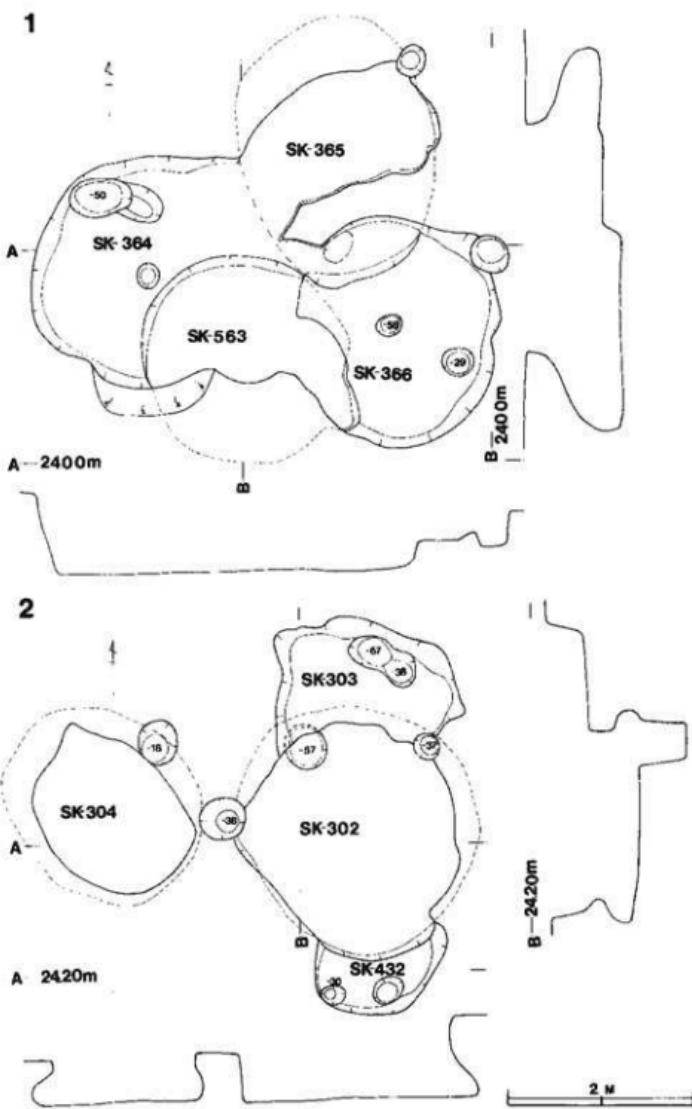
第109図 土壌実測図



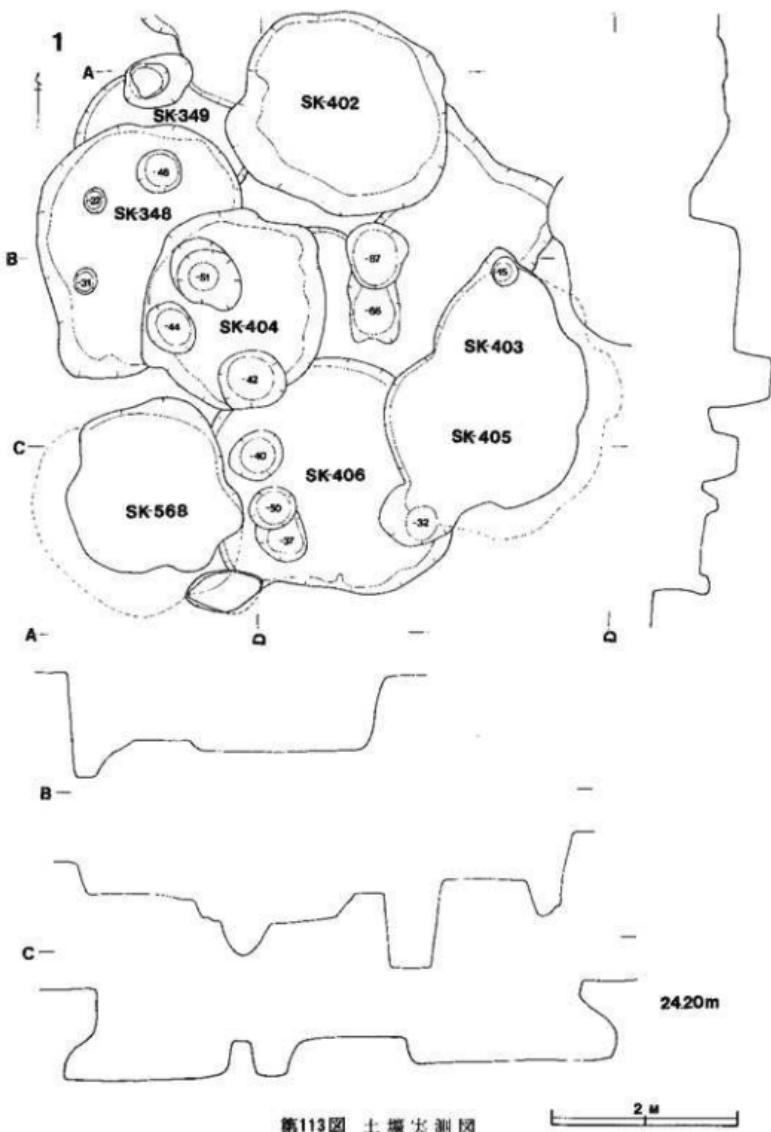
第110図 上塙実測図



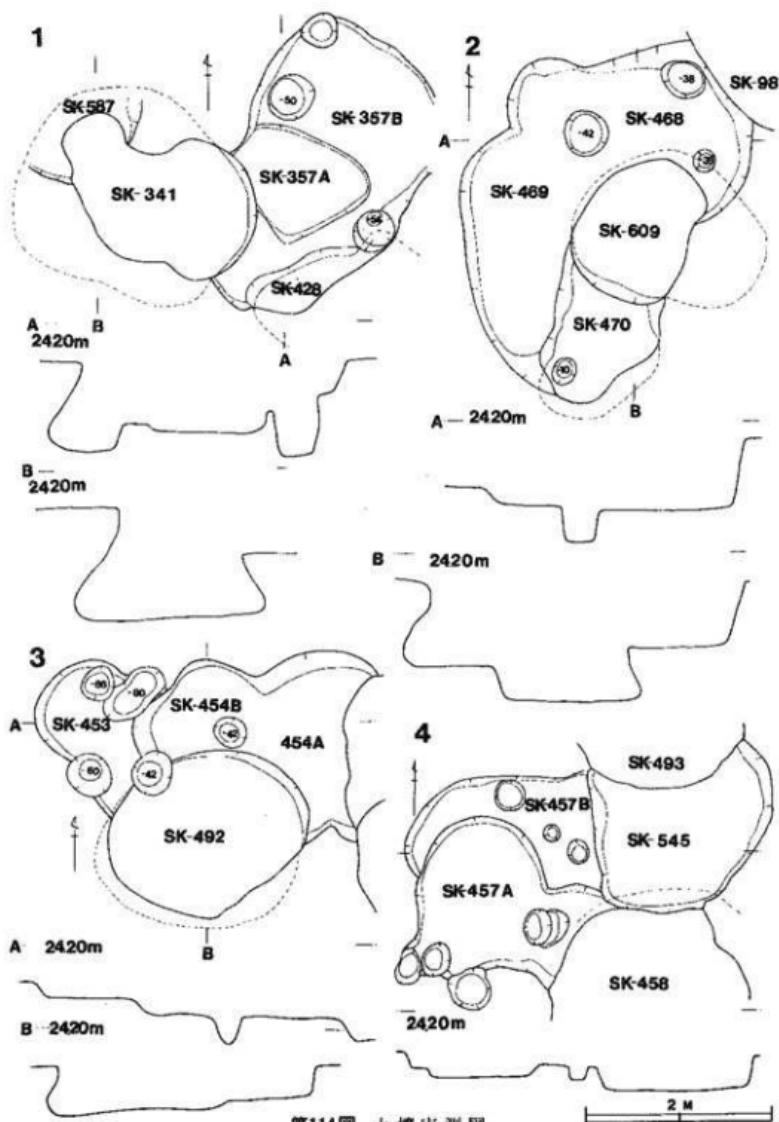
第111図 七塙実測図



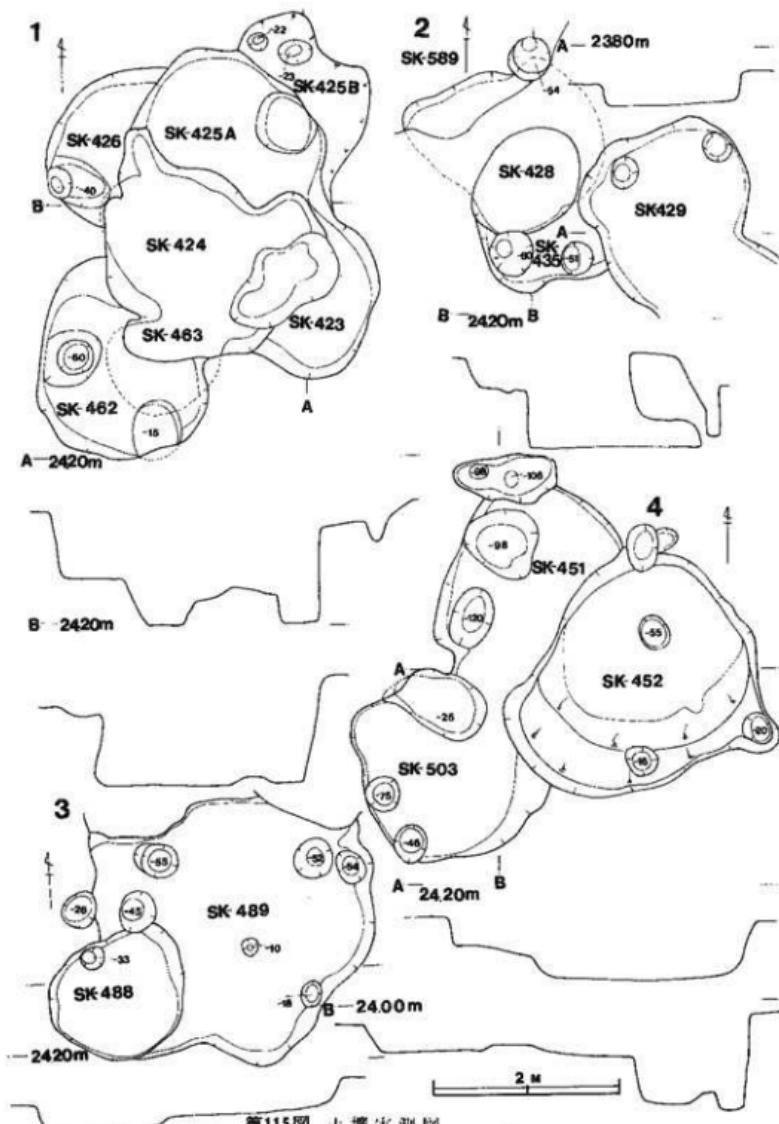
第112図 土壌実測図



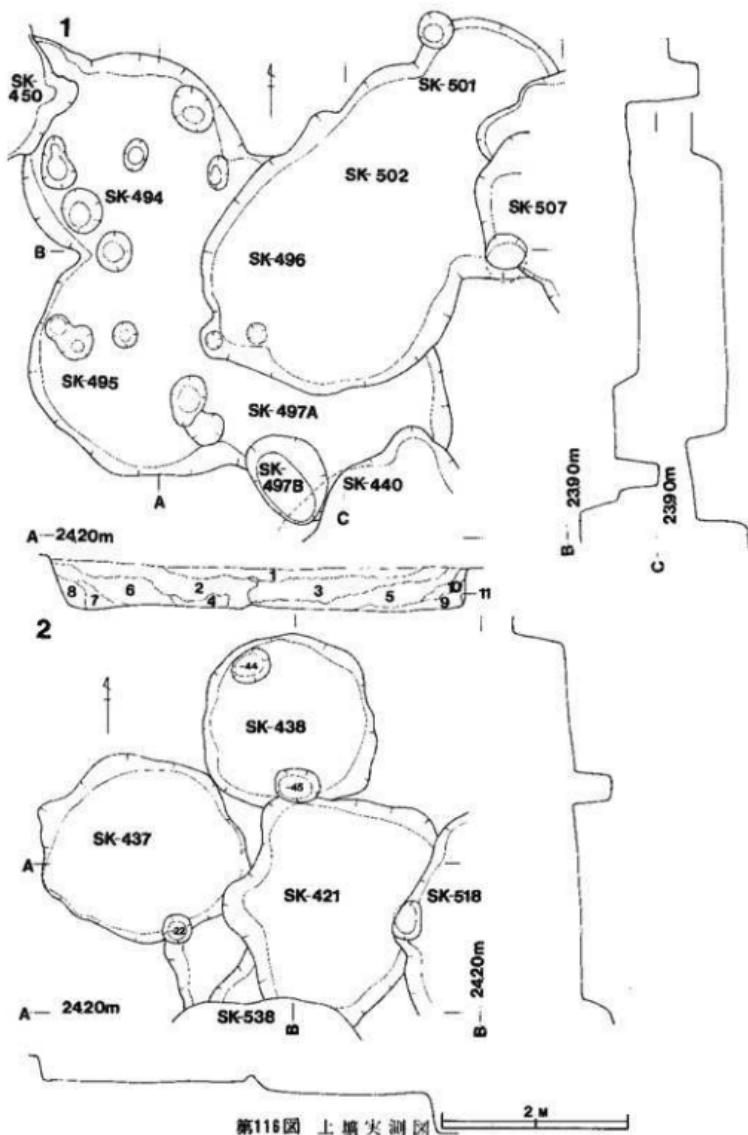
第113図 土壌実測図



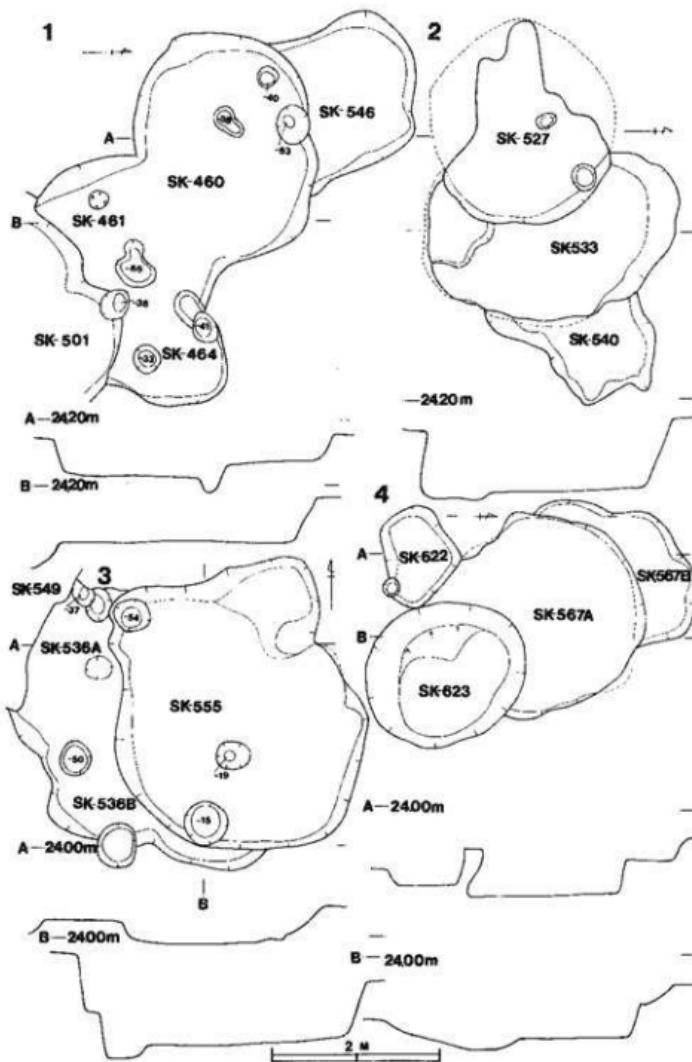
第114図 土壌実測図



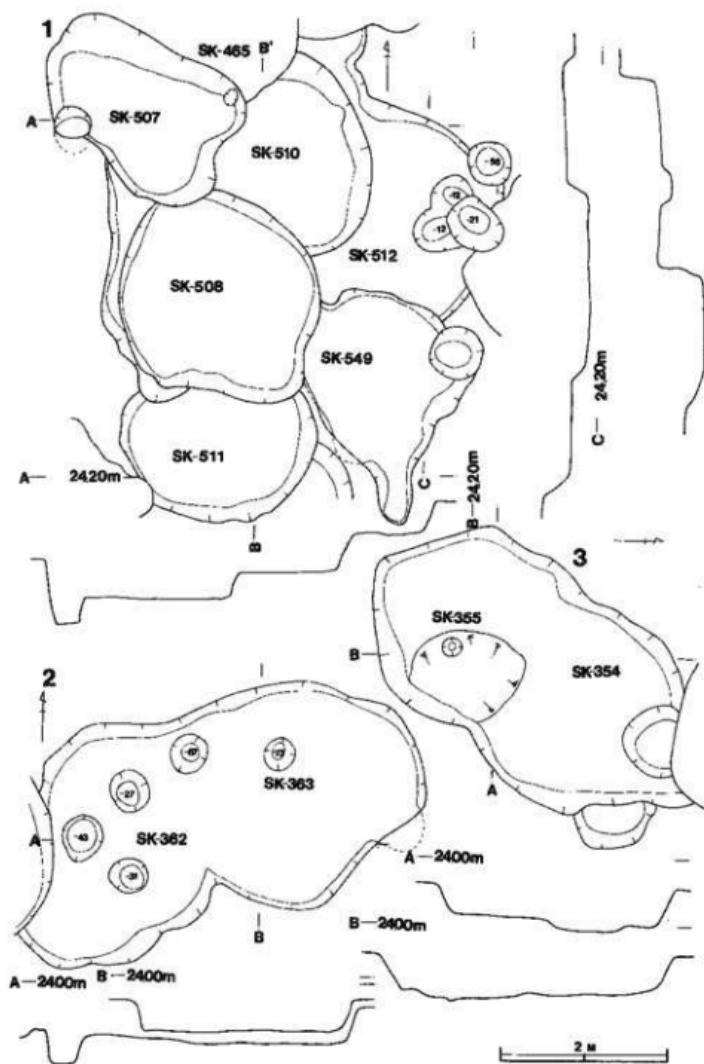
第115図 土壌実測図



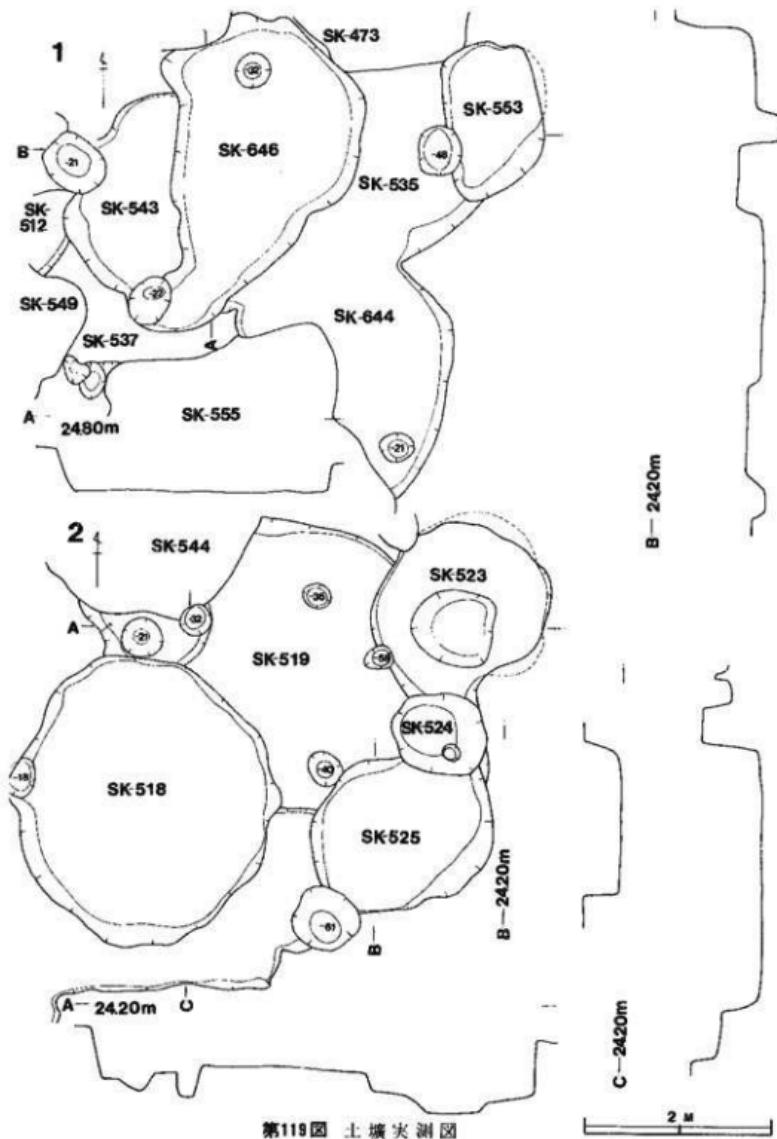
第116図 上填穴洞図



第117図 上層実測図



第118図 土壌実測図



第119図 土壌実測図

土壤土層解説表(暗-暗褐色、黒-黒褐色、褐-褐色、明-明褐色、少-少量、多-多量、極-極少量、微-微量、小-小ブロック)

土壤土層解説表(暗-暗褐色、黒-黒褐色、褐-褐色、明-明褐色、少-少量、多-多量、極-極少量、微-微量、小-小ブロック)

土壤土層解説表(暗-暗褐色・黒-黒褐色・褐-褐色・明-明褐色・少-少量・多-多量・極-極少量・微-微量・小-小ブロック)

通 用 通 用 番 号	剖 面	色	被 覆 土 子	炭 化 作 子	ロ ーム 性 子	ハ ード コ ーム	そ の 他
第 231 号 土 壤 234 (図 91-2)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	暗褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	被 覆 土 子	板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状	少 多 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状	無 少 少 少 少 少 少 少 少 少 少 少	しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり
第 254 号 土 壤 (図 81-1)	1 2 3 4 5 6 7	暗褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	被 覆 土 子	板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状	少 少 少 少 少 少 少	板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状	しまりあり しまりあり 粘性あり 粘性あり 粘性あり 粘性あり 粘性あり
第 283 号 土 壤 (図 89-3)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	暗褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	被 覆 土 子	板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状	少 少 少 少 少 少 少 少 少 少 少 少 少 少	板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状	しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり
第 368 号 土 壤 (図 81-5)	1 2 3 4 5	褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	被 覆 土 子	少 少 少 少 少	少 少 少 少 少	少 少 少 少 少	しまりあり しまりあり 粘性あり
第 407 号 土 壤 (図 88-6)	1 2 3 4 5 6	褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	被 覆 土 子	少 少 少 少 少 少	板状 板状 板状 板状 板状 板状	多 多 少 少 少 少	しまりあり しまりあり 粘性あり 粘性あり 粘性あり 粘性あり
第 494 号 土 壤 495 (図 116-1)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色 褐色	被 覆 土 子	少 少 少 少 少 少 少 少 少 少 少	板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状 板状	多 多 多 多 多 多 多 多 多 多 多	しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり しまりあり 粘性あり 粘性あり 粘性あり 粘性あり 粘性あり 真珠・麻績が強い

2. 古墳時代

当遺跡における古墳時代の遺構は住居址 9 軒であり、そのうち 7 軒が正方形を呈し、他の 2 軒が長方形を呈する異質のもので、この 2 軒をここでは住居址として取り扱った。

第 6 号住居址(図 120)

本址は C3e9 を中心に確認されたもので、長軸方向を N - 14° - W を指し、規模約 5.2 m の正方形を呈する住居址である。本址は縄文遺構の上に構築されたもので、全体図では第 10 号住居址に切られた形となっているが、これは本址の調査後、重複部をさらに調査したもので、当初は明確なプランを呈していたものである。覆土は 1・7 層で黒色を呈し、8 層は極暗褐色となっている。全軸の層で焼土粒子・炭化粒子が認められ、特に 1・2・5・8 層では炭化物がみられる。壁高は 39 cm を測り、壁溝が一周する。全体として、床質は硬く、床面は平坦である。焼土域が北寄りに 2 ケ所検出されたが、西寄りの方が第 1 炉址である。この覆土は 1・2 層で多量の焼土を含み、4・5・6 層にしたがって少ない。第 2 炉址は、2・3 層で焼土が多く、1・4・5 層は少ない。ピットは 6 ケ所検出され、西壁・南西コーナーを除くものが主柱穴である。特に南西コーナーのピットは貯蔵穴と思われる。なお、本址内より柱状炭化材の検出が各所にみられ、焼失家屋と推定される。

第 85 号住居址(図 121)

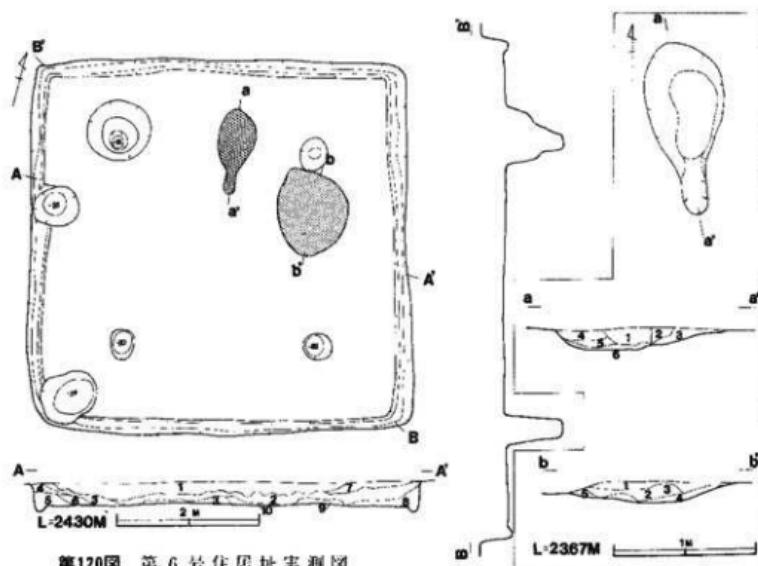
本址は D3f8 を中心に確認されたもので、主軸方向は N - 3.5° - W を指し、一辺を約 4.9 ~ 5 m を有する正方形に近いプランを呈している。覆土は 3・4・8 層で暗褐色の他褐色を呈し、1・2・4・6 層で比較的多量のローム粒を含み、2・3・6・7・9 層でごく少量の焼土粒子・炭化粒子を含んでいる。5 層は黒味が強い。壁高は 26 ~ 35 cm で、壁溝が一周している。床面は軟かく、北および南東部コーナー付近で床面下に縄文期の遺構が確認されている。炉址は中央北寄りに位置し、床面よりわずかに掘り込んで炉床としている。ピットは P₁ ~ P₄ が主柱穴で、P₅ は本址に伴う貯蔵穴かと思われる。

第 86 号住居址(図 122)

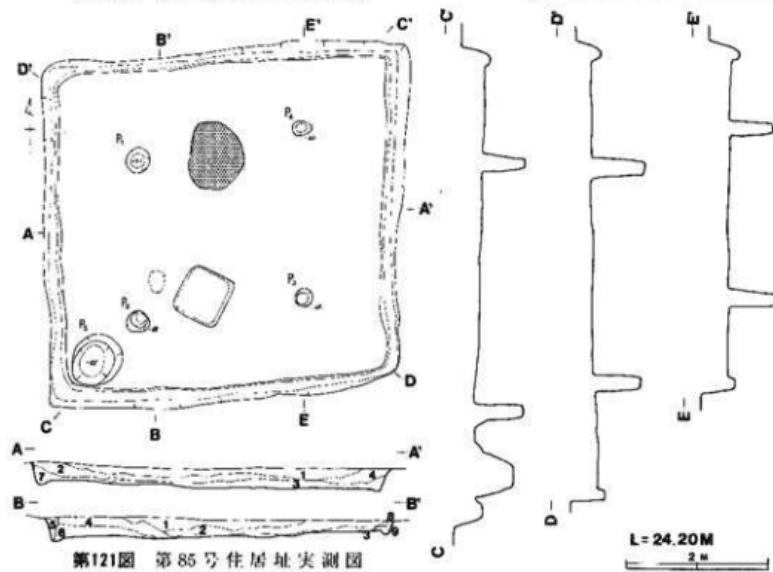
本址は D3f6 を中心に確認されたもので、主軸方向は N - 46.5° - W を指し、第 90・91 号住居址とはほぼ同じ方向を指している。規模は一辺が 5.3 ~ 5.6 m で、ほぼ正方形に近いプランを呈している。覆土は 1・2・4・5 層が黒色、6 層の暗褐色の他褐色である。1・2・6 層で多量のローム粒を含み、3・5・6・8・10 層でごく少量の炭化粒子・焼土粒子を含んでいる。壁高は 30 ~ 42 cm で、壁溝もよく一周している。床面はやや硬く、炉址は中央よりやや北寄りに位置している。ピットは 5 ケ所検出され、P₁ ~ P₄ が主柱穴で、P₅ は貯蔵穴かと思われる。

第 88 号住居址(図 123)

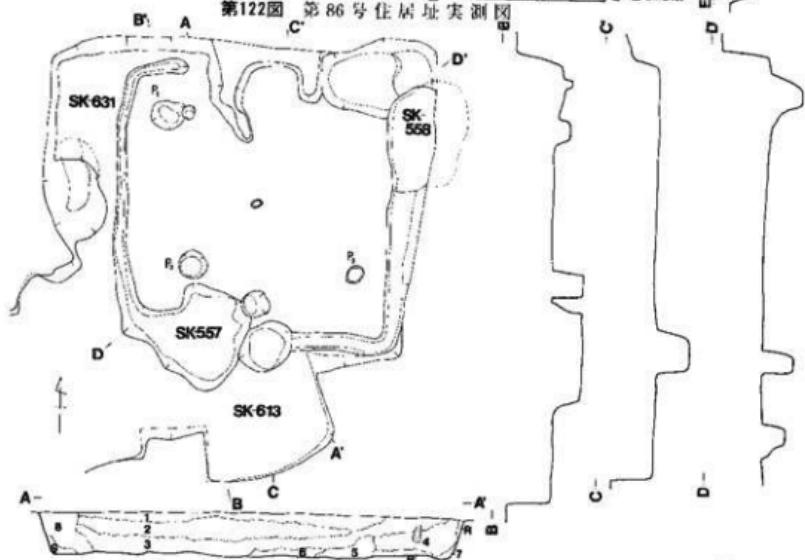
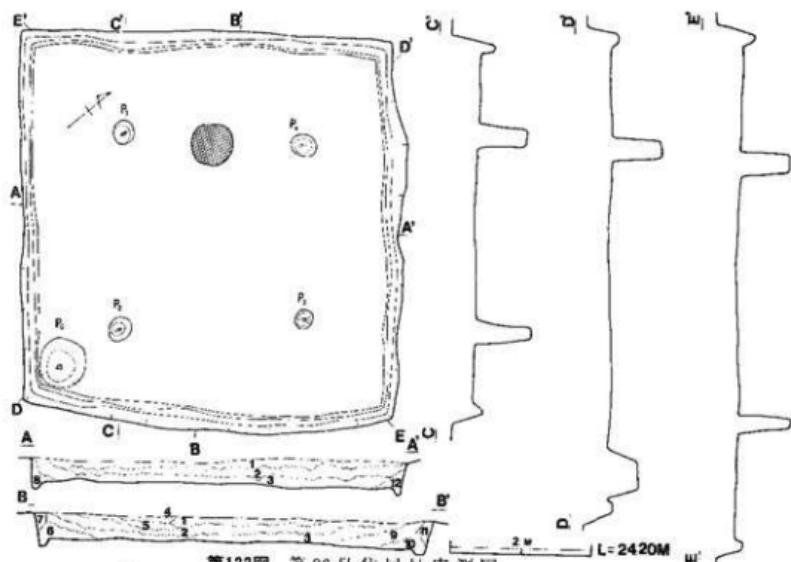
本址は D3c3 に確認されたもので、周辺部で縄文期の遺構と重複している。遺構掘り込みの段階で、早くから南東コーナー壁は明確にとらえられたが、その他の壁は縄文期の覆土が存在し出



第120図 第6号住居址実測図



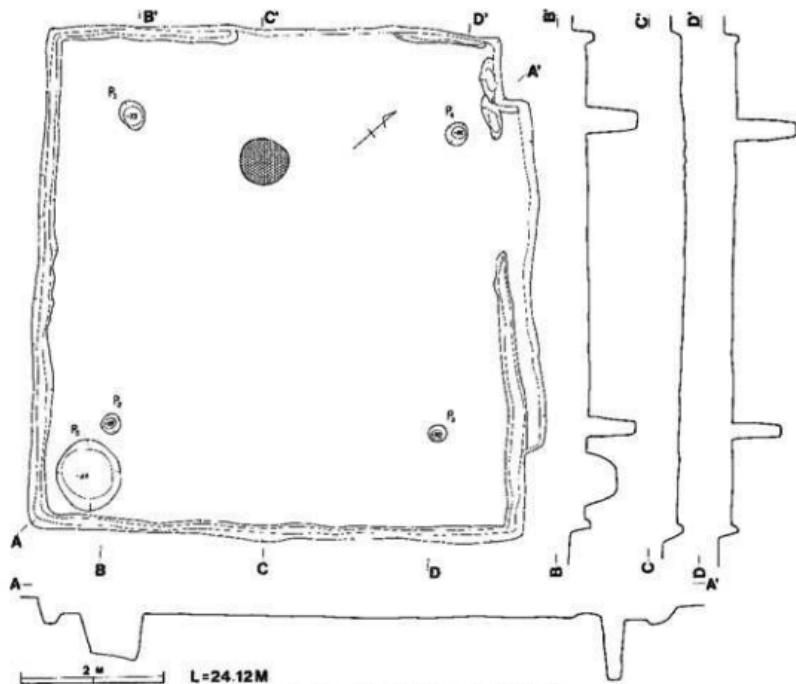
第121図 第85号住居址実測図



土遺物も多く、掘り込んだため壁を確認することができなかった。そのため床面を精査し、硬い床を追いながら壁溝を検出した。その結果、一辺を4.5m前後とする正方形に近い形で本址のつくられたことが明確となった。長軸方向はN-0°を指し、北壁中央にカマドを持っている。覆土は褐色よりなり、全体にローム粒を含む。特に4層が多い。7層を除き焼土粒子がみられ、炭化粒子は2層以外ごく少量みられる。壁高は60cm前後である。壁溝は、北東コーナーで不明瞭となっており、床面はほぼ平坦である。カマドは西側の袖部がよく残存し、砂質の粘土で構築されたものと思われる。火床はややローム面を掘り込んでおり、ほぼ中央に支脚に使用したとみられる器台が検出された。支柱穴はP₁・P₂・P₃であろうと思われる。

第90号住居址(図124)

本址はD319を中心に確認されたもので、土軸方向N-49°-Wを指し、一辺を7.6m前後とするほぼ正方形のプランを呈している。覆土は褐色を呈し、全体として焼土粒子・炭化粒子を含んでいる。壁高は16~20cmで、北東壁が一部張り出している。精査中この張り出し部は重複造構

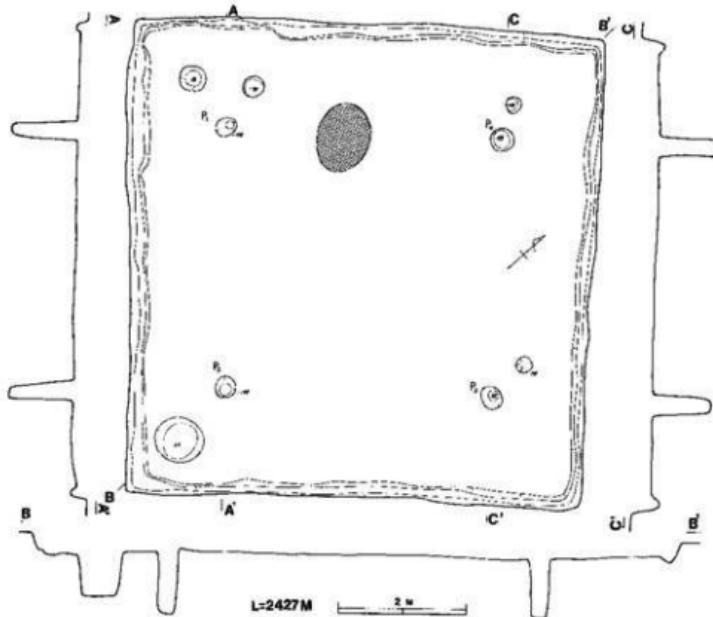


第124図 第90号住居址実測図

の可能性を持つものとして調査をしたが、この壁に伴う壁溝・柱穴が検出されず、本址の壁であろうと考えられる。床は東で縄文期の遺構が確認され、本址の明確な床面を検出することができなかった。壁溝は張り出し部の一部と北壁コーナーの一部が検出されなかった。が址は北西壁寄りに径 70~65cm の円形状に確認され、床面より 13cm 挖り込んでか床としている。ピットは 5ヶ所検出され、P₁~P₄ が主柱穴で、P₅ は貯蔵穴と思われる。

第 91 号住居址(図 125)

本址は E3g 6 を中心に確認されたもので主軸方向を N-47°-W を指し、第 86 号・90 号住居址とはほぼ同じ方向を指している。規模は一辺 7.4m 前後とする、ほぼ 90 号住居址と同程度のものであり、正方形のプランを呈している。覆土は黒褐色・暗褐色・褐色よりなり、全体としてローム粒・少量の炭化物・炭化粒子と焼土粒子を含んで自然堆積を呈している。壁高は 23~32cm で、壁面もしっかりしている。床面は平坦で、南側の範囲の床が特に硬い。が址は中央より北西壁寄りに位置し、径 110×80cm の楕円形の範囲で確認された。床面より 13cm 挖り込んで炉床としている。ピットは 9ヶ所検出されたが、P₁~P₄ が主柱穴と考えられ、P₅ は貯蔵穴かと思われる。



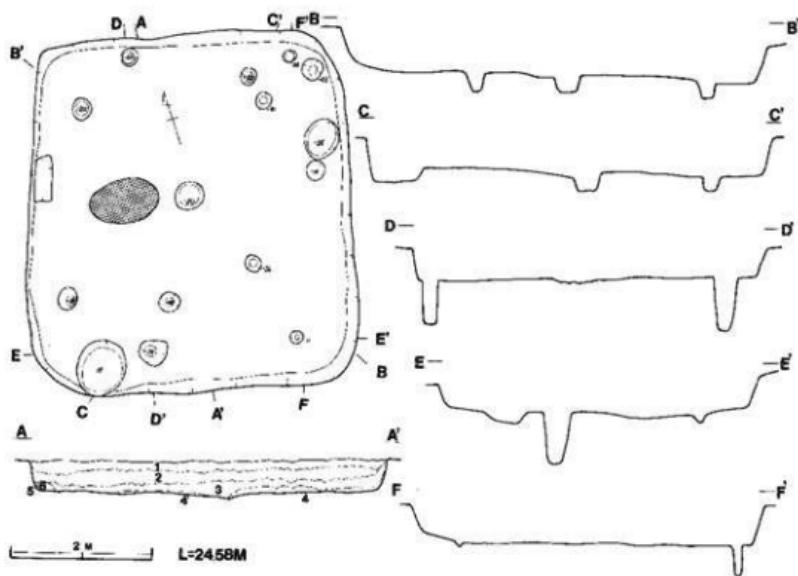
第 125 図 第 91 号住居址実測図

第 96 号住居址(図 126)

本址は E4h1 に確認されたもので、主軸方向が N-71.5°-W を指し、長辺 5.05m・短辺 4.55m のやや隅丸を有する長方形状のプランを呈している。覆土は 2 層の暗褐色その他色を呈し、全体に少量のハードローム小ブロックを含み、1・2・6 層でごく少量の焼土粒子、3 層でごく少量の炭化粒子を含んでいる。壁高は 37~57cm を測り、壁溝はみられない。この点は先に記載した住居址と異なる点である。床質は硬く、床面はやや北に傾斜している。炉址は西壁よりに径 98×65cm の範囲で確認され、床面をわずかに掘り込んで炉床としている。ピットは 14ヶ所検出されたが、他の住居址とは異質な数と位置である。

第 97 号住居址(図 127)

本址は D2j6・E2a6を中心で検出されたもので、長軸方向を N-2.5°-W とする長辺 9.2m・

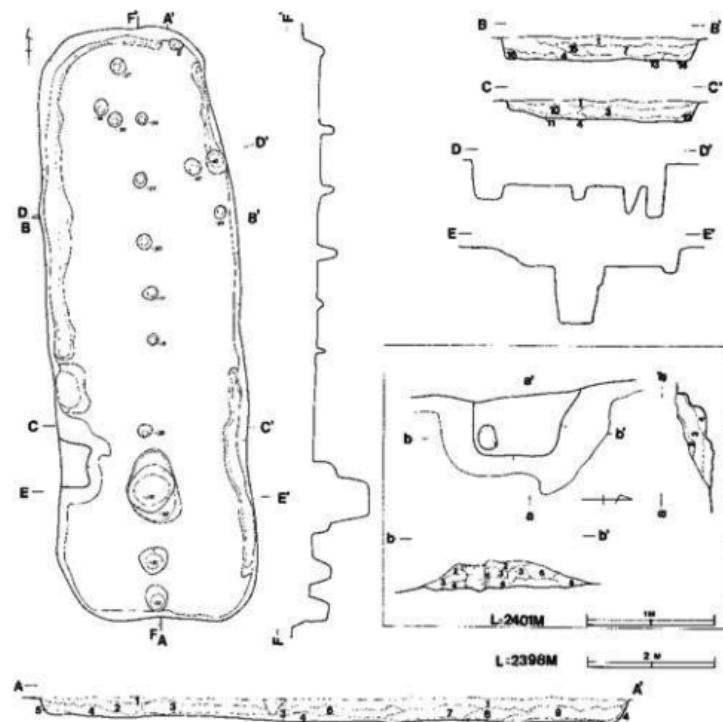


第 126 図 第 96 号住居址実測図

短辺約3m前後の隅丸長方形状の遺構である。覆土は、12・14層の褐色の他は暗褐色で、全体的にローム粒・ハード小ブロックを含んでおり、焼土粒子は1・7・8・10・14・15層でみられ、炭化粒子は2・10・14層に含まれている。壁高は24～35cm前後で、隙溝は部分的である。床はやや硬く、ほぼ平坦である。南半分の西壁にカマドが検出され、二軒の住居址の重複かとも考えられたが、中央に一直線状に並ぶ浅いピットが存在し、また上層段にもあらわれていないことから一基の遺構と考えた方が自然である。カマドは一部擾乱を受けており、残存状況もあまりよくない。この覆土は1層が少量の粘土と砂で、2層で砂及び粘土ブロックと少量の焼土塊、3層で粘土と砂のまじり・木炭・焼土塊、4・5・6層へとそれらの含有物が少なくなっている。

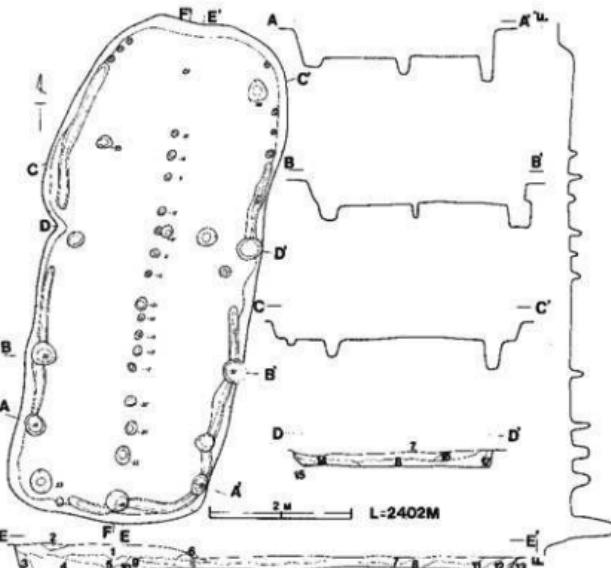
第109号住居址(図128)

本址はE2c6を中心で検出されたもので、先に記載した第97号住居址と類似したものである。



第127図 第97号住居址実測図

長軸方向は N 9°-E を指し、長辺 7m、短辺 3.05m の隅丸長方形を呈するプランである。覆土は、1~3・7・8 層で暗褐色の他褐色で、全体的にローム粒がみられ、中でも 1・7・14・16 層が多い。ハードローム小ブロックは 1~6・9 層でみられ、炭化粒子・焼土粒子は全体的にごく少量である。壁高は一部 40cm 前後のところもみられるが、ほぼ 20cm 前後である。西壁の中央よりやや北の壁で一部外



第128図 第109号住居址実測図

に丸味をおびて直線状の形態を崩しており、このことが重複造構の可能性をみせるが、土層図および一直線状に並ぶ中央のピット群がそれを不自然としている。

古墳時代住居址一覧表

遺構番号 位 置	形 状 位	規 模 (m)	壁 高 (cm)	伊 豆 等	ピ ッ ト 数	出 土 点 数	備 考	関 連 図 版
第 6 号 (C5e9)	正 方 形 N-14°-W	1 迂 5.20	39	地床炉	4	2638 石 62	半完形の埴形土器が 9 個体 時期- 和泉期前半(写 69-1, 68, 5, 71-1-2)	図 120 図 209 図 191 実 1-9
第 85 号 (D3e8)	正 方 形 N-3.5°-W	1 迂 4.9~5.0	26~35	地床炉	4	421 石 5	埴形土器 3 個、壺形土器 5 個、壺形 土器 3 個、瓶形土器 1 個、高环形土器 4 個、土井、時期-和泉期 (写 71-3~9, 72-1)	図 121 実 10~25 写 10-2, 69-2~3
第 86 号 (D3e16)	正 方 形 N-4.65°-W	1 迂 5.30~5.60	30~42	地床炉	5	713 石 3	壺形土器、泡形土器、高环形土器、 一期-和泉期 陶片、土井	図 122 図 213 写 26~28 写 69-4, 72-2
第 88 号 (D3e3)	正 方 形 N-0°-W	1 迂 4.50 前後	60	カマト	3	1255 石 10	須恵器の壺形、高环形土器、無耳土 器片、時期-7世紀中頃(写 72-3)	図 123 図 202 写 29~30, 69-5~6
第 90 号 (D3e19)	正 方 形 N-49°-W	1 迂 7.60	16~20	地床炉	5	1065 石 10	七面器の壺形、壺形、高环形土器 時期-五胡期、鐵器類(写 72-4~6)	図 124 大 31~33 写 70-1~3
第 91 号 (E3g6)	正 方 形 N-47°-W	1 迂 7.40	23~32	地床炉	9	732 石 8	七面器の壺形、埴形土器 時期-和泉期	図 125 実 34~36 写 72-7~8
第 96 号 (E4h1)	隅丸長方形 N-71.5°-W	5.05 × 4.55	37~57	地床炉	14	1594 石 18	上部器片 2 個、上玉、時期-五胡期 陶片、E1, E2, E3 の輪火土器 片、泡石、4 分、石突き跡(底面)	図 126 図 192~199 図 209~213 写 70-4
第 97 号 (D2j6)	隅丸長方形 N-2.5°-W	9.20 × 3.00	24~35	カマド	476 石 4	土師器は少片のみである		図 127 図 192 実 37, 写 70-5
第 109 号 (E2e6)	隅丸長方形 N-9°-E	7.00 × 3.05	20~40	×	282 石 1	土師器半壳-高台付の群(内壁) 時期-国分期		図 128 実 38 写 70, 6, 写 72-9

第2節 遺物

1. 縄文時代

本遺跡の出土遺物は縄文式土器が圧倒的に多く、他に石器類、炭化物なども出土している。本報告書では原則として遺構出土の遺物だけを取り扱った。

(1) 縄文式土器(図129～190、写22～61)

750あまりの遺構のはほとんどから縄文式土器が出土し、完形品をはじめ多量の土器を出土した遺構もたくさんある。しかし、床面出土の完形品はごく少量で、遺物から時期の決定できた遺構はごく一部であった。縄文式土器は、前期後半のものから後期のものにかけて出土しているが、阿玉台末期から加曾利EⅡ期にかけてのものがほとんどである。

(ア) 完形遺物の実測図は遺構順に載せ、次のような観点に立って表で説明を加えた。

① 番号の欄の番号は、実測図の遺物番号と共通で、○印のついているものは完形品である。

出土遺構・位置の欄は、上段に遺構名を下段に出土位置を表わした。遺構出土でないものは調査区名で表わし、わからないものは「不明」とした。出土位置については、「床面」は床面で出土したもの、「床面直上」は床面から5cm以内で出土したものと表わした。その他位置で出土したものは、覆土を上中下に分けて、「覆土上層」・「覆土中層」・「覆土下層」とした。記述のないものは不明のものである。

② 口径・器高の欄は、上段に口径を下段に器高を表わした。口径は口縁の外側を測り、()内の数値は復元した場合の推定値である。器高の()内の数値は現存高で単位はcmである。

③ 器形・形式の欄は、上段に器形を下段に土器の時期を表わした。

○土器の時期は、縄文時代中期の阿玉台期以降を次のように時期区分して記載した。

時 期	土 器 の 特 徴
阿玉台期	阿玉台式の土器
阿玉台末期	阿玉台式の土器の中で末期に属するもの。隆帯上に縄文を施文したもの、扇状把手を持つものが多い。
加曾利EⅠa期	加曾利EⅠ式の土器の中でも、阿玉台式の様式が残っているもの。隆帯上にスリットのつけられているものが多い。
加曾利EⅠb期	大把手を持つものがあり、口縁部文様に「S」字状文など、隆帯による表現を強調したもの。加曾利EⅠ式の特徴を強くもっている。
加曾利EⅠc期	口縁部に、隆帯による渦巻文を伴う区画文様のあるもので、胸部の懸垂文に磨消し技法のないもの。

時 期	土 器 の 特 徴
加曾利 EII 期	口縁部文様が簡単になり、梢円区画が中心となる。胴部の懸垂文に磨消しの技法がでてきたもの。
加曾利 EI 期	口縁部文様がさらに簡単になり、渦巻文が退化してしまったもの。I 単位の懸垂文の幅が広くなったもの。連弧文系の土器をこの時期に含める。
加曾利 EIV 期	口縁部文様が退化し、胴部文様の発達したもので、器形は後期称名寺式に近い。口縁部上端の無文部が微隆起によって区画されたものを含める。

- 本遺跡出土の勝坂式の土器は、時期的に阿玉台末期のものであるが、「勝坂」と記した。
- 大木 8 式の土器は時期的に加曾利 EI 期に、大木 9 式の土器は加曾利 EII・III 期のものであるが、それぞれ「大木 8」「大木 9」と記述した。
- 加曾利 E 期にはいるが、細分できないものは、「加曾利 E 期」とした。

④ 特徴の欄では、まずははじめに欠損状態を書き、次に文様を中心に記載した。施文の説明の中で、「縄文」と記載したのは、単節の縄文施文のことである。「スリット」とは刻み目のことである。口縁部の上端を「口縁」と記述した。

(4) 上器片の拓影図は、ごく 1 部しか掲載できなかったので、前記の区分ごとに代表的なものだけを掲載した。

図 163 1 ~ 9 は縄文時代前期後葉浮島式のものである。10 ~ 21 は縄文時代中期で阿玉台期の前の時期のものである。16・17・19 は下小野式であろう。

図 164 ~ 図 165 阿玉台期のものである。図 164 に古いものをまとめた。

図 166 ~ 図 170 阿玉台末期のものである。

図 171 阿玉台末期のもので、勝坂式の様式が強いもの。

図 172 ~ 図 174 加曾利 EIa 期のものである。

図 175 ~ 図 176 加曾利 EIb 期のものである。

図 177 加曾利 EI 期のものである。1・2 の他は、浅鉢形土器である。

図 178 加曾利 EIc 期のものである。

図 179 加曾利 EII 期のものである。

図 180 加曾利 EII 期のものを集めたが、5 と 11 は加曾利 EIII 期のものと思われる。

図 181 ~ 図 184 加曾利 EIII 期のもので、図 182 ~ 図 184 は連弧文系の土器である。

図 185 加曾利 EIII 期以降の条線文施文の土器である。

図 186 加曾利 EI 期のもので、大木 8 式と思われるもの。

- 図 187 加曾利 E II・E III 期のもので、大木 9 式と思われるもの。4 は 8 式。
- 図 188 繩文を施しただけのものを集めた。阿玉台末期から加曾利 E IV 期のものと思われる。
- 図 189 繩文を施しただけのもので、加曾利 E II 期以降のものと思われる。
- 図 190 1 ~ 3 は加曾利 E IV 期のものである。口縁が横ナデされ焼成もよい。
4 ~ 5 は後期のもので 4 は加曾利 B 式、5 は安行 II 式と思われる。
6 ~ 10 は綱代痕のある底部で、11 はヘラ削り痕、12 は木葉痕のある底部である。

(ウ) 遺物写真を巻末に掲載した。はじめに住居出土のもの、次に土壙出土のもの、その次にグリッド出土のものを載せた。土器片は把手部を中心とし、時期ごとにまとめて掲載した。39 号住出土の破片を 2 ページにまとめた。写真的下に出土遺物名を記した。番号の次の()内の数字は実測図掲載の遺物番号である。縮尺のはいっていないものは約 1/3 にしてある。

繩文式土器一覧表

番号	出土遺物位	白径高	器形期	特徴
1	S1099 床面	(24.2) (15.4)	深鉢形 加曾利 E II	胸部欠損。炉埋設土器。内面に側離痕。口縁部に渴巻文を伴う降帯による格円区画が 5 単位。区内に縦文。胸部に縦文。
2	S1003 覆土内	(24.6) (10.6)	鉢形 加曾利 E Ic	縦沟欠損。口縁部と胸部の間に横位の隆帯。口縁部は縦文。胸部は無文で上方にヘラ整形。
(3)	S1003 床面直上	4.9 3.7	手標土器 加曾利 E	薄手で無文。外表面は横位、内表面は横位のヘラ整形。
4	S1003 覆土上	2.6 (18.5)	深鉢形 加曾利 E Ic	口縁部の縦半分のみ現存。口縁部は降帯による渴巻文を伴う格円区画 5 単位。区内に縦文。胸部は縦文。
5	S1003 覆土上層	23.7 (24.0)	深鉢形 加曾利 E IIa	胸部下半欠損。外表面した口唇部に沈線とスリット。難部は無文。胸部は縦文地に、沈線による横位の直線や波状文。
6	S1003	26.0 (23.0)	深鉢形	胸部上半欠損。縦文地に 3 本組の沈線による懸垂文 6 単位。その内 3 単位は、まん中の沈線が波状。
7	S1004 覆土中層	15.2 (13.0)	深鉢形 阿玉台木	胸部下半欠損。口縁は肥厚しており、口唇部にスリット。胸部に段差があり、その上部と下部に太目の有節沈線。内面は丁寧なナデ整形。把手が 1 個づく欠損。把手部を含む全面に縦文。
8	S1004	15.0 (16.5)	深鉢形 阿玉台末	把手が 1 個づく欠損。把手部を含む全面に縦文。
9	S1007A 床面	(21.0) (14.5)	深鉢形 加曾利 E III	胸部下半欠損。炉埋設土器。口縁に横位の沈線が 2 条。その下に縦文地に 3 本組の沈線による連弧文 5 単位。またその下に 2 本組の沈線による連弧文。
10	S1012	(18.0)	深鉢形 加曾利 E	口縁部欠損。胸部の上部は縦文、下部は無文ヘラ削り。内面はていねいなナデ整形。
11	S1012 西側ヒット内	(16.6)	深鉢形 阿玉台末	胸部上半欠損。太い隆脊を曲がりくねって貼り付け、隆帯のところどころに山形の跡。胎土 - 膜。

番号	山土遺構 位	口 径 高	器 形 期	特 徴
12	SI012 覆土上層	22.8 (11.0)	深鉢形 加曾利Ela	口縁部のみ現存。把手は3単位とも欠損。口縁部は山形把手部から続く隆帯で3単位に区分。区内に斜め方向の沈線や交互刺突文。隆帯上にスリット。
13	SI019 覆土上層	(16.3) (15.5)	深鉢形	胴部以下欠損。無文でヘラ削り。口縁部は二段。
14	SI019 覆土中層	(23.0)	深鉢形 加曾利Ela	口縁部の半分と底部欠損。小把手から下部に隆帯による逆「S」字文。口縁部上端を交互刺突が1周。胴部は楕円地に隆帯による螺旋文4単位(中間に「フ」の字文がつく)。
15	SI019 床面直上	(12.0)	浅鉢形 加曾利E	胴部上半欠損。無文でヘラ整形。
16	SI022 覆土中層	(33.6) 23.7	鉢形 加曾利EI	縁外欠損。無文へラ削り後ナデ整形。
17	SI023 覆土内	(5.3)	手捏土器 加曾利E	口縁部の一部欠損。円筒形で口縁がすぼまっている。口縁に向かって孔が2個。内面はよくなでてあるが外面はでこぼこ。胎土-砂粒・雲母(多)
18	SI027 覆土中層	(11.5)	深鉢形 加曾利E	胴部上半欠損。全面に繩文。
19	SI035 床面	24.5 (17.0)	深鉢形 加曾利EI	胴部下半欠損。灰埋設土器。口縁部に沈線による渦巻文4単位。その間は楕円の沈線。胴部は楕円地に沈線による「U」字状文13単位。
20	SI036 床面直上	25.5 (22.5)	深鉢形 加曾利Ela	胴部下半欠損。肥厚した口縁部上端に繩文。その下部に沈線で直線のものが2条、波状のものが1条まるわる。その下部は繩文施文。
21	SI037 ア玉台	10.0 5.7	小型鉢形 ア玉台	口縁部にスリット。口縁部には弧状に隆帯。隆帯上にスリット。その下に刺突による弧文7単位。内面にも刺突が1周。孔が向かい合って2個。
22	SI037 注口土器 後		注口土器 後	注口部のみ現存。外面はミガキ。
23	SI038 ピット内	12.5 20.0	深鉢形 ア玉台未	把手部欠損。2つ並んだ山形小把手が2単位。2つの内1つの小把手から隆帯が円を描くように下りる。口縁部ナデ。その下部は繩文。
24	SI039 覆土下層	(12.5) 17.0	深鉢形 加曾利EI	縁に半分欠損。楕円地に楕円の沈線。その下部に沈線によるわらび手文などの曲線文。胎土-石英(多)。大木式の様式が強い。
25	SI039 覆土中層	(28.6)	深鉢形 ア玉台未	口縁部欠損。無文ナデ整形。胎土-石英・白雲母(多)
26	SI039 覆土中層	(30.8) 14.0	浅鉢形 ア玉台未	縁半分欠損。口縁部に太い隆帯をまわし、その上を連続指圧。内外面に朱塗り痕。胎土-石英・白雲母(多)
27	SI039 覆土中層	20.8 24.4	深鉢形 加曾利Eic	口縁から胴部上部にかけ無節繩文。そこから一段下がった下部は無文で、ナデ整形。
28	SI039 覆土内	22.5 31.5	深鉢形 ア玉台未	口縁部の一部欠損。扇状把手が3単位の波状口縁。隆帯による楕円区画が6単位で、その内側に楕円の連續刺突文、またその内側に波状の沈線。胴部には太い隆帯を大きく波状に貼り付け。頭部・胴部に条線を密に施文。

番号	出土遺構 位	口器 径高	器形 時 期	特 徴
29	SI039 覆土中層	(26.5) (24.0)	深鉢形 阿玉台末	大きく欠損。局状把手あり。口縁部には隆帯による三角形区画内を二重に有筋沈線1周。脚部には横位の隆帯から下に逆「V」字形に3単位の隆帯。
30	SI039 覆土中層	(17.5)	深鉢形 阿玉台末	脚部のみ現存。太い隆帯を三叉状に貼り付け。そのまわりに直線や波状の沈線、連續爪形文を施す。
31	SI039 覆土中層	(19.8) 7.7	器台形	縦沟欠損。脚部に2つ並んだ孔あり。胎土-石英・雲母(多)
32	SI043B 覆土中層	(31.5) (20.0)	深鉢形 加曾利EII	口縁部片。埋設土器。口縁部は隆帯による区画内に繩文。隆帯の端は渦巻となって突起。頭部は無文で、脚部は繩文。口縁付近に二次焼成痕。
33	SI049 床面	17.3 (14.0)	深鉢形 加曾利EIII	脚部下半欠損。が埋設土器。口縁部区画なし。繩文地に太い沈線で円形文や波状文を施す。
34	SI054 覆土中層	(16.8) 21.9	深鉢形 加曾利EIc	口縁部の大部分欠損。口縁部は、繩文地に隆帯を弧状にまわし、つなぎ歛を突起。頭部に隆帯。脚部は張り出た所まで繩文。その下部は、無文でナデ整形。二次焼成を受け、かなり摩滅。
35	SI054 覆土中層	(9.0) (8.0)	小型深鉢 加曾利EII	縦沟欠損。肥厚した口縁。表面はでこぼこだが、ヘラナデ整形。胎土-石英(多)
36	SI055 床面	19.8 (21.0)	深鉢形 加曾利EII	脚部下半欠損。が埋設土器。全面に繩文。内面は二次焼成で摩滅。胎土-砂粒(多)
37	SI057	(5.0) (4.0)	手提上器 加曾利E	縦沟欠損。無文ででこぼこであるが、ナデ整形。輪積模あり。
38	SI058 床面裏上	27.0 (24.4)	深鉢形 加曾利EII	脚部下半欠損。口縁部は隆帯による横円区画を6単位。その間に渦巻文が5単位。区画内は繩文。脚部は、繩文地に沈線による悪文(3本組の直線のものと2本組の波状のもの)が交互に4単位ずつ)、沈線の間は磨消。
39	SI061	(10.0)	深鉢形 加曾利E	脚部上半欠損。繩文施文、底部近くは無文でナデ整形。
40	SI070 床面	(23.2) 22.3	疊形 大木9	縦半分欠損。口縁部は無文でナデ。脚部上部を横位の交叉刺文。その下部は、擦り糸文地に2~3本単位の沈線による渦巻などの曲線文。沈線の間は磨消。
41	SI071 床面直上	15.6 (16.0)	深鉢形 加曾利E	底部欠損。肥厚した口縁。口縁を除いて横位の繩文施文。
42	SI072 覆土上層	22.3 (14.2)	深鉢形 加曾利EIV	脚部下半欠損。全面に繩文。
43	SI072 覆土上層	(17.0)	深鉢形 加曾利EIa	口縁から頸部にかけ一部現存。隆帯による円形状区画、区画内は横位の沈線。隆帯上にスリット。波状口縁部に環状把手がつく。
44	SI081 覆土中層	7.5 4.5	小型鉢形	外面は少しでこぼこであるがヘラナデ。内面は丁寧なナデ。ややまるまっている底面。内外面とも橙色。
45	SI090 床面	(15.0)	深鉢形 加曾利EIII	脚部のみ現存。が埋設土器。櫛目状条線文を施す。SI090は古墳時代の住居址で、この十器はこの遺構のものとは考えられない。

番号	出土遺構	口 様 器 高	器 形 期	特 徴
46	SI092	(14.4) (17.0)	深鉢形 加曾利E	口縁部から胴部にかけ一部現存。口縁に沈線が2条まわり、ところどころで交叉刺突されている。胴部は沈線が1条まわって、その上部は、沈線による精円形文や横位の沈線。また、その下部は縦位の条線文。胎土・石英(極多)。
47	SI095	30.5	深鉢形	4単位の波状口縁で、小把手部に渦巻文。口縁部に両端が渦巻になる隆帯による「S」字文が4単位。その間は纏文施文が1単位、縦位の沈線施文が1単位。他は無文でナデ整形。胴部は纏文地に沈線による懸垂文があわせて10単位。
48	SI103	27.0	深鉢形	底部欠損。炉埠設土器。山形の小把手が4単位。纏文地に沈線による6単位の懸垂文(2~3本組の直線のものと2本組の波状のものが交互に)が口縁より施文。沈線の間は磨消。
49	SI112	23.0 (15.0)	深鉢形 加曾利EIII	口縁から胴部にかけて一部現存。纏文地に横位の沈線が2条、その下に2本組の沈線による懸垂文が7単位。
50	SI112	21.5 (17.0)	深鉢形 加曾利EII	口縁から胴部にかけて一部現存。4単位ある波状口縁の小把手口唇部に渦巻文が彫られている。口縁辺は、渦巻文を作り隆帯により8単位に区画される。その内側に纏文。胴部は纏文地に3本組の懸垂文が5単位以上施文。沈線は磨消。
51	SK6 覆土内	(6.0)	小梨深鉢	胴部上半欠損。無文でナデ整形。
52	SK6 覆土上層		深鉢形 加曾利EIIb	把手部のみ現存。孔が5個。胎土・石英(多)。
53	SK10 覆土内	28.0 35.8	深鉢形 阿玉台木	口縁部の一一部欠損。折り返し口縁。折り返し部に横位のヘラナデ。胴部は縦位のヘラナデ。胎土・石英・雲母(多)。
54	SK10 覆土内	19.7 29.5	深鉢形 阿玉台木	胴部の一部欠損。扁状把手が3単位。その下に日をモチーフしたと思われる隆帯による区画が3単位。把手部・隆帯に纏文。区画内はヘラによるほりの深い沈線(縦位のものと曲線のものとがある)。区画と区画は「X」字状に連結。胴部は無文ヘラナデ。
55	SK10 覆土内	24.5 (16.0)	深鉢形 加曾利EIIa	胴部下半欠損。口縁部上端は横ナデ。その下は纏文地に隆帯による逆「S」字文が5単位。「S」字文上に纏文を施文。胎土・金雲母・砂粒(多)。
56	SK10 覆土内	25.0 16.5	深鉢形 加曾利Ela	胴部下半欠損。把手が2個。口縁部に交差刺突文が上と下にあって、その間には斜位の沈線のある区画と交叉刺突文3本の区画が交互に2単位ずつ。その下部、頸部に斜位の沈線をびっしり施文。底部に隆帯が横位に2本、その下部は無文。
57	SK12 覆土上層	(38.0) (11.3)	深鉢形 加曾利EIIb	口縁部片。口縁のまわりに扁状の把手。その下部は纏文。
58	SK12 覆土上層	(21.9) 38.9	深鉢形 阿玉台木	縦位欠損。無文で丁寧なナデ。口縁部に孔が約16個。底部は器台形で特異な器形。
59	SK22 覆土内	(17.7)	深鉢形 加曾利E	胴部上半欠損。纏文が施文され、底部附近は横位のヘラナデ。
60	SK23 覆土内	(4.0) 3.3	手捏土器 加曾利E	口縁部欠損。ヘラナデ。

番号	出土遺構 位	II 径 器 高	器 形 期	特 徴
61	SK23 覆上内	12.5 (16.7)	深鉢形 阿玉台末	底部欠損。肥厚した口縁に渦巻形の突起を3つ並べた小把手(突起には丸があり、そのうち1つは貫通していない)。口唇部や口縁に有筋沈線。胴部に有筋沈線で方形状・渦巻状文様をびっしり。
62	SK25 覆土中層	(13.0) 11.2	鉢形 加曾利E	縦沟欠損。外面ナデ整形。口縁部に2つ並んで貫通孔。内外全面に朱塗装。内外面の一部に煤付着。胎上-砂粒・黒雲母(多)。
63	SK25	(31.6) (8.6)	浅鉢形 加曾利Etb	II縫部片。外面は丁寧なナデ整形。胎上-石英・黒雲母(多)。
64	SK27A	20.3 (20.1)	深鉢形 加曾利E	胴部下半欠損。山形の2つ並んだ小把手が2単位。全面に繩文施文。
65	SK27A 覆上内	(13.2)	深鉢形 加曾利ET	胴部上半欠損。繩文の施文された横位の隠位の隠帶を境に上部は繩文地に沈線、下部は無文でナデ整形。
66	SK27A	(25.5) (25.0)	深鉢形 阿玉台末	口縁から胴部にかけ一部現存。折り返し口縁。全面無文で丁寧なナデ整形。
67	SK29 覆土下層	(22.0)	深鉢形 阿玉台末	II縫部欠損。繩文地に隠位の波状文、その下部に2本組の沈線による円弧文。
68	SK31 覆土下層	(6.2) 7.1	小型土器 加曾利E	縦半分欠損。無文でヘラナデ。表面は少してこぼこ。
69	SK37 覆土下層	(14.0)	深鉢形 加曾利Etc	口縁部欠損。胴部に繩文、上部は縦位、下部は横位に施文。この地文に波状の懸垂文が4単位。底部付近ヘラナデ。
70	SK39 覆土中層	(17.3)	深鉢形 阿玉台末	胴部のみ現存。6~7本の齒状工具による縦位の曲線的な条線文。胎上-石英・白雲母(極多)。
71	SK44 覆土上層	(6.2)	小型深鉢形	胴部上半欠損。無文でヘラナデ。表面はでこぼこ。
72	SK45 覆土内	(7.4)	深鉢形 加曾利E	底部付近のみ現存。繩文施文。
73	SK47 覆土上層	(7.8)	浅鉢形	底部付近のみ現存。無文でヘラナデ整形。上げ底。胎土-雲母・砂礫。
74	SK56 床面直上	21.0 26.8	深鉢形 阿玉台末	メガネ形の孔が2つあり、そのまわりを二重に有筋沈線がまわる小把手が1単位、折り返し口縁。全面に齒状工具による、波状の条線文。底部付近はヘラナデ後に磨消。胎上-雲母・砂粒(極多)。
75	SK59 覆土中層	18.0 (22.0)	深鉢形 加曾利Ela	胴部下半欠損。孔が5つの圓状把手が3単位。口縁部に「S」字状の降帯が3単位。その間は、ヘラ状工具による縦位の沈線。頸部に横位の隠帶が2条。胴部は繩文施文。
76	SK60 床面直上	29.0 36.3	深鉢形 阿玉台末	縦沟欠損。折り返し口縁。口縁を含め全体に繩文施文。胎土-白雲母・砂礫(極多)。
77	SK61 覆土内	(12.5)	深鉢形	胴部片。頸部に降帯を2条まわし、その間に波状の隠帶を貼り付け。胴部は繩文地に降帯による懸垂文(2本組の直線のものと、1本の波状のものがある)。
78	SK64 覆土内	(13.7)	加曾利EII	胴部上半欠損。目の細かい繩文地に3~4本組の沈線による懸垂文が8単位。沈線間に磨消。他に波状の懸垂文が1本。二次焼成旋。

番号	出土遺構 位	口 径 高	器 形 期	特 徴
79	SK66 覆土内	(19.5)	深鉢形 加曾利E	口縁部欠損。無節の縄文。底部付近はヘラナデ。
80	SK77 覆土上層	(34.8) (34.0)	深鉢形 阿玉台末	口縁から胴部にかけ一部現存。口縁部に隆帯による横円区画、その内側に連続爪形文。頸部は無文。胴部は隆帯による曲線文(隆帶上にスリット)、隆帯の間に沈線による波状文や直線文。
81	SK78 床面直上	(33.0)	深鉢形 加曾利Elc	口縁部欠損。縄文を全面に施文。
82	SK78 覆土中層	23.0 29.5	深鉢形 加曾利EI	口縁部の一部欠損。折り返し口縁の上は横ナデ。胴部は、斜め転がしの縄文。
83	SK78 覆土中層	(28.0) 38.0	深鉢形 加曾利Elia	縁欠損。口縁部は無文でナデ。頸部は交互刺突文が横位に2条。その間の隆帯上にはスリット。頭部に環状把手。胴部には、沈線による円弧文や周巻文、交互刺突文を施文。
84	SK78 覆土中層	23.0 (17.3)	深鉢形 加曾利Elc	胴部下半欠損。口縁部に隆帯による半円区画8単位。区画内縦位の沈線。胴部に縄文。頭部に横位の太い隆帯。
85	SK78 覆土中層	24.5 29.5	深鉢形 加曾利Elc	一部欠損。全縄文。胎土・石英・白雲母(多)。
86	SK90 覆土中層	(46.2) (12.7)	浅鉢形 阿玉台末	口縁部片。隆帯による横円区画。その内外山は無文でナデ整形。
87	SK91 覆土内	(21.0) 17.0	鉢形	縁欠損。山形の把手部に孔が1個。把手部の断面に研磨した痕跡があり、深鉢形土器の下半分を再利用したものと思われる。沈線文の上をヘラナデ。
88	SK91 床面	13.5 (18.5)	深鉢形 加曾利Elia	口縁部の一部と底部が欠損。円筒形で、口縁は、外側につき出て、山形把手が4単位つく(2単位欠損)。細かい目の縄文を粗に施文。胎土・石英・白雲母(極多)。
89	SK91 床面直上	(23.6) 26.0	深鉢形 大木8	口縁から胴部にかけ半分現存。折り返し口縁に波状の沈線を横位に2条。口縁の下端部を連続に指圧。胴部は無文地に、4本筋の沈線によるわらび手文や波状の懸垂文。内面は丁寧なナデ。
90	SK91 床面	14.2 (18.0)	深鉢形 加曾利Elia	底部欠損。折り返し口縁上に縄文。その下部に沈線が2条もあり、その間は縄文。その下は無文でナデ整形。
91	SK91 覆土内	(30.8) (9.5)	深鉢形 加曾利Elia	口縁部大型片。折り返し口縁に縄文。その下は、縄文地に逆「S」字状の隆帯をつなげて横位に1周。隆帯上には縄文施文。隆帯にそって有筋沈線を施す。隆帯文と口縁の間に横位の波状沈線。内面は丁寧なナデ。
92	SK92 覆土内	21.0 (11.5)	深鉢形 加曾利Elia	口縁部のみ現存。孔のある把手は欠損。口縁部に隆帯による長方形の区画が4単位。区画内の両端に周巻文がつき、その間に2~3条の交互刺突文。下の隆帯上にスリット。口唇部に小突起。胴部は粗い斜めころがしの縄文。
93	SK92 床面	(23.5)	深鉢形 阿玉台末	口縁部欠損。ヘラナデした後に沈線を横位、横位に施文。その上にスリットのついた隆帯を波状(3山)に貼り付け。胎土・砂隕(多)。
94	SK92 床面	(22.0) (12.0)	深鉢形 阿玉台末	口縁部大型片。口縁にそって隆帯を円弧状に貼り付け。胴部の一部に縄文施文。胎土・白雲母・石英(多)。

番号	出上遺構 位	口 径	器 高	形 期	特 徴
95	SK96 床 面	(23.0)	深 鉢 形 加曾利Elb	深 鉢 形 加曾利Elb	I口縁・把手部付近のみ現存。孔が5つある環状把手。I口縁部は隆帶による方形区画、その内側は繩文地に沈線。
96	SK98 床 面	(19.0)	深 鉢 形 加曾利Elc		口縁部欠損。繩文を施文。底部付近へラナデ整形。
(97)	SK113 覆土上層	19.2 8.0	器 台 形 加曾利E		楕円形の孔が4個。外面に繩文を施文。
(98)	SK125 覆土中層	24.0 34.0	深 鉢 形 阿玉台末		一部欠損。折り返し口縁上に繩文。その下は全面に繩文。口縁部に連続して指圧された太い隆帯。
99	SK134 床 面	(47.0)	深 鉢 形 加曾利ElII		口縁部欠損。繩文地に沈線による懸垂文(3本組の直線のものと2本組の波状のものとが交互に4単位ずつ)。二次焼成痕。
100	SK154 覆土上層	(8.0)	深 鉢 形		胴部上半欠損。繩文地に横位の沈線が4条。底部付近はナデ整形。底部に割代痕。
101	SK161 覆土中層	25.0 (26.5)	深 鉢 形 加曾利ElA		胴部下平欠損。把手が4つ。向い合ったものは同じ形。口縁部に隆帯による「フ」の字のつく「S」字状文が2単位。そのまわりは繩文。頭部は無文で、胴部は繩文地に沈線による懸垂文(2本組の直線のものと波状のものとが交互に)。大木式の様式。
102	SK162 床 面	(9.8)	浅 鉢 形		口縁部欠損。無文でナデ整形。胎土-石英・黒雲母(極多)。
103	SK163 覆土上層	(17.0)	深 鉢 形 加曾利Elc		I口縁部欠損。繩文地に沈線による懸垂文(3本組の直線のものと波状のものとが交互に4単位ずつ)。底部付近はヘラナデ。胎土-細かい砂粒(極多)。
104	SK163 覆土上層	(15.2) (21.0)	深 鉢 形		縦1/4と底部欠損。全繩文。焼成良。
105	SK163 覆土上層	(15.0)	深 鉢 形 阿玉台		胴部片。縦位の2本組連続刺突文。ナデ整形。胎土-砂砾(多)。
106	SK163 覆土中層	(11.5)	浅 鉢 形 加曾利EI		I口縁部片。無文で内外面へラナデ。朱塗痕。胎土-石英(極多)。
107	SK166 覆土中層	22.5 (16.0)	深 鉢 形 大木 8		胴部以下欠損。把手が4個ついていて、向かい合ったものが同じ形。口縁に交叉刺突文が1周。その下部は繩文地に沈線によるワラビ手文が4単位施文。
108	SK169 覆土中層	17.0 (18.5)	深 鉢 形		底部欠損。口縁部は無文でヘラナデ。胴部は繩文を施文。無文部と繩文施文部の境に横位の隆帯、隆帯上を指圧。
109	SK170 覆 土 内	(22.5) (12.9)	深 鉢 形 加曾利Elc		I口縁部の半分現存。口縁無文部に隆帯が2条まわり横ナデ。その下に2本並んだ隆帯が波状にまわる。その下は繩文。
110	SK171 覆土中層	(35.0) (10.0)	加曾利Elb		I口縁から頭部にかけ一部現存。繩文地に隆帯で「S」字状文。I口縁付近は横ナデ。胴部は繩文地をヘラナデ。
111	SK174 覆 土 内	(35.5) (12.0)	加曾利Elc		I口縁部の半分現存。渦巻文をつくる隆帯による区画、区画内は繩文。I口縁部文様帯の下部は繩文施文。胎土-砂粒(多)。
112	SK175 床 面	(27.0) (15.0)	深 鉢 形 加曾利Elb		I口縁部の一部と胴部下半欠損。I口縁部に隆帯による「S」字状文がついて、その間は繩文。胴部は繩文地に3本組の懸垂文。

番号	出上遺構置	口縁高	器形期	特徴
113	SK175 床面直上	26.5 30.0	深鉢形 加曾利E1b	環状把手が3単位。口縁部は隆帯によるワラビ手文が3単位。そのまわりに横位の沈線。胴部は纏文地に沈線による懸垂文(3本組のものと波状のものとが3単位ずつ)。
114	SK180 覆土上層	(23.0) (24.0)	深鉢形 阿玉台末	口縁から胴部にかけ一部現存。口唇部に連続指圧文。全面に纏文。
115	SK185 覆土中層	18.0 (22.2)	深鉢形	底部欠損。口縁に横位の沈線が2条。その下に4本組の条線文が直線と波状に交互に7単位ずつ施文。底部付近はナデ整形。口唇部にスリット。
116	SK193 覆土内	33.7 12.0	浅鉢形 加曾利Ela	縦4欠損。無文で外表面ヘラナデ。口縁部内側に段差あり。胎土-右英・白雲母(極多)。
117	SK199 覆土下層	22.0 (28.0)	深鉢形 加曾利Ela	底部欠損。口縁付近は無文でナデ整形。交叉刻文文が1まわりし、その下位に隆帶による横筋区画が7単位。隆帶上にスリット。区画内は縦位の沈線。胴部は纏文。
118	SK204A 覆土上層	(15.5) 18.3	深鉢形 加曾利E	縦半分欠損。口縁に2つ並んだ山形の把手。頭部に太い隆帯。口縁はナデ整形。胴部は無筋の纏文。底部付近はヘラナデ。
119	SK204A 覆土上層	(8.0)	加曾利E1b	口縁部片。口縁に環状の把手。無文でナデ整形。
120	SK207 覆土上層	28.8 (25.5)	深鉢形 加曾利EII	底部欠損。口縁部文様が簡略化し、低い隆帯による円や梢円区画となる。区画内には纏文。隆帯や沈線にはていねいなナデ。内面はヘラナデ。胴部は纏文。
121	SK215 覆土上層	(17.3)	深鉢形 加曾利EII	口縁部欠損。纏文地に沈線による懸垂文(2本の沈線間は、靡消されその上に円形刺文が施文)が4単位。底部付近ヘラナデ。
122	SK219 覆土中層	(31.0) 38.2	深鉢形 加曾利E1b	口縁部半分欠損。口縁部を逆「S」字状に隆帯により区画。区画内縦位の沈線。胴部は纏文地に2本組みの沈線による懸垂文が4単位。底部付近ヘラナデ。
123	SK219 覆土中層	(19.1) 9.7	浅鉢形 加曾利E1b	縦4欠損。口縁に小突起。口縁部はナデ。胴部はヘラケズリ。胎土-右英・白雲母(多)。
124	SK220 覆土中層		深鉢形 加曾利E1b	口縁部の半分だけであるが、125と同一個体である。口縁部は「S」字状の隆帯で区画され。区画内外を縦位横位の沈線でびっしり施文。胴部には細かい目の纏文施文。
125	SK220 覆土中層	(17.0)	深鉢形 加曾利E1c	胴部上半欠損。纏文を施文。縦位の細かい目の纏文施文。その上を縦位に指ナデ。底部付近はヘラナデ。胎土-砂礫(多)。
126	SK226 覆土中層	(15.0)	深鉢形 加曾利E	胴部上半欠損。纏文を施文しているが、かなり摩滅。
127	SK226 覆土中層	28.1 35.3	深鉢形 加曾利E1c	口縁部付近は無文でヘラナデ。横位の隆帯がつき、その下は纏文。口縁部内側には段あり。
128	SK226 覆土上層	(9.0)	阿玉台	胴部上半欠損。爪形文を横位に施文。胎土-右英・白雲母(多)。
129	SK226 覆土中層	(29.5)	深鉢形 加曾利E1c	口縁部欠損。縦位の纏文地に沈線による懸垂文(直線3本組と波状1本が交互に6単位ずつ)。胎土-右英(多)。
130	SK234 覆土中層	(19.5)	加曾利E1c	胴部のみ現存。縦位の纏文地に3本組の沈線による懸垂文を大きくランク状に3単位施文。胎土-砂礫(多)。

番号	出土遺構 位	口 径高	器 形 時 期	特 徴
131	SK243 覆土下層	30.0 37.0	深鉢形 加曾利Elb	口縁部4欠損。形の違う把手が4個（1個は欠損）。口縁部の把手の間は隆帯で横円区画され、区画内は縦位の沈線。胴部は縄文地に沈線による懸垂文（波状の2本の間に直線のものが2本はさまり1単位となる）が4単位。胎土-石英（多）。
132	SK258 覆土下層	(11.0)	深鉢形 加曾利Elb	胴部上半欠損。復跡の縄文地に、沈線による懸垂文が2本組のものと3本組のものとが交互に4単位ずつ施文。沈線間は磨消。
133	SK262 床面	(27.8)	深鉢形 加曾利Elb	口縁部欠損。頸部に環状把手がつき、その下にスリットのはいった隆帯を逆「U」字状に貼り付け。胴部は細かい日の輪文地に丸律による波状の懸垂文が2本。縄文地を開闊おいて縦位に指ナデ。底部付近はヘラナデ。胎土-石英（多）。
134	SK265 覆土上層	(18.2) 24.2	深鉢形 勝坂	口縁部と胴部の一欠損。口縁付近は無文でナデ整形。横位の隆帯が2条。頸部にスリットのはいった隆帯による横円文が7単位。胴部は縄文地に沈線による勝坂式的文様が3単位。縦位の沈線を1本施文。
135	SK275 覆土内	30.0 38.0	深鉢形 加曾利Elc	口縁から胴部の一欠損。口縁部は隆帯により7つの四角形に区分され、内側を縄文施文。胴部は縄文施文。
136	SK275 135と 同位面	35.0 (20.5)	鉢形 加曾利Elc	胴部下半欠損。胴部の上部は隆帯による渦巻文を伴う「S」字状文が4単位。その間には、円形の刺突文がびっしり。この文様帶の上と下は無文で、ナデ整形。風化されて、形にゆがみ。
137	SK282 床面	(15.1) (21.0)	深鉢形 加曾利Elb	かなり欠損。口縁付近は無文でナデ整形。その下は縦位の縄文。胎土-砂粒（ほとんどなし）。焼成良。
138	SK282	(28.0) 12.0	浅鉢形 加曾利Elb	縦4欠損。波状口縁。口縁部に並んで隆帯による渦巻文や横円文。隆帯の内外は無文でナデ整形。朱塗り痕。胎土-砂粒。焼成良。
139	SK282 床面	(11.2)	深鉢形 加曾利El	胴部下半欠損。浅い縦位の条線文。胎土-砂粒（少）。焼成良。
140	SK282 床面	(21.3) (25.3)	加曾利Elb	縦5欠損。口縁部は隆帯による区画内に交互刺突文と縦位の沈線。胴部は縦位の輪文地に沈線による短かい懸垂文が5単位。底部付近はヘラナデ。
141	SK285 覆土内	(15.0) 18.1	深鉢形 阿玉台	縦5欠損。口縁に突起が4個つくと思われる。胴部には爪形文が横位に4条。胎土-石英（多）。もろい。
142	SK285 141と 同位面		阿玉台	胴部片。スリットがはいり、交互刺突されたリング状のものが付く。内側に爪形文。
143	SK290 床面	25.0 (24.0)	深鉢形 阿玉台末	胴部下半欠損。折り返し口縁。胴部は横位の隆帯から下部に隆帯による3単位の三角形状文施文。
144	SK291 床面	(16.8)	深鉢形 加曾利Elc	胴部上半欠損。縦位の輪文地に2本組の沈線による懸垂文5単位。
145	SK299 覆土内	(10.0)	深鉢形 加曾利Elc	胴部下半欠損。縦位の輪文地に3本組の沈線による懸垂文が8単位。胎土-石英（多）。
146	SK299 覆土内	(22.0) (20.0)	深鉢形 加曾利Elc	胴部下半欠損。口縁部は無文でナデ整形。頸部に交互刺突文と断面「V」字形の隆帯。隆帯上に5つ小突起があり、そこからドヘ隆帯が下りている。その区画内には輪文地に直線や波状の縦位の沈線。

番号	出土遺物位	口徑高	器形時	特徴
147	SK299 覆土内	(22.0) (14.4)	深鉢形 加曾利EI	口縁部のみ現存。口縁部は無文でナデ整形。胴部は繩文が施文され横位に交互刺突文。
148	SK302 床面	(25.0) (17.0)	深鉢形 加曾利Elb	口縁部大型片。口唇部に渦巻状の小把手。口縁部は無節縄文地に隆帯を「S」字状に施文。頸部以下も無節縄文。
149	SK304 覆土上層	23.0 (4.0)	器台形	台形の一部のみ現存。脚に孔が4個あいていたと思われる痕跡あり。かなり摩耗。
150	SK306 覆土内	23.0 30.0	深鉢形 加曾利Ela	形の違う把手が向かい合ってつく。小さい方には孔が3方向にあるが、大きい方には2方向にあいている。折り返し口縁の下に隆帯が、円弧状にまわり、4区画をつくる。区画内に横位の波状沈線あり。把手・隆帯・胴部全面に縄文施文。頸部に横位の沈線3条。
151	SK306 覆土内	18.0 (18.7)	深鉢形 阿玉台末	胴部下半欠損。現状把手が1個つくが欠損。肥厚した口縁。隆帯を「X」字状に貼り付け。隆帯を含め全面に縄文施文。胴部にはねらび手文などの沈線文を施文。
152	SK306 覆土内	25.0 (26.0)	深鉢形 加曾利Ela	底部欠損。把手が2個つくが欠損。口縁部に隆帯が2本まわり、その間に交互刺突文。胴部は縄文地に斜線で両線文やねらび手文を施文。
153	SK308 床面	22.5 27.0	深鉢形 阿玉台末	口縁・底部の一部欠損。7単位の波状口縁になると思われる。口縁にそって沈線がまわり、小把手部には、縦位の沈線文。胴部は無文で、ヘラナデ整形。
154	SK311 覆土上層	21.5 20.9	深鉢形 加曾利EII	口縁部は低い隆帯で、渦巻文を伴う横円区画6単位。区画内は縄文。胴部は縄文地に3本組の沈線による懸垂文6単位。沈線間は磨消。
155	SK313 床面	(18.0)	深鉢形 加曾利E	胴部下半欠損。縦位の縄文施文。
156	SK321 床面	(22.5) (20.0)	深鉢形 阿玉台末	口縁部大型片。肥厚した口縁。無文でナデ整形。胎土-石英(多)。
157	SK322 床面直上	(20.7)	深鉢形 加曾利EI	口縁部と胴部の半分欠損。胴部に連続指圧された隆帯がまわり、胴部には5本箇の棒状工具による波状の縦位の条線文。
158	SK340 床面	29.4 29.3	深鉢形 阿玉台末	折り返し口縁。無文で全面ヘラ整形。
159	SK340 床面	(7.5)	鉢形	底部付近のみ現存。ナデ整形。底部に網代模。胎土-石英(多)。
160	SK348 覆土内	(16.8)	深鉢形 加曾利EII	胴部のみ現存。同じ個体と思われる口縁部片あり。縄文地に3本組の沈線による懸垂文。沈線間は磨消。口縁部は低い隆帯で渦巻文を伴う横円区画。区画内は縦位の沈線。
161	SK351 床面	(10.0)	深鉢形 加曾利EIII	胴部下半欠損。縦文地に2本組沈線による懸垂文8単位。沈線間は幅が広く、磨消。
162	SK353A 床面	(22.6)	深鉢形 加曾利EI	口縁部欠損。縦文をまばらに施文。胎土-細かい石英。
163	SK356 覆土内	(22.5)	深鉢形 阿玉台末	口縁部大型片。折り返し口縁。胴部に連続指圧された隆帯を縦に貼り付け。補修孔あり。

番号	出土遺物位	口 總 高	器 形	時 期	特 徴
164	SK360 床 面	(13.7) 12.2	深 鉢 形	阿玉台末	口縁から胴部にかけ4欠損。扇状把手がつくが欠損。肥厚した口縁。口縁部は沈線による格円区画が3単位。区画の間に小突起。胴部は無文でヘラナデ。胎土-石英(多)。もらい。
165	SK326 覆 土 内	(17.6)	深 鉢 形	大木 9	大きく欠損。3本組の沈線による懸垂文が11単位あり、それぞれのうちの1本は内側に入りわらびて文を構成。わらびて文に沈線がヒゲ状に出たものあり。胎土-石英(多)。
166	SK366 床 面	(21.0)	深 鉢 形	阿玉台末	口縁部片。扇状把手。隆帯上にスリット。胴部に波状の沈線。
167	SK366 床 面	(29.0)	深 鉢 形	阿玉台末	口縁部欠損。胴部に隆帯による懸垂文4単位。隆帯をはじめ全面に繩文施文。胎土-石英・白泥母(多)。
168	SK373A 床 面	(25.5)	深 鉢 形	加曾利EI	口縁部欠損。繩文。胎土-砂隕・茎母(多)。
169	SK378 床 面	(20.5) (21.4)	深 鉢 形	加曾利EIc	胴部下半欠損。口縁部は隆帯による渦巻文を伴う格円区画を5単位。区画内縦位の繩文。胴部は縦位の繩文。
170	SK380 床 面	(44.2) (21.3)	深 鉢 形	加曾利EI	口縁部大型片。低い隆帯による格円区画、区画内には繩文。胴部は縦文地に3本組の沈線による懸垂文。
(17)	SK388 覆 土 内	12.5 16.0	深 鉢 形	加曾利 E	肥厚した口縁は無文ナデ整形。胴部は繩文施文。
172	SK389 床 面	(26.0)	深 鉢 形	阿玉台末	「縦部欠損。縦位・横位につけられた条線文(5本筋による)地に、太い隆帯が逆「S」字状につけられ、その中間部から隆帯が波状に下りる。結合部は突起している。この文様が3単位あり。」
173	SK389 床 面	(32.5) 41.2	深 鉢 形	阿玉台末	口縁部の大部分欠損。口縫部に連続指圧文。口縫部は横位に、胴部は縦位にヘラナデ。
(17)	SK389 173より 上の面	18.5 22.5	深 鉢 形	加曾利EI	低い隆帯による渦巻文を伴う台形区画6単位。区画内繩文。胴部は縦文地に沈線による懸垂文7単位。沈線間は磨消。隆帯上はいねいなナデ。
175	SK392 床 面	(12.5)	鉢 形		口縫部大型片。隆帯X区画内に波状の沈線2条。隆帯及び胴部に繩文。胎土-石英(多)。
176	SK395A 床 面	12.0 6.7	小型 鉢 形	加曾利EI	口縫一部欠損。無文ナデ整形。肥厚した口縫。2つ並んだ孔が向かい合って2組。
177	SK395A 覆 土 内	21.5 (18.5)	深 鉢 形	阿玉台末	胴部下半欠損。3単位の波状口縫。山形把手に隆帯で目をモチーフした文様。中心部は畳のように突起。区画内には繩文地に波状の沈線。胴部は繩文施文。
178	SK404 床 面	(15.0)	深 鉢 形	阿玉台末	胴部片。隆帯で格円形に区画され、区画内は隆帯にそって有節沈線が2条。
179	SK404 覆 土 内	(24.0) (15.5)	深 鉢 形	阿玉台末	178と同一個体。口縫部のみ現存。孔が3方向あいた扇状把手が4単位つき、それから伸びる隆帯で格円区画を4単位。隆帯にそった内側に有節沈線が2条、その内側に波状の沈線が構位に2条。
180	SK407 床 面	(32.0)	大 型 深 鉢 加曾利EII		胴部大型片。縦位の縦文地に3本組の沈線による懸垂文が8単位。3本の沈線の間は幅広で磨消。

番号	出土遺構 位	口 径 高	器 形 期	特 徴
181	SK421 覆土内	(30.6) (15.5)	深鉢形 阿飞台末	口縁部大型片。降帯が横円区画をつくり、区画と区画は「X」字状につながり、つながり部は尖起。降帯の内側に爪形文がまわり、またその内側に波状沈線が横位に2条。折り返し口縁は横ナデ。胴部は無文でヘラ整形。
182	SK424 覆土中継	(16.2) (20.5) 7.5	器台形	一部欠損。無文でナデ整形。胸部に格円形の孔が4個。二次焼成。
183	SK427 覆土内	(10.0)	浅鉢形	口縁部欠損。外面は無文でヘラナデ。煤付着。胎土-石英・白雲母。
184	SK430	27.0 (23.0)	深鉢形 阿飞台末	胴部下半欠損。折り返し口縁部を含め、ナデ整形。浅い沈線が横位に2条。胎土-砂粒(多)
185	SK432 覆土内	(21.5)	深鉢形 加曾利EII	胴部下半欠損。縦位の纏文地に沈線による懸垂文(3本組直線と2本組波状が交互に6単位ずつ)、沈線間は磨消。
186	SK432 覆土上窓	(19.0)	深鉢形 加曾利EIC	胴部下半欠損。口縁部は降帯による渦巻文を作ら四角形状区画が5単位。区画内には纏文。胴部は纏文。
187	SK435 床面	(18.0)	深鉢形 加曾利EII	胴部下半欠損。口縁部は低い降帯による渦巻を作ら区画が7単位。胴部は纏文地に沈線による懸垂文(2本組直線と3本組直線が交互に4単位ずつ)、沈線間は磨消。
188	SK443 床面	(13.8)	浅鉢形 阿飞台末	口縁部大型片。無文でナデ整形。内外面に朱塗痕。胎土-石英(多)
189	SK448 覆土内	(15.5)	深鉢形	口縁部欠損。縦位の纏文地に2~3本組の沈線による文様区画が4単位。
190	SK458 床面直上	(20.5)	深鉢形 阿飞台末	胴部下半欠損。口縁に降帯がまわり、そこに「V」字形の尖起が3単位。その下に連続爪形文が2条まわり、その間に浅い沈線が1周。胴部はどこでこどまばらに纏文施文。胴部に工具で連続押圧された降帯が横位に1周。降帯にそって爪形文を施文。
191	SK458 床面	(8.0)	深鉢形	底部付近のみ現存。縦位の纏文。
192	SK458 床面	(29.5) (25.0)	深鉢形 阿飞台末	口縁部大型片。折り返し口縁で、口唇部にスリット。無文で縦位のヘラナデ。補修孔を途中まであけた痕跡。
193	SK458 床面	(24.8) (11.0)	深鉢形 阿飞台末	口縁部大型片。口縁に降帯が1周。そこに「V」字形の尖起。纏文が降帯をはじめ全体に施文。
194	SK474 覆土内	(13.0)	大型深鉢形 加曾利E1b	口縁部大型片。口縁付近は無文で交瓦刺突文が1条1周、その後に斜位の沈線。
195	SK476 覆土内	(21.0) (15.2)	鉢形 加曾利EIII	口縁部大型片。縦位の纏文地に2本の沈線(沈線間は磨消)による円弧文・渦巻文。
196	SK480 覆土内	(18.0)	深鉢形	胴部下半欠損。纏文施文。胎土-石英(多)。
197	SK482 床面	(20.0) (13.0)	深鉢形 加曾利E1b	胴部以下と3個つくと思われる犯子が欠損。口縁部に降帯による逆「S」字状文が3単位。その間は幅広の沈線を斜位に施文。胴部は纏文地に沈線による懸垂文。
198	SK484 覆土内	(31.9) (17.0)	深鉢形 加曾利E1a	口縁部大型片。口縁部に2条の降帯が円弧状について、その間は横位の沈線。胴部は纏文地に降帯を縦位、横位に貼り付け。

番号	出土遺構位置	口縁高	器形期	特徴
199	SK484 床面	(9.0)	深鉢形	底部付近のみ現存。無文でヘラ整形。
200	SK484 覆土内	(26.0)	深鉢形 加曾利E	口縁部欠損。胴部上半分は縄文。下半分は無文ヘラ整形。
201	SK492 床面	(29.0) (15.2)	深鉢形 阿玉台末	口縁部大型片。肥厚した口縁にスリット。その下に、断面「V」字形の沈線を施し、所々に隆筋を「M」字状に貼り付け。胴部は無文。覆土・石英。
202	SK501	(15.0) (18.9)	深鉢形 阿玉台末	口縁が肥厚している。外面はでこぼこでナデ整形。
203	SK502 覆土内	(19.0)	深鉢形 阿玉台末	胴部のみ現存。胴部上部に隆筋が一周。そこから隆筋が曲がりくねって中心部で渦巻いて突起し、底部へ下りる。この文様が3単位。まわりは浅い沈線を複数施す。胎土・石英。あるいは。
204	SK505 覆土内	(12.8)	深鉢形 加曾利E	胴部上半欠損。縄文を施してあるが摩滅。
205	SK506 覆土内	(13.0) 15.7	深鉢形 加曾利EIII	縁部欠損。口縁のまわりは無文で、その下は横状工具による縦位の柔線文。
206	SK511	(14.2)	深鉢形 阿玉台末	胴部上半欠損。ヘラナデ整形された上に3本単位の沈線を縦位に施す。胎土・石英・白雲母(多)。
207	SK514 覆土内	(25.0) (20.0)	深鉢形 加曾利Elb	口縁部のみ現存。口縁付近ナデ整形。頭部に太い隆筋がまわり、角形の突起が5単位。胴部は縦位の縄文。
208	SK517 覆土内	(56.0) (13.5)	浅鉢形 阿玉台末	口縁から胴部にかけ一部現存。折り返し口縁。無文ナデ整形。胎土・石英(極多)。
209	SK520 覆土内	16.5 (25.5)	深鉢形 加曾利EIII	底部欠損。縄文を全面に施す。くびれ部に横位の沈線が2条まわり、下部には、沈線による連弧状文。
210	SK520 覆土内	(25.5)	深鉢形 加曾利EIII	口縁部大型片。口縁部に横円区画。区画内に縄文。区画と区画の間に退化した渦巻文。胴部は縄文地に3本組の沈線による懸垂文。沈線間は磨消。
211	SK523	21.0 (19.0)	深鉢形 勝坂	胴部下半欠損。口縁付近は無文でナデ整形。頭部に向かって横状把手が2個。胴部上部にはほりの深い沈線による口と鼻をモチーフしたと思われる文様が2単位。胎土・石英・白雲母(多)。
212	SK556 覆土上層	(36.0) 13.3	浅鉢形 阿玉台末	口縁部欠損。波状口縁。無文で、ナデ整形。胎土・金雲母・石英(多)。
213	SK558 覆土内	(5.5)		底部付近のみ現存。無節縄文を施す。胎土・砂礫(多)。
214	SK567A 床面	(29.0) (27.0)	深鉢形 加曾利Elb	胴部下半欠損。環状把手が4個。口縁部に隆筋による逆S字状文が4単位。隆筋のまわりは無文。胴部は縄文地に直線による懸垂文(3本組の直線と波状とが交互に)。胎土・石英(極多)。
215	SK573 床面	(31.5) 37.9	深鉢形 加曾利Elc	縁部下半欠損。口縁に隆筋が1条まわる。その下部は、縄文を全面に施す。
216	SK583 床面	(26.5) (28.0)	深鉢形 阿玉台末	胴部下半欠損。口縁部に「S」字状の把手がつく。胴部には無節縄文地に隆筋が上から下へ「コ」の字をえがき貼り付く。隆筋にそつて幅広の有筋沈線を施す。隆筋の間には横位に波状の沈線。

番号	出土遺構 位	口 径高 (8.7)	器 形 期	特 徴
217	SK618	23.2 (8.7)	深鉢形 加曾利E	口縁部のみ現存。伏せた状態で出土。口縁まで縄文を施文。胎土-細かい石英。
218	SK623 復土内	(15.0) 16.0	深鉢形	縦に半分のみ現存。縦位の縄文を間隔おいて施文。胎土-石英。
219	SK643 床面	(33.0) (17.0)	深鉢形 加曾利Elb	口縁部大型片。波状口縁。隆帯が渦巻状につけられ、その間に斜位の沈線文を施文。胴部には縦位に隆帯が間隔をおいてつけられ、その間に横位の沈線文を施文。
220	SK643 床面	(60.0) (17.5)	大型深鉢形 加曾利Elia	口縁部大型片。口縁部側面にスリットのついた耳状の把手。把手と把手の間には、横位の交互刺突文、縦位の沈線文を主体とする文様を施文。肥厚している口縁は無文。
221	D4h1	4.5 2.7	手捏土器	無文。胎土-細かい砂粒。焼成良。
222	C3b3		注口土器 後	口縁部大型片。縄文施文、磨消しあり、ボッチつき。
223	D3g6	(12.7) 17.9	小型深鉢	口縁部の半分欠損。口縁部に小型の小把手が向かい合って2個。他に少しだけのが2個つくと思われる。外縁は無文でヘラ整形。
224	E316	20.6 27.4	深鉢形 加曾利E	縦位の縄文施文。
225	D3b4	(22.2) 5.3	器台形	縦のみ現存。胴部に孔が並んで2個。胎土-石英・白雲母(多)。
226	E3g1	50.5 (22.0)	深鉢形 加曾利Ell	口縁部のみ現存。口縁を下に直立の状態で出土。渦巻文を伴う梢円状区画が8単位で、区画内は縄文。胴部は縄文地に3本単位の沈線による懸垂文を施文。
227	出土地 不明	20.5 23.0	深鉢形 加曾利EIII	底部欠損。口縁部は隆帯による四角形区画が5単位。区画内は無文で、隆帯ともにナデ整形。胴部は縦位の条線文。
228	出土地 不明	(15.0)	深鉢形 阿飞台末	胴部のみ現存。縦位の縄文を施文。胎土-石英(極多)
229	出土地 不明	(15.5)	深鉢形 阿玉台末	胴部上半欠損。隆帯文の内側に横位の波状の沈線が3単位。縦位に1単位。綱代軋。胎土-石英。焼成良。
230	出土地 不明	11.5 12.6	深鉢形 加曾利E	肥厚した口縁に小穴起。ナデ整形。胴部は縦位の縄文施文。
231	SK6 復土内	(4.3)	小型深鉢形	胴部上半欠損。太い沈線を縦位に施文。

(2) 土器片錐(図191)

遺構内から21個出土した。土器片を利用しており、ほとんどのものは無文で、側縁には向かい合ってきざみがはいっている。縁の所は研磨されている。なお表の中の長さとはきざみ間の長さである。

土器片錐一覧表

番号	出土遺構	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	特徴	番号	出土遺構	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	特徴
1	SI 001	2.65	2.4	5.0	無文。 縁を円形に研磨。	12	SK 193	2.9	3.0	10.0	無文。 全体に研磨。
2	SI 006	2.7	3.1	11.0	無文。 縁を円形に研磨。	13	SK 199	2.6	2.9	9.0	無文。 縁を研磨。
3	SI 038	3.1	2.9	10.0	無文。 縁を研磨。	14	SK 242	2.5	3.4	10.0	沈線文あり。 縁を研磨。
4	SI 055	3.5	0.9	20.0	無文。口縁部削付。 縁を研磨。	15	SK 361	2.4	3.5	10.0	無文。 縁を研磨。
5	SI 055	3.6	1.0	25.0	有筋沈線施文。	16	SK 394	3.1	0.7	10.0	無文。 におい槽。
6	SI 081	3.8	1.0	20.0	無文。 縁を研磨。	17	SK 422	5.3	1.0	35.0	無文。 縁を研磨。
7	SI 092	2.5	0.7	7.0	無文。 縁を研磨。	18	SK 469	3.3	3.7	15.0	無文。 縁を研磨。
8	SI 099	3.0	1.0	20.0	無文。 におい褐色。	19	SK 505	2.5	0.8	10.0	無文。 全体に研磨。
9	SK 23	2.5	2.6	7.0	無文。	20	SK 518	3.3	0.7	14.0	無文。 縁を研磨。
10	SK 23	3.1	3.6	10.0	隆脊1本。 沈線2本施文。	21	SK 576	2.9	1.1	12.0	無文。 縁を研磨。
11	SK 154	3.1	3.4	13.0	無文。 縁を研磨。						

(3) 磨石(図192~196, 写62・63)

磨石は、ほぼ殆ど円形で上・下面が滑らかに研磨されたものが多い。また、上・下面の中央に凹形の凹みのできているものが多く、上・下面のほか側縁など6面に凹みのできているもの(図193~20)もある。また、くぼみに至らず、わずかに摩滅のはじめたもの(図195~50)もある。側縁はほとんどのものがざらざらで、手に持ちやすいようになっている。以上のことから、磨石の凹みは木の実などの殻を割っているうちにできたと考えられ、ハンマーのような使い方もされていたのである。

実測図には側縁の形状と合わせて、上・下面にできている凹みの形状を表現するため側面図の中に断面形状を点線で表わした。

磨石一覧表

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
1	SI003	(10.2)	9.0	3.8	440	安山岩	一部欠損。上面は凸形に、下面はたいらに研磨。中央部に凹み。側縁はざらざら。
②	SI009	12.0	8.5	5.9	720	安山岩	上・下面是滑らかで光沢があるが、側縁はざらざら。上面の中央部に敲打痕。
③	SI009	8.5	8.5	4.7	408	安山岩	上・下面滑らかで光沢あり。上面に凹み。
④	SI054	9.1	5.9	3.9	347	安山岩	上・下面是滑らかで光沢あり。側縁に敲打痕。
⑤	SI069	14.0	7.5	4.5	680	安山岩	上・下面是滑らかで光沢あり。
⑥	SI092	8.6	7.0	4.5	380	安山岩	上・下面の中央部に凹み。
7	SI093	15.3	8.1	5.5	840	安山岩	上面は並んで2つの凹み、下面是上面より深い凹み。側縁はざらざら。
⑧	SI093	11.9	6.6	4.7	590	安山岩	上面に凹みがあり、下面是滑らか。側縁はざらざら。上端に剝離痕。
⑨	SI094	10.0	8.3	5.0	606	砂岩	上・下面是凸形で、中央部に凹み。側縁はざらざら。
⑩	SI096	12.5	7.5	4.5	565	砂岩	全面滑らかで部分的に光沢あり。
11	SI097	(5.5)	6.55	3.0	150	安山岩	半分欠損。上・下面に深い凹み。
⑫	SI101	10.5	8.5	4.0	535	砂岩	全面滑らかで光沢あり。上面に凹み。
⑬	SI103	12.0	9.0	5.0	759	砂岩	全面滑らかで光沢あり。上面に凹み、側縁に敲打痕。
14	SK27A	(7.9)	8.0	4.6	441	安山岩	半分欠損。上面は滑らかで側縁はざらざら。上端に摩滅痕。
15	SK31	(8.3)	6.5	4.7	350	安山岩	かなり破損。上・下面に凹み。側縁の一方は凹状に摩滅。
16	SK39	(9.8)	7.3	5.3	447	安山岩	一部欠損。各面に敲打による凹み。
17	SK165	(7.2)	7.4	4.1	324	安山岩	上・下面是滑らか。
⑯	SK166	(5.9)	5.3	3.4	*171	安山岩	側縁はかなり摩滅。
19	SK170	9.4	7.4	4.5	428	安山岩	一部欠損。上・下面の中央部に凹み。側縁はざらざら。
⑳	SK174	9.8	7.5	4.1	420	安山岩	全面(6面)の中央部に凹み。
21	SK182	(5.5)	5.6	4.2	168	安山岩	上・下面是滑らかで、中央部に敲打痕。
㉑	SK220	8.8	6.4	4.2	235	安山岩	かなり摩滅。
23	SK285	(6.5)	7.6	4.9	334	安山岩	4面の中央部に凹み。
24	SK285	(8.2)	7.5	4.5	335	安山岩	上・下面是滑らかになって中央部に凹み、側縁部はざらざら。

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 種	備 考
25	SK295	(8.7)	7.7	4.1	401	安山岩	半分欠損。上・下面是やや偏平で、中央部に梢円形の凹み。側縁はざらざら。
26	SK296	(5.5)	6.7	3.8	124	安山岩	全面に敲打痕。
27	SK309	9.5	7.0	4.4	400	安山岩	一部欠損。上・下面是滑らか。中央部に敲打痕。
28	SK341	(4.4)	6.5	4.7	186	安山岩	半分欠損。上・下面に凹み。側縁はざらざら。
㉙	SK341	8.6	5.0	4.0	245	安山岩	凹みは上面だけ。
㉚	SK342	9.5	7.5	4.4	460	安山岩	側縁は摩滅。床面出土。
㉛	SK347	9.3	7.0	4.7	410	安山岩	上・下面に凹みが並んで2個ずつ。側縁はざらざら。床面出土。
㉜	SK380	9.4	5.7	3.6	291	安山岩	上面中央部に敲打による凹み。側縁部に敲打による剥離痕。床面出土。
33	SK382	(7.2)	8.3	4.9	435	安山岩	上・下面に凹み。床面出土。
34	SK384	(6.0)	6.6	4.4	210	安山岩	上面・下面の中央部に敲打痕。
㉞	SK446	7.4	6.5	4.6	310	花崗岩	上・下面是滑らか。側縁はざらざらで敲打痕。
36	SK448	16.0	10.0	2.6	1090	花崗岩	上・下面是滑らか。側縁と上・下端に敲打痕。床面出土。
37	SK474	(8.7)	7.8	3.8	400	砂 岩	上・下面是滑らかで凹みあり。側縁はざらざら。
38	SK484	(7.3)	7.9	3.7	305	安山岩	半分欠損。上・下面是滑らかで側縁はざらざら。
㉙	SK527	11.4	8.4	4.3	675	安山岩	上・下面是滑らかで中央部に敲打のためと思われる凹みあり。側縁はざらざら。
㉞	SK561	10.3	7.0	4.4	425	安山岩	表面はでこぼこで上・下面の中央部に凹みあり。
41	SK628	(6.1)	7.2	4.8	310	安山岩	上・下面中央部に敲打痕。
42	SK631	9.0	(6.3)	3.6	260	安山岩	半分欠損。上・下面是滑らか。
㉛	SI003	13.7	9.1	5.5	893	安山岩	上面は滑らかで光沢あり。下面是ざらざら。上端と下端に敲打痕。
44	SI009	17.0	7.9	4.5	880	安山岩	全面滑らか。
㉞	SI010	7.4	5.7	2.8	150	安山岩	全面ざらざら。
46	SI016	(13.7)	9.8	5.0	1050	安山岩	一部欠損。偏平で側縁はざらざら。下面の中央に少し摩滅痕あり。
㉞	SI056	14.0	7.3	4.5	720	安山岩	上・下面是滑らかで光沢あり。側縁はざらざらしてて使用痕あり。
48	SI092	(9.3)	6.6	4.4	395	砂 岩	滑らかで部分的に光沢あり。
㉞	SI103	15.0	9.75	0.9	760	砂 岩	全面滑らかで部分的に光沢あり。
50	SK98	14.5	7.4	4.6	807	安山岩	上・下面是滑らかで上面に敲打痕。側縁はざらざら。

番号	出土遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
51	SK108	(9.2)	7.8	5.6	627	安山岩	1/3欠損。上・下面是滑らか。
52	SK174	(5.8)	(5.9)	4.0	215	安山岩	半分欠損。
53	SK283	11.2	9.9	6.0	1,050	安山岩	上・下面滑らかであり、上面は凸状。側縁はざらざら。床面出土。
54	SK295	(6.3)	8.0	2.8	35	安山岩	半分欠損。偏平な石。
55	SK311	6.5	4.7	3.6	500	安山岩	卵形で全面滑らか。上端部に敲打痕あり。
56	SK331	(8.5)	6.8	3.6	280	安山岩	かなり欠損。上・下面にわずかな凹み。
57	SK338	(6.1)	5.7	2.6	10	安山岩	かなり欠損。
58	SK340	8.9	5.0	3.8	270	チャート	自然石をそのまま利用したものか。床面出土。
59	SK391	8.6	7.1	4.1	360	安山岩	河原石を滑らかにしたものか。床面出土。
60	SK446	12.7	9.7	4.8	732	砂岩	上面は滑らかで、下面は平ら。側縁は敲打のためか欠損あり。
61	SK477	8.8	7.1	4.7	450	砂岩	使用のためと思われる側縁痕。
62	SK557	(5.8)	5.8	3.8	190	花崗岩	半分欠損。
63	SK592	6.1	6.1	3.7	191	安山岩	上・下面滑らか。上面は黒色で、黒色顔料付着か。

(4) 磨製石斧(図 197 ~ 199, 写 64)

磨製石斧は、ほとんどのものが蛤刃をもつもので、刃に使用痕のあるものが多い。側縁は偏平に研磨されているものが多い。脇部だけのもの、刃部だけのもの、刃こぼれのあるものが大部分である。その他、小型で石斧全体が偏平なもの(図 199 - 36・44・45)があり、皮なめしなど特殊な用途に使用されたものと考えられる。安山岩で作ったものがほとんどである。

磨製石斧一覧表

番号	出土遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
1	SK 75	(12.5)	4.9	3.1	310	安山岩	滑らかに研磨。刃こぼれあり。
2	SK 46	11.0	4.8	2.2	210	安山岩	刃こぼれあり。上端部は摩滅。
3	SK424	10.3	4.8	2.2	189	安山岩	剥離痕。刃部に縦方向にすじがびっしり。床面出土。
4	SK 52	9.6	4.4	2.7	200	安山岩	刃部が丸く摩滅している。上端も摩滅。
5	SK 13	(10.2)	5.1	3.2	267	砂岩	脇部の一部欠損。刃こぼれあり。側縁がたいら。
6	SK331	9.1	3.4	1.8	94	安山岩	刃部の一部欠損。側縁がたいら。全面滑らかに研磨。
7	SK 31	(5.9)	5.1	2.7	150	安山岩	半分欠損。側縁がたいらに研磨。刃こぼれあり。

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 質	備 考
⑧	SK 78	(8.7)	3.7	1.8	95	安 山 岩	側縁・上端はたいらに研磨。刃こぼれあり。
⑨	S1016.	8.4	3.6	1.7	90	泥 岩	全体に少し彎曲。表面は滑らかに研磨。
10	SK565.	(8.2)	5.1	2.7	215	安 山 岩	表面は滑らかに研磨。刃こぼれあり。
11	SI027	(9.4)	5.4	2.2	220	砂 岩	半分欠損。側縁をたいらに研磨。刃こぼれあり。
12	SK273	(8.6)	4.3	3.1	200	安 山 岩	側縁はざらざら。他はよく研磨され滑らか。
⑯	SI009	10.4	3.8	1.5	90	フォルン フェルス	粗雑。よく研磨されていない。刃こぼれあり。
14	SK558	(5.0)	(3.9)	2.9	53	安 山 岩	刃部のみ現存。刃こぼれあり。側縁をたいらに研磨。
15	SK311	(4.2)	(4.4)	1.8	26	安 山 岩	よく研磨され滑らか。
16	SK344	(7.7)	4.5	2.8	170	安 山 岩	全面がよく研磨され滑らか。刃部に使用痕。
17	SK 23	(5.6)	4.4	1.3	53	安 山 岩	脛部の一部欠損。脣部が偏平で、側縁も刃部のように研磨。刃部に使用痕あり。
18	SK391	(9.5)	4.9	3.0	240	安 山 岩	刃部欠損。側縁部はたいらで、全面に研磨。
19	SK302	(5.0)	5.5	3.3	80	安 山 岩	全面研磨され滑らか。側面はたいらに研磨。
20	SK 90	(4.0)	3.5	2.8	50	安 山 岩	表面はよく研磨され滑らか。表面は二次的な剝離が目立つ。刃部のみ現存。
21	SK557	(4.3)	4.3	2.6	60	安 山 岩	刃部のみ現存。刃こぼれあり。表面は滑らかに研磨。
22	SK202	(5.2)	4.6	1.8	23	安 山 岩	刃先にぎざぎざがあり使用痕か。
23	SK 36	(5.0)	3.8	2.1	57	安 山 岩	脣部破損。
24	SK489	(5.3)	(5.4)	2.7	64	花 崗 岩	刃部のみ現存。滑らかに研磨。
25	SK 35	(4.5)	(5.0)	1.6	40	安 山 岩	刃部のみ現存。
26	SK 27	(3.1)	3.5	2.1	30	安 山 岩	刃部のみ現存。表面は滑らかに研磨。
27	SK321	(2.8)	4.5	1.6	30	安 山 岩	刃部のみ現存。
28	SK 71	(3.6)	5.2	2.7	50	安 山 岩	刃部のみ現存。使用痕あり。
29	SK 27	(3.0)	(4.0)	1.8	30	安 山 岩	脣部片である。上・下面は偏平。
30	SK226	(4.6)	2.4	0.9	24	安 山 岩	表面はよく研磨されており滑らか。
31	S1003	(7.9)	5.2	(1.4)	90	安 山 岩	脣半分欠損。
32	SI004	(5.7)	5.4	3.1	137	安 山 岩	脣部欠損。刃こぼれあり。側縁はたいら。表面は滑らか。
33	SK477	(4.9)	4.7	2.9	43	砂 岩	刃部のみ現存。滑らかに研磨。
34	SK611	(7.0)	3.9	2.8	125	安 山 岩	刃部欠損。側縁はたいら。
35	SK 85	(6.7)	3.8	1.3	50	安 山 岩	

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
36	SK 27	(7.4)	(4.1)	1.6	55	安山岩	刃部欠損。
37	SK315	(14.5)	5.8	3.3	301	安山岩	刃部の方へいくほど幅がせまい。刃こぼれ・剥離あり。
38	SK199	(8.2)	4.4	2.0	104	安山岩	表面は滑らかに研磨。刃部は欠損。
39	SK 21	(2.5)	1.8	0.8	6	安山岩	洞部の一部のみ現存。
40	SK 48	(3.8)	4.6	3.0	74	安山岩	刃部近くの破片。
41	SK182	(5.5)	3.9	2.7	80	安山岩	表面はよく研磨され滑らか。側縁をほたいらにカット。洞部のみ現存。
42	SK261	(5.2)	2.8	1.2	33	安山岩	表面はよく研磨され滑らか。
43	SK 56	(5.0)	3.7	1.5	50	安山岩	刃が磨耗していなら。
44	SI 096	(6.4)	3.0	0.7	26	砂岩	扁平であるが、側縁もたら。
45	不明	4.3	1.7	0.3	9	安山岩	片刃。

(5) 敲 石(図200)

磨石と区別のつかないものもあるが、たたくだけに使われたと考えられるものを敲石とした。
使いやすい自然の石をそのまま使ったものがほとんどで、上・下端に摩滅が見られる。

敲石一覧表

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
①	SI 094	14.2	5.7	4.5	495	安山岩	河原石か。上・下端に敲打痕。
2	SK 23	11.8	7.1	4.3	500	砂岩	欠損。SK 27 出土のものと接合。全面滑らか。
③	SK 25	8.4	5.4	2.9	207	安山岩	自然石を研磨。火を受けた痕跡。
4	SK 27	(9.8)	6.1	5.3	430	安山岩	一部欠損。
5	SK 27	(9.9)	(5.4)	(2.9)	160	安山岩	一部欠損。荒い剥離あり。
⑥	SK 31	17.3	7.5	6.6	1,090	安山岩	上・下端に敲打痕。
⑦	SK 35	11.5	5.7	4.9	550	安山岩	上・下端に敲打痕。上面と側縁にわずかな凹み。
⑧	SK 48	9.6	6.2	3.8	332	安山岩	上・下面に敲打痕。河原石か。
⑨	SK 77	11.8	6.3	4.8	535	安山岩	河原石か。敲打痕あり。
10	SK341	(12.1)	8.9	(5.3)	795	安山岩	半分欠損。河原石か。
11	SK372	(10.8)	6.1	2.9	290	安山岩	一部欠損。
12	SK424	(10.4)	5.6	3.4	300	安山岩	上端と下端にわずかに摩滅痕。

(6) 石皿(図 201～206, 写真 65～2～4)

安山岩と花崗岩のものがあるが、花崗岩のものは風化され、かなりぼろぼろになっている。出土したものは全部欠損しており、保存のよいもの(図 204～9)でも半分程度しか残っていない。皿部のある上面のふちや下面には円錐形の凹みがたくさんある。平面形状は楕円形になるようである。石皿いわゆる石として転用されたもの(図 201～1)もある。

石皿に完形品がないこと、下面の凹みが皿の機能を破壊している例(図 203～8, 図 204～10)から、石皿は、木の実を粉にする台として使われているうちに破損し、それから、木の実をつぶす台として凹みがつけられたものと考えられる。完形品が出土しないのは、他に持ちさられたのであろうか。

石皿一覧表

番号	出土遺構	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
1	SI038	24.0	30.0	9.0	6,800	安山岩	欠損。炉石に転用。
2	SI030	24.2	21.6	11.5	7,680	花崗岩	欠損。風化されボロボロ。
3	SI038	27.5	21.5	6.2	7,880	花崗岩	欠損。上面は滑らかで、下面は凹みがびっしり。
4	SI086	(21.1)	19.0	8.2	4,300	花崗岩	欠損。上面のふちに凹み。下面にびっしりと凹み。皿部の傾斜は急。
5	SK78	(14.7)	(17.6)	(9.6)	2,150	安山岩	欠損。皿部の面に凹み。裏面に凹み。
6	SI061	(15.2)	(12.5)	(9.4)	1,500	安山岩	欠損。下面に凹みあり。
7	SI080	(24.1)	(19.0)	(7.2)	4,000	花崗岩	欠損。かなり風化し、ボロボロ。上面のふちと下面に凹み。
8	SK372	(36.3)	(15.2)	(8.5)	4,750	花崗岩	欠損。上面のふちと下面にびっしり凹み。皿部の一帯へこんだ所は、下面に接するほど。
9	SK326	(21.7)	(19.8)	(6.4)	2,280	安山岩	欠損。楕円形になると思われる。皿部のまわりに凹み。下面は偏平で凹みがびっしり。床面出土。
10	SI028	(27.0)	(18.5)	10.6	6,000	安山岩	欠損。下面は偏平で凹みがびっしり。上面の皿部のまわりにも凹み。皿部のへこんだ所は、下面に接するほど。
11	SI055	(26.0)	(17.1)	(7.9)	3,840	花崗岩	欠損。上面のふちにも凹み。下面にもたくさんの凹み。かなり風化しボロボロ。炉石に転用。
12	SI080	(14.5)	(12.0)	(11.2)	1,830	安山岩	欠損。炉石に使用。側縁に凹み。
13	SK503	(14.2)	(13.3)	(8.3)	1,160	安山岩	欠損。下面に凹み。床面出土。
14	SK99	(12.0)	(10.6)	8.0	1,350	花崗岩	欠損。上面の皿部と下面に凹み。石皿を凹石に転用したものか。
15	SK398	(11.4)	(11.9)	6.4	1,210	花崗岩	欠損。風化されボロボロ。
16	SK484	(10.5)	(10.2)	4.1	315	安山岩	欠損。床面出土。

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
17	SK312	(13.2)	(12.2)	(5.1)	1,150	安山岩	欠損。偏平な石で、皿部の傾きはゆるやか。下面のはっきりした凹みは1個だけ。床面出土。

(7) 凹 石(図207)

石に凹みのあるもので、石皿や磨石でないものを凹石とした。板状で片面に凹みのあるもの(図207-4・6), 6面体でどの面にも凹みのあるもの(図207-2)がある。

凹石一覧表

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
1	SK319	(21.6)	(14.8)	(5.0)	2,200	砂岩	片面に円錐状の凹みが7個。ボロボロでくずれやすい。床面出土。
2	SI008	(9.9)	(9.6)	(6.6)	322	安山岩	上・下面に凹み。
3	SK292	(20.7)	(10.0)	6.6	1,800	砂岩	欠損。板状のもの。上・下面に凹み。
4	SK80	(12.5)	(13.8)	3.9	1,290	花崗岩	欠損。板状のもので上・下面是たいらで凹み1個。
5	SI099	(11.4)	9.3	4.3	774	雲母片岩	欠損。板状のもので上面に円錐形の凹みが2個、1個は浅い。
6	SK39	8.7	9.7	5.1	754	砂岩	欠損。上面に凹みが1個。かなり摩滅。
7	SK36	7.6	6.3	4.4	236	砂岩	金雲母が多量に含まれ、もろい。

(8) 石棒等(図208、写65-1)

1は本遺跡最大の石棒で石引い炉の石として使われていた。凹みはその時できたものか。2は4面がたいらになっており、台石として使われたと考えられる。3~5は用途等不明である。

石棒等一覧表

番号	出土遺構	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
1	SI061	(49.0)	17.1	14.1	12,900	花崗岩	欠損。火を受けかなり摩滅。炉石に転用。
2	SK465	(11.8)	15.5	12.2	3,700	安山岩	欠損。四面に刷磨痕。床面出土。
3	SK71	(6.1)	3.7	3.1	120	安山岩	欠損。
4	SK52	5.0	1.4	0.5	7	安山岩	偏平で滑らかに研磨。
5	SK2	(5.5)	1.5	1.9	26	泥岩	欠損。断面四角形で、四面とも滑らかに研磨。

(9) その他の遺物

(1) 土 偶(図 209 - 1・2, 写 68 下段 - 4・9)

左足だけ現存のものと、頭部だけ現存のものの 2 点が出土している。頭部だけのもの(図 209 - 2)は、有節沈線で表現され、胎土に企芸母が多量に含まれていることから、阿玉台期のものと考えられる。

(2) 滑車形耳飾(図 209 - 3～6, 写 68 下段 - 5～7)

耳栓とも呼ばれ、耳朶に挿入するものであろう。すべて土製である。孔のあいている滑車形のもの 3 点と、孔が貫通していない漏斗形のもの 1 点が出土している。漏斗形のものには朱が塗つてある。3 は古墳時代の住居址から出土しているが、他に縄文式土器片が多数出土しており、縄文時代の遺物が流れ込んだと考えられる。

(3) 蟬節形玉器(図 209 - 9, 写 68 下段 - 3)

ほぼ中央部に一方向からあけたと思われる孔があいている。1 個だけ、住居址から出土した。

(4) 右製裝身具(図 209 - 8・10, 写 68 下段 - 1・2)

2 個出土しており、孔が 1 個、端にあけられている。ひもを通して首にかけられたものであろうか。

(5) 石 錐(図 209 - 12～15, 写 68 上段)

数点しか出土していない。無柄式のものと有柄式のものとが出ており、石質にはチャートのものと黒曜石のものとがある。実測図には無柄式のものしか載せなかった。

(6) 石 鍤(図 209 - 16)

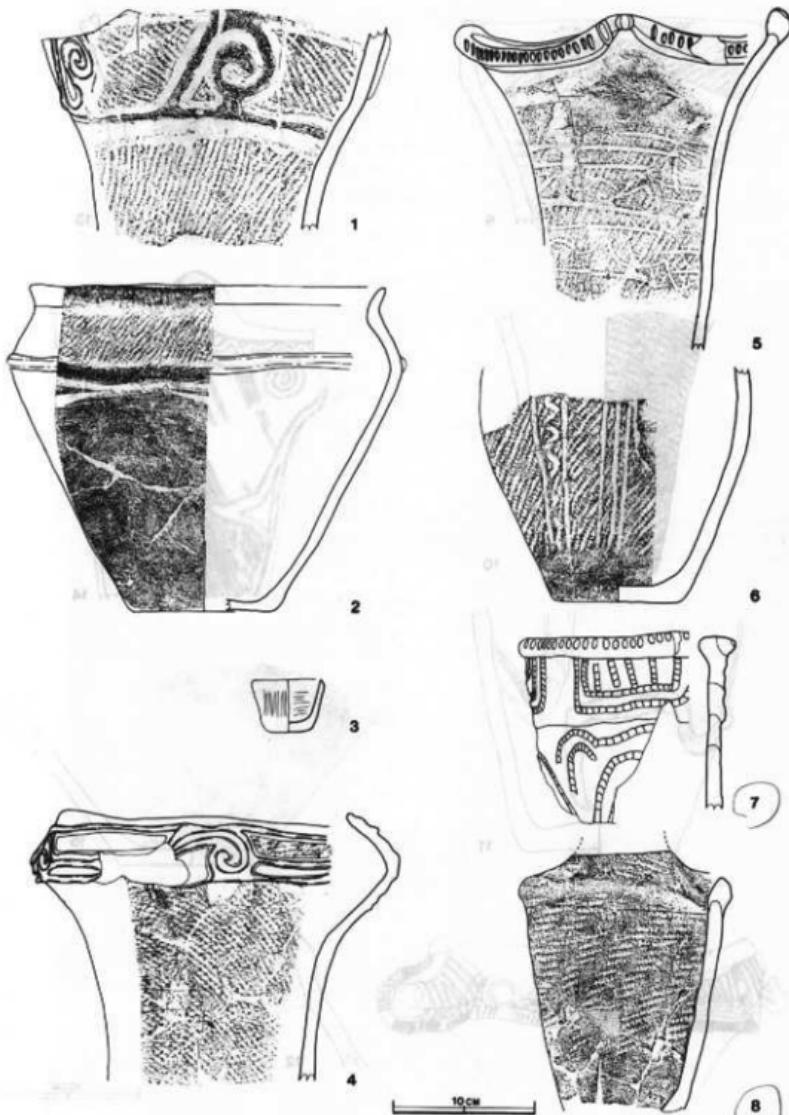
表土層から 1 個だけ出土した。偏平な楕円形の河原石の長軸の両端を打ち欠いたものである。

(7) 自然遺物(図 209 - 7, 写 66・67)

上壙内からパン状炭化物や木の実の炭化物が出土している。パン状炭化物(写 66 - 1・2)は凹形をしたもので、袋状土壙(SK59)から 2 個出土した。木の実の炭化物には栗(写 66 - 4・5)・クルミ(写 66 - 6・7)・ドングリ(写 67)等があった。

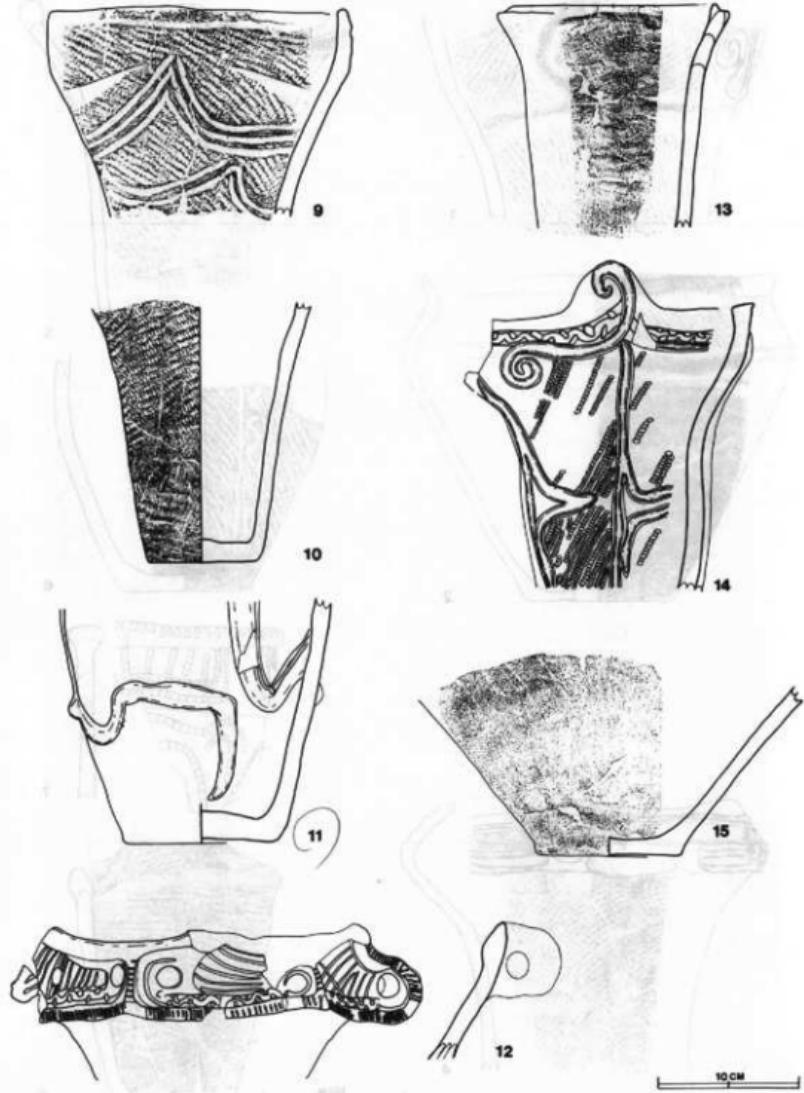
その他の遺物一覧表

番号	名 称	出土遺構	備 考
1	土 偶	SK534	左足のみ現存。足裏はヘラケズリ。その他はヘラナデ。胎土-雲母。色-橙色。
2	土 偶 不 明		頭部のみ現存。目は有筋沈線を渦巻状に施し。マユは陰帯で表わし鼻穴2個。頭部はへこんでいる。胎土-全雲母(多)。焼成良。色-橙色。
3	滑車形耳飾	SI1006	直径1.5cm、長さ1.4cm、重さ4g。無文。鼓形。孔は中心部へいくほどせまい。色-にぶい褐色。
4	滑車形耳飾	SI1029	直径1.7cm、長さ1.8cm、重さ6g。無文。鼓形。孔は中心部へいくほどせまい。色-橙色。
5	滑車形耳飾	SK243	直径2.2cm、長さ3.5cm、重さ10g。外面に朱塗り痕。孔は直徑5mmの突行き7mm。色-明赤褐色。
6	滑車形耳飾	C4 h14	最大径3.3cm、長さ2.5cm。貫通孔あり。
7	パン状炭化物	SK 59	最大長4.2cm、最大幅5cm、厚さ1.6cm、重さ10g。欠損。この他にも出土。
8	石製身具	SI1003	最大長5cm、最大幅3cm、最大厚0.4cm、重さ10g。両側からあけたと思われる貫通孔。一部欠損。石質安山岩。滑らかに研磨。色-黒。
9	螺旋形玉器	SI1027	最大長5cm、最大厚1.7cm、重さ35g。直徑7mmの貫通孔がだんだんすぼまつてき、反対側の直徑は4mm。白色に緑色がまじっている。石質ひすい。
10	石製身具	SI1096	長さ3.8cm、幅1.3cm、厚さ0.5cm、重さ5g。貫通孔あり。2つに破損。暗い黄緑色に黒色がまだらにまじった色。石質安山岩。
11	石 製 品	SK473	最大長5.4cm、最大幅3.4cm、厚さ0.9cm、重さ25g。欠損。端半なものでまがっている。欠損部に孔があれば勾玉であろうか。側縁に摩滅痕。
12	石 鏢	SI1001	復元長2.5cm、幅1.5cm、厚さ0.2cm、重さ0.5g。石質チャート、破損。色-灰色。
13	石 鏢	SI1072	長さ1.8cm、幅1.3cm、厚さ0.3cm、重さ0.4g。石質チャート。色-灰色。
14	石 鏢	SK 52	最大長2cm、最大幅1.4cm、最大厚0.4cm、重さ0.8g。石質黒曜石。
15	石 鏢	SK242	最大長1.6cm、幅1.5cm、厚さ0.3cm、重さ0.5g。石質チャート。粗糙な作り。暗緑灰色。
16	石 鏢 不 明		最大長7.8cm、最大幅6.5cm、厚さ1.8cm。石質安山岩。

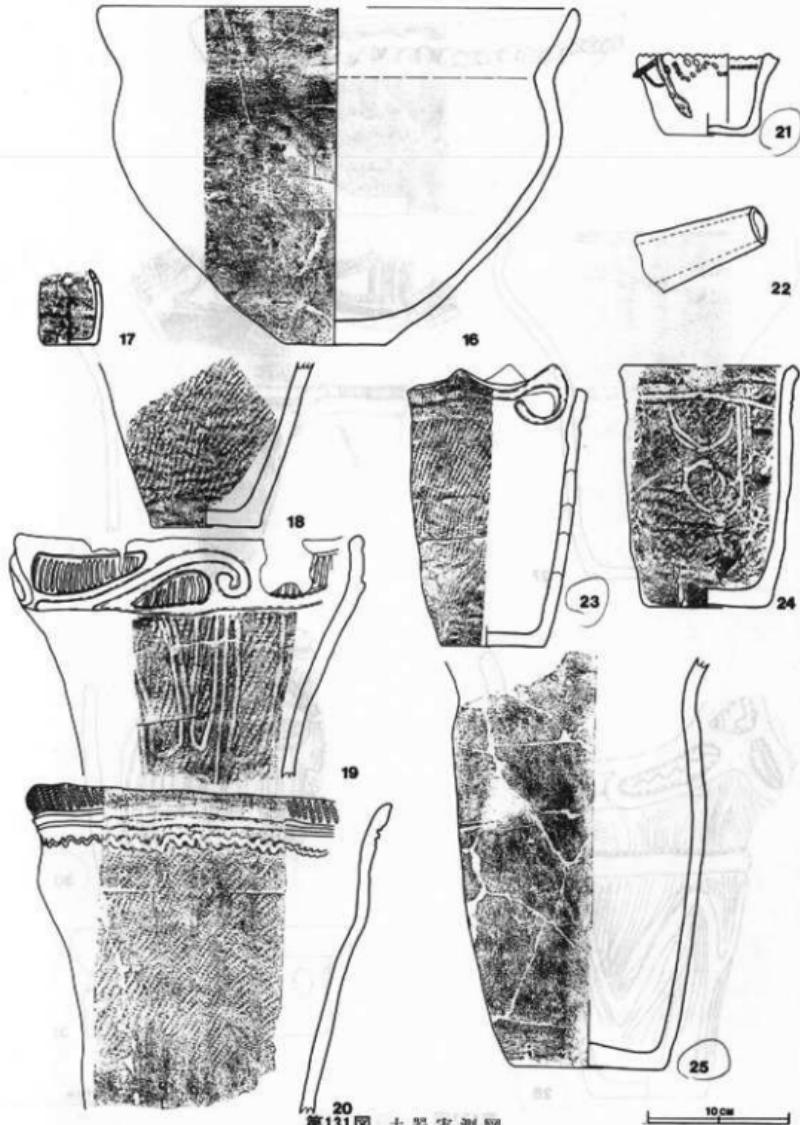


第129図 土器実測図

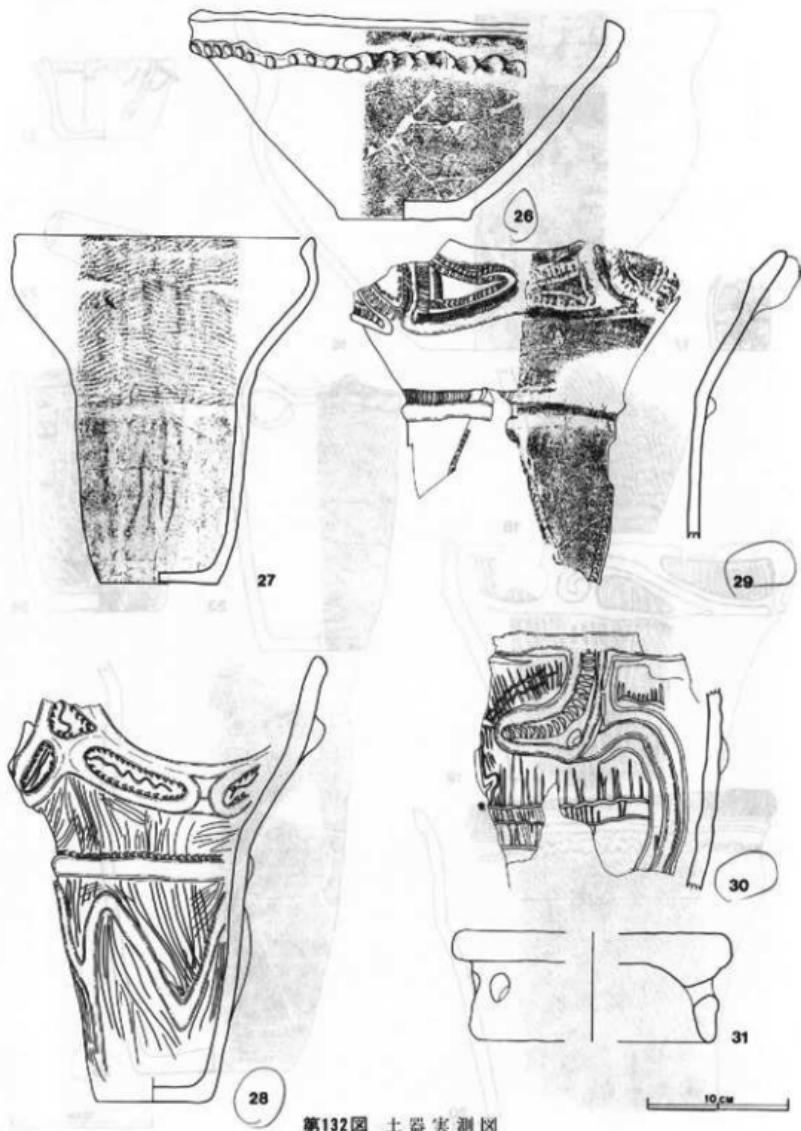
- 177 -



第130図 土器実測図



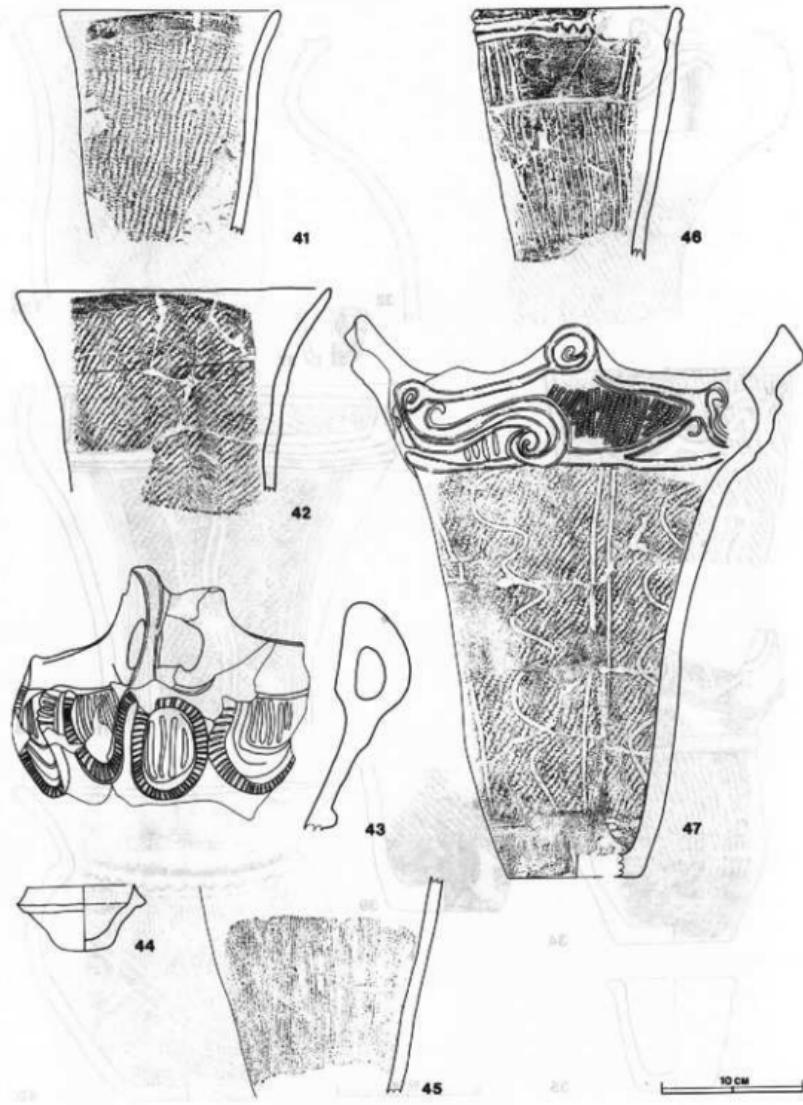
第131図 土器実測図



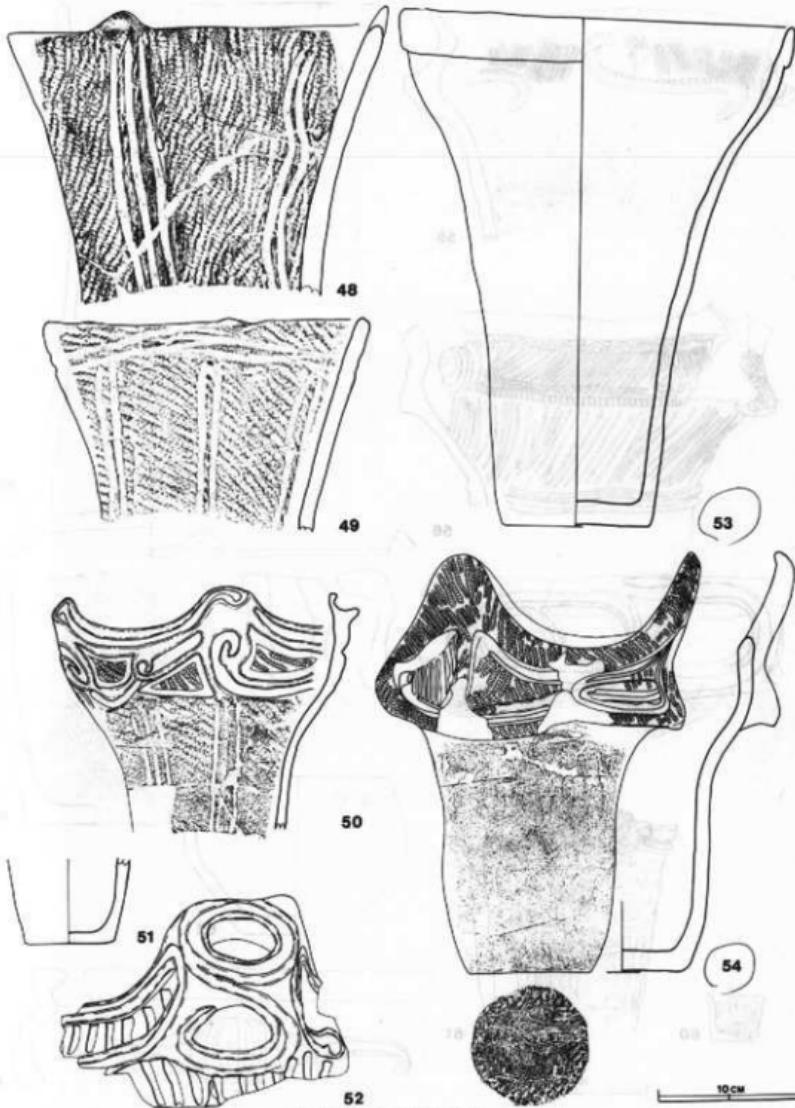
第132図 土器実測図



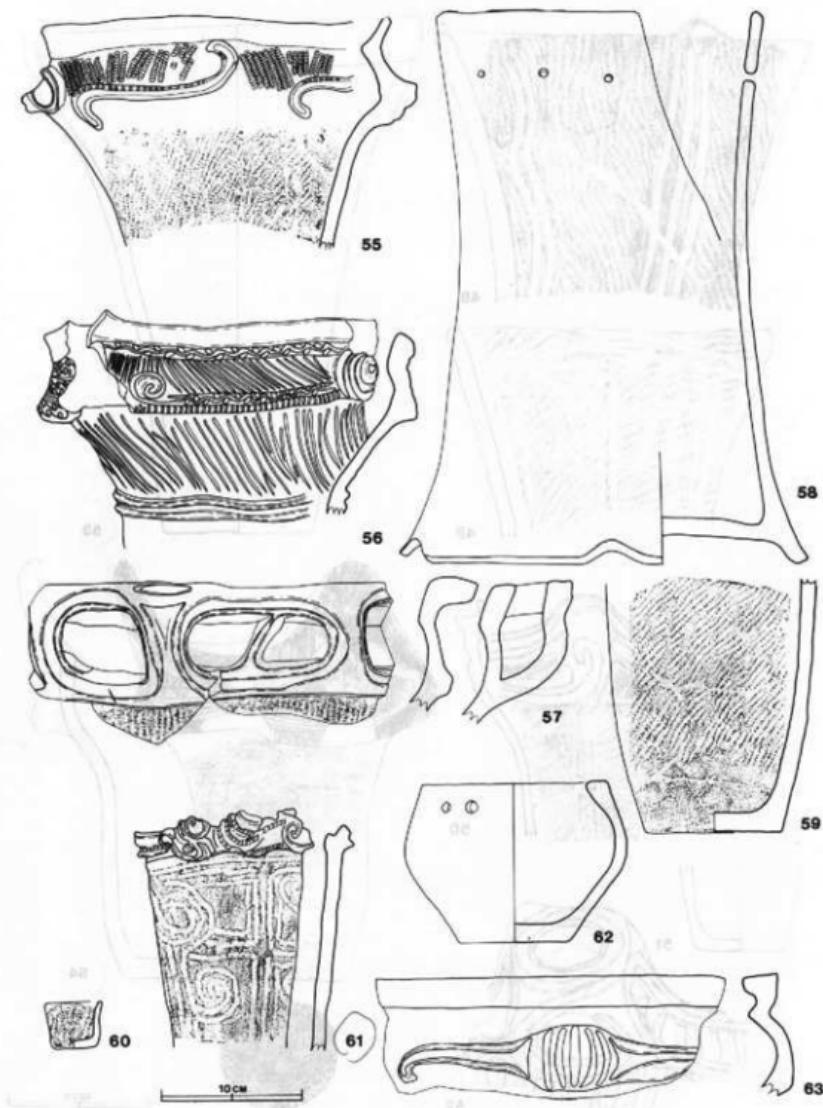
第133図 土器実測図



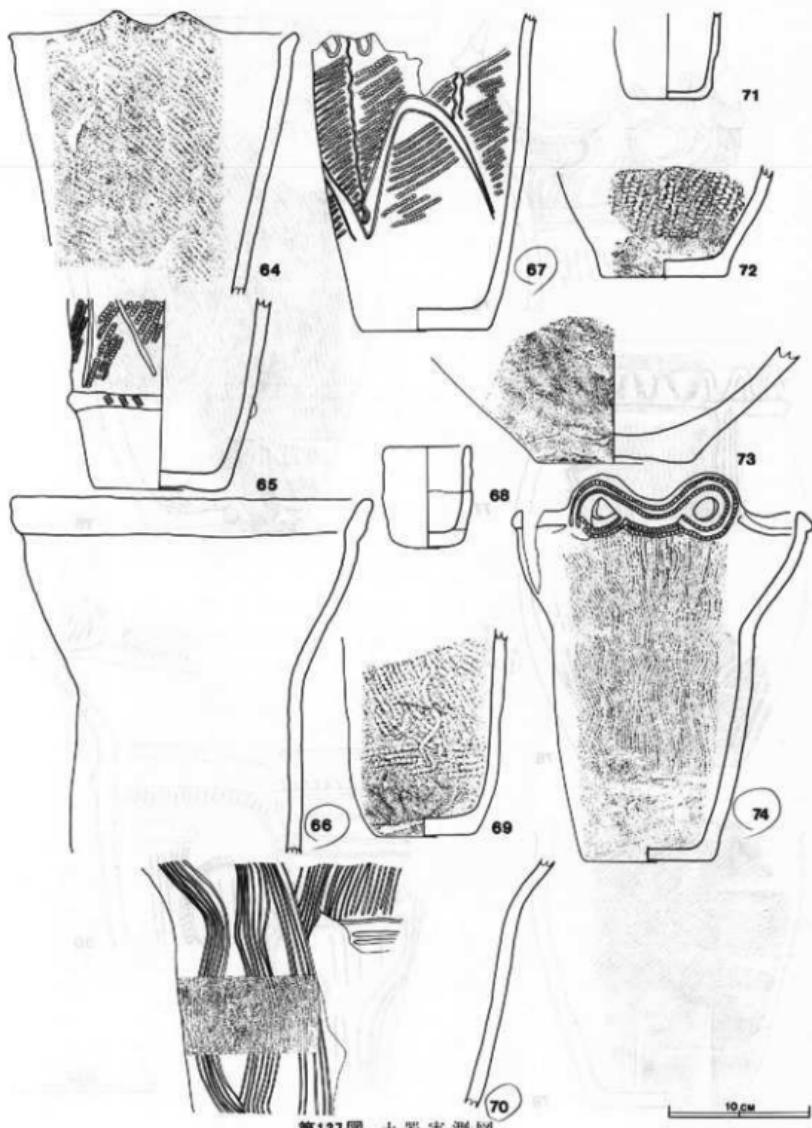
第134図 土器実測図



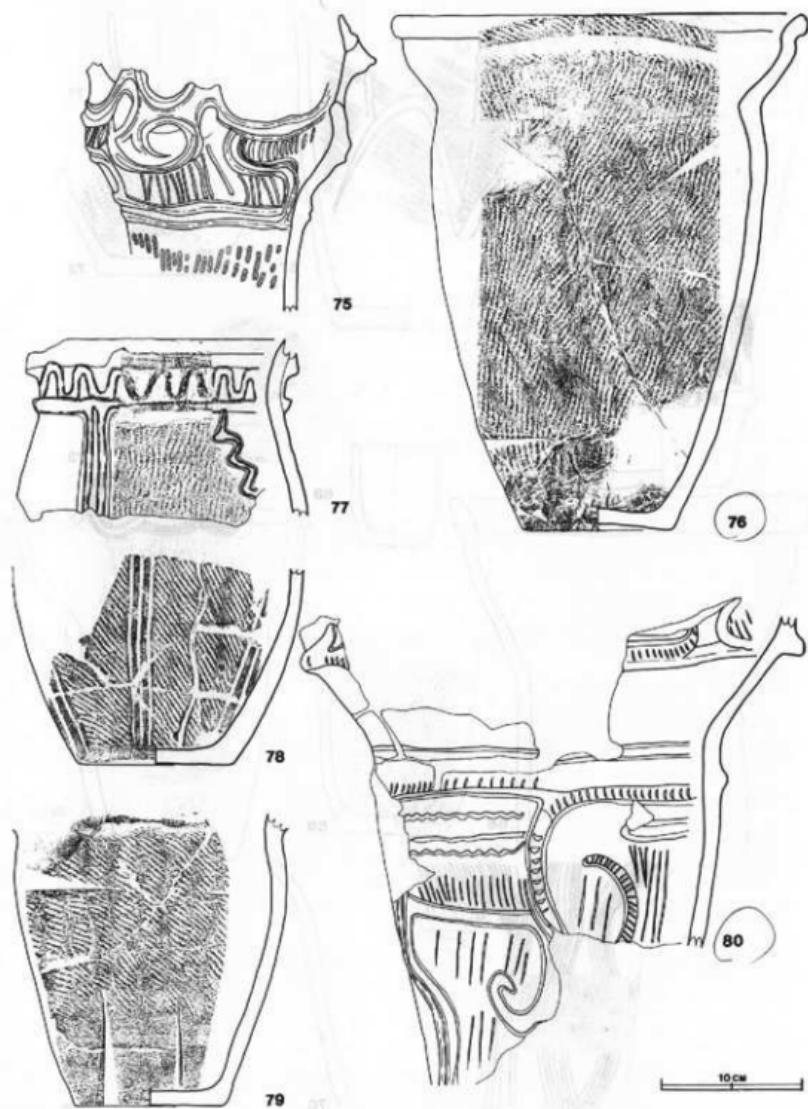
第135図 土器実測図



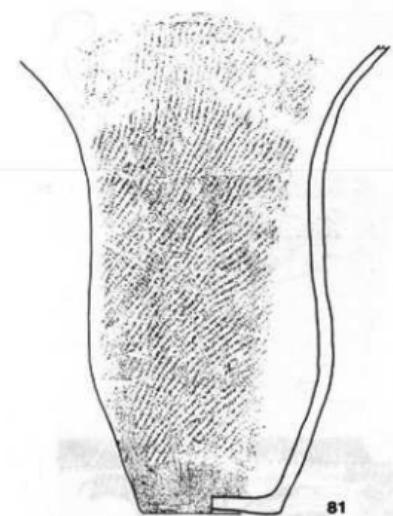
第136図 土器実測図



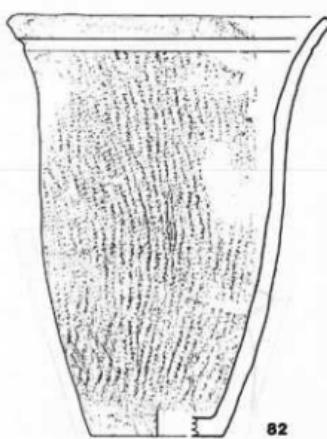
第137図 土器実測図



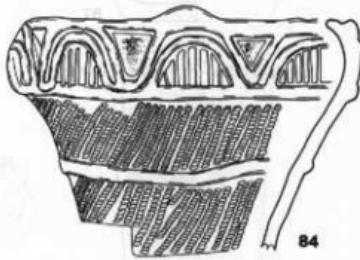
第138図 土器実測図



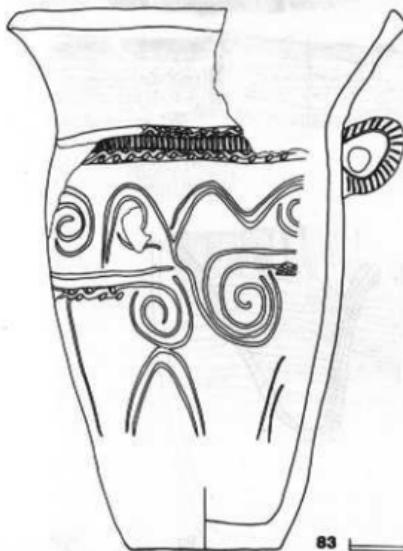
81



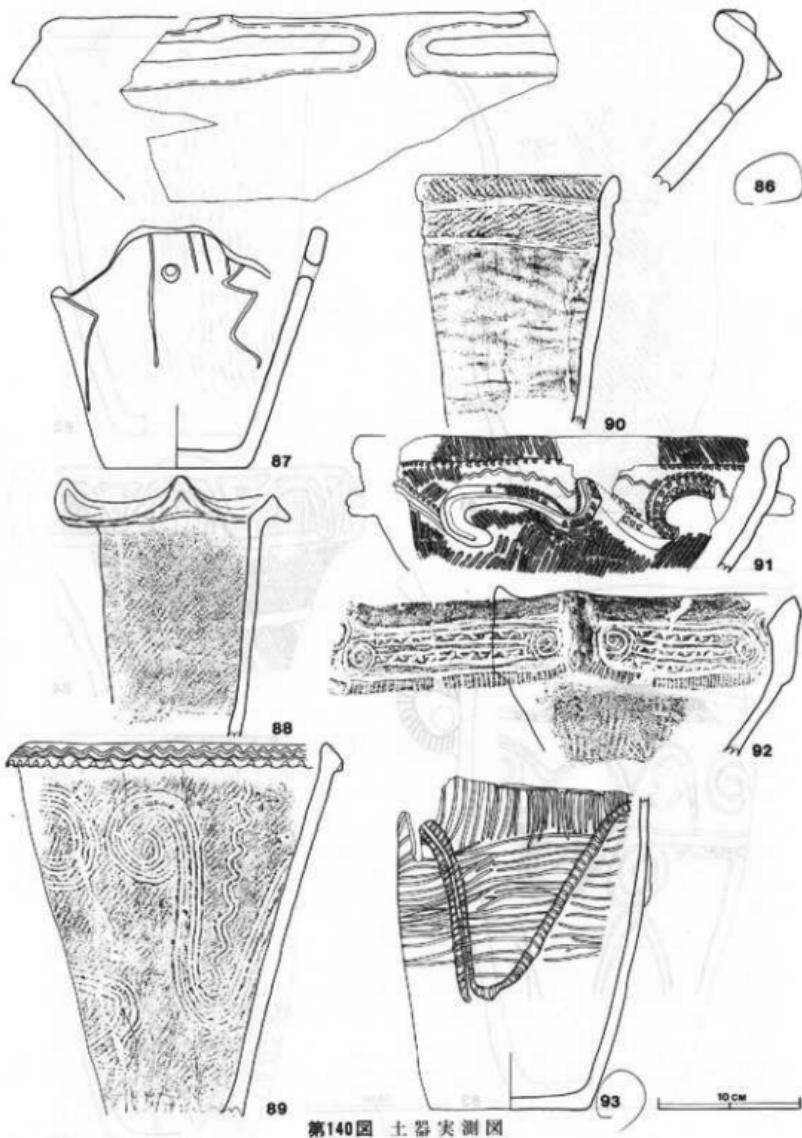
82



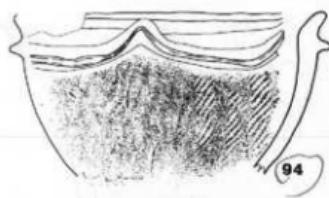
84

83 10cm
第139図 土器実測図

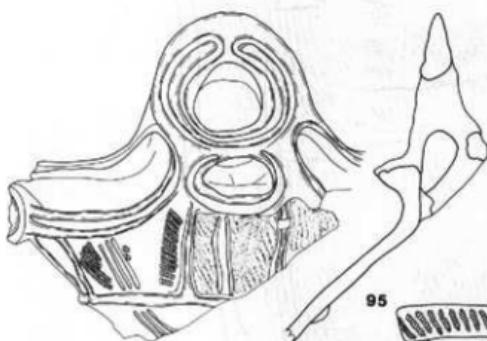
85



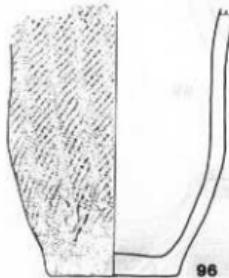
第140図 土器実測図



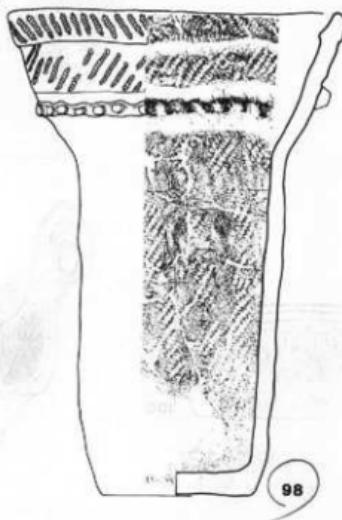
94



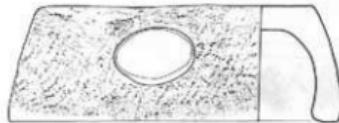
95



96

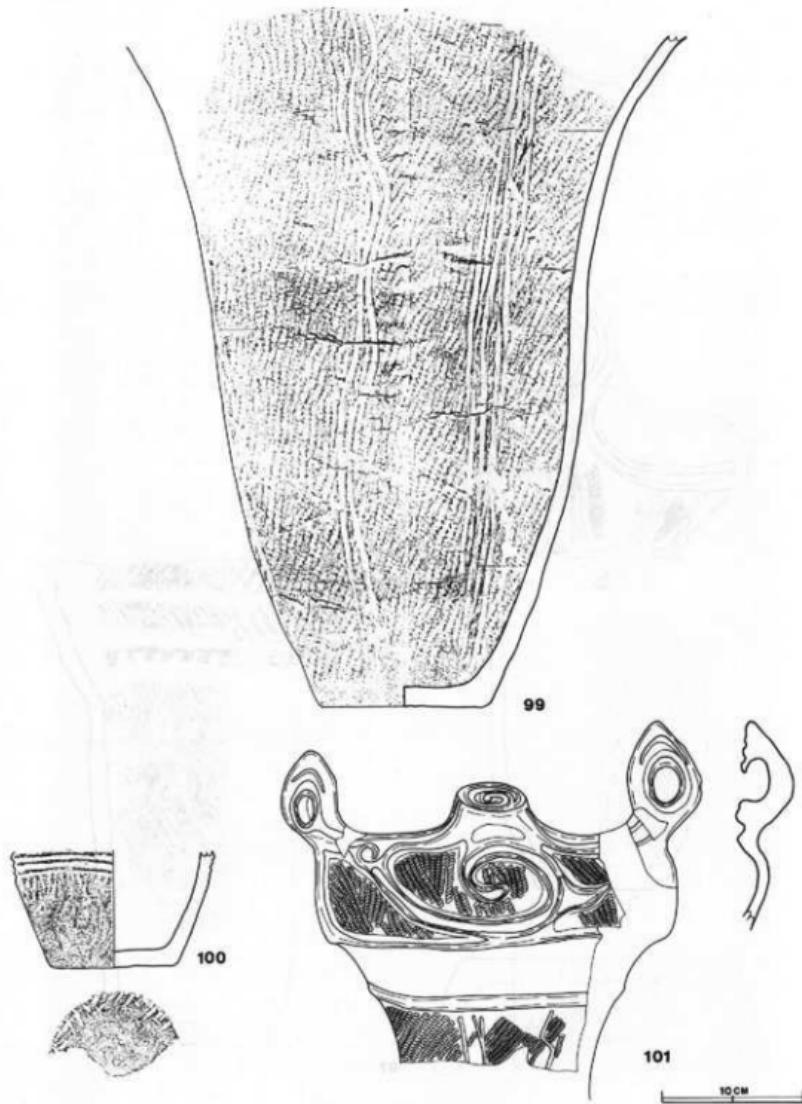


98

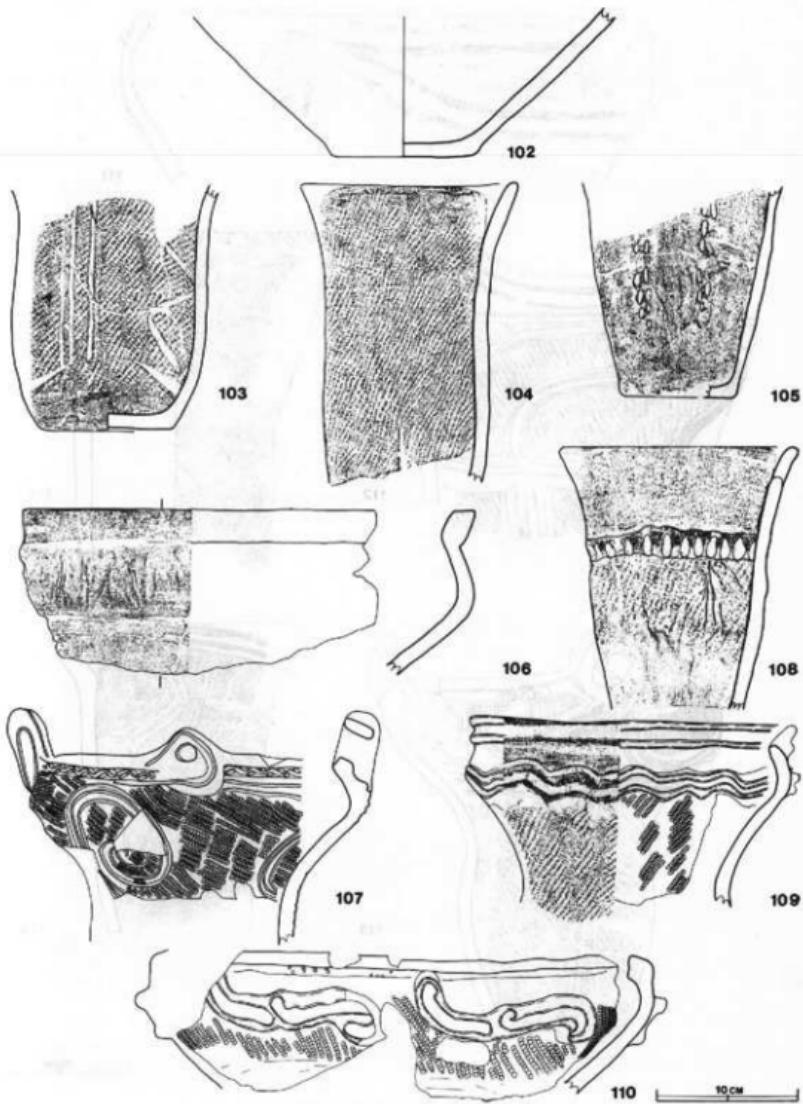


97

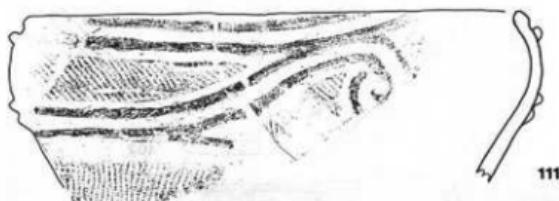
第141図 土器実測図



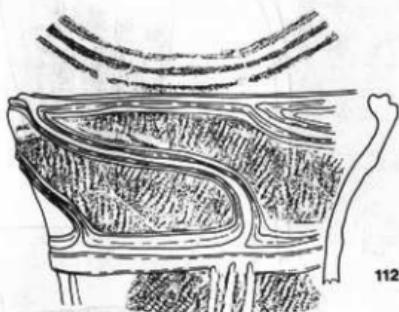
第142図 土器実測図



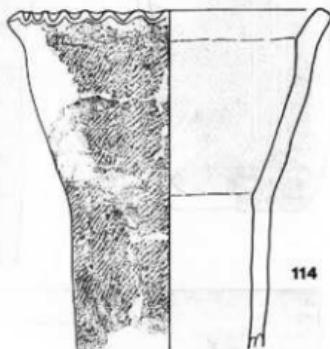
第143図 土器実測図



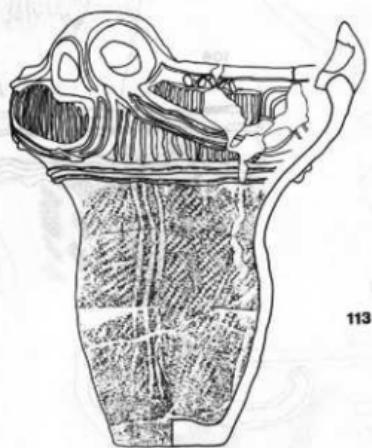
111



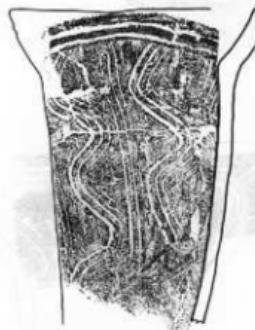
112



114



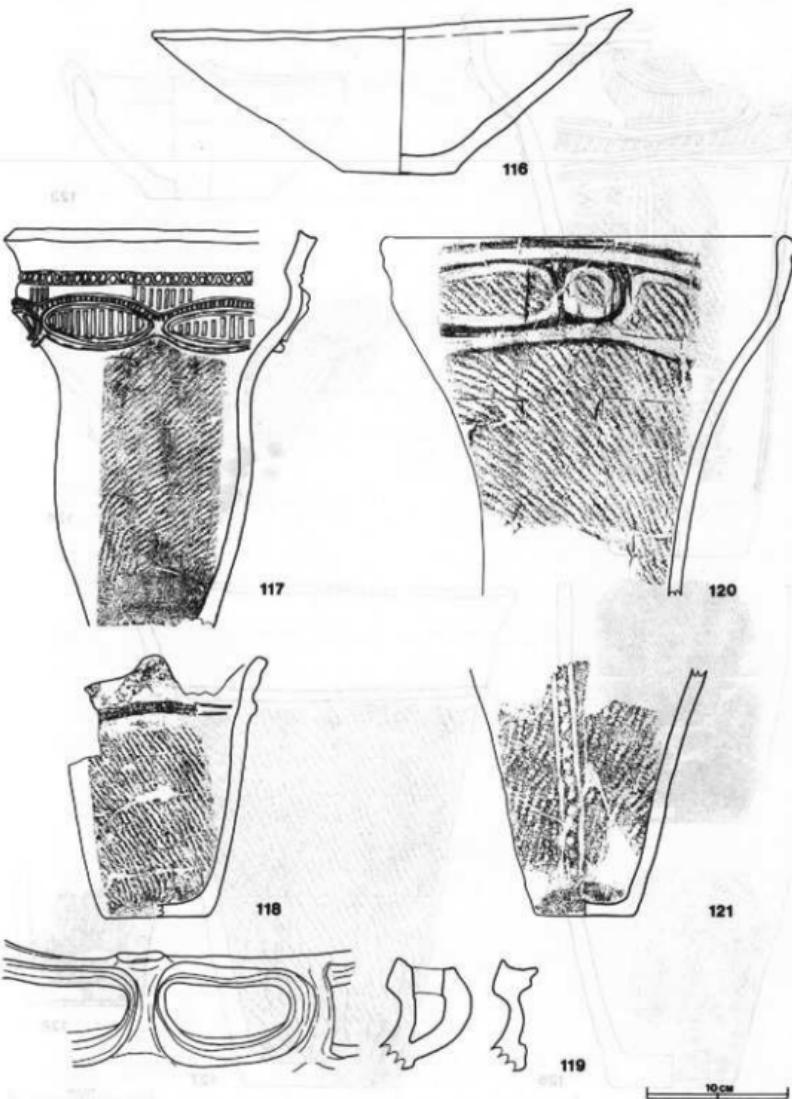
113



115

10 cm

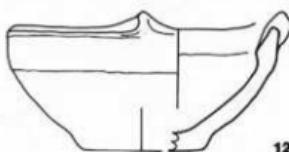
第144図 土器実測図



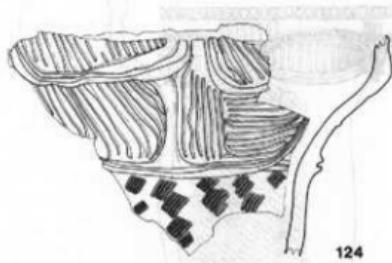
第145図 土器実測図



122



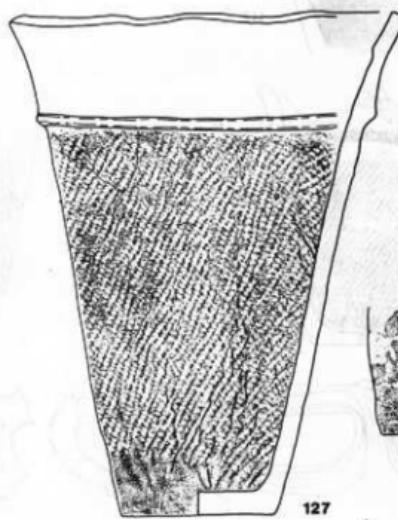
123



124



125



126



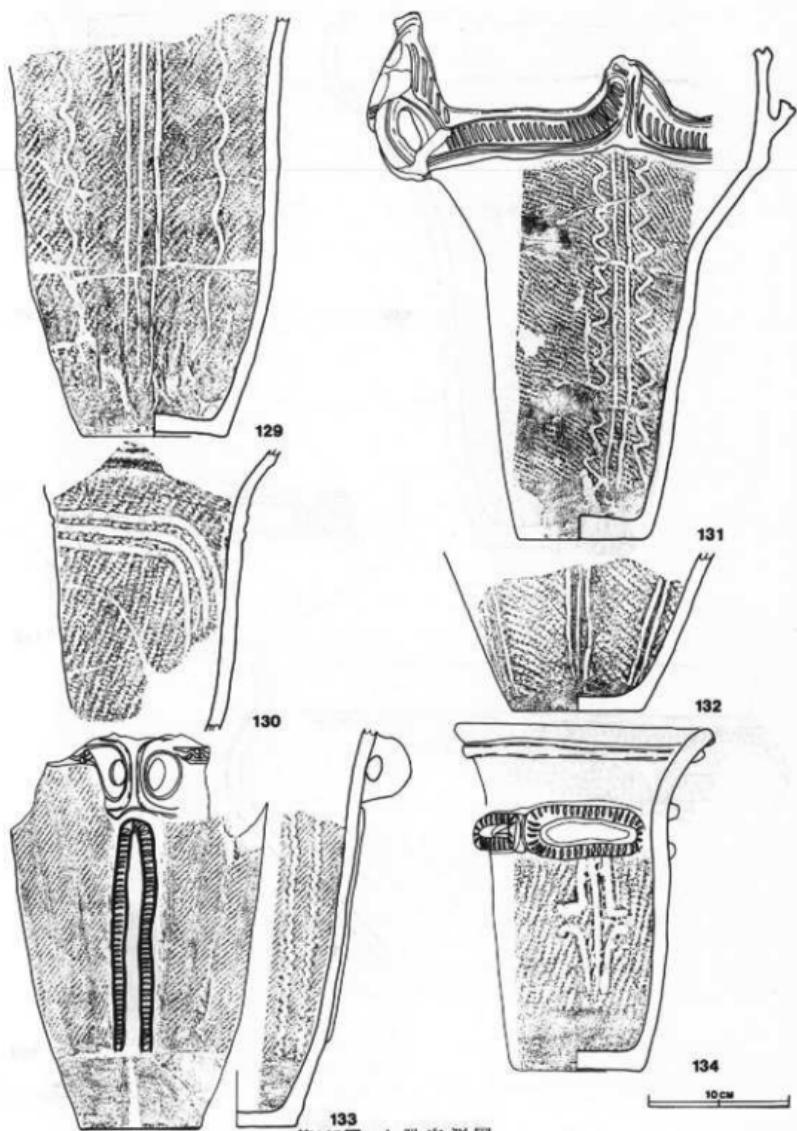
127



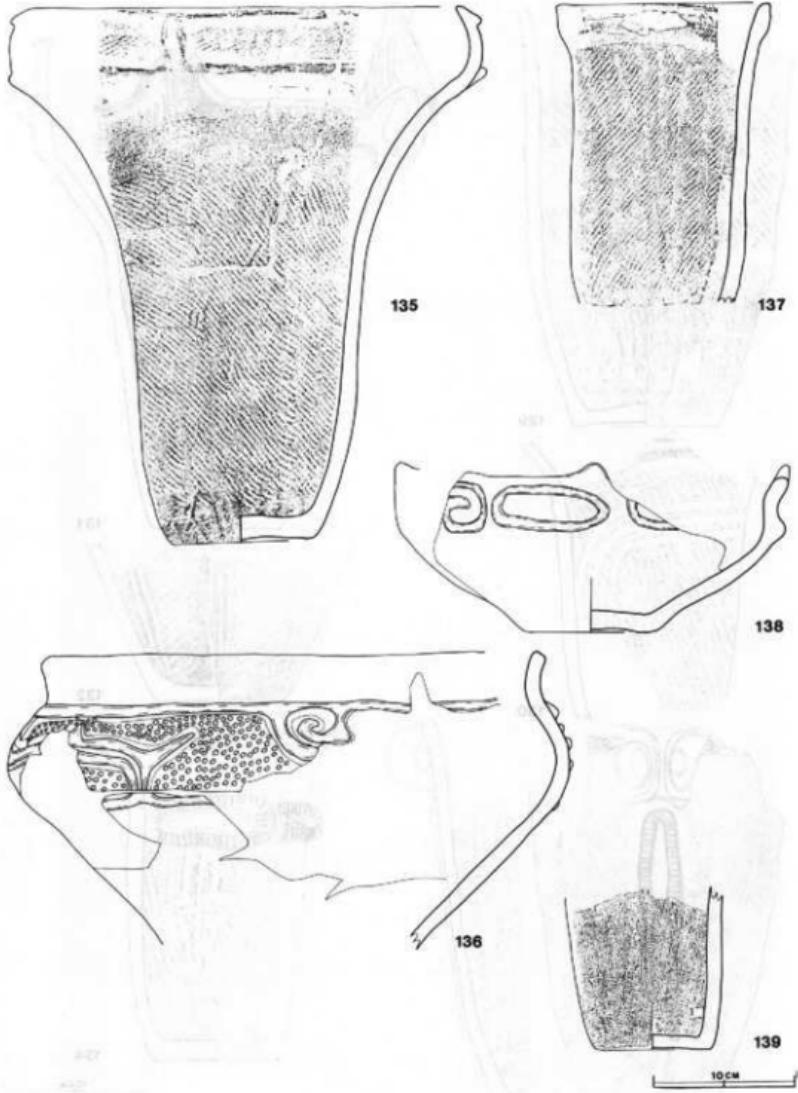
128

10 CM

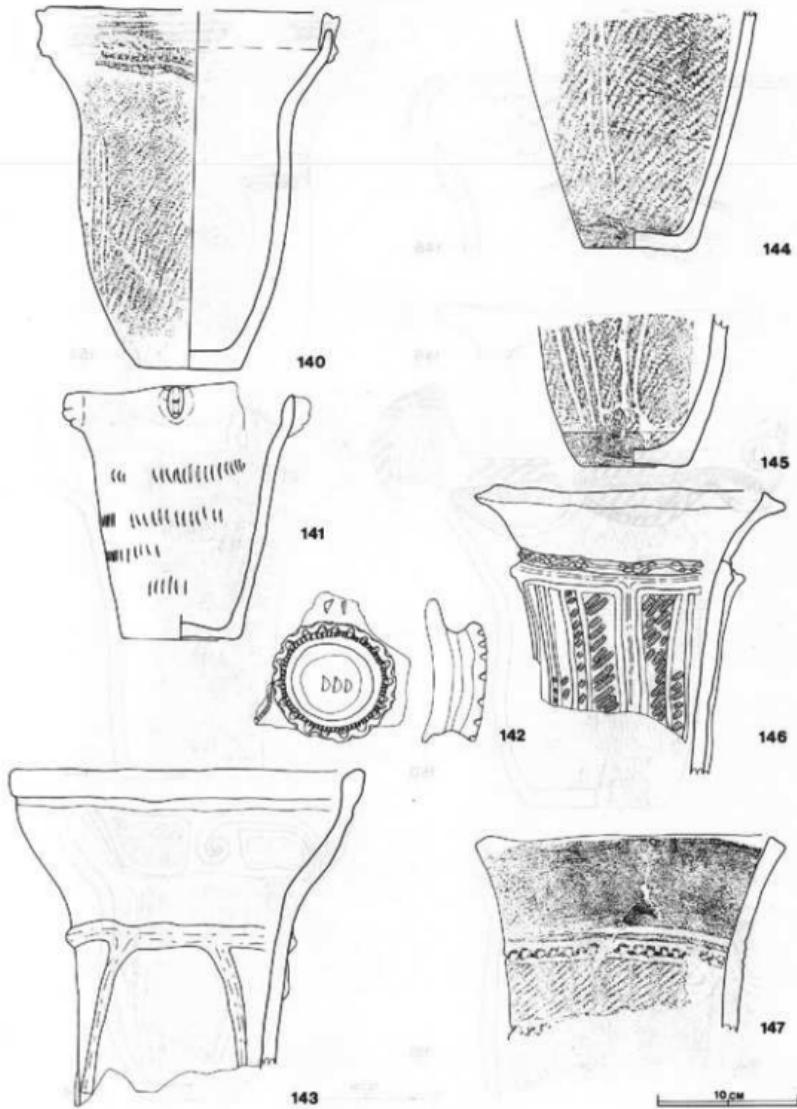
第146図 土器実測図



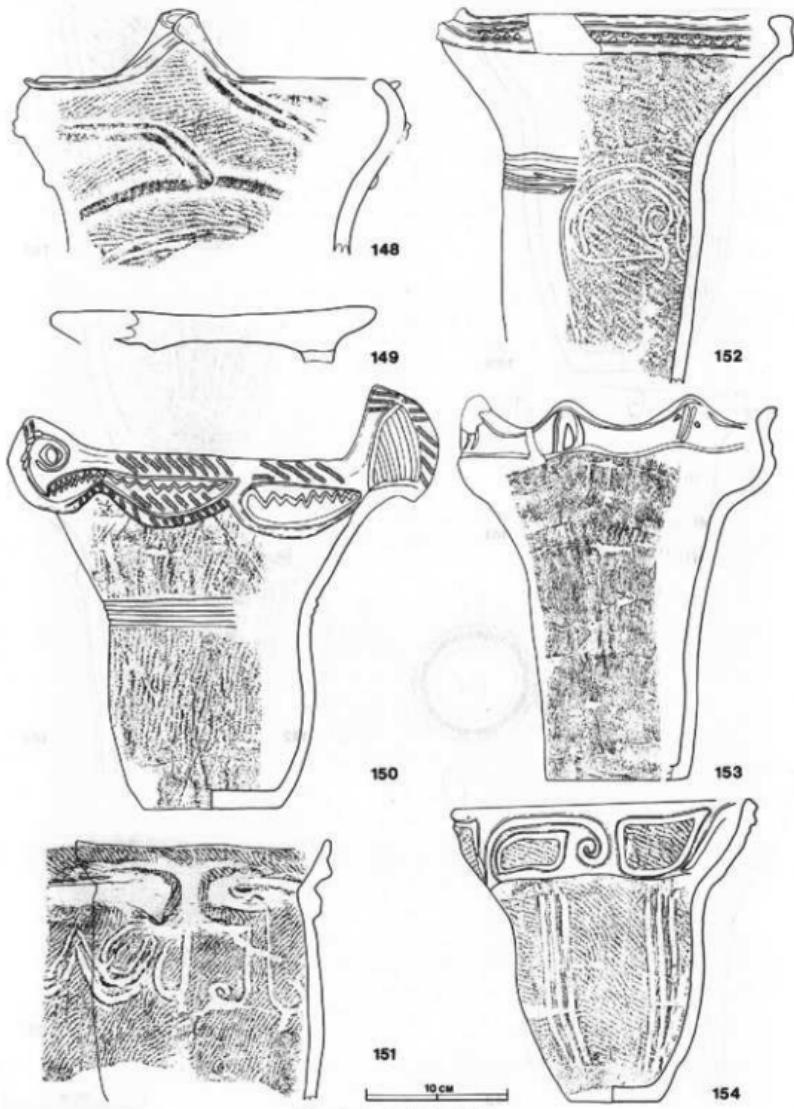
第147図 土器実測図



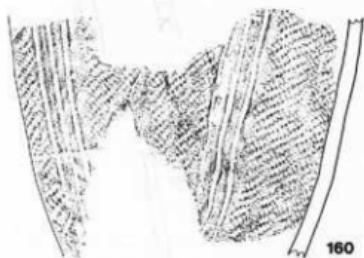
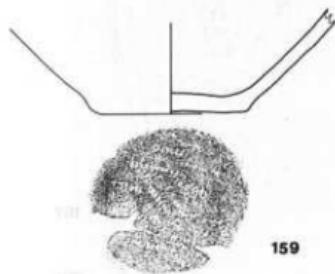
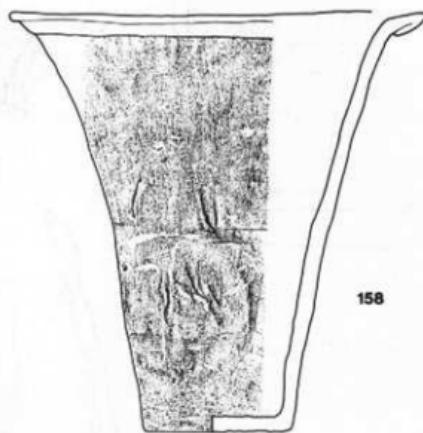
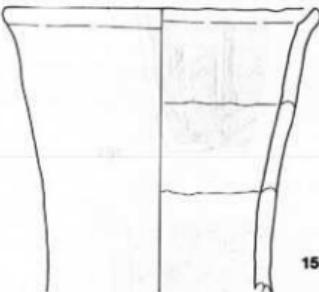
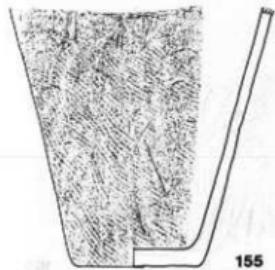
第148図 土器実測図



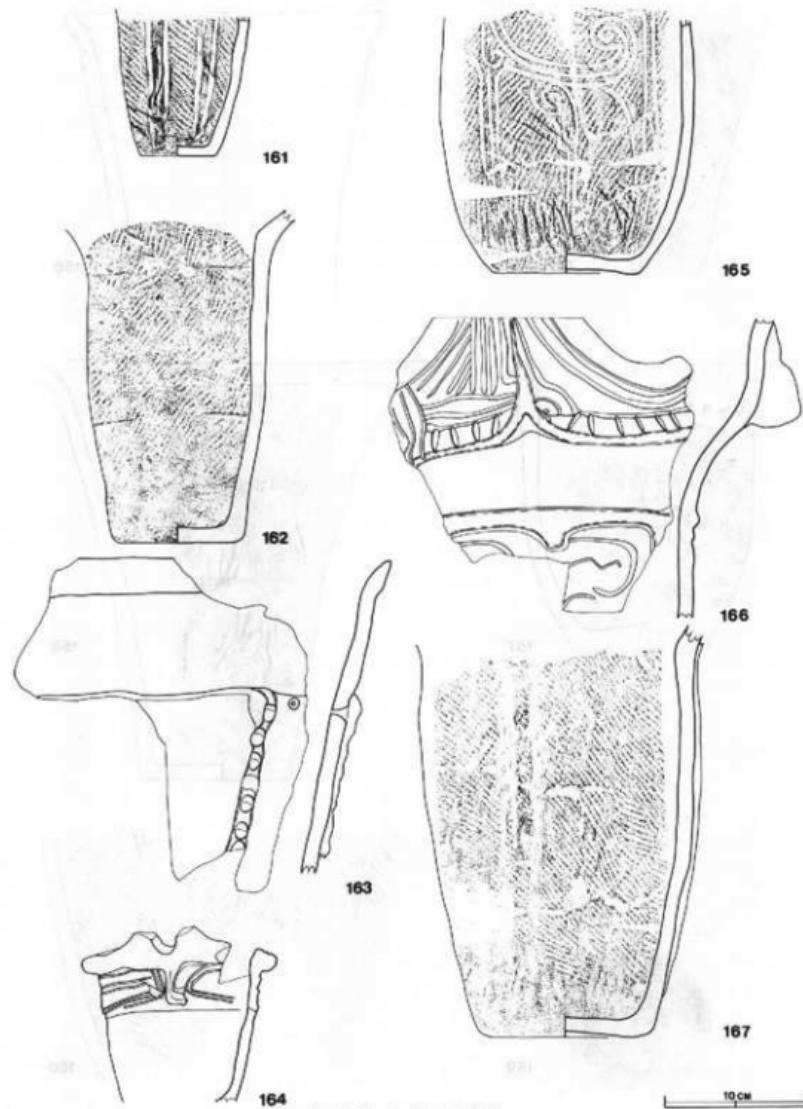
第149図 土器実測図



第150図 土器実測図

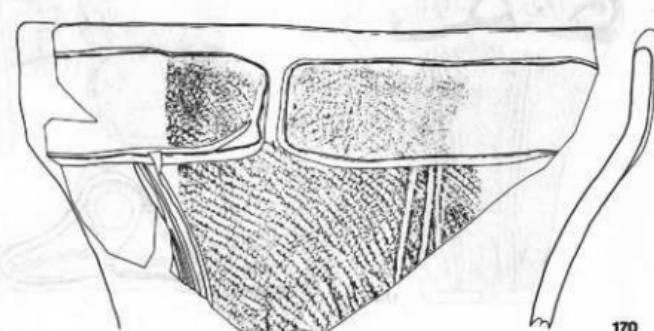
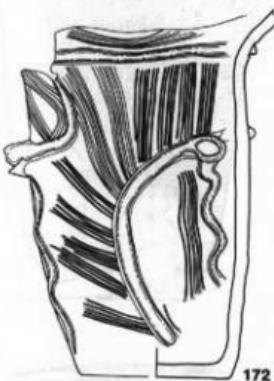
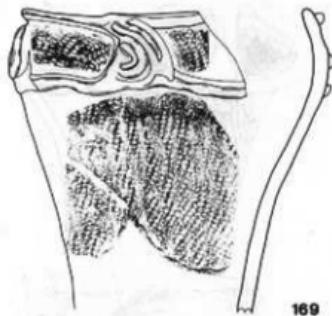
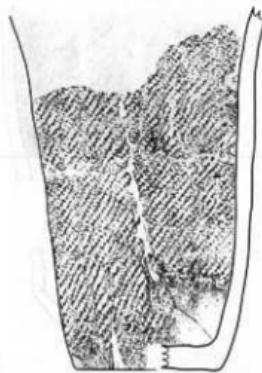


第151図 土器実測図



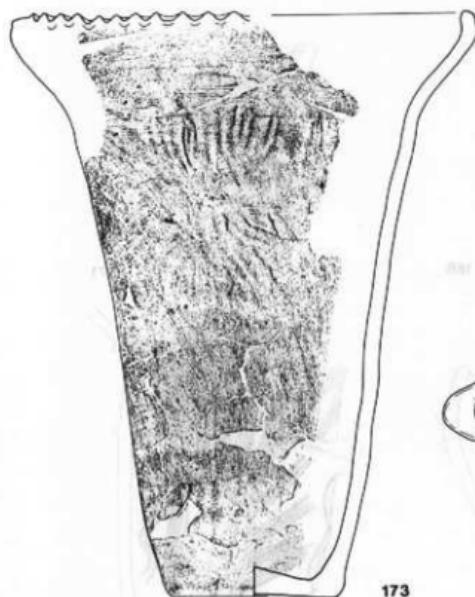
第152図 土器実測図

10 CM



10 cm

第153図 土器実測図



173



175



176



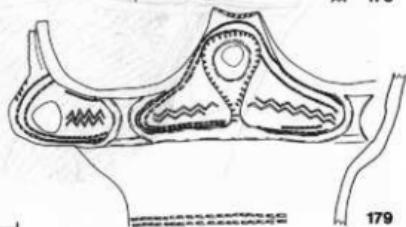
177



174



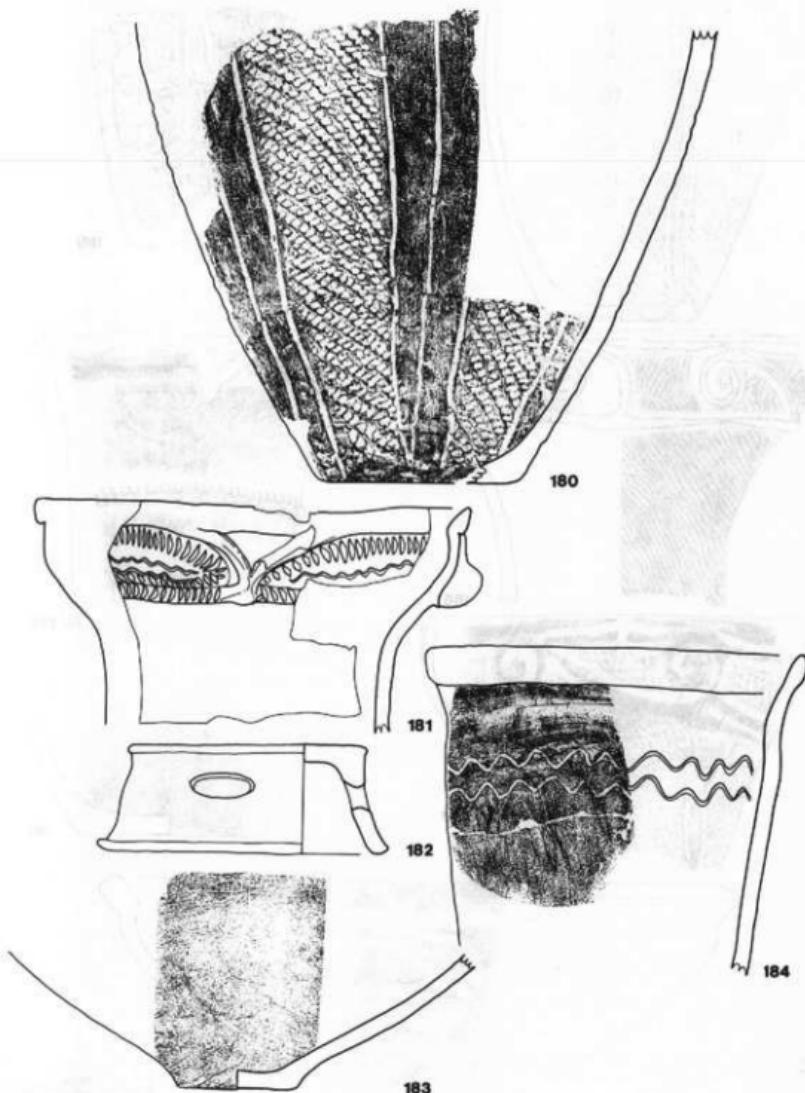
178



179

10 cm

第154図 土器実測図



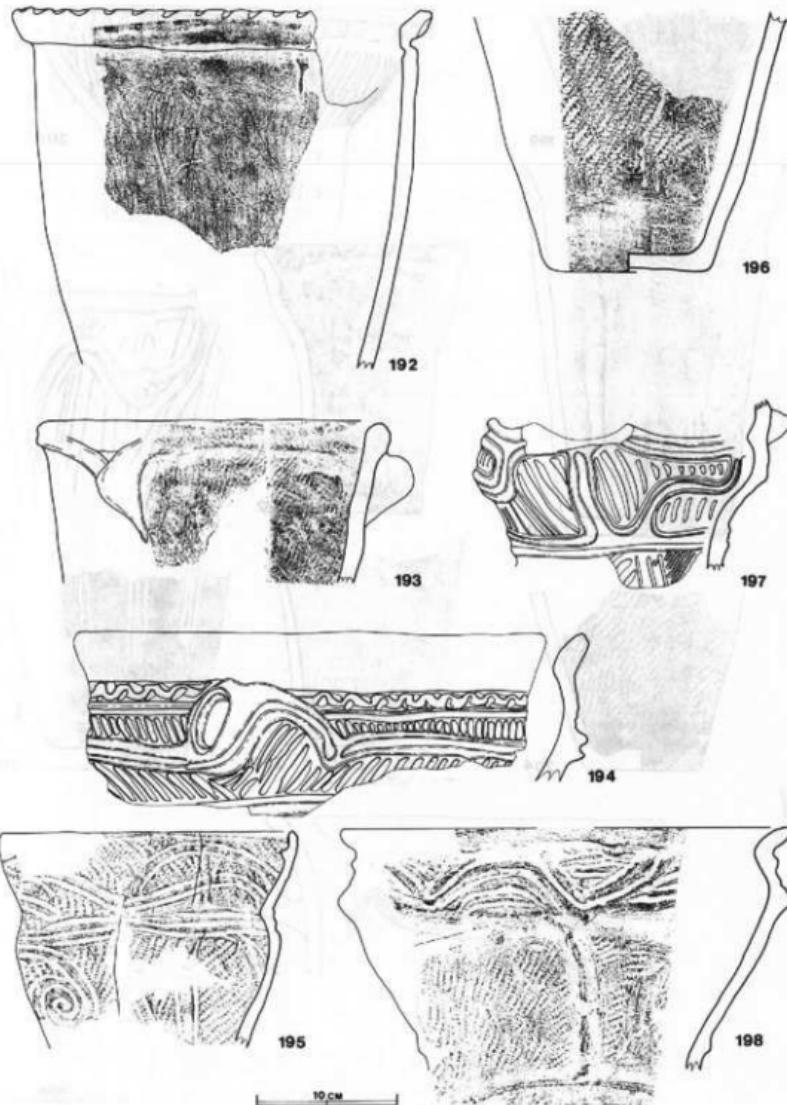
第155図 土器実測図

- 203 -

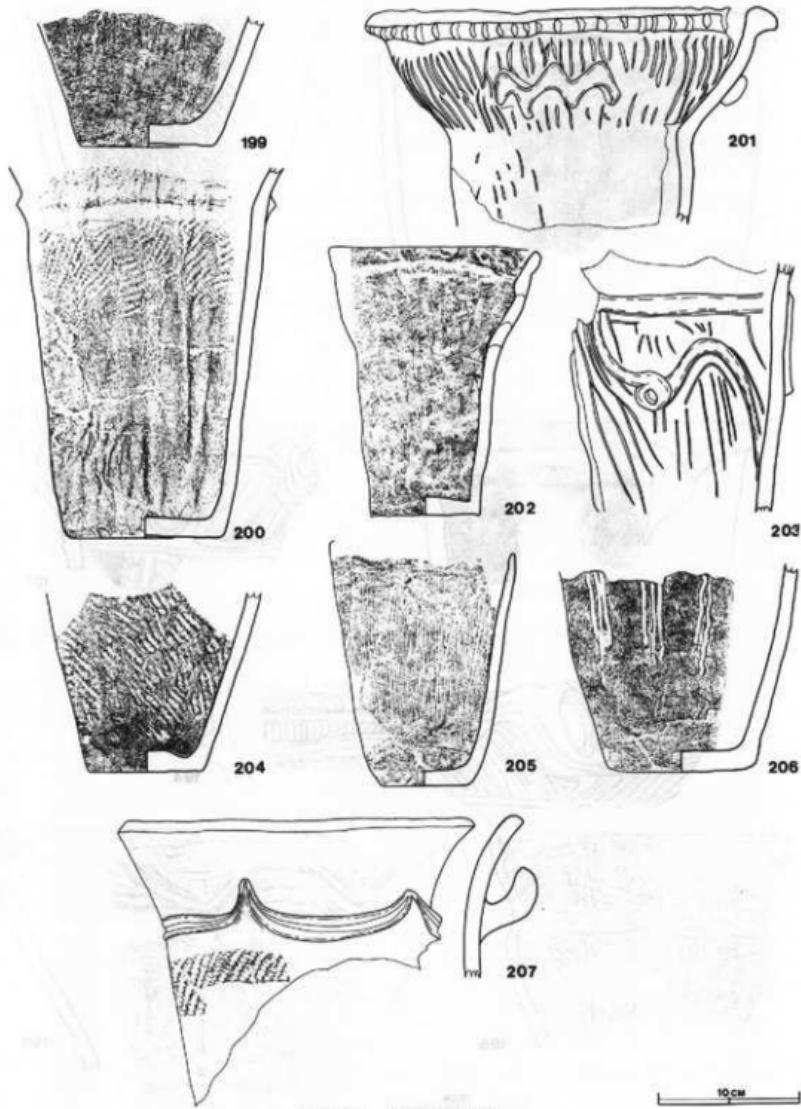
10 cm



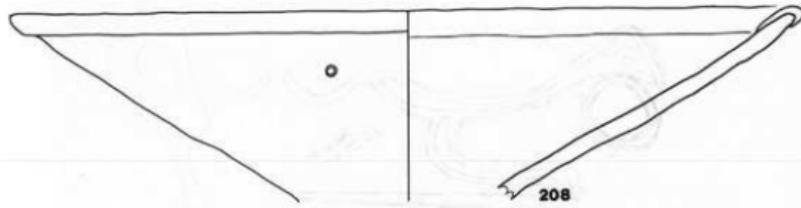
第156図 土器実測図



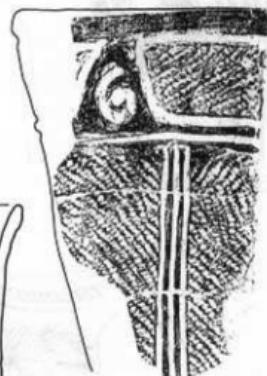
第157図 土器実測図



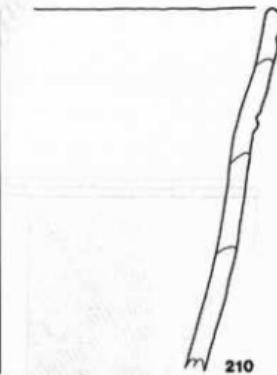
第158図 土器実測図



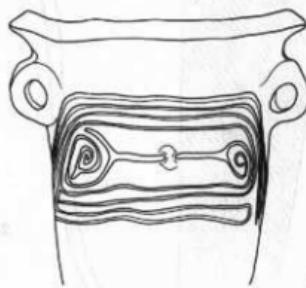
208



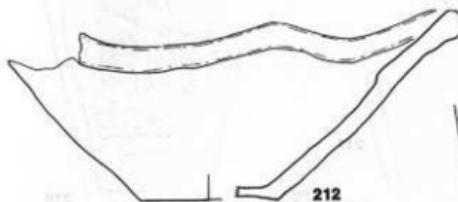
209



210



211



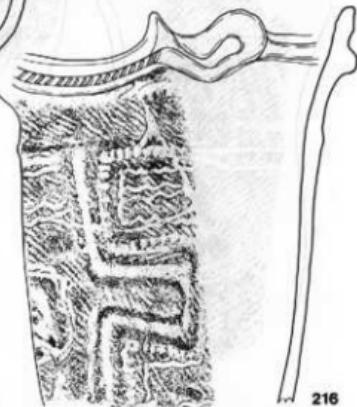
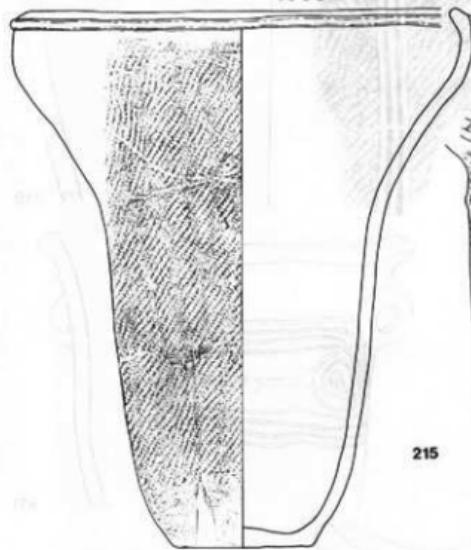
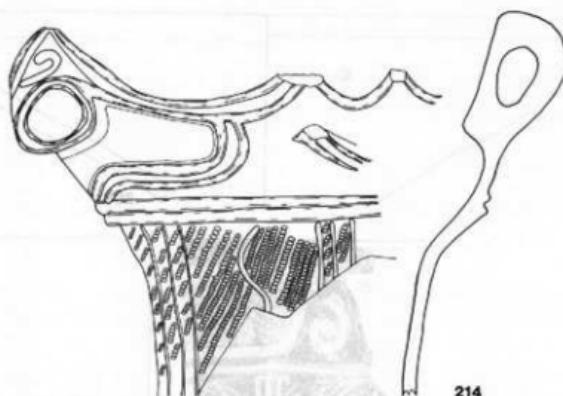
212



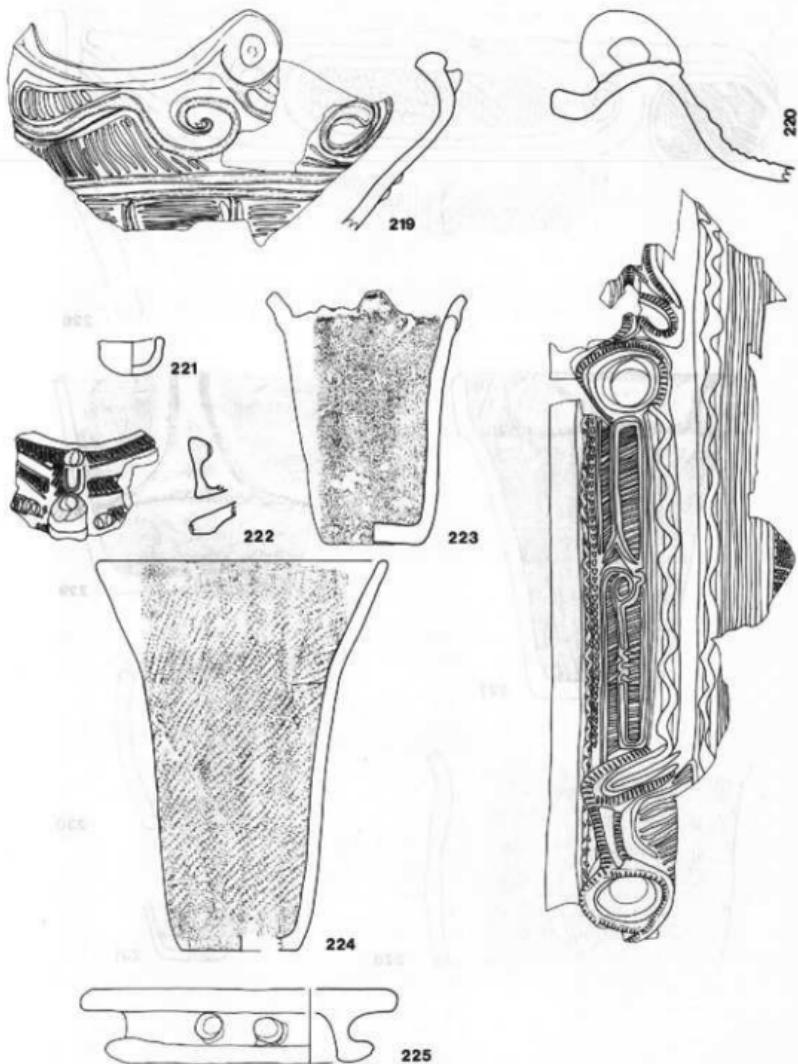
213

10 CM

第159図 土器実測図



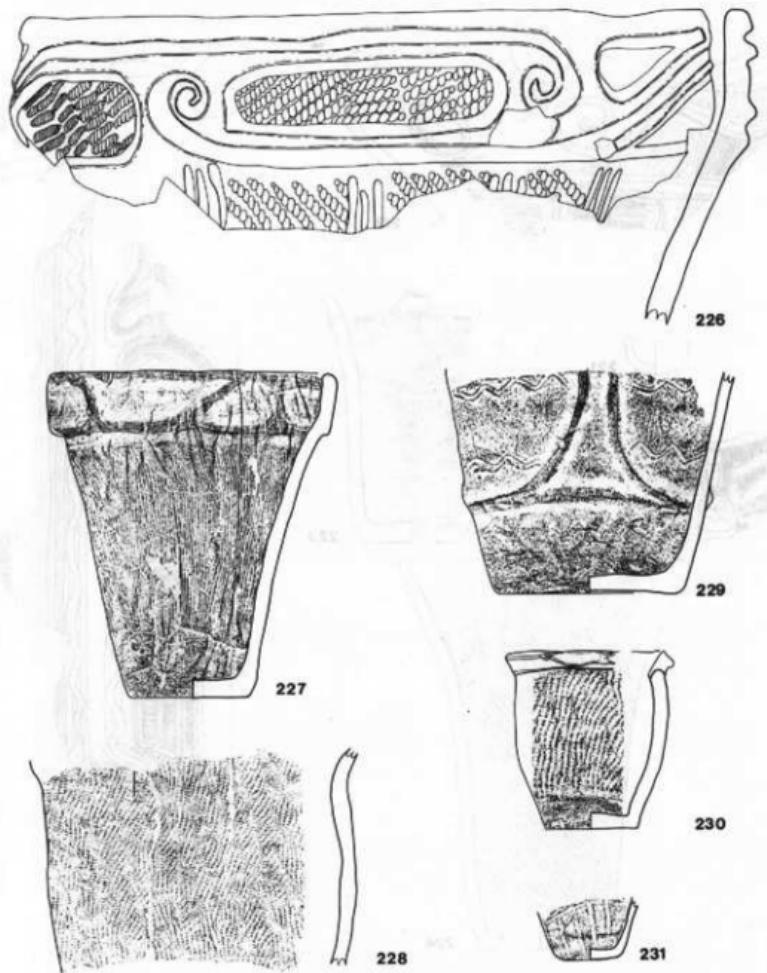
第160図 土器実測図



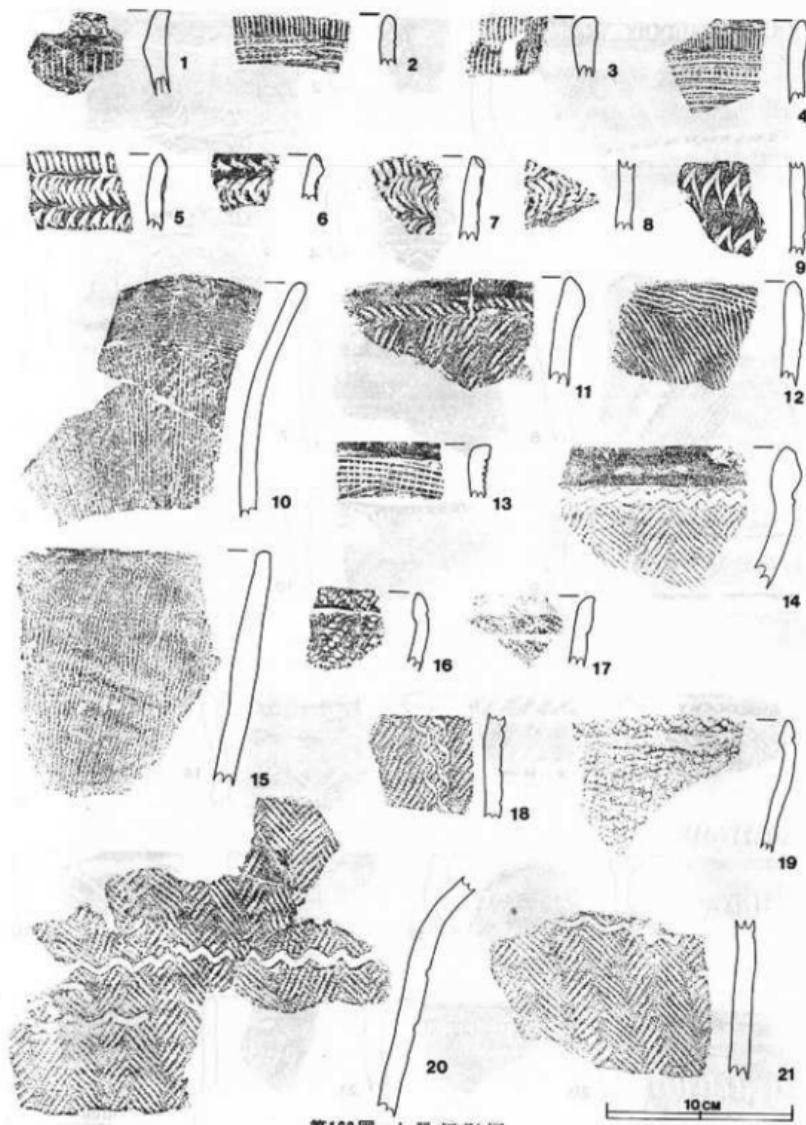
第161図 土器実測図

- 209 -

10 cm



第162図 土器実測図



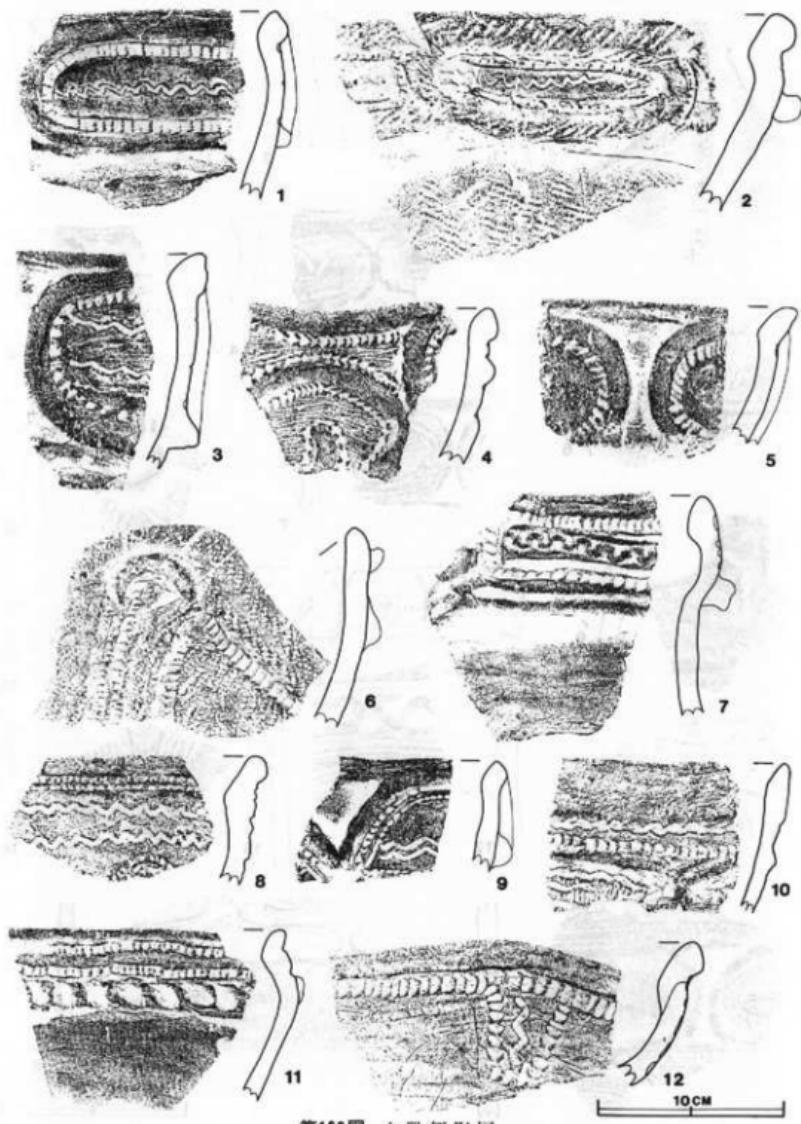
第163図 土器拓影図



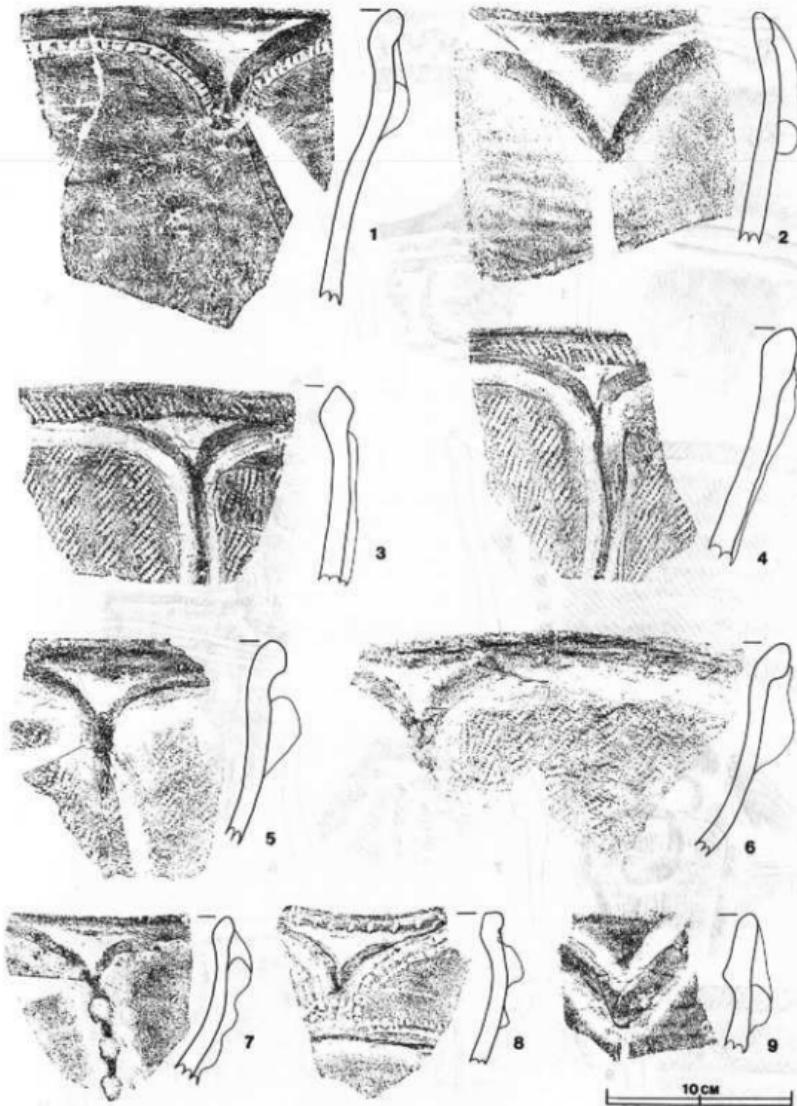
第164図 土器拓影図



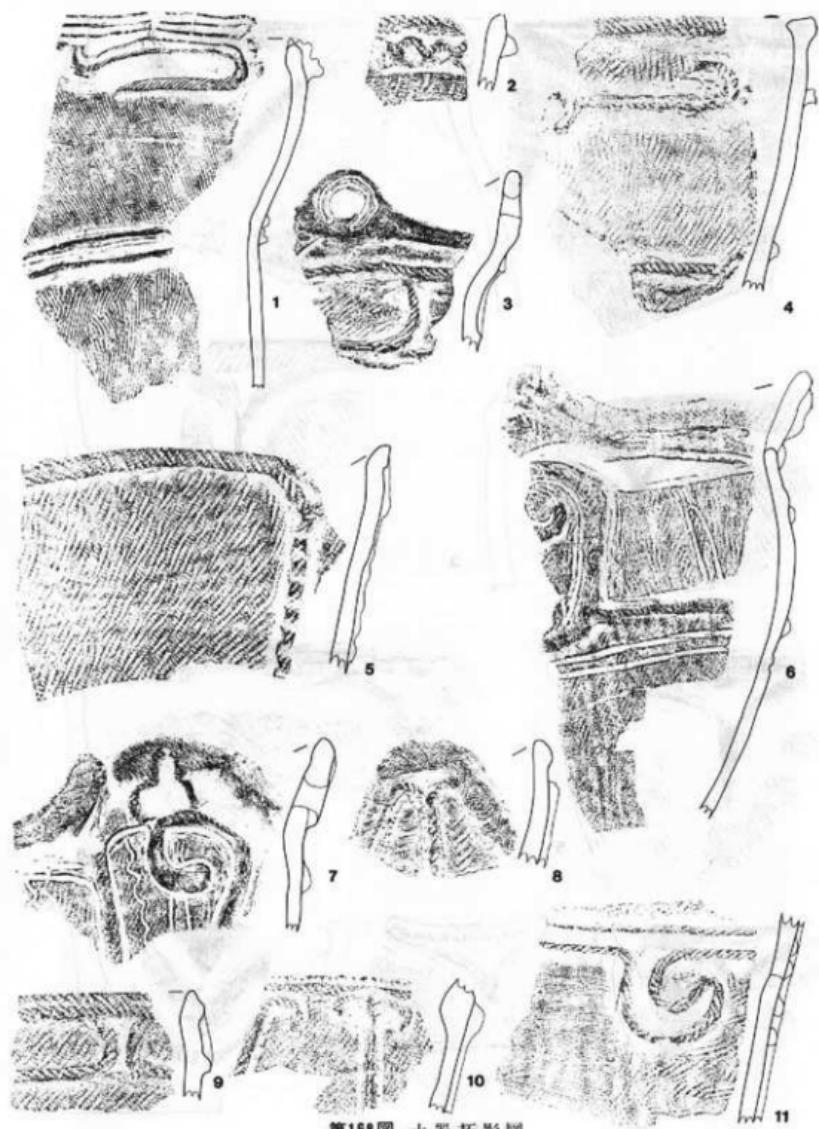
第165図 土器拓影図



第166図 土器拓影図

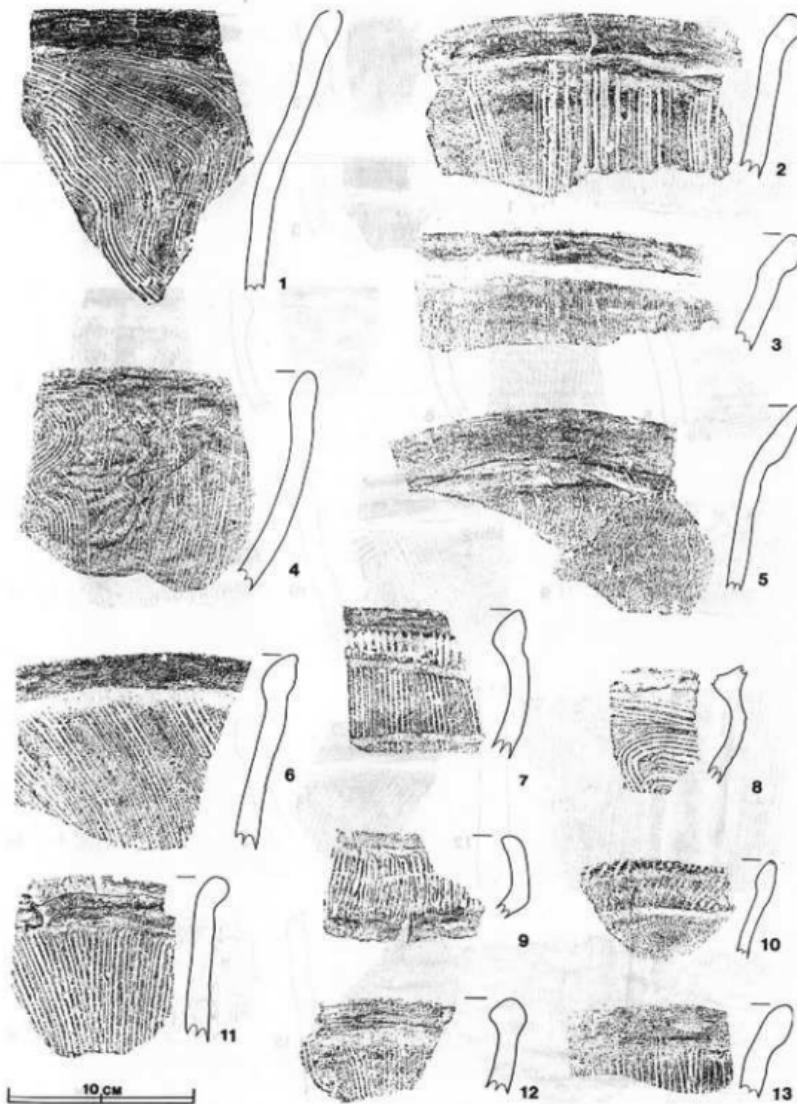


第187図 土器拓影図

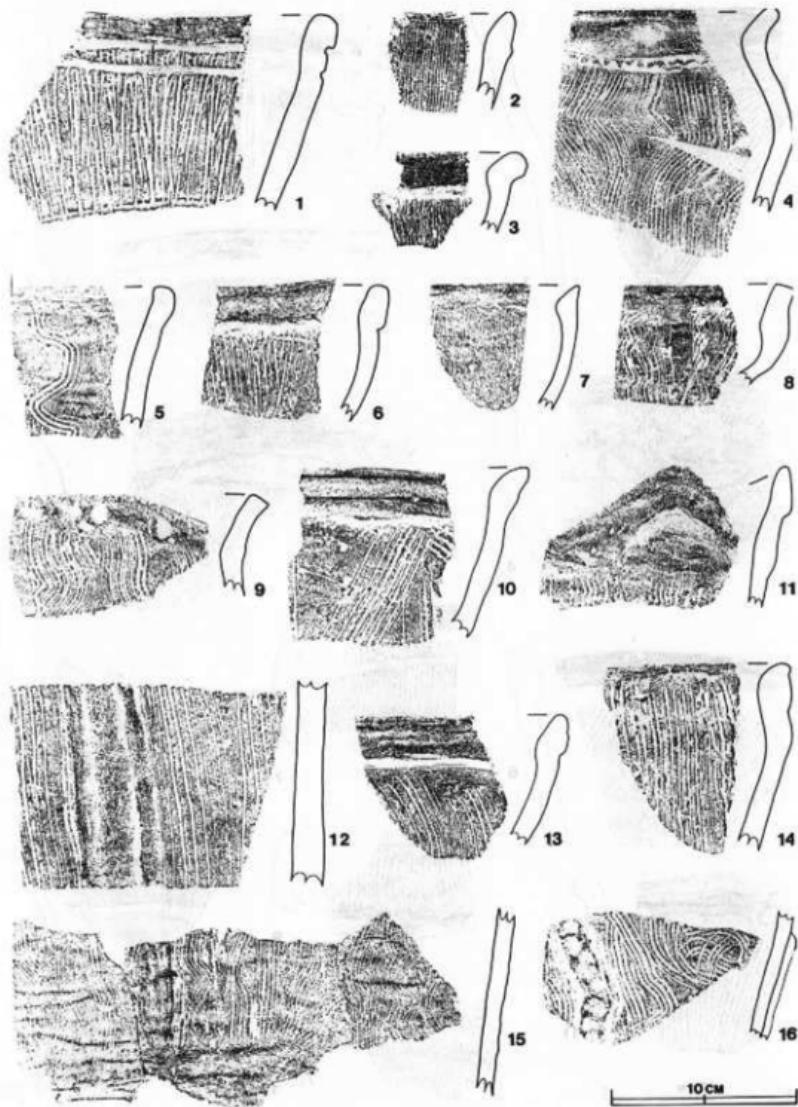


第168図 土器拓影図

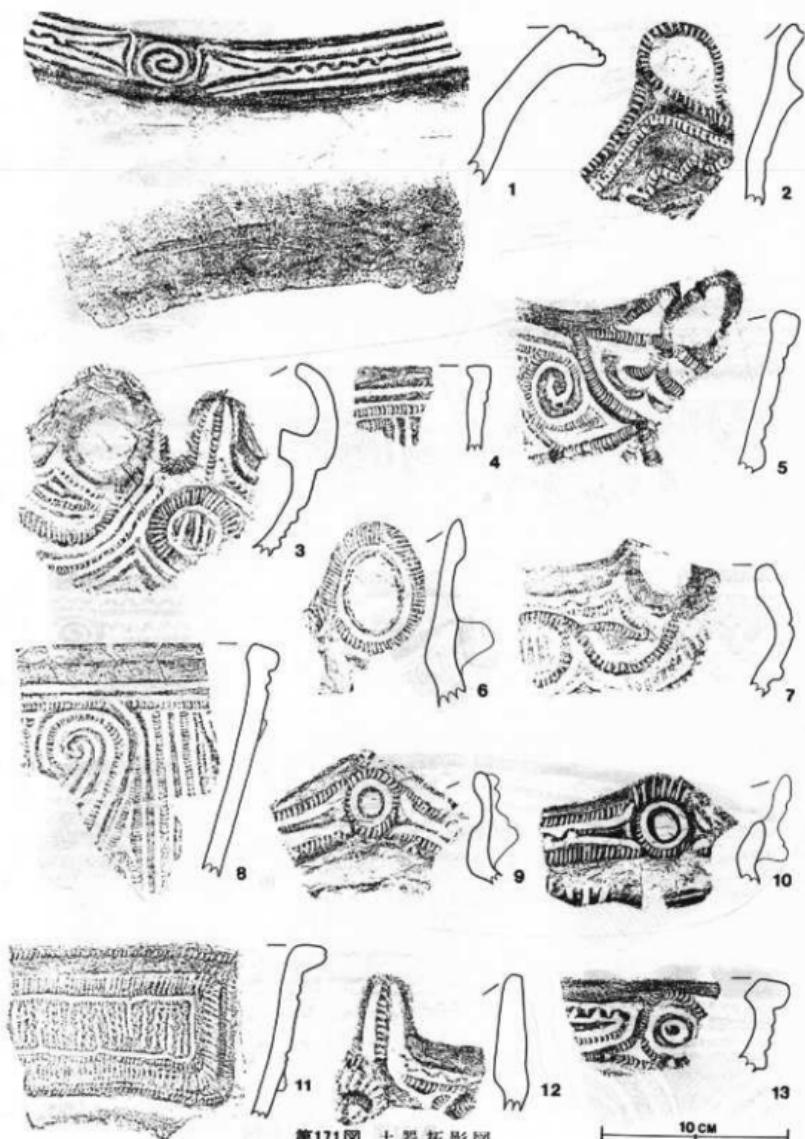
10 CM



第169図 土器拓影図

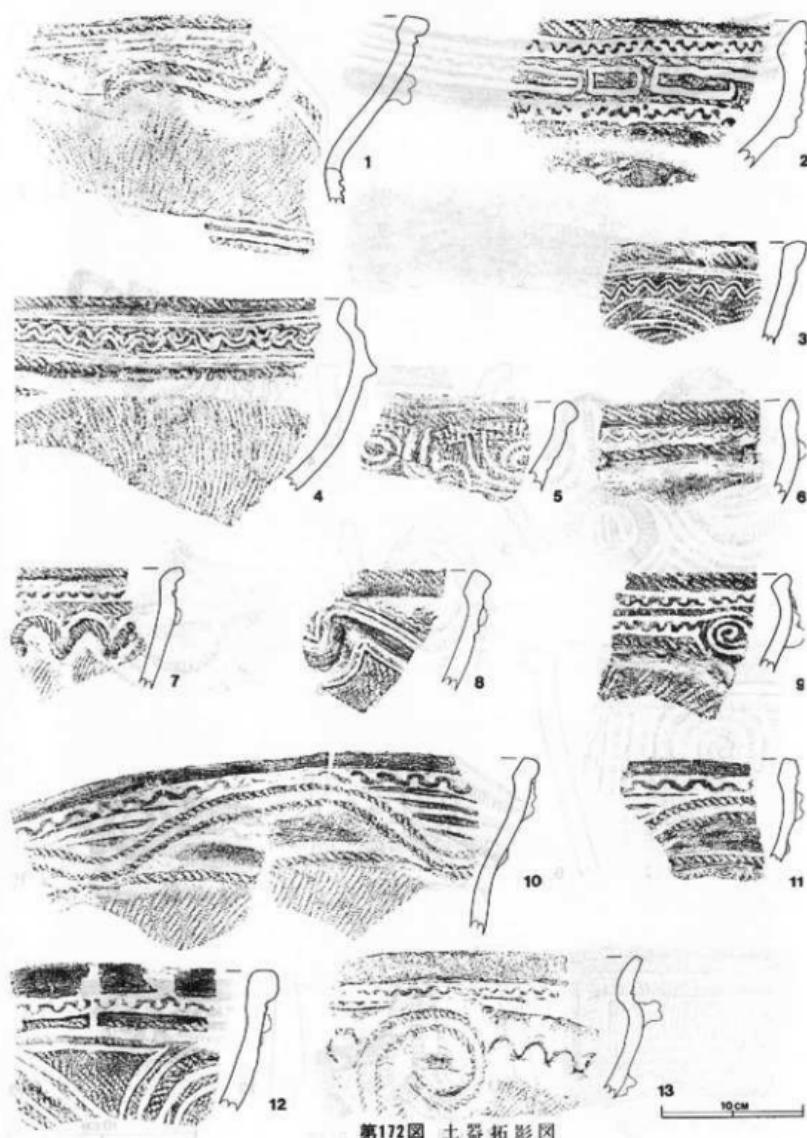


第170図 土器拓影図

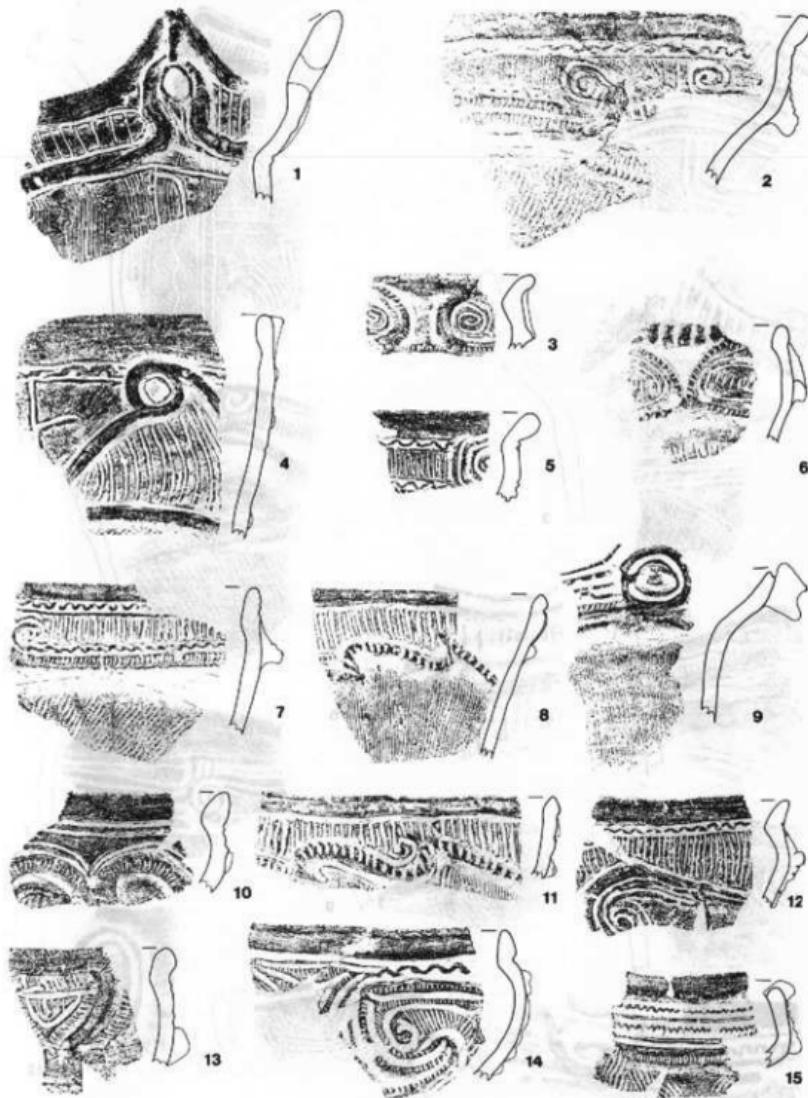


第171図 土器拓影図

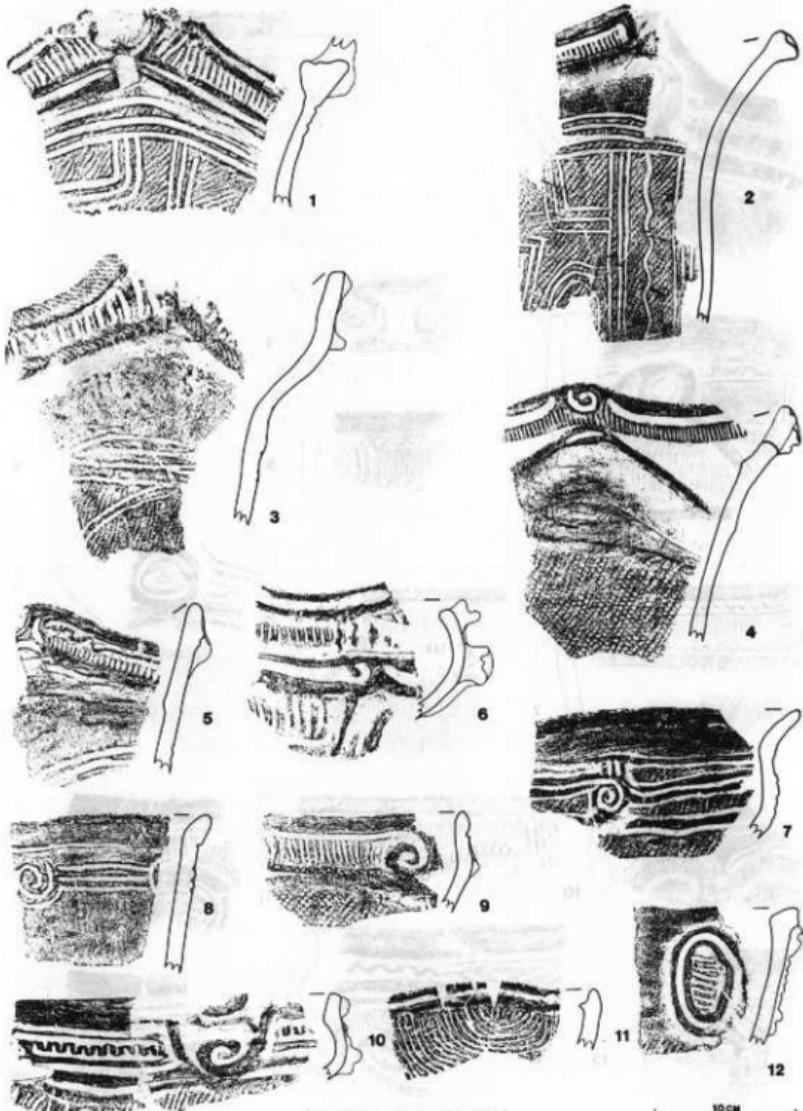
10 CM



第172図 土器拓影図



第173図 土器拓影図

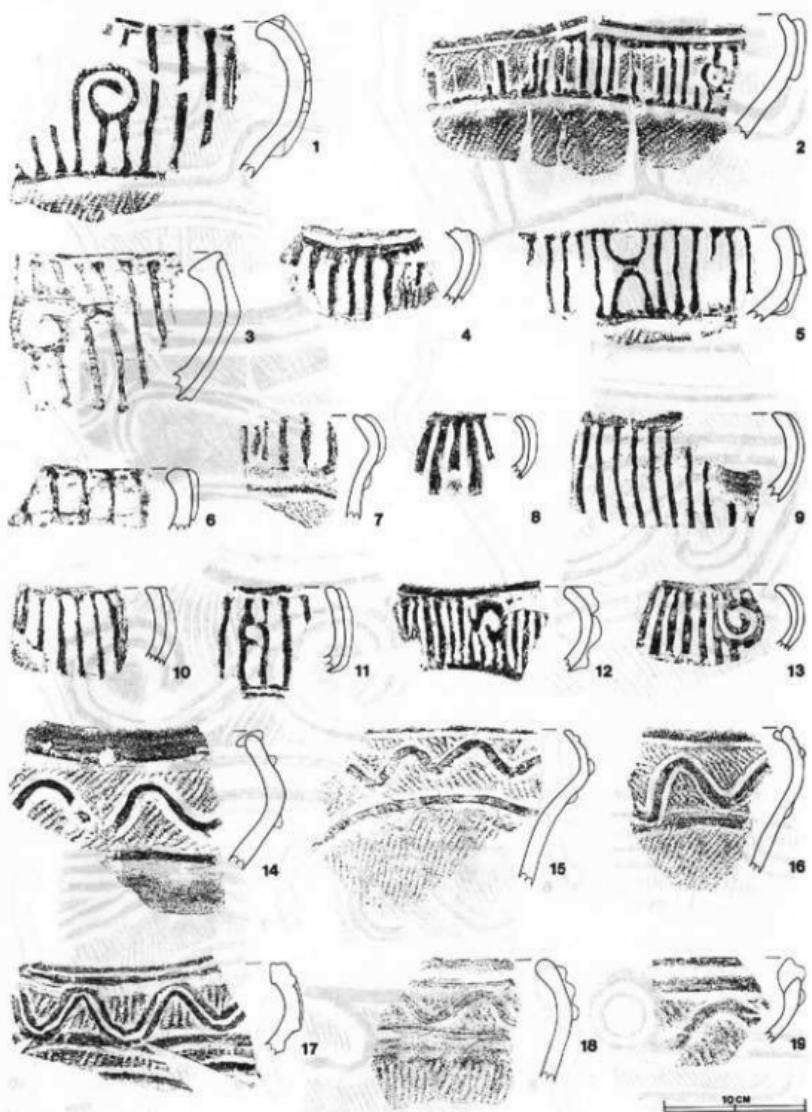


第174図 土器拓影図

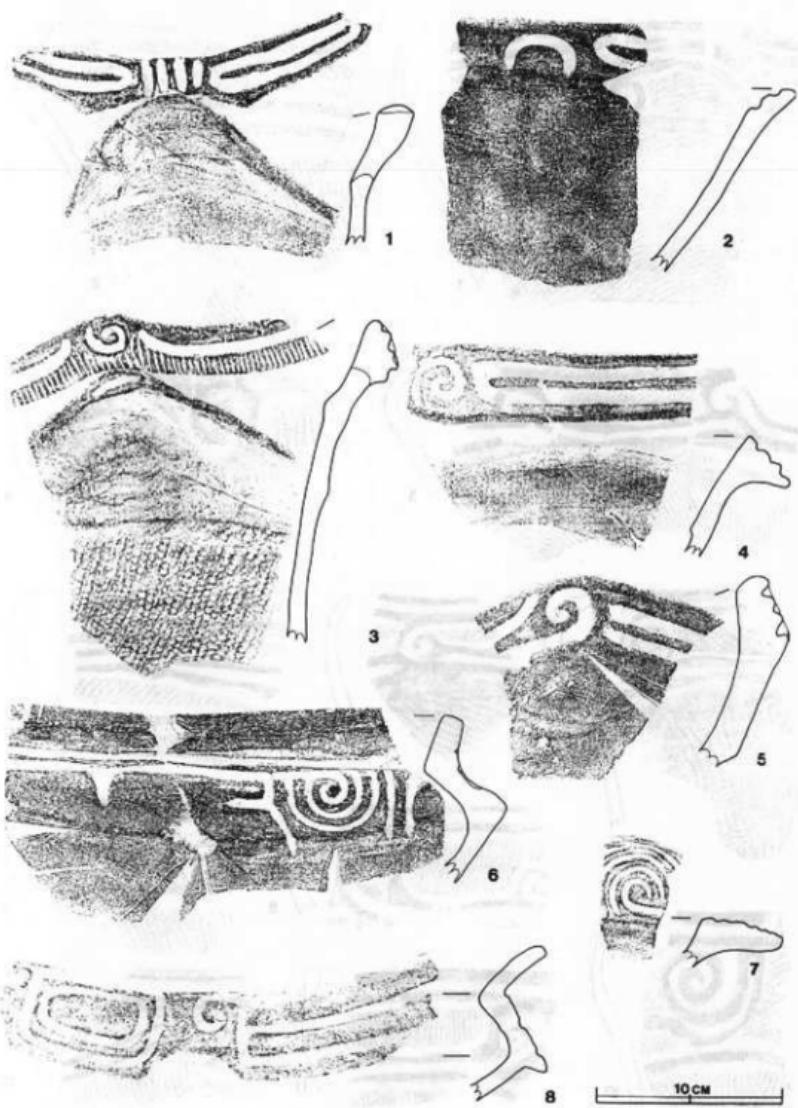


第175図 土器実測図

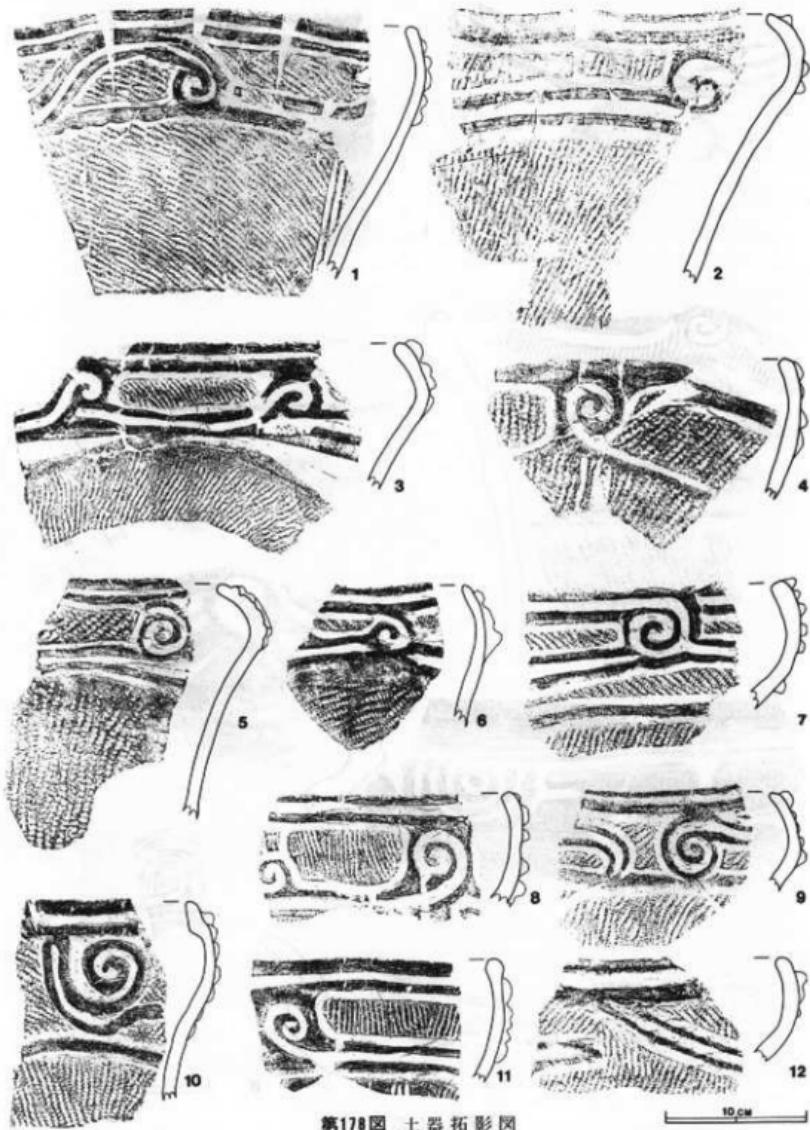
10 CM



第176図 土器実測図



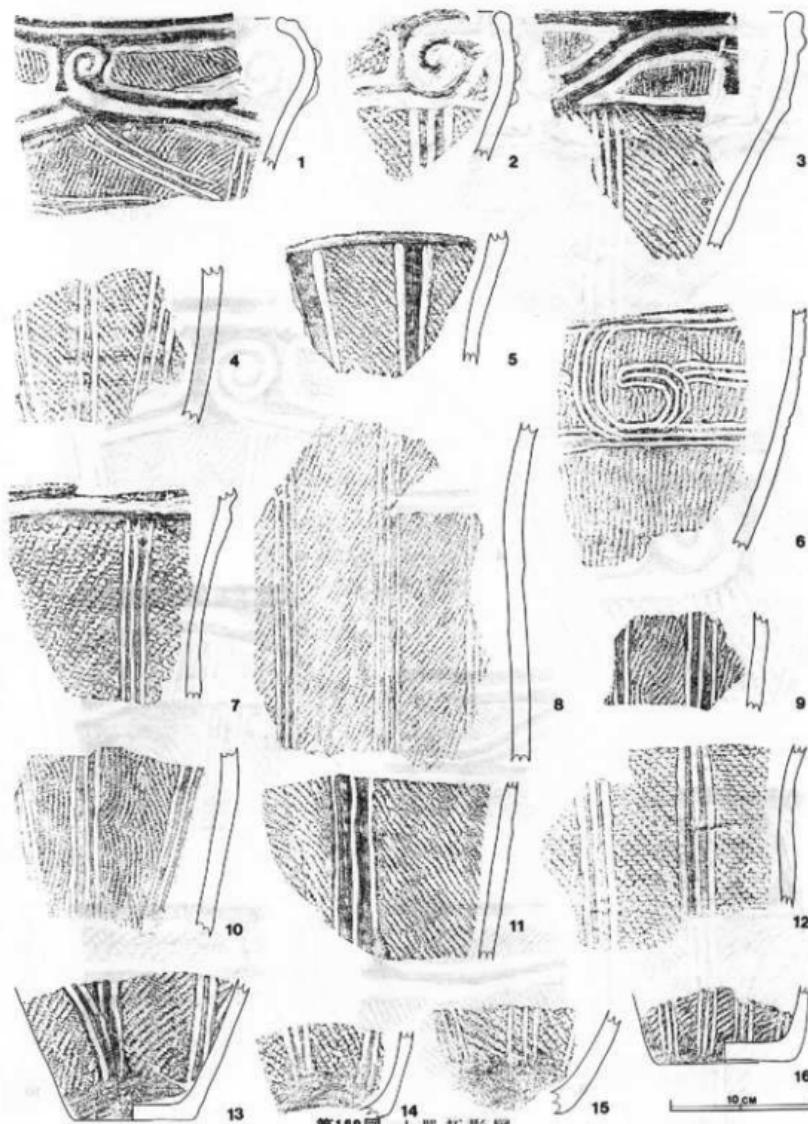
第177図 土器実測図



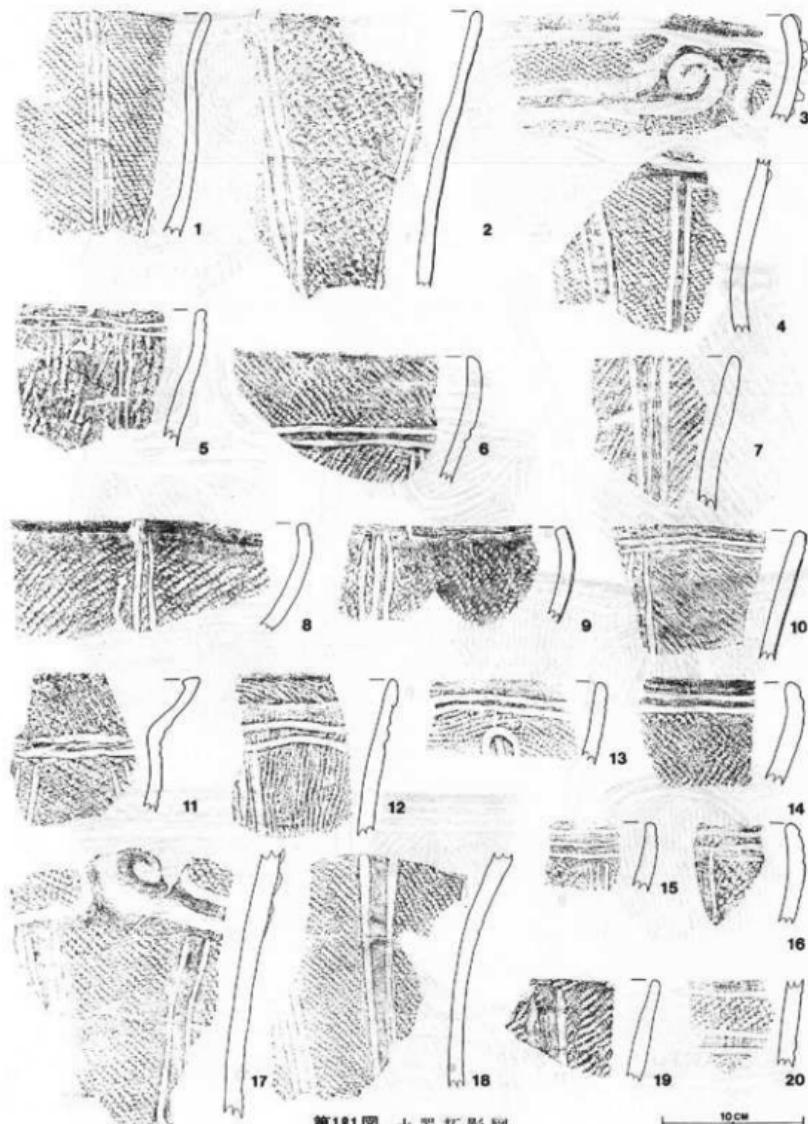
第178図 土器拓影図



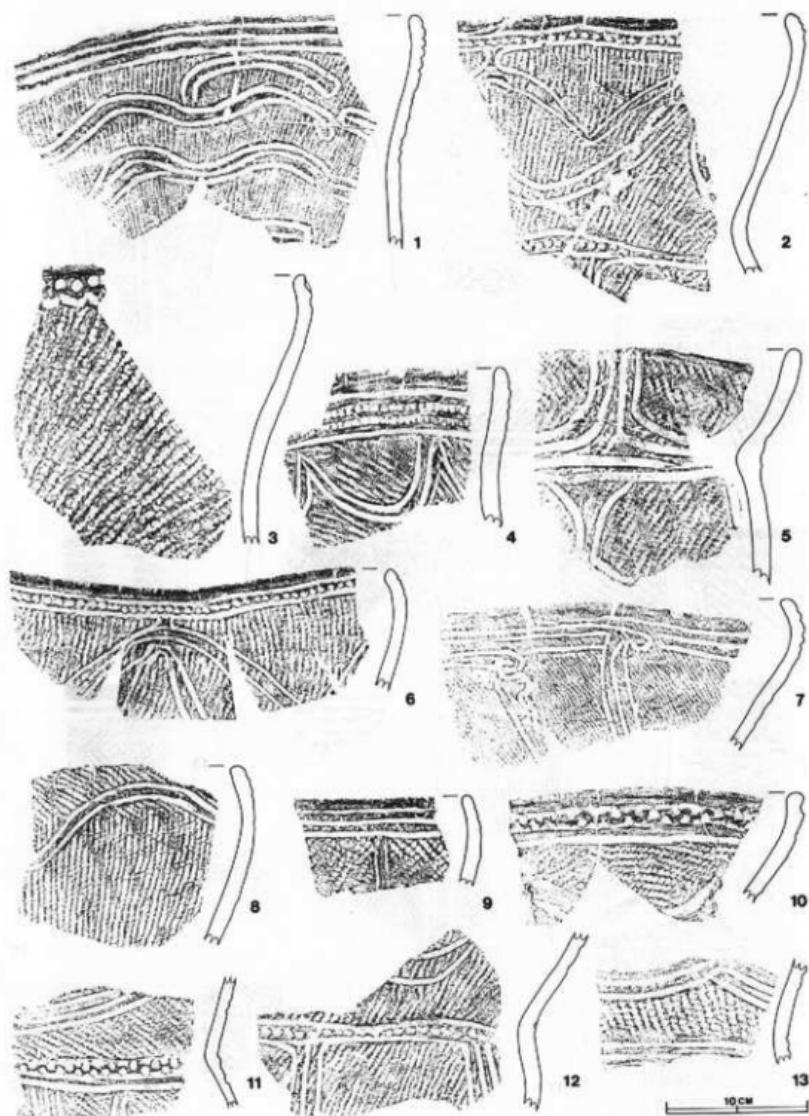
第179図 土器拓影図



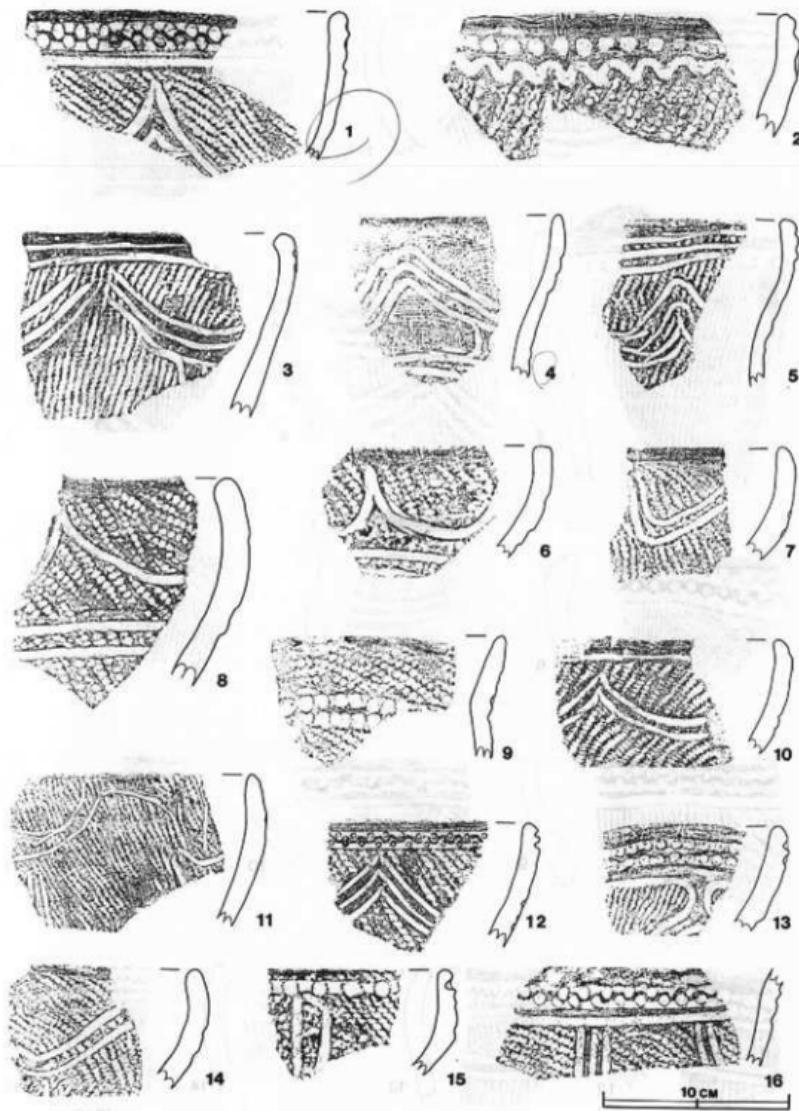
第180図 土器拓影図



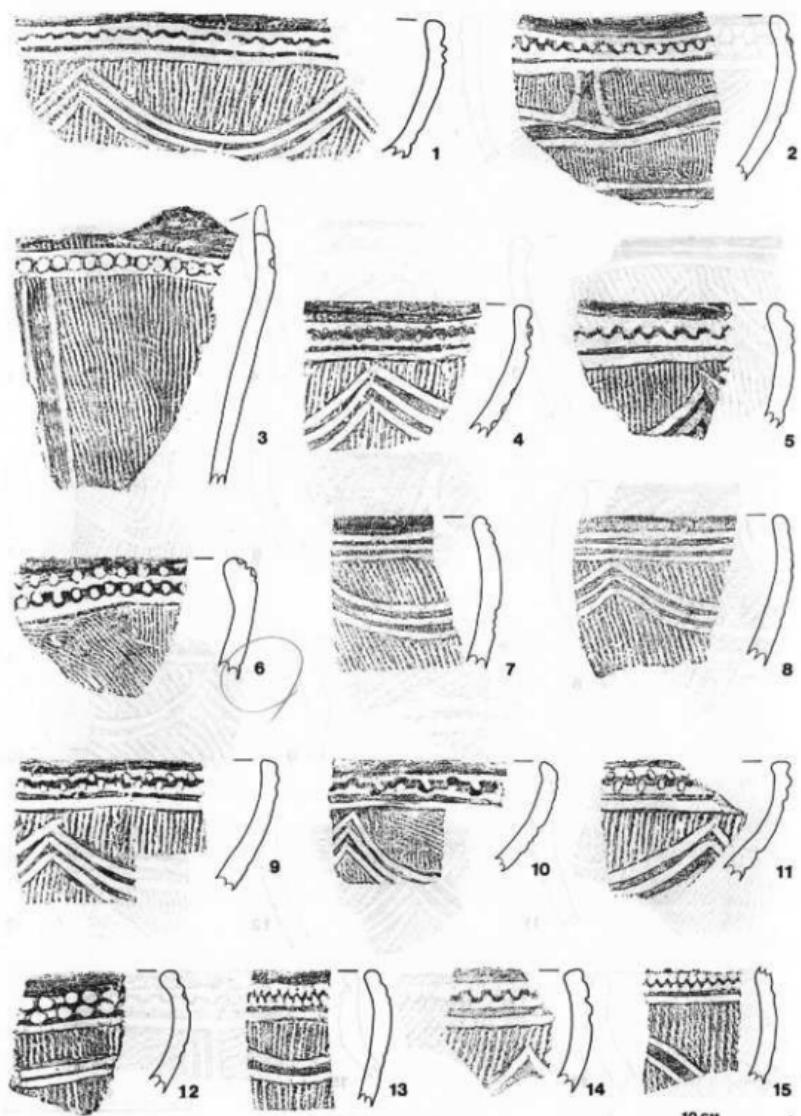
第181図 土器拓影図



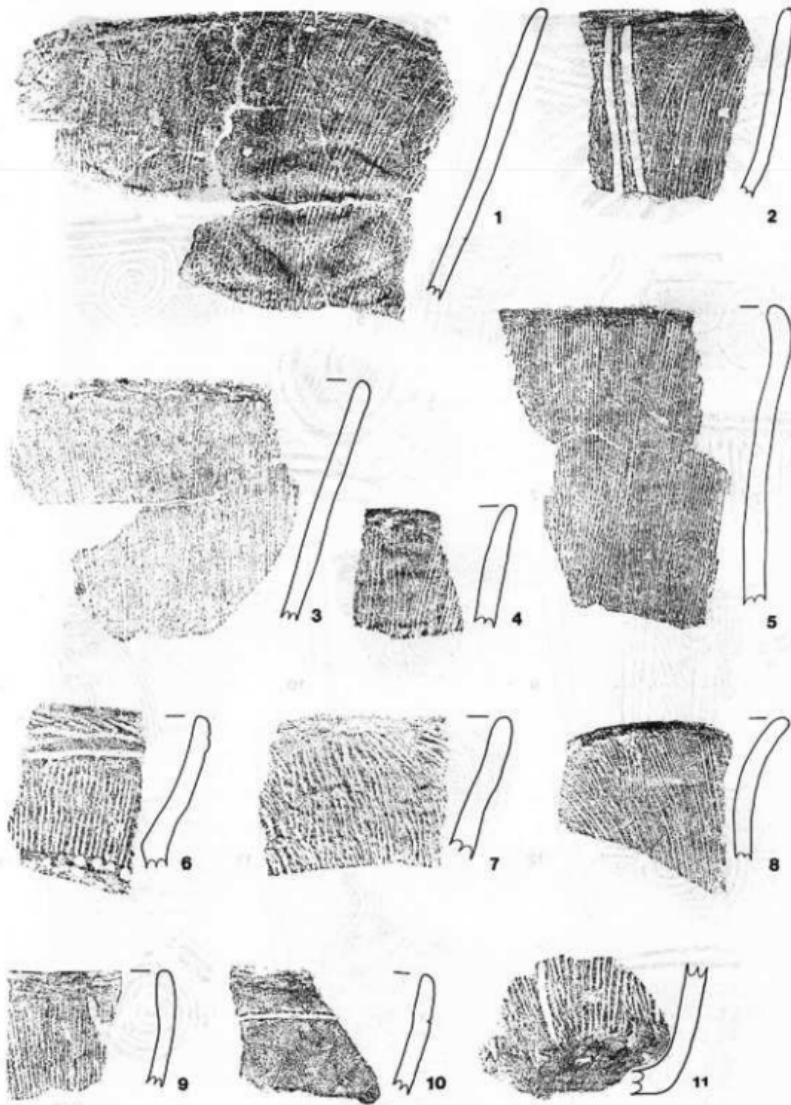
第182図 土器拓影図



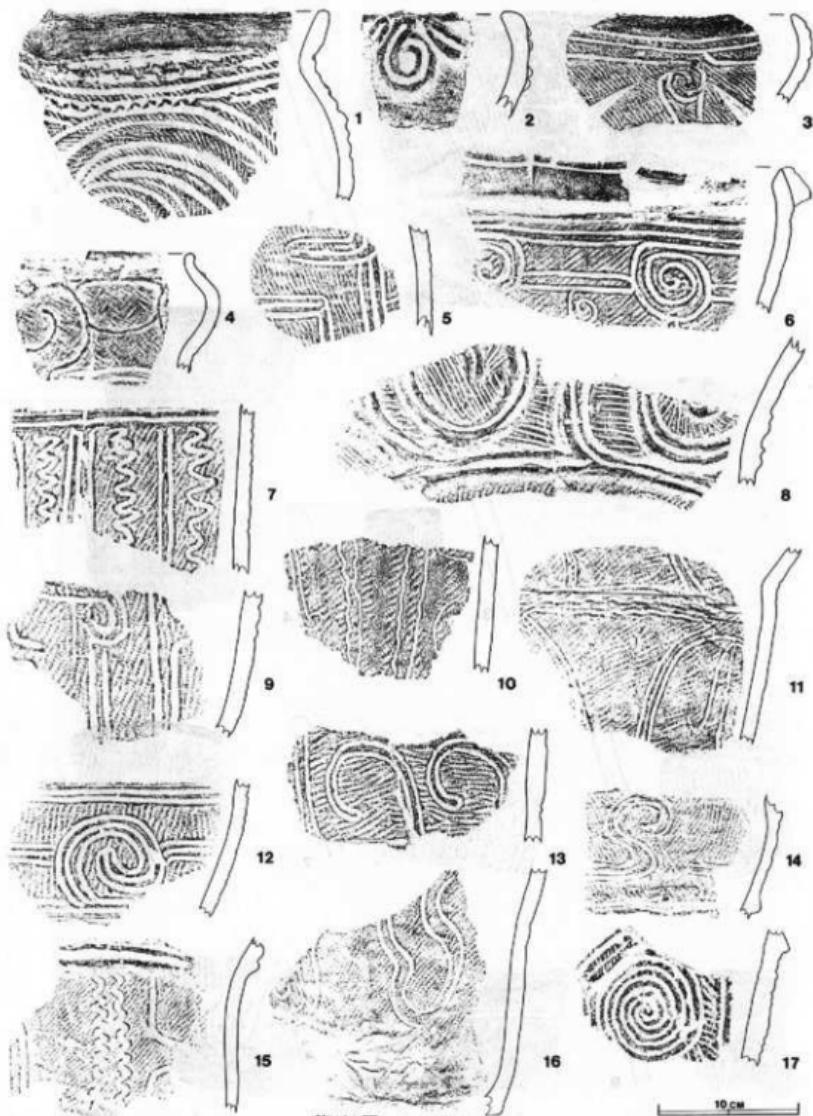
第183図 土器拓影図



第184図 土器拓影図



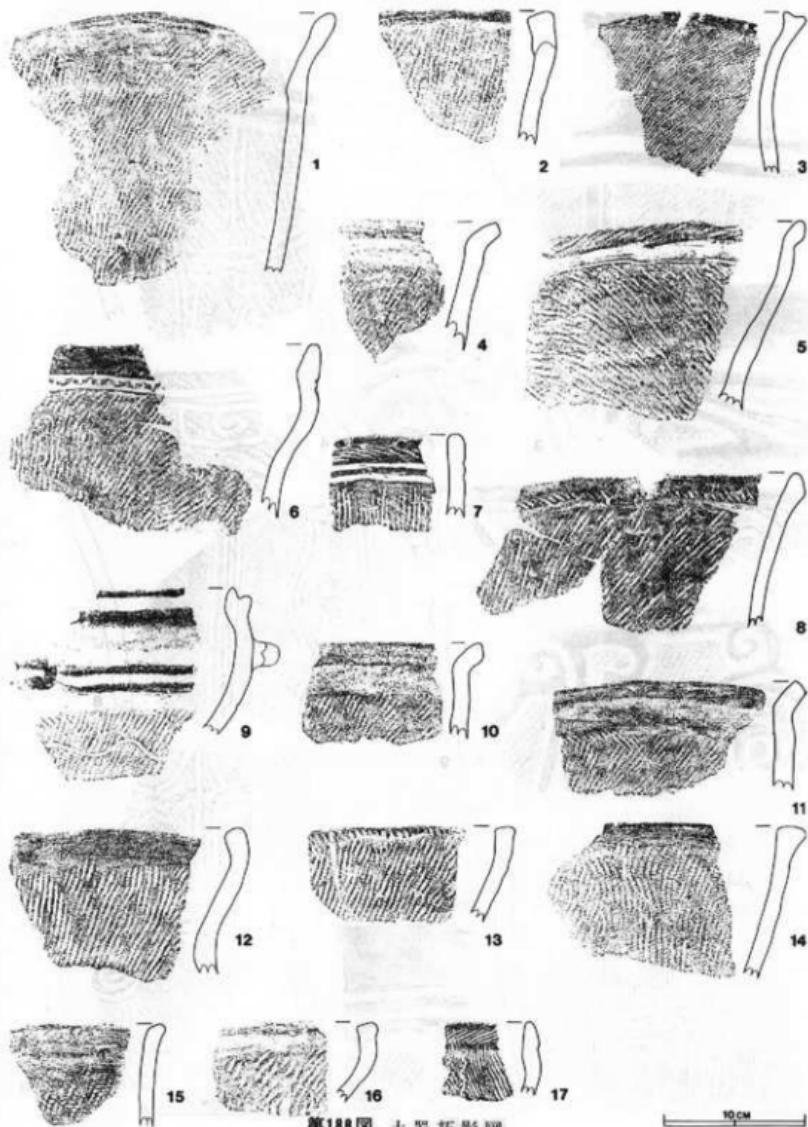
第185図 土器拓影図



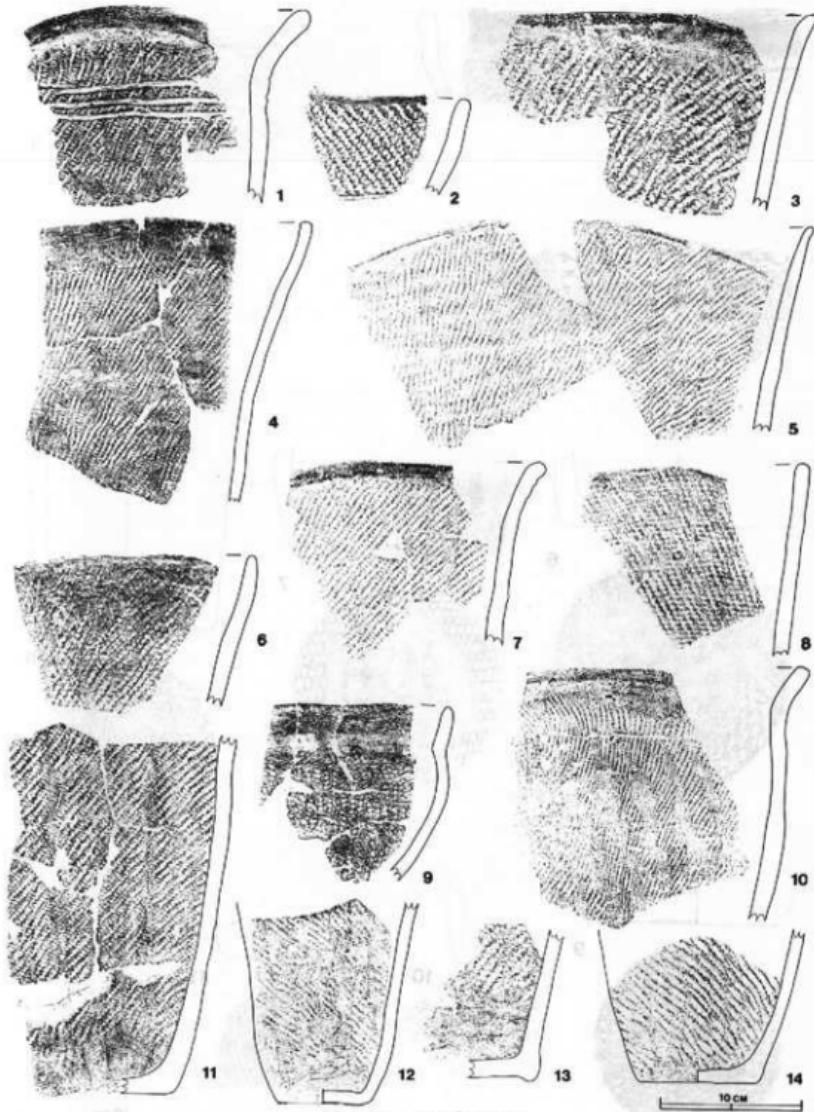
第186図 土器拓影図



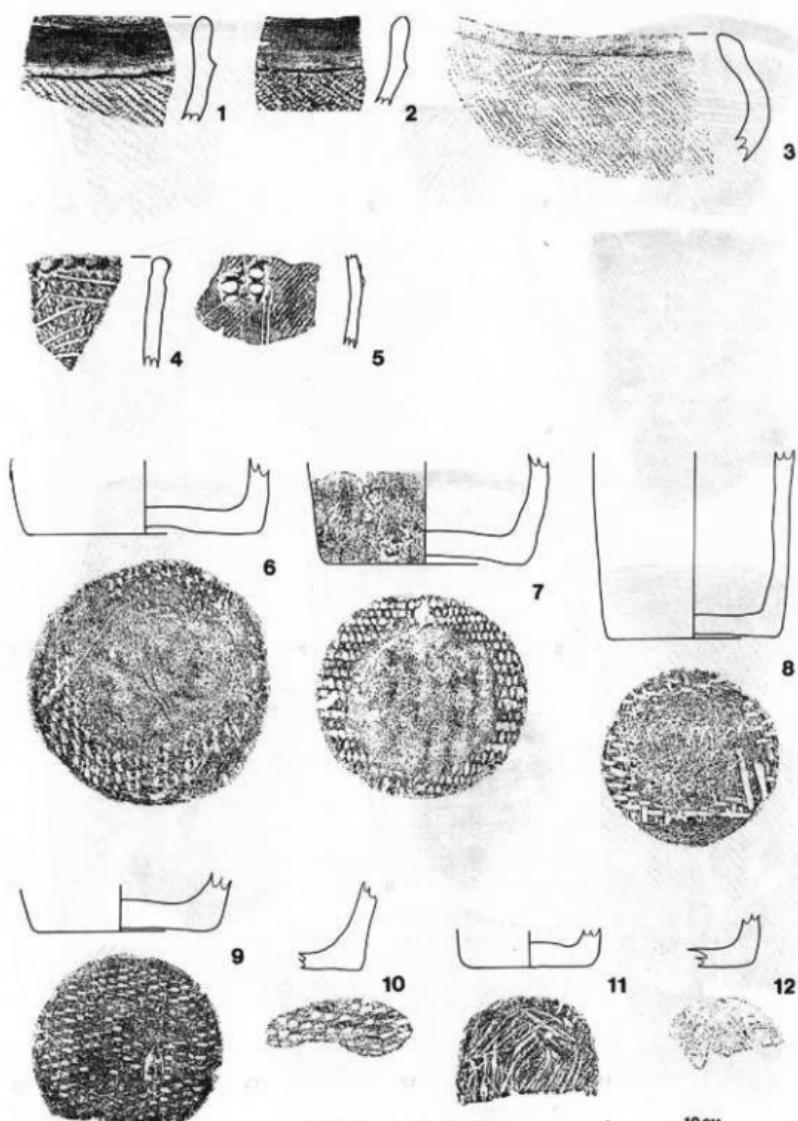
第187圖 土器拓影圖



第188圖 土器拓影圖

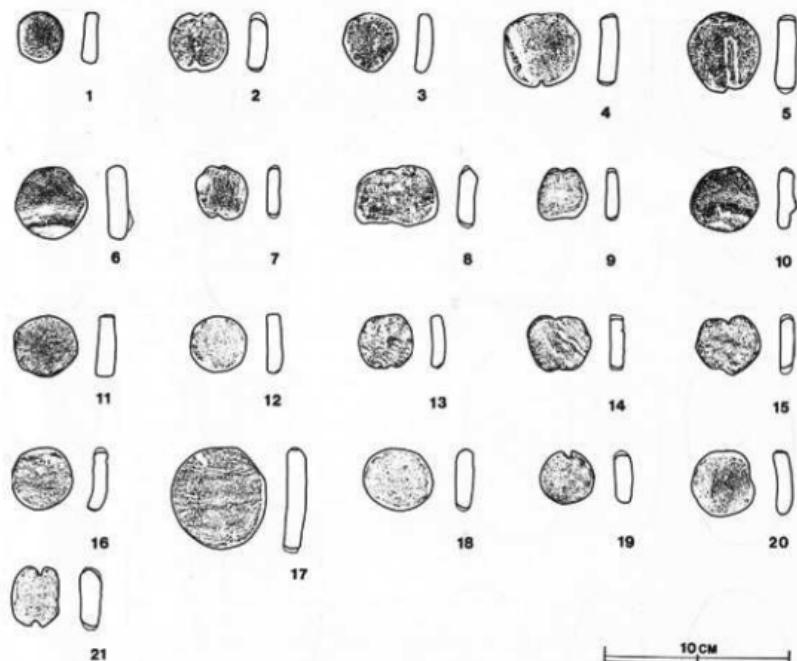


第189図 土器拓影図

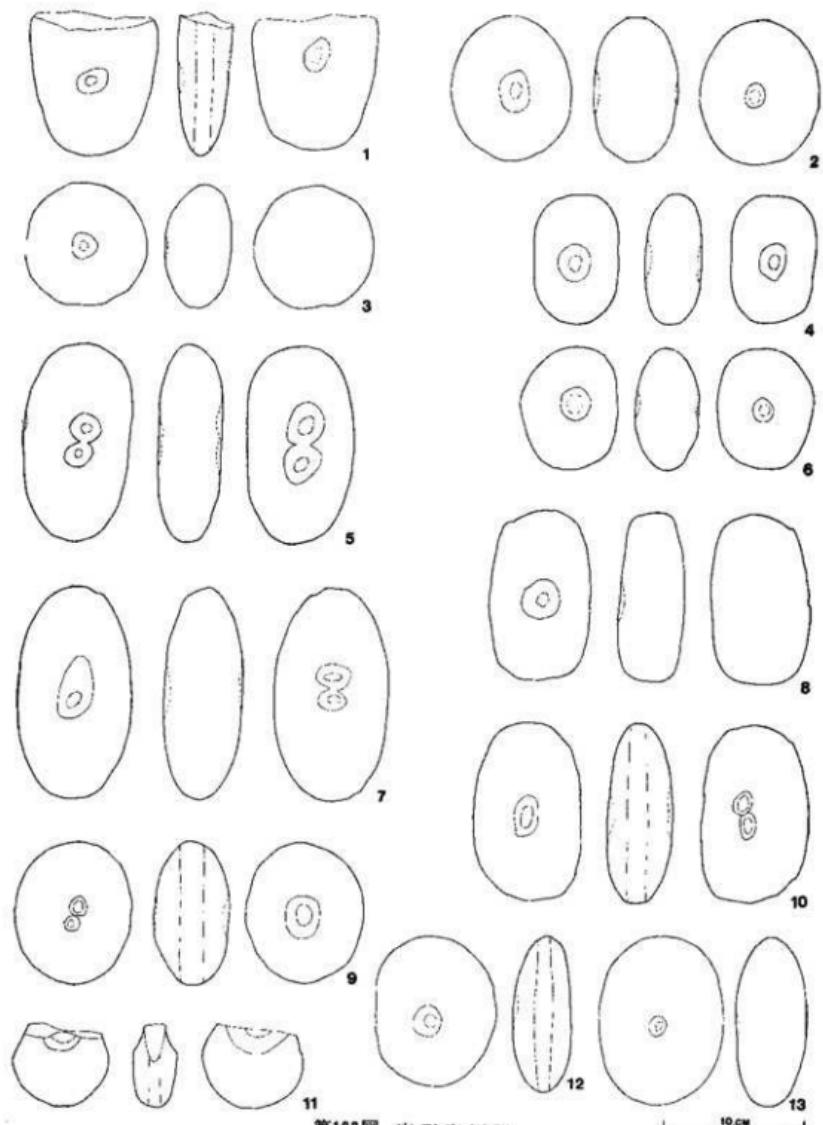


第190図 土器拓影図

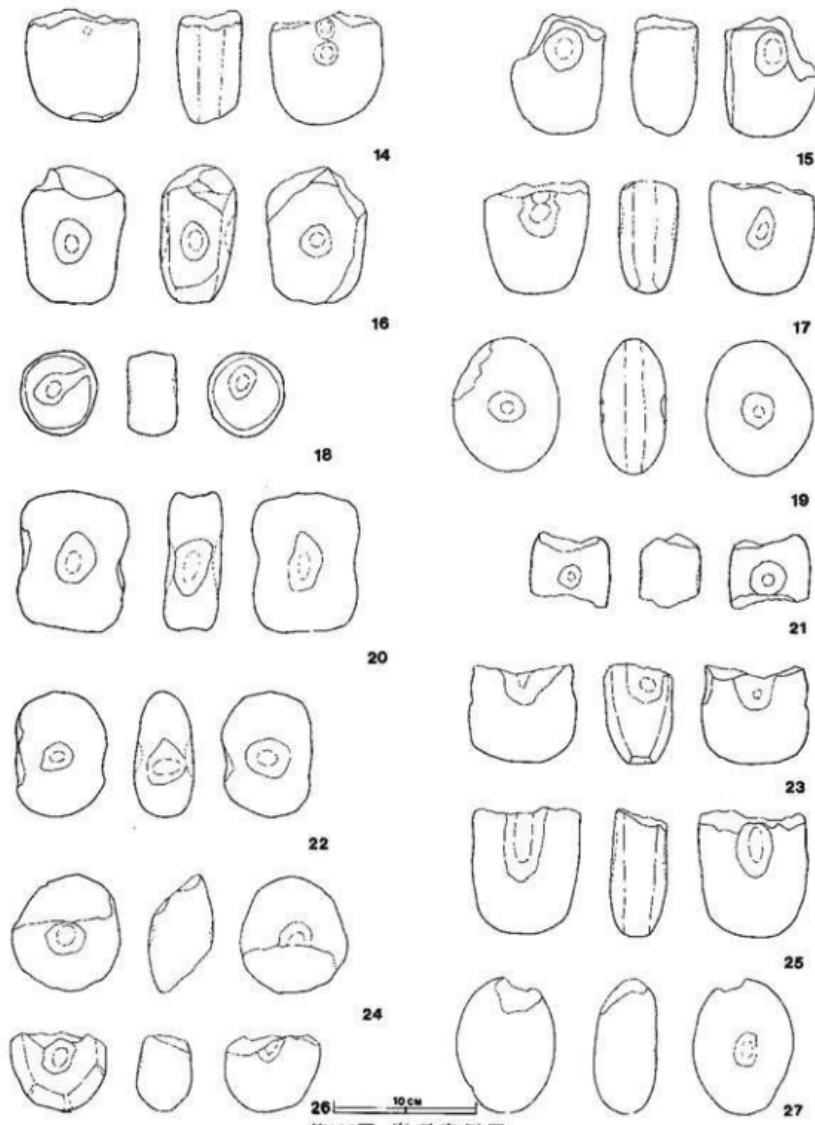
10 CM



第191図 土器片錐実測図

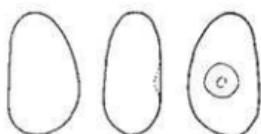


第192図 磨石尖端図

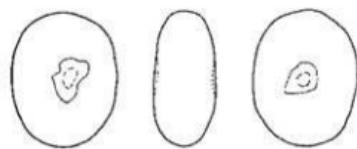




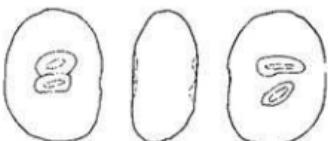
28



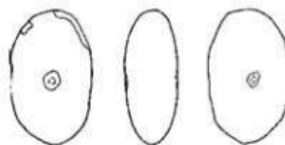
29



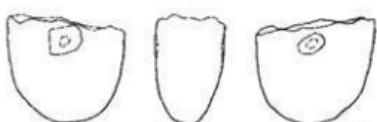
30



31



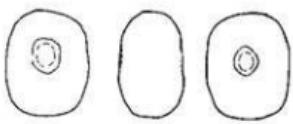
32



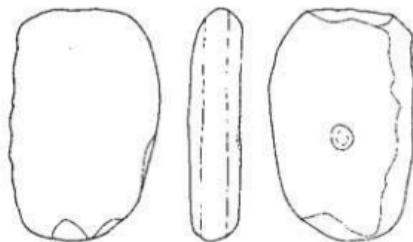
33



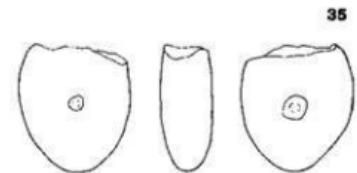
34



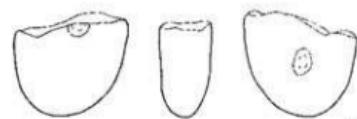
35



36

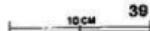


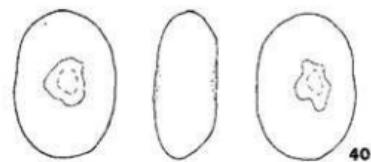
37



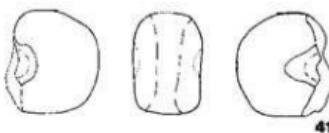
38

第194図 磨石実測図

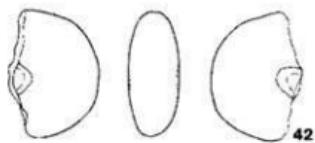




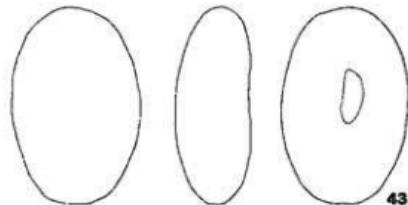
40



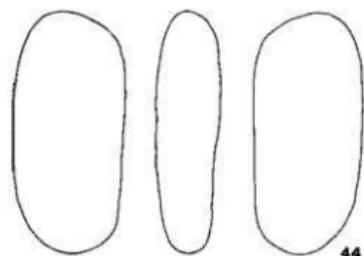
41



42



43

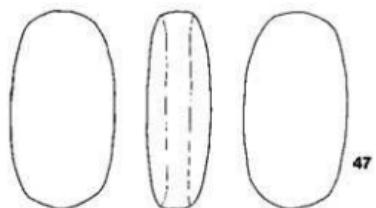


44

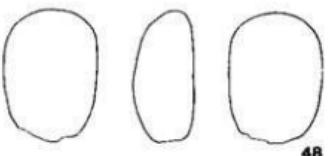


45

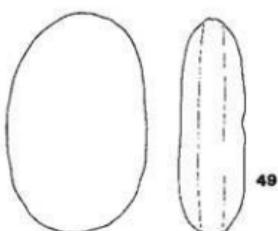
46



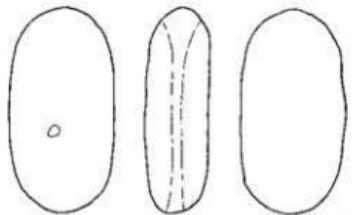
47



48

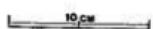


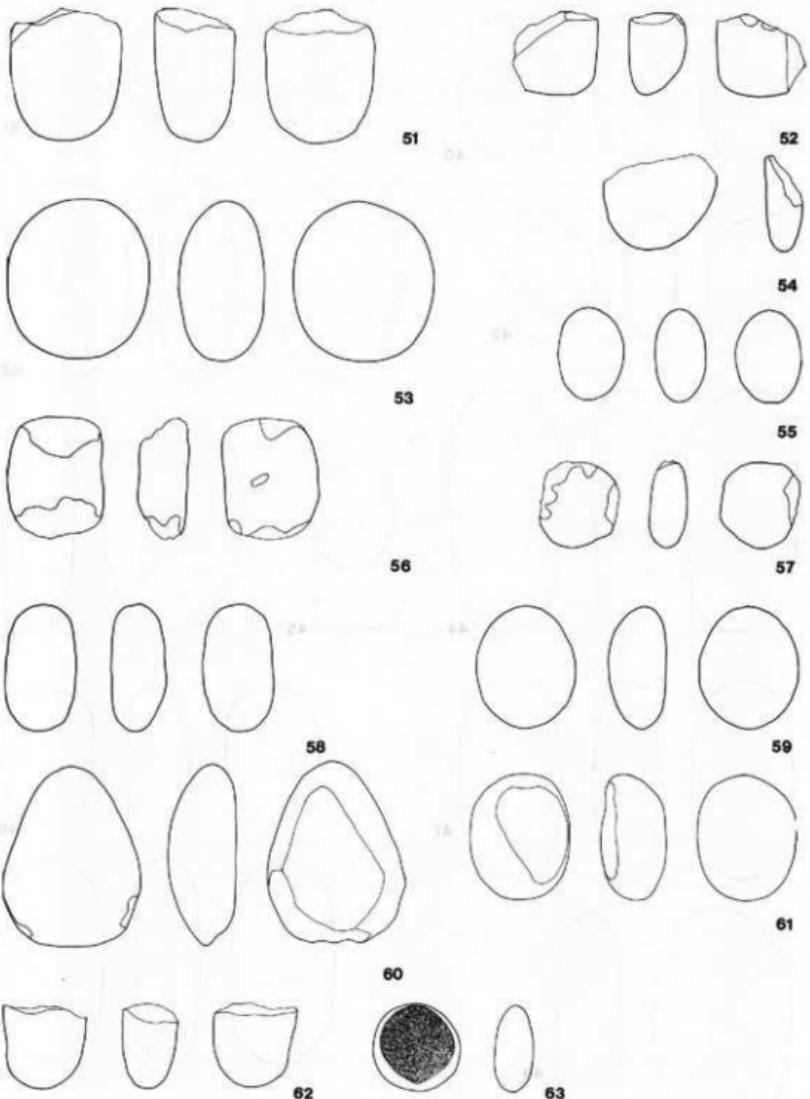
49



50

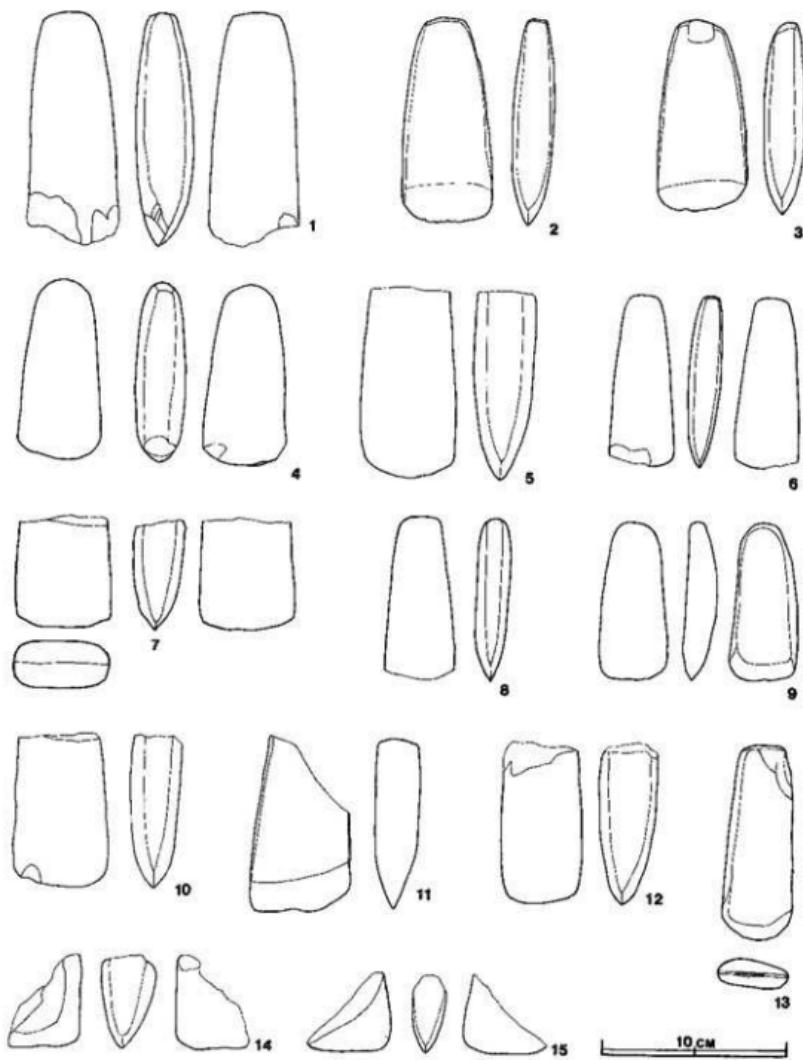
第195圖 磨石実測図



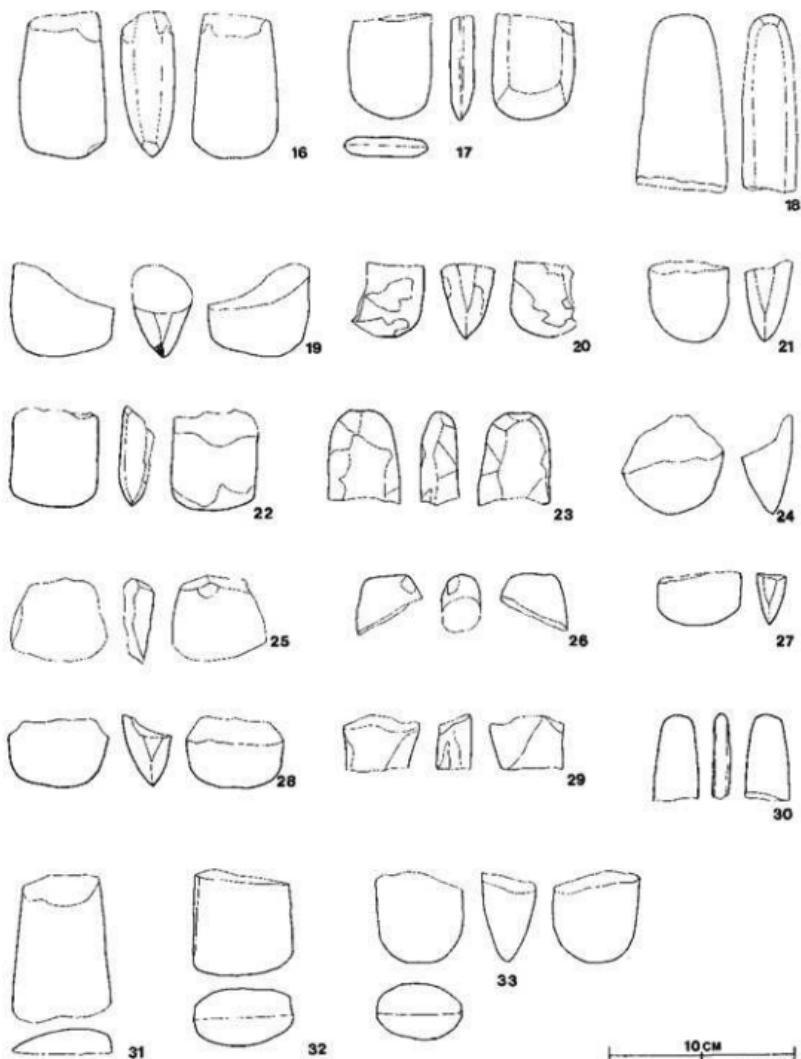


第196図 磨石実測図

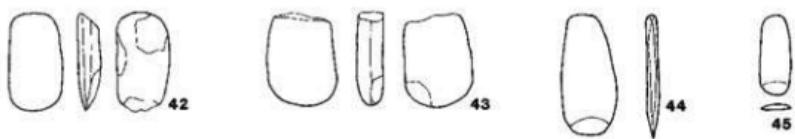
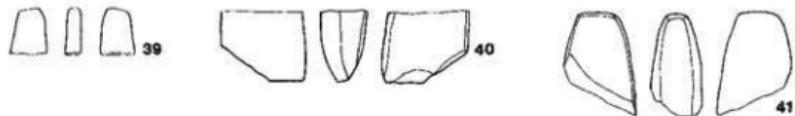
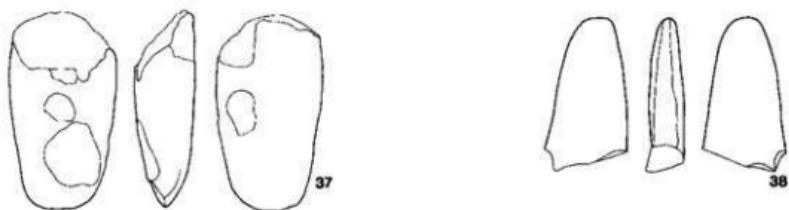
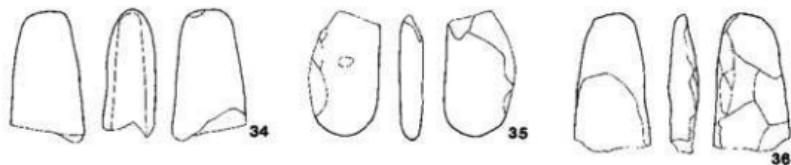
10 CM



第197図 磨製石斧実測図

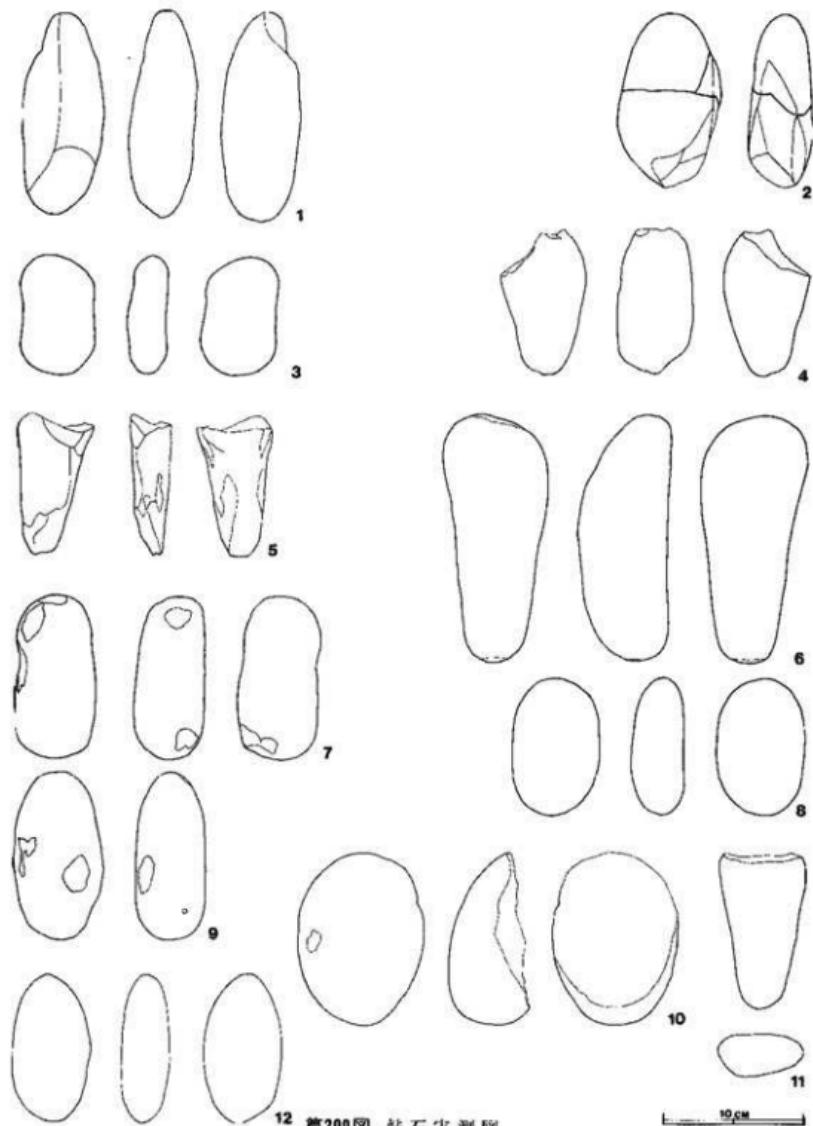


第198図 磨製石斧実測図

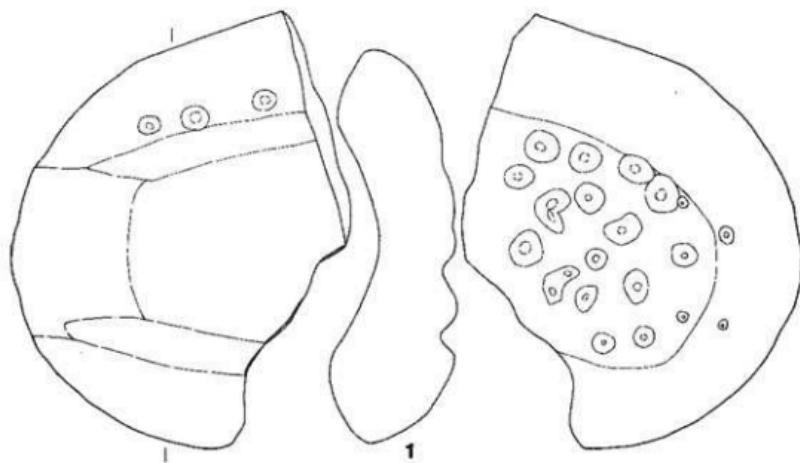


第189圖 磨製石斧尖測圖

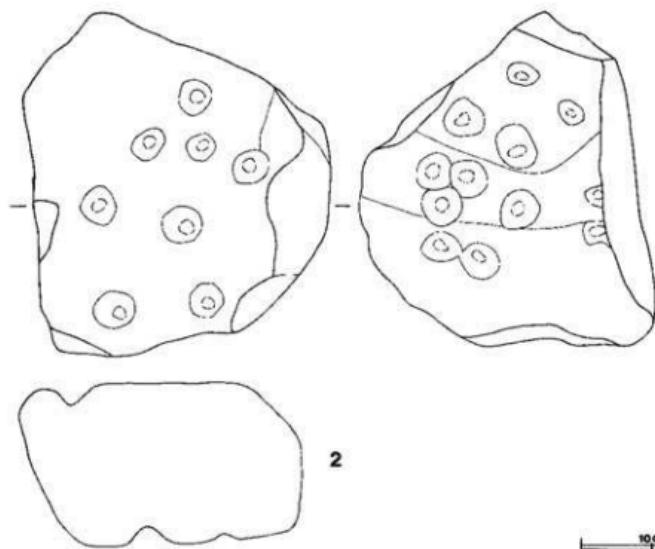
10 CM



第200図 敷石尖測図



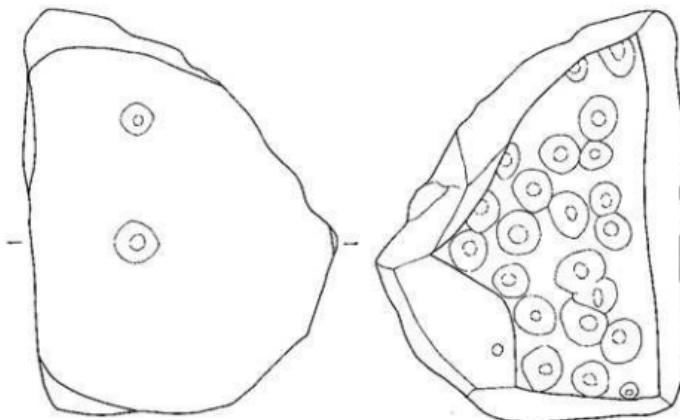
1



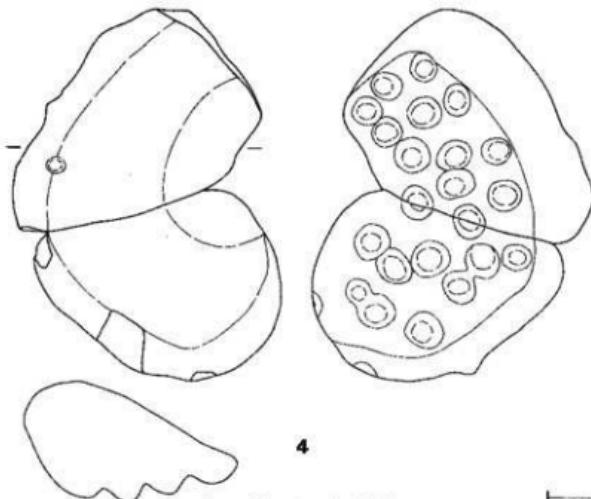
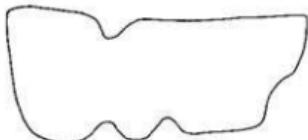
2

第201図 石皿実測図

10cm

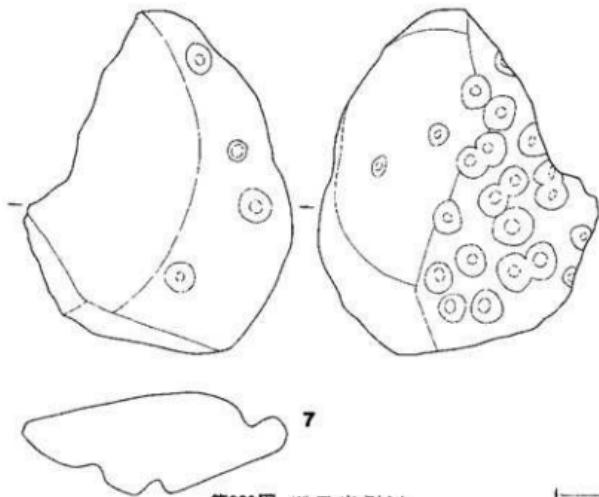
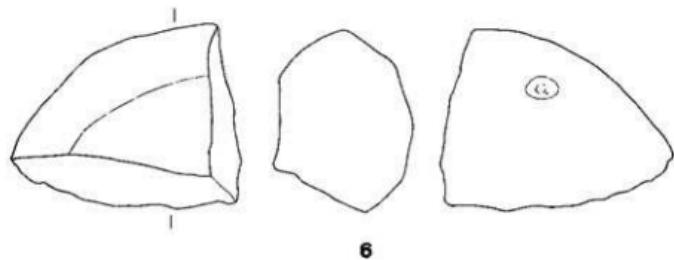
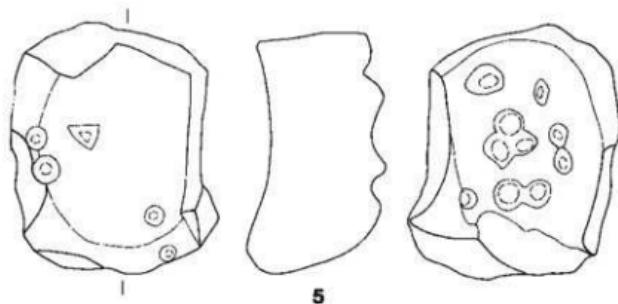


3



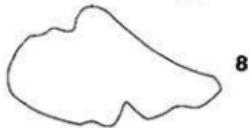
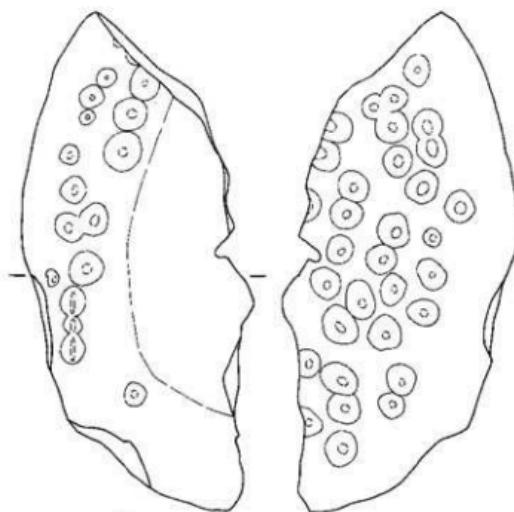
4

第202図 石皿実測図

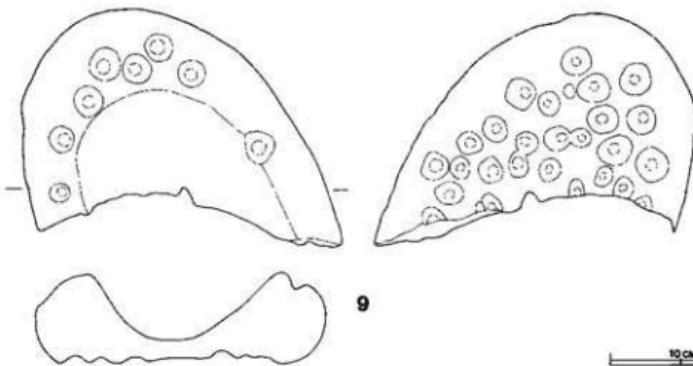


第203圖 石皿實測圖

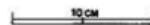
10cm



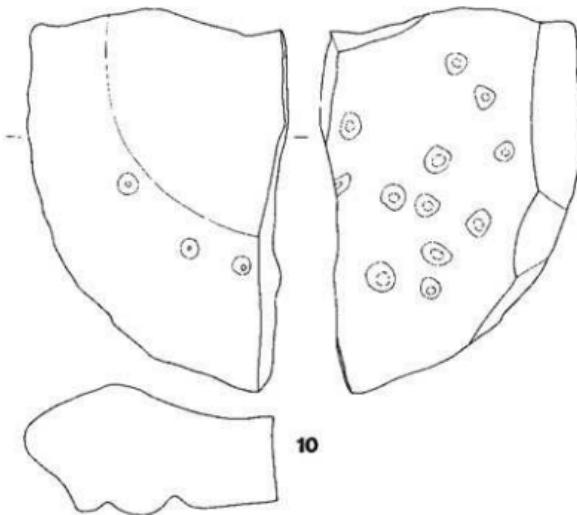
8



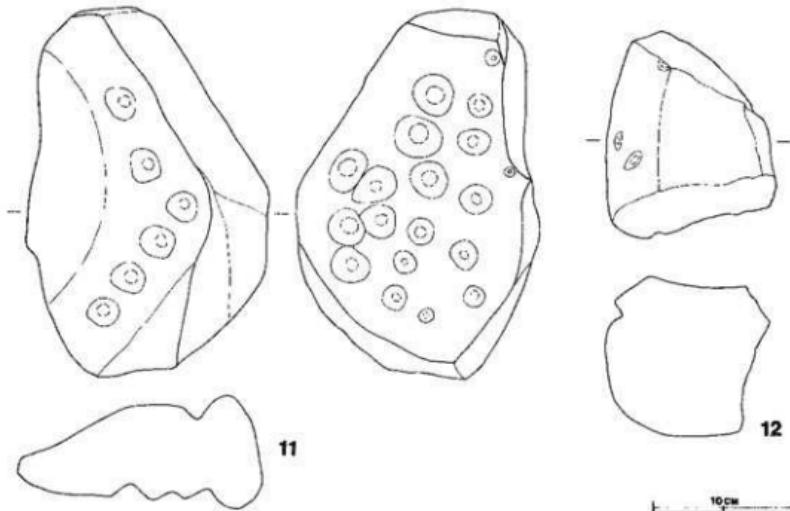
9



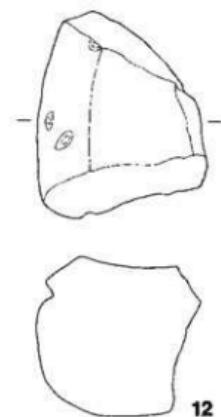
第204図 石皿実測図



10



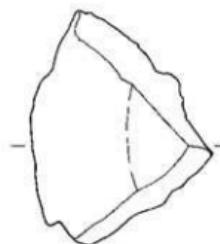
11



12

10 cm

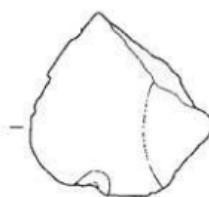
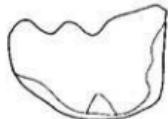
第205図 石皿実測図



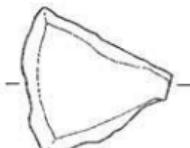
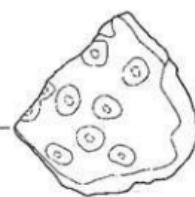
13



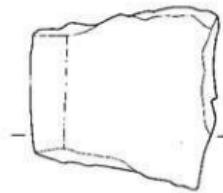
14



15



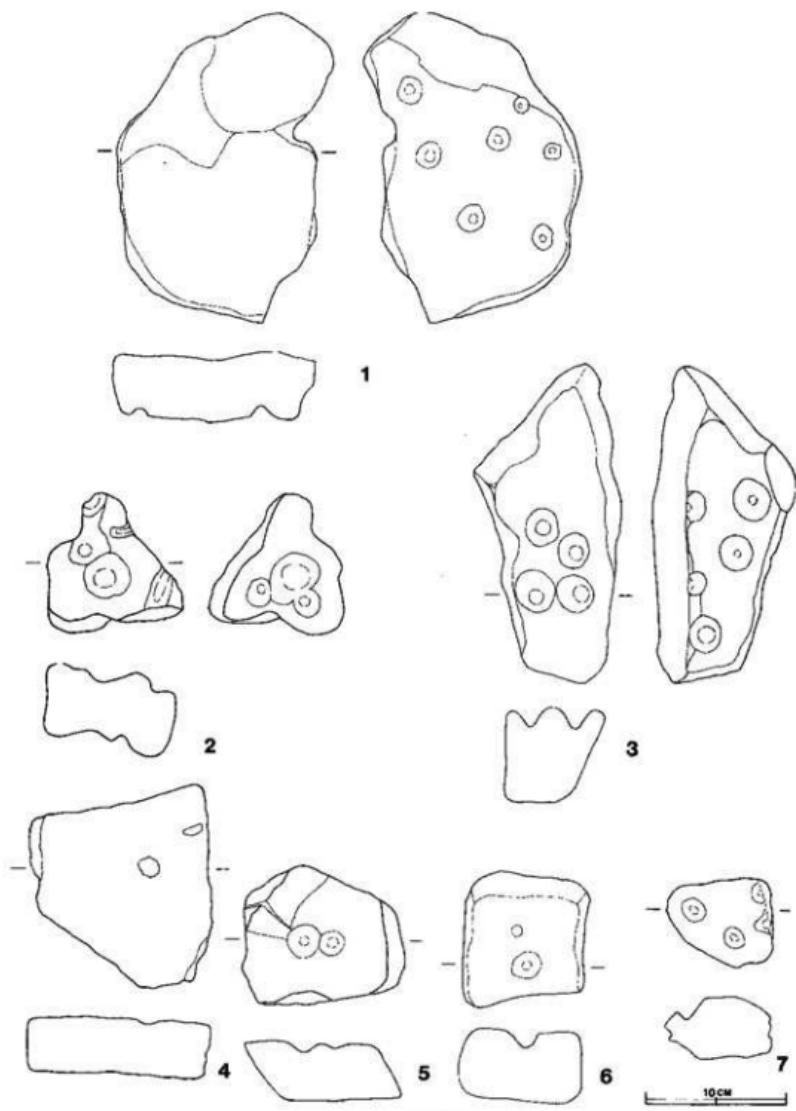
16



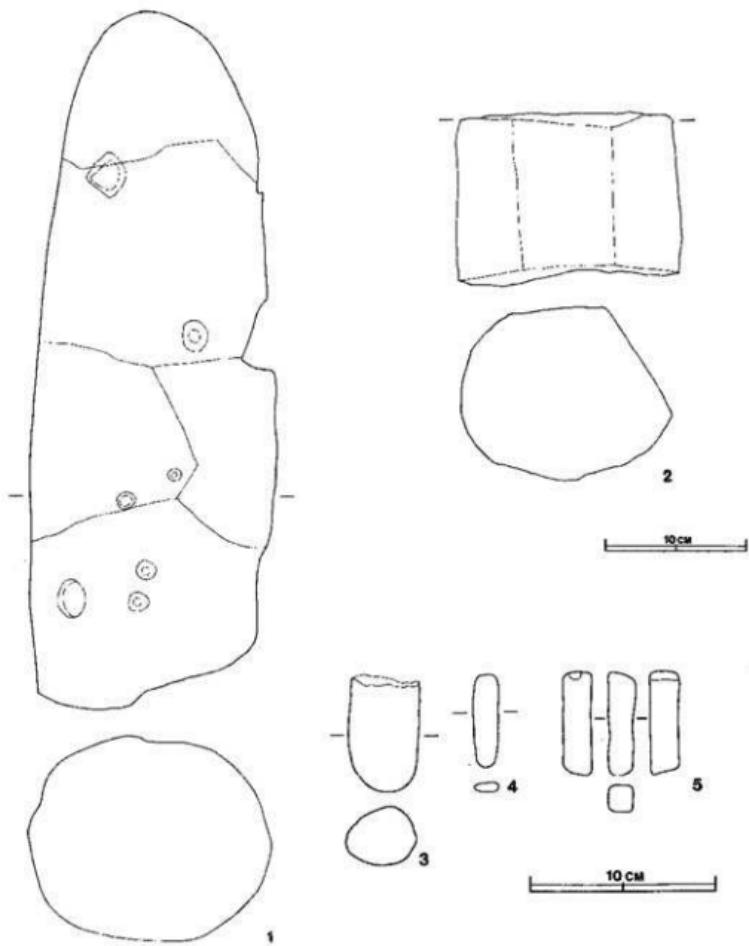
17



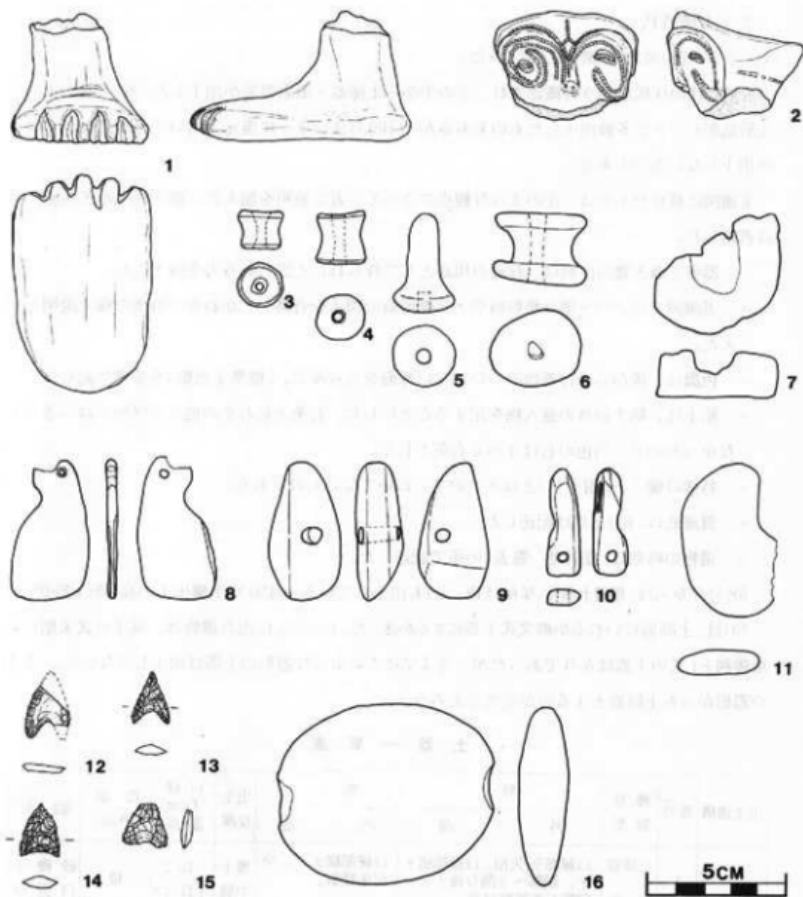
第206図 石皿実測図



第207図 凹石実測図



第208圖 石棒等尖頭圖



第209図 その他の遺物実測図

2. 古墳時代

(1) 土 器(図210～図213、写71・72)

古墳時代の住居址が9軒確認され、その中から上師器・須恵器等が出上した。85号住のように完形品がセットで多数出土したものもあるが、109号住のように復元実測のできる遺物が1点しか出土しないものもある。

実測図に載せたものは、次のような観点に立って、表で説明を加えた。縄文式土器と共通な所は省略した。

- 器形で壺と甕の区別は、貯蔵の用途として作られたと思われる方を壺とした。
- 実測図では、ヘラ削り整形痕やナデ整形痕の図示を省略し、かわりに特徴の欄で説明を加えた。
- 色調は、後からの付着物のついてない外面をえらんで、「標準土色帳」を参考に記した。
- 胎土は、粘土以外の混入物を記することにした。石英と長石その他との区別がはっきりしなかったので、白色の石はすべて石英とした。
- 特徴の欄で、「粗ナデ」とはナデのていねいでないものである。
- 贊通孔は「孔」とだけ記述した。
- 遺物の時期は「住居址一覧表」の所で記述した。

88号住からは、墨書き器(写68下段-8)も出土している。430号土壙出土の高円形土器(図213-39)は、土師器にいれるか縄文式土器にするか迷った。いっしょに出た遺物は、阿玉台式末期から加曾利E1式の土器ばかりであったが、今までにこのような器形の土器は出土していないし、整形や器形からも土師器とするのが妥当であろう。

土 器 一 覧 表

出土遺構	番号	種類 器形	特 徴		出土 位置	口 径 (cm) 器 高	色 調 (外 面)	胎 土
			外 面	内 面				
SI006	1	土師器 壺 形	口縁部少欠損。口縁部横ナデ。脇部ヘラ削り後ナデ。脇部下半部煤付着。	口縁部横ナデ。全面朱塗痕。	覆土 中層	15.2 (17.1)	橙	砂 磚 (多) 白雲母
	2	土師器 壺 形	口縁部少欠損。口縁部横ナデ。脇部ヘラ削り後ナデ。全面に朱塗り痕。脇部に煤付着。	口縁部横ナデ。全面に朱塗り痕。		(15.0) 15.8	赤	砂 磚 白雲母
	3	土師器 壺 形	口縁部少欠損。口縁部横ナデ。脇部ヘラ削り後ナデ。	口縁部横ナデ。	床直 上	(9.6) 12.8	明 赤 極	砂 粒 (多) 砂 磚
	4	土師器 壺 形	口縁部欠損。ヘラ削り後ナデ。底部ヘラ削り。	口縁部ヘラナデ。輪積痕。	床直 上	(9.2)	明 赤 極	砂 粒 (多) 砂 磚

出土遺構	番号	種類 器形	特徴		出土 位置	口徑 (cm) 器高	色調 (外面)	胎土
			外 面	内 面				
S1006	5	土師器 壇形	口縁部欠損。二次焼成を受けかなり摩滅。煤付着。		覆土 中層	(10.5)	にぶい橙	砂粒(多)
	6	土師器 壇形	口縁部のみ現存。横ナデ。	横ナデ。		9.9 (3.7)	にぶい橙 (外 面) 黒(内面)	砂粒(多)
	7	土師器 壇形	口縁部欠損。二次焼成を受け。かなり摩滅。		覆土	(6.8)	明黄褐	砂粒(多) 砂疊
	8	土師器 壇形	口縁部欠損。胴部ヘラ削り後ナデ。	ナデ。		(7.1)	にぶい橙	砂粒(多)
	9	土師器 壇形	口縁部欠損。頸部横ナデ。胴部上部に刺突文が一列。胴部ヘラ削り後ナデ。煤付着。	ナデ。	床 直上	(8.0)	赤褐	石英(多) 白雲母(多)
S1085	10	土師器 壇形	口縁部横ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。輪積み痕。		8.7 10.2	明褐灰	砂粒(多) 砂疊
	11	土師器 壇形	口縁部から頸部にかけて半分欠損。頸部に窓位のハケ目。胴部ナデ。	ナデ。輪積み痕。	床面	(9.7)	赤褐	砂粒(多) 石英
	12	土師器 壇形	口縁部横ナデ。胴部ナデ。頸部ハケ。整形後ナデ。煤付着。	口縁部横ナデ。朱塗痕。輪積み痕。	床面	18 22.8	明赤褐	砂粒 砂疊
	13	土師器 壇形	口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り後ナデ。かなり剥落。	口縁部横ナデ。胴部かなり剥落。	床面	18.9 27.2	明赤褐	砂疊(多)
	14	土師器 壇形	口縁部ヘラナデ。	口縁部ナデ。	床 直上	11.6 14.6	にぶい橙	白雲母(多) 石英(多)
	15	土師器 壇形	底部欠損。口縁部横ナデ。胴部ヘラ削り後ナデ。頸部に輪積み痕。朱塗痕。煤付着。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。底部近くに煤付着。	床面	15.8 (20.4)	赤黒	砂粒(多)
	16	土師器 壇形	下半分欠損。口縁部と胴部の境に輪積み痕。口縁部横ナデ。二次焼成。	口縁部横ナデ。ヘラ削り後ナデ。	床面	(17.2) (16.0)	橙	砂粒(多) 砂疊
	17	土師器 壇形	上半分欠損。ヘラ削り後ナデ。	ヘラ削り後ナデ。	床面	(18.3)	にぶい橙	砂粒 砂疊(多)
	18	土師器 壇形	口縁部欠損。ヘラ削り後ナデ。煤が付着。	ナデ。輪積み痕。	床面	(12.0)	明赤褐	砂粒 白雲母(多) 砂疊

出土遺構	番号	種類 器形	特徴		出土 位置	口径 (cm) 基高	色調 (外面)	胎土
			外 面	内 面				
SI 085	19	土師器 壺 形	上半分欠損。胴部上位にハケ日。底部横円形の孔。孔のまわり未整形。	粗ナデ。	床直上	(12.5)	にぶい粒砂	砂粒(多) 砂礫
	20	土師器 壺 形	下半分欠損。口縁部ナデ。胴部ハケ整形後ナデ。煤付着。かなり摩滅。	口縁部横ナデ。	床面	17.4 (22.5)	にぶい黄	砂粒砂
	21	土師器 壺 形	口縁から底部にかけて欠損あり。胴部上端と底部付近にハケ日。	ヘラ削りおよびハケ整形後ナデ。	床面	(26.0)	明赤褐	砂粒(多) 砂
	22	土師器 高环形	口縁部横ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。	ナデ。	床直上	19.0 15.6	明赤褐	砂粒(多)
	23	土師器 高环形	坏部%欠損。丁寧なナデ整形。	丁寧なナデ整形。	床直上	20.0 15.0	にぶい白	砂粒白雲母
	24	土師器 高环形	脚部欠損。口縁部横ナデ、ヘラ削り後ナデ。全面に朱痕痕。	丁寧なナデ整形。朱痕痕。	床面	21.0 (6.8)	權	砂粒
	25	土師器 高环形	坏部欠損。ヘラナデ。	脚部内面に絞り痕。	床直上	(11.2)	權	砂粒(多)
SI 086	26	土師器 壺 形	口縁部横ナデ。胴部丁寧なナデ。口縁部と胴部との境に指圧痕。煤付着。	口縁部横ナデ。他は丁寧なナデ。	貯藏穴内	13.4 8.0	暗赤褐	砂粒白雲母
	27	土師器 壺 形	口縁部から頸部にかけて欠損。胴部下半にへこみ。かなり摩滅。	ナデ。輪積み痕。	床面	(10.0)	權	砂粒(多) 砂
	28	土師器 高环形	脚部欠損。口縁部横ナデ。横ナデした施文具のものと思われる旋線。煤付着。	ヘラナデ。	床直上	18.7 (6.0)	にぶい粒 (外面) オリーブ (内面)	砂粒
SI 088	29	須恵器 壺 形	口缺から底部にかけて一部現存。叩き目あり。かなり摩滅。			(24.0)	黄	砂粒白雲母
	30	須恵器 高环形	坏部欠損。ロクロ整形。脚部に長方形の透かし穴が3個所。		カマド内	(10.9)	灰	砂粒石英(多) 白雲母
SI 090	31	土師器 壺 形	口縁部のみ現存。口縁部が二重になっていて、横ナデ。	口縁部横ナデ。胴部に輪積み痕。	床面	(16.6) (8.0)	浅黄權	砂粒(多) 砂
	32	土師器 壺 形	下半分欠損。口縁部・胴部ヘラ削り後ナデ。	口縁部横ナデ。	覆上 中層	17.5 (20.0)	權	砂粒 金雲母

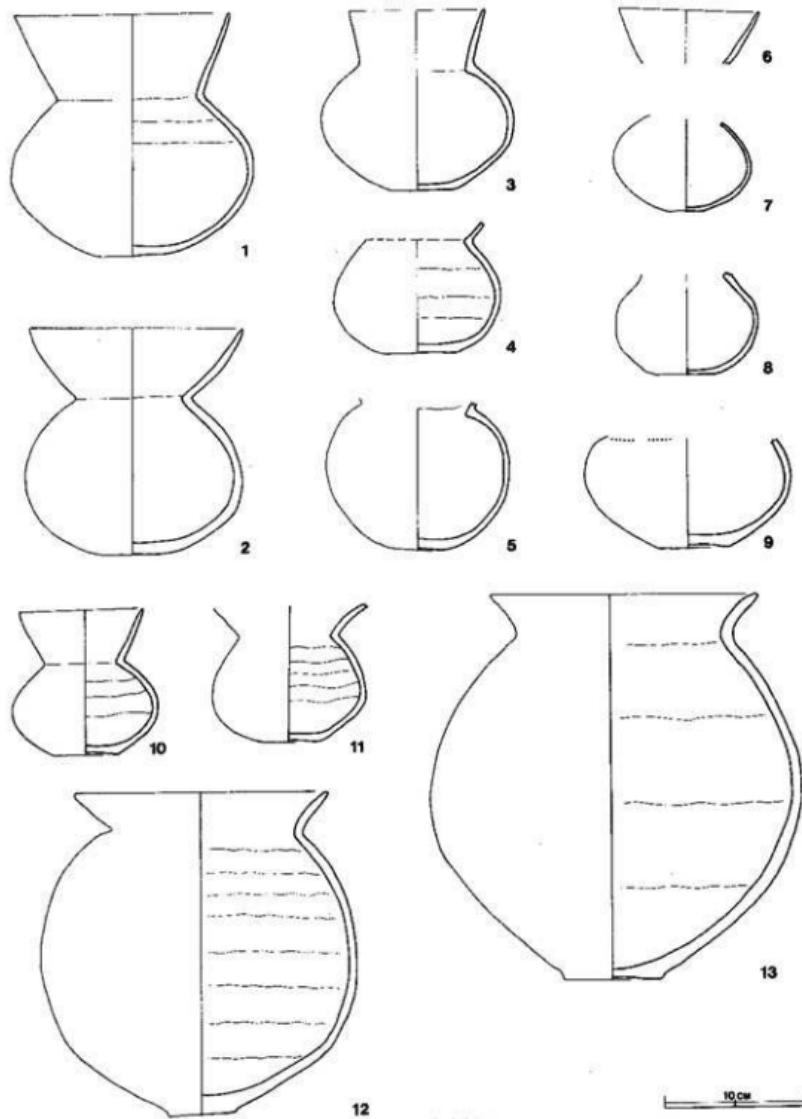
出土遺構	番号	種類 器形	特徴		出土位置	口径 (cm) 器高	色調 (外側)	胎上
			外 面	内 面				
SI 090	33	土師器 高环形	坏部の1部のみ現存。	ヘラナデ。	覆土 中層	(24.0) (7.3)	橙	石英(多)
SI 091	④	土師器 壇形	底部の一部欠損。口縁部横位のハケ整形後、ナデ。胴上部ハケ整形後ナデ。	口縁部ハケ整形後 ナデ。		16.0 26.0	橙	石英
	⑤	土師器 壇形	口縁部横ナデ。胴部ナデ。胴部はソロバン玉形。	口縁部横ナデ。		9.9 9.7	明赤褐	砂礫 白雲母
	⑥	土師器 壇形	口縁部欠損。朱塗痕。二次焼成を受け摩滅。胴部ソロバン玉形。	朱塗痕。	覆土 中層	(6.9)	明赤褐	砂礫 砂粒(多)
SI 097	37	土師器 鉢形	縁 $\frac{1}{2}$ のみ現存。ミガキ。	ミガキ。		(20.5) (12.7)	褐色 (外側) 黒褐色 (内側)	砂粒(多) 白雲母(多)
SI 109	38	土師器 坏形	口縁から底部までの一部が現存。高台付。全面横ナデ。底部ナデ。	口唇部を含み黑色 にミガキ。	覆土 内	(17.3) 6.4	にぶい橙	小石
SK 430	39	土師器 高环形	坏部欠損。ナデ。胎上は绳文式土器阿土台式に類似。	ナデ。		(13.0)	にぶい 雲母(多) 赤褐	石英
不明	40	土師器 高环形	脚部欠損。			21.0 (6.4)	明赤褐	石英(多)
	41	須恵器 坏形	底に半分欠損。ロクロ整形後底部とその近くの胴部をヘラ削り。			(12.7) 4.2	灰	石英(多)

(2) その他の遺物(図213, 写72-11・12)

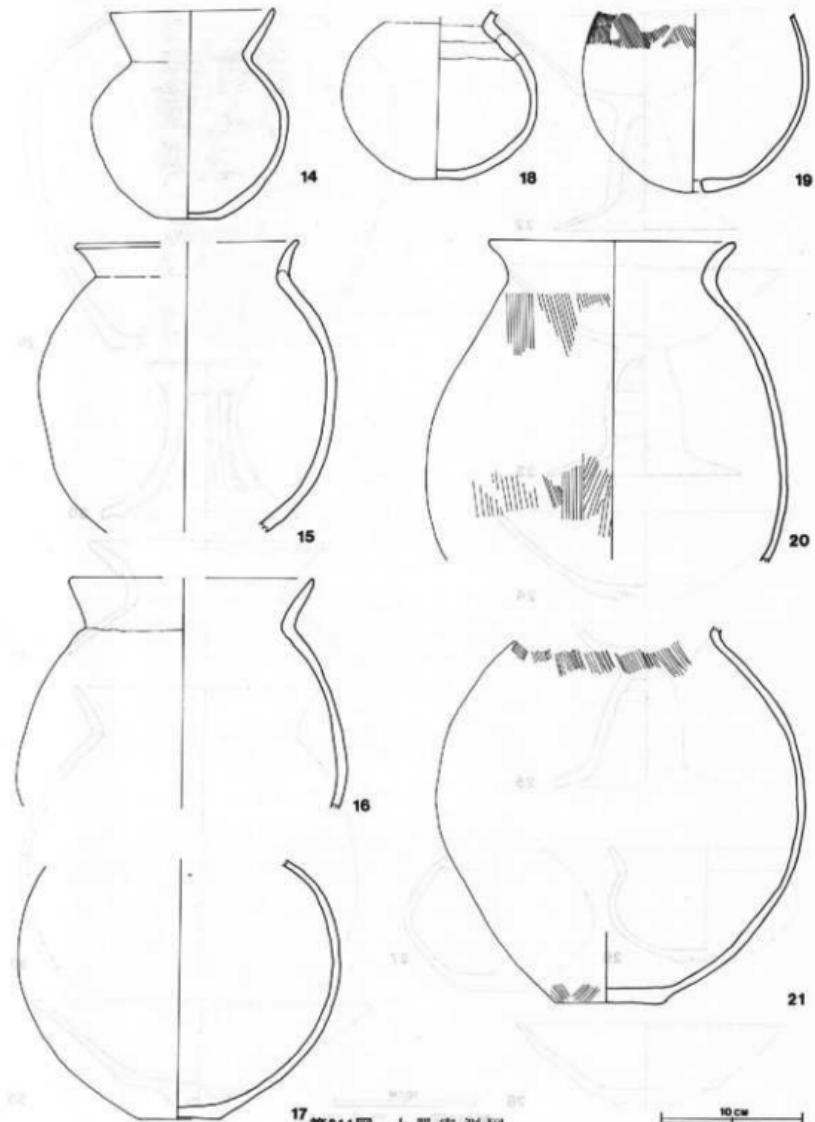
住居址から土玉が2個、土壙内から石製紡錘車の破片が出土した。なお江戸時代の寛永通宝が2個表土から出土している。

遺物一覧表

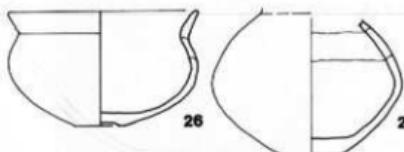
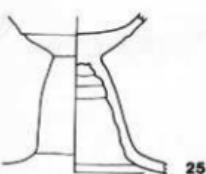
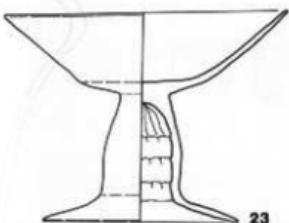
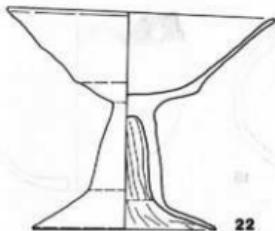
番号	名称	出土遺構	備考
1	土玉	SI 096	長径3.6cm短径3.4cm重さ38g。いびつな球形。貫通孔あり。黒褐色。
2	土玉	SI 085	直徑3.2cm重さ30g。球形。貫通孔の所で欠損。橙色。
3	紡錘車	SK 558	長さ4.6cm幅2.5cm厚さ0.9cm重さ12g。半分欠損。摩滅。石質は粘板岩。



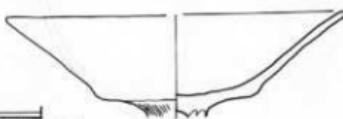
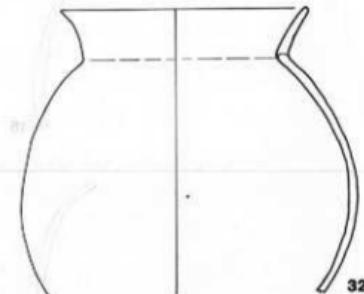
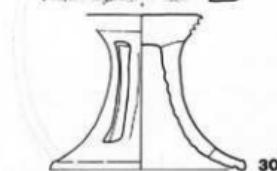
第210図 土器実測図

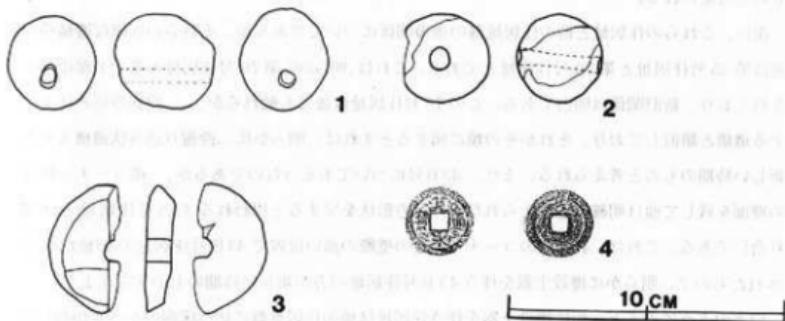
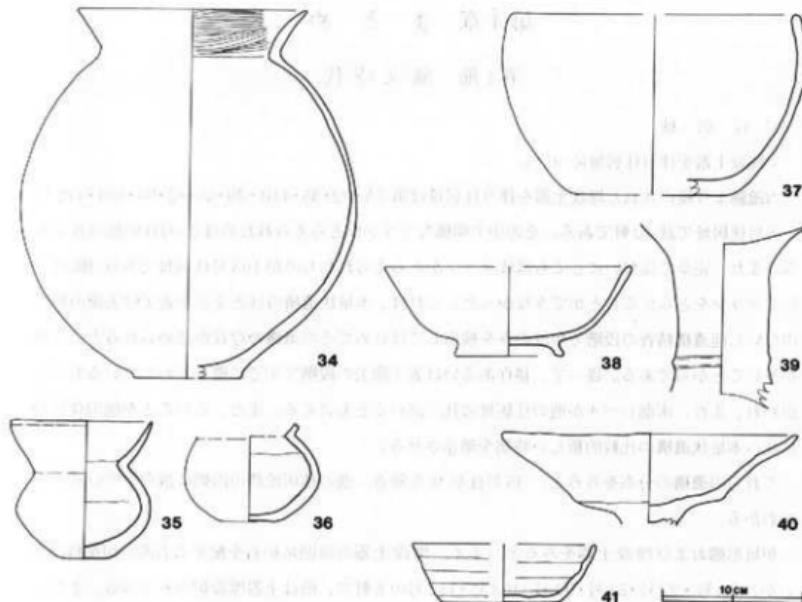


第211図 土器実測図



10 CM
第212図 土器実測図





第213図 土器およびその他の遺物実測図

第4章 まとめ

第1節 繩文時代

(1) 住居址

○埋設土器を伴う住居址について

当遺跡より検出された埋設土器を伴う住居址は第7A・22・35・43B・49・55・87・99・103・112号の各号住居址で計10軒である。その中で明確なプランがとらえられたのは35号住居址のみである。また、完全ではないにしてもほぼプランがとらえられたものが103号住居址であり、他はまったくプランをとらえることができなかった。これは、本址状遺構のほとんどが表土除去後の精査中ないし他遺構精査の段階で炉址のみを検出してはじめてその遺構の存在が認められるという例が多いことからである。従って、耕作あるいは表土除去の段階ですでに壁をこわしているものと思われ、また、床面レベルが他の住居址に比べ高いことも言える。また、このことが他の住居址に比べ本址状遺構の比較的新しい時期を暗示させる。

これらの遺構の分布をみると、35号住居址を除き、他の住居址群の内側に散在していることがわかる。

炉址形態および埋設土器をみると、まず、埋設土器の周間に炉石を配する石開い炉を持つものが、7A号・22号・55号・99号・103号・112号の6軒で、他は土器埋設炉のみである。また、それぞれのが址に使用された土器は加曾利EII期にあたるものが多く、第7A号・49号・103号・112号が加曾利EIII期にあたるものである。従って、当遺跡住居群の中では比較的新しい時期のものと考えられる。

次に、これらの住居址と他の住居址群の重複関係についてであるが、それらの明確な遺構検出例は第55号住居址と第70号住居址である。これは、明らかに第70号住居址の覆土上部に検出されており、新旧関係は明白である。この70号住居址は後でも触れるが、二段掘り込み状を呈する遺構と類似しており、それがその類に属するすれば、明らかに二段掘り込み状遺構よりも新しい時期のものと考えられる。また、43B号についてもそうなのであるが、南コーナー付近の壁面を残して他は明確にとらえられなかった方形状を呈すると思われる43A号住居址との関り合いである。これは、43A号のコーナー付近の壁際の高い位置で43B号住居址の炉址が検出されたもので、明らかに埋設土器を伴う43B号住居址の方が新しい時期のものと言えよう。

以上のようにみると、炉に埋設土器を伴う住居址は他の住居址群に比べ床面のレベルが高いこと、またこのことが表土除去の段階で壁を削平していること、さらに、そのためにプランを不明確としており、また、埋設土器に加曾利EII～EIIIにかけてのものを使用していること、加曾利EIV期以降の遺物がほとんどみられないことなどから、当遺跡において比較的新しい時期の住居

址群と考えられる。

○埋設土器を伴わない石囲い炉を持つ住居址について

これらの検出された住居址は、第3・27・29・30・38・61・72・80号の各号住居址で計8軒である。これらの中で完存していたものが第61号住居址と、炉址部のみ検出された第80号住居址の2軒である。また、第72号住居址においては2つのが石が検出された。しかし、他の住居址においてはその痕跡を残すのみである。従って、本址状遺構の大半はが石の抜かれたものが多いといえよう。

これらの炉址形態をもつ住居址は、C3区の土壤群を取り囲むように弧状に点在し、それぞれが比較的適当な距離をおいて位置している。また、第80号住居址を除いてはそのほとんどが明確なプランをもってとらえられた。規模はほとんど同程度で、最大でも第72号住居址の7.25×5.70m程度である。形状はいずれも稍円形状を呈している点で共通し、しかも、それぞれの壁面がとらえられた。壁高はさまざまであるが、特に第38号住居址が72cmと高い。炉址についてはそのほとんどが中央よりやや北寄りに位置し、共通性を持っている。床面は全体的に平坦さをもち、また、床質についても良好である。特に第38号住居址のものは良好で、全体的に硬く踏み固められている。ピット数については、第3・27・72号の各号住居址が多いが、いずれも比較的等間隔を保つ良好なピットが検出され、4~7本を主柱穴としている。

主軸方向についてみてみると、第30号住居址だけがほぼ東西軸上としており、また第72号住居址だけが東方向に指している他はその大半が西方向を指し、しかもその傾きを16°~30°程度としている。

次に、出土状況をみると、出土量では第3号住居址と第61号住居址が圧倒的に多い。その中でも第3号住居址が特に多く、その大半は覆土上部である。廃絶後の投棄によるものと思われる様相を示している。また、これらの住居址の出土遺物で共通していることは、加曾利EⅠ期のものを必ず伴っていること。さらに、第72号住居址を除き阿玉台期の遺物が目立つことである。さらに、第3号住居址では加曾利EⅠ期の半完成品、第38号住居址ピット内の阿玉台期の中でも比較的新しい時期のものの完成品が出土しており、第61号住居址にあたっては勝坂期の土器片等もみられ、全体として、阿玉台期・加曾利EⅠ期のものを中心にEⅢ期に至るまで種々出土している。従って、本址状遺構群の時期的位置づけは中期後葉までに属すると思われるが、それをさらに細分することは難しい。

しかし、第38号住居址のピット内の出土遺物は時期決定のうえで有力な資料となろう。また、本址群の中でが石のみ検出された第80号住居址にあっては、方形を呈する炉址を伴わない、二段掘り込み状遺構の可能性をもつ第70号住居址の東コーナー壁の上部より検出されていることからこれよりも新しい時期のものと言えよう。なお、本址状遺構群のすべてが必ずしも同一時期のものとの確認は得ていない。

○地床炉を持つ住居址群について

これらの検出された住居址は18軒にのぼり、中でも明確なプランをとらえることができた住居址は、第9・15・19・26・36・71・82・92・94・102号の各号住居址の10軒と、一部の壁面と壁溝によってやや明確にとらえることのできた第46・84・89号住居址の3軒だけであり、他の第89・98・105・107・108・111号住居址にあたっては炉址とその周辺のピット群ないし炉址部のみ検出されたものである。

明確にとらえられた第9～102号の10軒の住居址についてみると、ほぼいずれも不整ながら円形ないし椭円形を呈し、第9・19・36号住居址の主軸方向が西を指すかほとんど東方向を指向している。また、規模では94号住居址が小規模の他ほぼ5～6m×4.5～5.6m前後を有している。炉址は大半が中央ないし中央よりやや北寄りに位置し、ほぼ共通点となっている。また、炉址の規模についても大きな差は認められず、おおむね床面より10～20cm程掘り産めて炉床としている。主柱穴については様々で4～7本程度であろうと思われる。出土遺物からみると、第26・36・82号住居址を除いては阿玉台期の土器片が認められており、加曾利EⅠ期にあってはすべてのものに認められる。加曾利EⅡ期の認められるものは第15・26・82・102号住居址で、加曾利EⅢ期にあってはすべてに認められなかった。その他9号住居址と第36・92号住居址で勝坂式のものが認められている。

次に、第46・84号住居址にあってはともに阿玉台期の上器片が認められている。しかし、炉址および周辺ピット群のとらえられた第105・107・108・111号住居址と、炉址のみ検出された第98号住居址にあってはその出土が不明であり、炉周辺部に阿玉台期から加曾利EⅠ～EⅢ期にわたってわずかに見られるものの、これらはいずれも本址に伴うものかどうかを決定しうるに足る資料でないため不明である。

以上のように、共通点を多かれ少なかれ持っているけれども、これらの住居址の一群が必ずしも同時期に存在する一群として位置づけることは無理である。しかしながら、明確にプランをとらえられた第9～102号住居址の10軒については共通する要素は多分にあるし、また、これらの中で確実に同時期に存在した遺構が何基かあるとの可能性は強いと思われる。そして、これらの出土遺物からみると埋設土器を伴う住居址群に比べやや時期的に古いものであること、さらに、二段掘り込みを持つ住居址群よりもわずかに新しい時期にあたるのではないか。

いずれにせよ、どの住居址群についても言えることであるが、時期を決定づける出土遺物に乏しく、明確に判断しえない。

なお、これらの住居址群の位置的な点で触れておかねばならないが、概して散在的で、第89号住居址を除き土壤群の外側に位置していることが言えよう。また、散在的の中でもD2区にあっては比較的集中している部分もみられる。

○二段掘り込みを呈する住居址について

これらの検出された住居址は、第4・8・10・18・39・54・68号の各住居址で計7軒である。いずれも良好な状態でプランがとらえられ、第39号住居址を除きほぼC3区の北側で弧状に検出された。しかも、それぞれが比較的等間隔を持って検出された。

当初、これらの住居址は二軒の住居址が重複しているものとして調査を進められたものが多いが、調査が進むにつれて同形態を呈する遺構が各所にみられ、資料等の検討の結果、単一の住居址と考えた方がより自然であるとの考え方を持つに至った。

本址状遺構の形態をみると、まず、下段形状はいづれも隅丸方形を呈していること。また、上段形状では第68号住居址がやや不整構造を呈し、第10号住居址で不整台形状を呈している他はほぼ隅丸方形を呈している。従って、形状からみるとこの二つを除いてはほぼ同一形状であることが言えよう。規模の点をみると第39号住居址が圧倒的に大規模で、他はほぼ同程度であることが言える。この点で特に第39号住居址が特別の機能を持っていたのかも知れない。

次に、壁高についてみると、上段では浅いものと深いものとがあるが、それより下段の掘り込みはほぼ30～35cm前後とほぼ同程度となっている。しかし、第68号住居址のみ下段掘り込みが浅い点で異っており、形状もやや異っている点から考えるとこれらの住居址群の中で別類の可能性を持っていることが考えられる。また、壁溝の点からみると、いずれも上下段に持っている点で共通している。

次に床面についてみると、いずれも下段の方が良好で、当遺跡住居址群の中で最も低いレベルに属し、しかもローム面を硬く踏み固めている点で共通している。さらに、炉址についてはまったく検出されない。しかし、下段床面からは小ピット群が検出されるという例が第4・8・18・54号の各号住居址でみられる。この性格は不明であるが、この点は注目すべき事項となろう。また、これら的小ピット群をもつ4例は形状・規模・その他の点で多く類似していることが認められることから、ほぼ同一時期群と考えることが自然であると思われる。なお、上段こそ検出できなかつたものの、下段形状、主柱穴、小ピット群の存在、床質状等からこれらの遺構と多くの類似点を持つ第70号住居址もこれらの一派に含められるのかも知れない。

主柱穴については、第39・68・70号住居址が6本柱で他は4本柱と考えられ、いずれも明瞭な良好ピットとなっている。しかも、これが比較的等間隔を持って配されている。

出土遺物をみると、いずれも阿玉台期・加曾利E1期が共通して出土し、第4号住居址でその半完形品、第39号住居址の下部よりその完形品が出土し、全体として阿玉台期の遺物が多い。これらのことから他の住居址群の中でも比較的古い時期に位置づけられそうである。しかし、本址群の出土状況はその大半が覆土上部よりの出土が圧倒的であり、時期決定に耐えうる資料が乏しい。

○方形状を呈する住居址について

これらの検出された住居址は7軒であり、うち第40・81号住居址が小ピット群・二重～三重の壁溝を持つ点で共通している。他の第17・28・37・43A・45号住居址については規模形状等の点で類似点を持っている。

まず、第40・81号住居址についてであるが、当遺跡の住居址群の中で特異な存在となっている。位置的には、住居址群の最も西寄りの位置に6～7mの間隔をもって2つが並んでいる。長軸方向はいずれも西を指し、址内外に多数の小ピット、二重ないし三重の壁溝を有している。また、ともに形状が不整な方形状である。規模的には第81号住居址の方が大きい。さらに、ともに壁面が明確ではなく、溝の内側の床面が平坦で良好床質となっている。二重壁溝は先に触れた二段掘り込み造構でも見られたが、ここではその段差が明瞭に認められず、それらの造構とは明らかに異質のものと言えよう。この二重ないし三重の壁溝は改築の可能性を暗示せるも明確な資料を得られていないため不明である。出土遺物は阿玉台期のものが認められ、加曾利EII期以降の出土遺物は認められていない。従って、時期的には住居址群の中で新しい時期のものとは考えられず、二段掘り込み状を呈する造構時期に近いと思われる。

次に、その他の方形状の住居址であるが、第17号・第43A号の2つの住居址を除いては比較的明確にそのプランがとらえられた。

これらの造構の類似点は、まず、規模が比較的小さいことで、大きいものでも第37号住居址の4.95×3.85m程度である。従って他の住居址群に比べ形状・規模の上で大きな相違点となっている。また、壁溝についてみると、第43A・45号住居址のみがみられず、他は部分的であるが認められる。この点では本址群の共通性を欠いている。さらに炉址についてであるが、いずれも炉址が認められていない。このことは、本址群だけでなく他の方形状の住居址群でも共通性となっている。次にピットであるが、いずれも主柱穴がはっきりしていない。前述した方形状の二段掘り込み状造構は明確な位置でとらえられている。本址群の中でも特にプランの明確となった第28号住居址でさえ中央に良好ピットを、第37号住居址では中軸上の南と北に2ヶ所と様々な位置にみられ、この点で、他の住居址と比べ不安定な要素を持っている。

出土遺物においては、第45号住居址を除き阿玉台期のものが目立ち、中でも第17号住居址にあっては深い所まで認められ、第37号住居址では阿玉台期の中でも新しい時期と思われる鉢形土器が出されている。加曾利EII期が認められたのは第43A号住居址であるが、周辺土壤との重複が大きく本址に伴うものかどうか不明である。

このようにみてくると、いずれも方形状の住居址は、本遺跡住居址群の中で、比較的古い時期の造構であるとの見方を強めさせてくれるが、いずれの住居址でも阿玉台期から加曾利EII期に至るまでの遺物が混入していることでそれぞれの時期確定に至っていない。

。その他の炉址を持たない住居址群について

本址群に属する遺構は31軒にものぼり、さらに、先に述べた住居址群を含めると46軒を数え、住居址群の中で最も多くの例であると言えよう。確かに炉址を持たないという点では住居址としての位置づけにやや不十分な条件となってくるが、特に、第1・2・31・57・58・59・69号住居址のように比較的良好な状態でその全容がとらえられ、明らかに土壤群と違った規模を持ち、炉址を持たない住居址群の存在が示されたし、また、二段掘り込みを持つ住居址と方形状遺構を呈する住居址群についても炉址を持たない住居址として確実に存在している。従って、ここに記す31軒の住居址も住居址としての諸要件を検討され、住居址として取り扱われたものである。

本址群の中で、ほぼプランの明確にとらえられたものは前記した第1～69号の7軒と、壁溝の検出によってプランのとらえられた20軒の計27軒である。その他の4軒はピット群としてとらえられたものである。その中でも比較的良好な形でとらえられた第1～69号住居址についてみると、ほぼ形状が円形ないし橢円形状を呈し、規模的には第59・69号住居址がやや小規模である。壁高は大むね20～40cm前後で、第31・57・58号住居址を除く4軒には壁溝を伴っていない。ピット数もまちまちで、明確な主柱穴を示しているのが第57号住居址程度であろう。また、出土遺物については、第59号住居址の阿玉台期の土器が認められるほかは、加曾利EⅠ～EⅢ期にかけてが多い。この点からすると、二段掘り込み状遺構群や方形状遺構群の出土例を対比させるとわずかに時期的な差を認めることができる。しかし、全体としてこれらの一群は共通する要素を欠いており、必ずしも同一群でない可能性を持っている。

次に、壁溝の検出によってそのプランが明確となったやや規模の大きい住居址群である第16・41・50・52・60・64・73・76・78・110号の各号住居址についてみると、ほぼいずれも不整であるが橢円形を呈し、この点で共通している。長辺方向については、東方向3例で他は西を指すが、第64号住居址を除いてはそれほどの差を有していない。規模的にも第73号住居址の径7.20×5.30mを除いてはそう大差がない。壁面では、ごく一部残存する部分が認められるもののはほとんどが壁溝の検出によってとらえられた遺構である。出土遺物から見てみると第78号住居址を除いては阿玉台式期の遺物が認められ、加曾利EⅠ期は4例、EⅡ期が3例と次第に新しい時期になるにつれてその例が少なくなっている。以上の様な点で、第1～69号住居址の7軒の住居址群からみると共通する点が多く、同一時期群と考えられる要素は上記群よりも多分にあると言えよう。

次に、同じように壁溝の検出によってそのプランが明確となった中で、小規模遺構としてあげられるものは、第11・12・20・21・66・93・100号の各号住居址の7軒である。これらは当遺跡における住居址群の中で比較的小規模な住居址群で、最大でも径5×3.5m前後である。出土遺物は阿玉台期から加曾利EⅡ期のものまで混在して認められ、共通とするところが認められない。

従って、まったく同一時期群と考えることは不自然となる。さらに、一部方形、不整六角形、五

角形を呈する第47・79・95号住居址についても同様である。またピット群としてとらえられた第7B・13・14・83号住居址もそれぞれの遺物が混在し、共通点を大きく欠いている。

このように、炉址を伴わない住居址の一群は必ずしも同一時期群とみることは無理である。さらにこれらの住居址の位置をみてもかなり不規則に散在し、所によつては互いに近接ないし重複している。これらのことからみても、明らかに時期的差が認められることとなり、さらに、同時期群であることの裏づけを否定している。しかし、今まで触れてきたように、全体として時期を決定しうる出土例が少なく、しかも、覆土上部における出土例の多いこと、各時期の遺物の混在が認められることなどから、細かな時期確定には至っていない。

なお、この項では炉址を作わない住居址として各群住居址を取り上げてきたが、これは址内にその痕跡が認められなかっただけで、址外に設けていた遺構もあったものと思われる。しかしながら、住居址群にとどまらず土壙群の構築密度の高さが、それらの構築過程で崩壊してしまったことも考えられ、さらに、址外であるとすればかなり高いレベルに炉址を設けたはずで、逆にこれは現地表上からすれば比較的浅い位置にあることになり、表土除去の段階で削除してしまった可能性もあるし、耕作中による崩壊もあったものとも考えられる。しかし、いずれにせよ、住居址群の中で炉址を持たない住居址が多いことにあらためて目を向かせられる。

(2) 土 壙

○はじめに

当遺跡で検出された土壙は633基であるが、B3区で検出された土壙を除いてはそのほとんどが何らかの形で重複しているものが多く、しかも全体的にそれらがみられることである。さらに、これらの土壙群は様々な形態をもって存在し、これらを逐一詳細にわたって検討を加えることは困難である。従って、ここでは形態上の分類に従つて記していくたい。なお土壙一覧表作成上の留意点でも触れてきたが、これらの土壙の多数が重複しているため、本來の形状をかなり失っていることが考えられ、ここでは、基底面形をもつて分類し、その分類形状を中心として記したい。

○分類別土壙数について

633基の土壙を分類すると第1表のようになり、オーバーハングの認められたF系類の土壙は全体の約23%である。B系類の土壙がその半数以上をしめているが、特にBI～B3類が圧倒的に多い。また、その他の土壙数も全体の約1割強をしめてい

第1表

	検出数	小計	割合(%)	備 考
F I ~ F3'類	144	162	22.8	円形・椭円形袋状土壙
その他のF類	18		2.8	不定形袋状土壙
B I ~ B3'類	321	380	50.7	円形・椭円形筒状土壙
その他のB類	59		9.3	Ba・Bb・Bg・Be類
D 類	13	91	2.1	丸底状土壙
そ の 他	78		12.3	分類不可能・不明

るが、このことは遺構の重複度合の高かったことを物語っている。また、断面形状の上で丸底状

を呈する土壤の少ないとこは、他の大多数が平坦さをもつてることになり、さらにこのことは、これらの土壤群のはとんどに何らかの機能を持たせ、ある目的をもつて人為的に掘り込んだことの確証となろう。確かに、単なる根柢の形態を呈する土壤はほとんど見当らなかった。

第2表

壁高 ピット 種類	60cm 以上			60cm 未満			計
	200cm 以上	150cm 以上	150cm 未満	200cm 以上	150cm 以上	150cm 未満	
有さない 上	F1 48	FA 26	F1 11	F1' 0	FA 6	F1 2	93
中央に有 する上	F1 3	FB 0	F2 1	F1' 0	FB 0	F2' 0	4
中央外に有 する上	F1 26	FC 15	F3 4	F1' 1	FC 1	F3' 0	47
小計	77	41	16	1	7	2	144
計	134			10			

とくらべると逆となり、筒状を呈する土壤の方が全体として低い壁高を示している。従って、明らかにB1～B3'類と本類は何らかの異った目的をもつてそれぞれがつくられたものであると考えられる。

また、ピットをまったく持たない土壤が圧倒的に多い。一体これは何を意味するのであろうか。深く掘り込み、オーバーハングを持たせ、しかもピットを必要としない土壤の役割とは何なのであろうか。逆に、中央にピットを有する例がわずかではあるが4例あり、さらに、中央外にピットを持つ例が47例と比較的多い。しかも、規模の大きくなる程その例が多い。このように全体を通してみると、袋状土壤は一般的にB1～B3'類より深く掘り込まれ、おむねピットを持たないことが常で、持つとすれば中央外にそれを配していることが多いということになろう。また、中央外にそれを配することは柱穴としての役割を減少させることになるはずである。というのは、本来の開口規模はおそらくもっとせばまつたものと思われ(事実、良好なもので単独にとらえられた遺構にその例が多い)。オーバーハング下に属するピット数が多くなるからである。従って、これらの観点からすれば、それぞれの持つピットの役割は上屋構造との関連性につながりを薄くせざるを得なくなる。逆に、境内で何らかの役割を果す比重が高くなってくる。しかし、残念ながら調査を通してピット内に何らの痕跡をも認めるることはでなかつたし、これらの果すべき役割を確定しうる資料を得ることはできなかつた。

次に、壁高とオーバーハングの関係についてみてみると、第3表のような結果が得られた。これらの実数と第2表の実数に差がみられるが、第2表は袋状土壤を呈すると思われる土壤を含めており、断面形状にオーバーハング部をとらえることができなかつた一部が含まれているからである。

F1～F3'類の土壤について

本類に属する土壤をさらに壁高・規模・ピットの有無等をもつて細分類すると第2表のようになり、このことから袋状土壤の性格なりをある程度示してくれる。

まず、壁高についてみてみると60cm以上を有するものが134例と圧倒的に多い。このことについてB1～B3'類

まず、壁高 100 cm 未満の土壤が圧倒的に多い

が、100 cm 未満といつてもほぼ 60 cm 以上は有しているはずで、おおむね 80 cm 程度が平均値となろう。これらの土壤にあっては、オーバーハンゲ部が基底面より 40 cm に達しない例は圧倒的に少ない。ほとんどが 40 cm 以上のところから認められている。

また、壁高 100 cm 以上 120 cm 未満のものにあっても OH 40 cm 未満のものはなく、上部よりオーバーハンゲしている例が多い。さらに、壁高 120 cm 以上になると一層上部より行なわれている。

このように、オーバーハンゲは一般的に基底面より 40 cm 以上よりみられることが多く、さらに、壁高が高くなるにつれてその行なわれる位置が高くなっている。これらのこととは規模上から単にくるものなのか、無意識的な構築過程からくるものなのか明らかでない。おそらく、袋状土壤の持つ何らかの機能と関連するのかも知れない。

次に、それぞれの袋状土壤がどの程度のレベルからオーバーハンゲしているかを 40 例であるが調べ、第 214 図のように棒状にあらわしてみた。棒状の最上位がそれぞれの土壤の確認レベルをあらわし、上下段の区画位置がオーバーハンゲの行なわれたレベルで、最下位が壌底レベルをあらわしている。L = 23.97 M はそれぞれの土壤の確認平均レベルをさしている。また、L = 23.65 M はオーバーハンゲの行なわれた平均レベルをあらわしている。

この図をみると、確認レベルはまちまちとなっているが、検出された遺構群の位置する地形は平坦でそう大差ないことから、本来はほとんど同レベルに近い位置より掘削が行なわれたものと思われる。このようにまちまちになっているのは、重複関係の密によって生じたものである。つぎにオーバーハンゲの行なわれるレベルであるが、それぞれがまったく異ったレベルから掘削されている。後でも触れるが、採土を目的として掘削されたものであれば、多少の差はある、平坦さをもつこの台地ではほぼ同レベルに近い位置よりオーバーハンゲが行なわれるはずである。それぞれがその開始平均レベルより大きな変化を持っていることは、この採土を考えた場合不自然となってこよう。

次に、出土点数をみると、明らかに B 系類

(筒状を呈する土壤) 土壤より圧倒的に出土量が多い。第 4 表のように袋状土壤の出土点数平均値は 382.4 点であるに比べ、袋状以外の土壤の出土点数平均値が 163.5 点と低く、圧倒的に袋状土壤の方が多い。しかも、200 片以

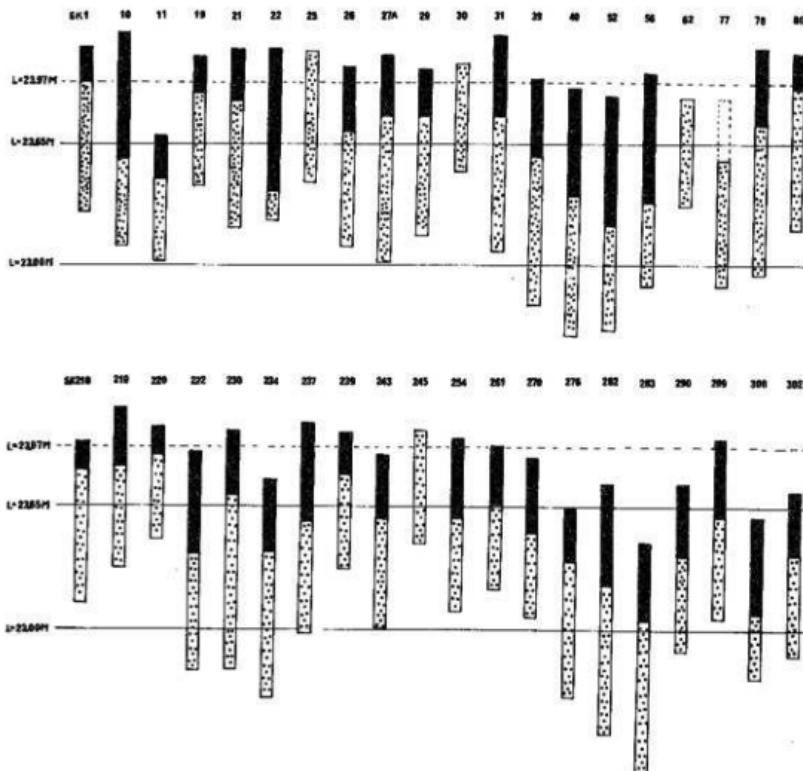
第 3 表

壁高	OH	40cm 未満	40cm 以上 60cm 未満	60cm 以上	計
		120cm 以上	100cm 未満 100cm 以上	100cm 未満	
120cm 以上	1	5	14	20	
120cm 未満 100cm 以上	0	6	18	24	
100cm 未満	14	50	23	87	
計	15	61	55	131(例)	

第 4 表

項目	出土点数		
	200 片未満	200 片以上 400 片未満	400 片以上
検出率(対象 1 号～341 号 内の 80 基とした)	28.75 %	37.5 %	33.75 %
出土点数 平均 値 (対象 80 基)		382.4 点	
袋状以外の土壤出土点数 平均値(対象 206 基)		163.5 点	

(※右を含まず)



第214図 袋状土壙検出レベル模式図

上を検出する例は約その71%強である。最も多いものでは1000点をこすものまでみられる。

これはB系類に比べ高い壁高を持つことによって覆土量が圧倒的に多いことも関連するであろうが、果してこのことだけに限定してしまってよいのかどうかはっきりしない。自然石等を含む石類も多く、さらに遺物混在の類例もあることから、これらの遺構が埋没過程で投棄場所の対象となった可能性も考えられる。

以上のように圧倒的な出土量をもつ袋状土壙の覆土内遺物の種類であるが、出土遺物について第5表のような調査データが得られた。まず、袋状土壙群をピットの有無等を持って三群に分け、それぞれの群の中で、各土器形式を出土する袋状土壙が何例あるかを調べてみた。その結果、まずピットをまったく持たない袋状土壙にあっては、阿玉台期を中心にして出土する例が比較的多

く、阿玉台一加曾利EⅠ期までのものを合せ43例とその大半をしめている。加曾利EⅢ期になると極端にその類例が少なくなっている。また、中央にピットを持つ袋状土壙にあっては検出例が少なく有効なデータとなっていない。なお、この中に加曾利EⅠ期・EⅡ期をともに含む土壙もEⅠ期・EⅡ期の項目にその数を加えているので、中央にピットをもつ袋状土壙の数が多くなっている。

また、中央外にピットを持つ袋状土壙群については加曾利EⅠ期を中心として出土する例が多くなっている。しかし、その数は阿玉台期を伴う例と大差はない。

さらに、全体を通して見てみると阿玉台期と加曾利EⅠ期の遺物を伴う土壙が圧倒的に多いことがわかり、その中でも阿玉台期のものと、加曾利EⅠ・EⅡを含めたものとの数に大差がないことから阿玉台期の遺物を出土する例がより多いと言えよう。従って、本遺跡の中では、この袋状土壙のもつ時期が阿玉台期からEⅢ期にあたり、次第にこれらが減少していったと考えられる。

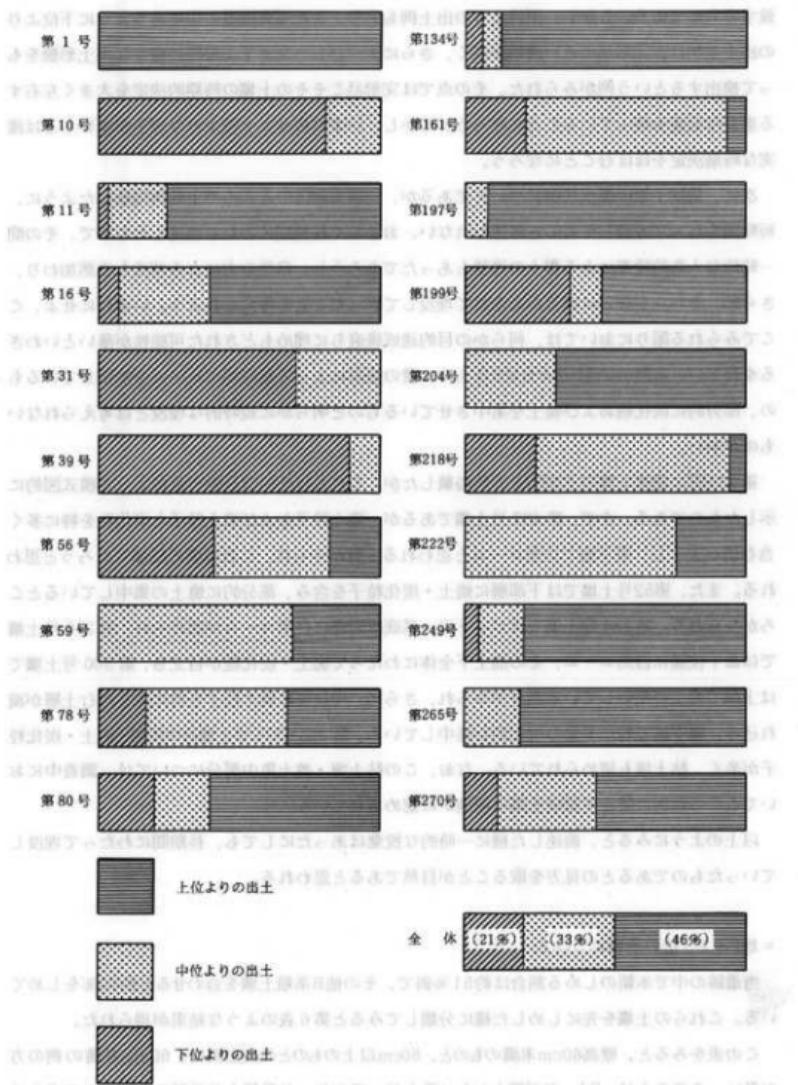
第5表

土器の 時期 土 壙	阿 玉 台 期	加曾利 EⅠ期	加曾利 EⅡ期	加曾利 EⅢ期	阿玉台 ～EⅠ	阿玉台 ～EⅡ	阿玉台 ～EⅢ	勝 坂	阿玉台 特 多	E 期 特 多
ピットをも たない土壙	28	19	7	2	15	7	3	5	2	2
中央にピット をもつ土壙	1	3	3	0	0	0	0	0	0	1
中央外にピッ トをもつ上壙	12	13	4	0	7	9	1	2	1	2
計	41	35	14	2	12	16	4	7	3	5
			51							

次に、これらの遺物の出土位置についてであるが、第215図に示したグラフの様な結果を得た。これらのグラフは、検出されたごく一部の袋状土壙20例に限って調査したもので、しかも、それぞれの出土点数すべてにわたってデータを取ったものではないので、資料としての価値が低いかも知れない。しかし、ある程度の出土状況なりを示してくれるものと思われる。

まず、これらのデータの算出方法であるが、それぞれの土壙の有する壁高を上中下と等しく三分割し、それぞれの位置に属する出土点数を調べ、それらを百分率して帯グラフで表わした。

これらのグラフをみると、それぞれ様々な出土位置をもつて遺物が検出されており、一律でないことがわかる。中にはまったく下部よりの出土例がみられなかったり、逆であったり、中位よりの出土が多かったり様々で、一様の形態を見ることができない。しかし、全体的にみると確かに下位よりの出土例が少ないことは明らかである。そのほとんどが中上位よりで、全体の約80%弱をしめている。このことは遺構調査の過程で多くの土壙にみられたことで、このデータとはば



第215図 各層よりアラカルトセラミック器の組合せ

致するものである。しかし、下位よりの出土例もあり、また写真掲載の中にあるように下位よりの出土遺物ほど完形品に近い遺物が多く、さらにオーバーハング下の壁際に様々な出土形態をもって検出するという例がみられた。その点では完形品こそその土壤の時期的決定を大きく左右する重要な要素を持っていることになろう。しかし、いずれにせよ上位よりの出土が多いことは確実な時期決定をはばむことになろう。

次に、袋状土壤の覆土状況についてであるが、土壤実測図のところで十数例掲載したように、短時間をもって埋没したものとは思われない。おそらく長期間にわたり埋没したもので、その間一時的な人為的投棄による覆土の堆積もあったであろうし、自然の力による埋没も当然加わり、さらに、それらが互いに疊りかえされて埋没していったことも考えられよう。いずれにせよ、ここでみられる限りにおいては、何らかの目的達成後直ちに埋めもどされた可能性が薄いといわざるを得ない。自然的な流れ込みを呈するもの、壁の崩落によって基底部にロームを堆積しているもの、部分的に炭化物および焼土を集中させているものと明らかに短時間の埋没とは考えられないものが多い。

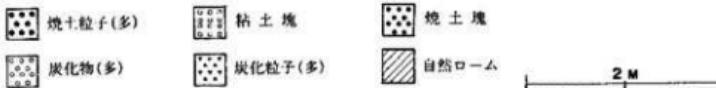
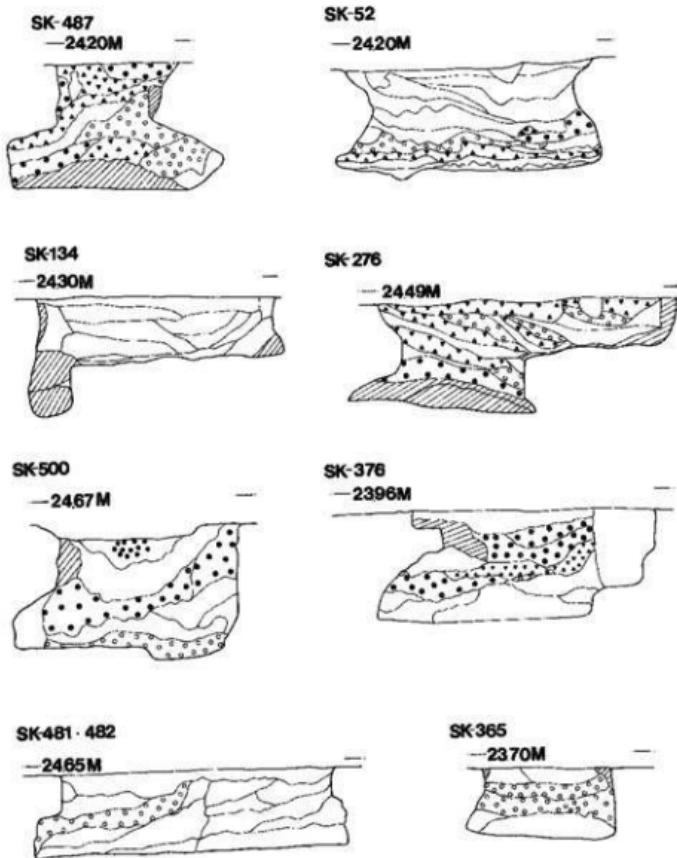
第216図に袋状土壤の土層図を8例掲載したが、これらはその含有物の差によって模式図的に示したものである。まず、第487号土壤であるが、焼土粒子および焼土粒子と炭化物を特に多く含む層が上下し、最下層で自然ロームと思われる土質がみられ、これは壁の崩落であろうと思われる。また、第52号土壤では下部層に焼土・炭化粒子を含み、部分的に焼土の集中しているところがみられる。第134号土壤ではピット内・基底縁辺部に自然ロームが認められ、第276号土壤では最下位層に自然ローム、その他上下全体にわたって焼土・炭化粒が目立ち、第500号土壤では上部で焼土の集中している部分がみられ、さらに、中位層に焼土粒子を特に多く含む土層が流れ込み、最下層で特に多量の炭化物が集中している。第365・376号土壤は中位層に焼土・炭化粒子が多く、粘土塊も認められている。なお、この粘土塊・焼土集中部分については、調査中においてこの数例に限らず袋状土壤の何例かに認められている。

以上のようにみると、前述した様に一時的な投棄はあったにしても、長期間にわたって埋没していったものであるとの見方を取ることが自然であると思われる。

○ B1～B3'類の土壤について

当遺跡の中で本類のしめる割合は約51%弱で、その他B系類土壤を合わせると約60%をしめている。これらの土壤を先にしめた様に分類してみると第6表のような結果が得られた。

この表をみると、壁高60cm未満のものと、60cm以上のものとの検出例は、60cm未満の例の方が多い。このことは、F1～F3'類とくらべ逆となっており、B系類とF系類の土壤がおのずとその機能を別にしていることを示しているのではなかろうか。



第216図 袋状土壤土層図

また、本類の中でピットを有さない検出例が127例と、ほぼその40%近くをしめている。しかし、この数は、土壤間の重複度合が多きいため、深い壁高をもつ遺構の調査を進めた折削除してしまった可能性もあり、実数ではこの数値がもう少し低くなるものと思われる。さらに、この項については規模が小さくなるにつれてピットを有さない土壤が増加している。

第6表

壁高 の 分 類	60cm以 上				60cm未 満				計				
	200cm以 上	150cm以 上	150cm未 満	200cm以 上	150cm未 満								
ピット 有 な い 土 壤	DI	16	BA	21	B1	21	B1'	13	BA'	22	B1''	34	127
中央に有 す る 土 壤	BB	12	BB'	5	B2	2	B2'	20	BB'	17	B2''	6	62
中央外に有 す る 土 壤	BB'	10	BC	22	B3	9	B3'	26	BC'	34	B3''	23	132
小 計	41	48	32	39				73	63				321
計		126			105								

次に、ほぼ中央に良好なピットを持つ例をみると、規模の大きくなれば少なくなる程その例が増加しており、その約19%をしめている。この点ではF1~F3'類の中央にピットを持つ例が少ないのに比べ、本類は圧倒的な数値をしめている。このことでもB系類・F系類のもつ機能が異っていることを示しているのではないか。

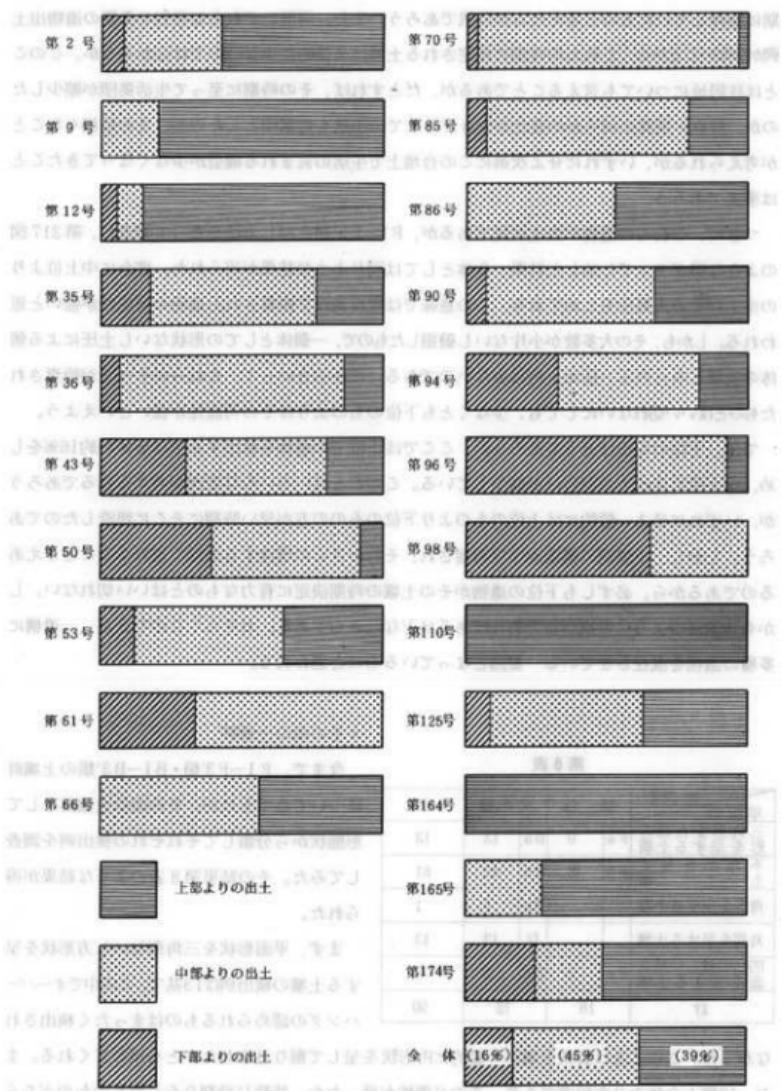
また、中央外にピットを有する例は全体の約41%をしめ、ほぼピットを有さない例と大差がない。さらに、規模別においても大きな動きがみられない。

このようにみると、本類は、ピットを有するものと、有さないものの二群に分かれ、それぞれが異った機能を持ったのか、またはピットの持つ意味がその機能と関係なく同一の機能を果したのかどちらかになろう。

次に、これらの土壤群の出土遺物であるが、第7表に示した結果が得られた。F1~F3'類と比較しながらみていくと、本類は、F1~F3'類で阿玉台期の遺物を検出する例が高かったのに比べ、加曾利E期に属する遺物の検出例が高い。このことは袋状土壤群と本群の間に時期的な差を示すことになるが、必ずしも両群が別時期に存在したことの裏づけとはならない。むしろ、ともにそれぞれの時期の遺物が検出されているのであるから、この両群の中のいずれかのものが同一時

第7表

上器の 時 期	阿 玉 台 期	加曾利 E I 期	加曾利 E II 期	加曾利 E III 期	阿玉台 ~ E I	阿玉台 ~ E II	阿玉台 ~ E III	勝 坂	阿 玉 特 多	E 期 特 多
ピットをも たない土 壤	40	20	21	3	14	8	0	4	2	0
中央にピット をもつ土 壤	14	17	26	1	6	3	0	1	0	0
中央外にピッ トをもつ土 壤	40	16	33	7	13	9	0	2	0	0
計	94		53	80	11	33	20	0	7	2
				144						0



第217図

期に並存していたものと考えた方が自然であろう。また、両群いずれも加曾利EⅢ期の遺物出土例が少ないとから、これらの時期に比定される土壙は全体的に少ないのではないかろうか。このことは住居址についても言えることであるが、だとすれば、その時期に至って生活集団が縮少したのか、狩猟・採集に何らかの変化がおきてそこでの生活を短期間としたのか、その他様々なことが考えられるが、いずれにせよ次第にこの台地上で生活の営まれる機会が少なくなってきたことは事実であろう。

つぎに、これらの遺物の出土状況であるが、F1~F3'類と同じ方法をとて調査し、第217図のような帶グラフでしめした結果、全体としては同じような結果が得られた。確かに中上位よりの出土がその大部分をしめており、この意味では埋没過程で投棄された遺物の可能性が強いと思われる。しかも、その大多数が小片ないし破損したもので、一個体としての形状ないし土壙による個体の崩壊とみられる一括出土例は少ない。だからといって、これらのすべてが投棄されたものとはいいけないにしても、少なくとも下位のものよりはその可能性が強いといえよう。

では、下位のものはどうであろうか。ここでは下位での遺物を検出する率は全体の約16%をしめ、中上位に比べその割合が減少している。このことはいろいろな要因が考えられるであろうが、いずれにせよ一般的には上位のものより下位のものの方が早い時期にそこに埋没したのである。しかし、土壤間の構築過程で再掘され、それがさらに埋没する過程で逆転することさえあるのであるから、必ずしも下位の遺物がその土壤の時期決定に有力なものとはいいけない。しかも当遺跡のように重複が密であればあるほどなおさらである。おそらくこのことが、一遺構に多種の遺物を混在させている要因となっているものと思われる。

○その他の土壤群

第8表

断面形	袋 状	その他の	計
平面形			
三角形または方形を呈する土壤	Fa	0	Ba
不定形を呈する土壤	Fb	18	Bb
舟形を呈する土壤		Bg	1
丸底を呈する土壤		D	13
凹凸の激しい基底面を呈する土壤	Fe	0	Be
計	18	72	90

今まで、F1~F3'類・BI~B3'類の土壤群についてみてきたが、その他の土壤群として形態から分類してそれぞれの検出例を調査してみた。その結果第8表のような結果が得られた。

まず、平面形状を三角形ないし方形を呈する土壤の検出例は13基で、この中でオーバーハングの認められるものはまったく検出されなかった。このことは袋状土壤が一般的に円形状を呈して掘り込まれたことを示してくれる。また、13例と全体の2%程度であり、その必要性が低かったか、特殊な役割をしたもののかどちらかであろうが、性格は不明である。

つぎに不定形を呈する土壤であるが、オーバーハングの認められたものは18例で、他が43例である。これは全体の約10%弱にあるが、これらの中で重複ないし調査中の自然崩壊等により本来の形態を失ったものもあるであろうから、もう少しその数値が低くなることも考えられる。

その他の土壤群はD類をのぞき少なく、一般的には、土壤の形態が凹形ないし梢円形を呈し、ほぼ基底面を平坦としたものであろう。従って、特にBa類、Bg類は特殊な目的を持った造構なのであろう。

つぎに、これらの土壤の出土遺物であるが、第9表のような結果が得られた。しかし、それらの類例が少いため全体的に目立つ事項がみられないが、ほぼ前掲した調査例と同様な結果であろうと思われる。その出土位置等についても調査こそしていないが、調査中で認められた中上位よりの出土を呈するものと思われる。それぞれのもつ時期については明確な判断はしえない。

なお、下表についての類別合計数と第8表の各類例数が異っているが、先に記した点や未調査遺構もあって必ずしも一致しているものではない。

第9表

土器の時期 + 滅	阿玉台期	加曾利EⅠ期	加曾利EⅡ期	加曾利EⅢ期	阿玉台～EⅠ	阿玉台～EⅡ	阿玉台～EⅢ	勝坂	阿玉特多	E期特多
Fb類	8	4	1	0	1	0	1	1	0	0
Ba類	3	1	0	0	4	1	0	1	0	0
Bg類	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
Be類	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
Bb類	6	7	6	1	6	9	1	1	0	1
D類	1	3	2	0	1	2	1	0	0	0
計	18	15	9	1	14	12	3	4	0	1

○各類別土壤群の分布について

・ F1～F3類の土壤についてみると、これといった規則性は見い出せない。むしろ散在的な分布といつていいのではなかろうか。強いて記すならB3区にその例が少く、D2区に多いといえよう。

また、B1～B3類についてもほぼ同様のことといえるであろうが、全体的にはC3区でこのしめる割合が多い。しかし、やはり散在的でしかも他造構との重複の度合が高い。

さらに、その他の類の土壤もこれといった目立つ存在位置を示していない。しかし、これらのすべての土壤と住居址群との間には、住居址群が土壤群を取り巻いているように思える。しかし、B3区においてはまったくそのことが言えず、一様でない。従って、必要性を持った時に、利用しやすい位置に、目的さえ達し得るなら所を選らばず、土壤を構築していったものであろう。どうしても一定の位置に掘らなければならなかったという必要性はなかったものと考えられる。

なお、E2区、E3区、D3区の一部に土壤群が認められなかったわけではなく、事実表土除去の段階で多くの落込みを検出していることから、中央に広場的役割りをもつスペースがあったとは思われない。しかし、これらの遺構群がすべて一時期にわたって構成されたものでないことは出土遺物からみても、一般的に考えても否定されることから、数群に分かれて、それぞれが適当な位置を保ち、いくつかの土壤を伴って一集落を構成していたであろうから、その時点では広場的なスペースをもっていたことも考えられよう。これらの一集落が営まれたあとまた次の二集落の構成によって次々と広場をかえ、これらの長期的な変遷によって、現在の我々の目の前に残った時まさしく広場的スペースを失った姿を見せていているのではないかろうか。このことを立証し得るにはそれぞれの遺構の時期決定を明確にし、住居址と土壤の時期的関連を見い出して一集団の構成をとらえ、それがこの台地にしめた位置を明確にする必要があろう。しかしながら、それらを探究するためには長期間にわたる詳細な遺物の検討を必要とするであろうし、また、それぞれの遺構の重複関係を検討する必要があろう。否、それのみでなく多くの角度から総合的にみる必要があろう。これらの研究は今後に残された大きな課題の一つとなろう。

○土壤の性格について

当遺跡で検出された土壤は、住居址軒数のはば6倍となっている。それらの土壤の中でB系類とF系類に形態状のうえで多くの差異が認められることから、それぞれのもつ機能の上で何らかの差異を持っていたものと思われる。ここでは当遺跡において、袋状土壤を中心とした土壤の性格について記してみたい。

袋状土壤の性格については食料の貯蔵穴説・土器製作に関する説・墓壙などの説があるが、ここで検出された土壤をみると限りでは、それらの諸説を十分に立証しえる確証が得られなかった。従って、諸説に対する是非を論じきれないが、それらの諸説と当遺跡の土壤の在り方を見ていきたい。

まず、貯蔵に関する説であるが、確かに袋状土壤の持つ構造上の利点からくる貯蔵としての機能は、筒状土壤のそれよりもはるかに有利なことは十分に考えられよう。先にも触れたように、F1～F3'類はB1～B3'に比べ一般的に深く掘り込まれ、しかも、下部に至って大きくオーバーハングを呈している。このことは、B1～B3'類よりもより気温の変化を一定なものにすむことができ、しかも開口径を狭めることによって太陽光の入射をおさえることができる。これらの点からすれば、より貯蔵穴の役割を果す機会が与えられることになろう。確かに、調査を通して基底面と下位覆土より植物体の炭化物が認められる例が見られた。しかし、このことが即貯蔵穴であるとの判断を持つことができなかった。特に石皿の出土地点を調査した結果袋状土壤よりの出土がまったく認められず、むしろB1～B3'類に多いのである。しかし、だからといって袋状土壤が貯蔵穴

であることを否定するに足る資料とは考えていない。というのは、単に袋状土壌が貯蔵穴としての機能のみ保持していたと考えれば、この問題を簡単に処理することができるからである。

また、植物体のみならず動物体の保存はどうであろうか。このことは十分に考えられることである。このことを立証しうるには動物遺存体を数多く検出される例が認められることが必要で、このことがその裏づけをより確かなものとするであろう。しかし、残念ながらローム質土はそれらの遺存にとてきわめて有利であることは自明のことと、その期待は薄いものとなろう。

また、植物体、動物体、その他の物質の貯蔵としての役割りを持っていたとすれば、なおさらそれらを検出することは困難となろう。というのは、貯蔵穴そのものもつ機能からくることなのであるが、貯蔵の最終目的は貯蔵物の利用にあったからである。必要性があったから貯蔵したのであり、貯蔵は貯蔵後の使用のための手段としてその機能を与えられたからである。従って、その検出は一層困難となってくるものと思われる。

つぎに、土器製作に関わる点はどうか。まず、採土の面から考えてみよう。

本址で検出された袋状土壌の中に粘土塊の認められたものが何例かあった。しかし、掘り込まれた土壌の壁面土質をみると、まったく粘土質のものは認められなかった。このことから、これらの粘土塊は明らかに他より運び込まれたものか、投棄されたもののどちらかであろう。このことからすると、採土の目的は粘土質のものを求めたものではないことが事実となろう。採土のために掘り込まれたと仮定すれば、おそらく粘性をもつ自然ロームを求めにちがいない。この採土した自然ロームに何らかの方法をもって可塑性を与える、土器製作の原料として使用することも可能となろう。しかし、単に採土だけを目的とするなら、多くの労力をもって採土を必要としたであろうか。他にもっと良質の可塑性をもつ粘土質の確保の方法があったはずである。また、たとえ自然ロームを利用した土器製作が科学的に立証されたとしても、それは決して袋状土壌が採土を目的として掘り込まれたことの確証の事実とはなり得ないのである。というのは、主目的が採土でなく、掘り上げられた自然ロームを二次的に単に土器製作の原料に利用されたことも考えられるからである。

つぎに、製作中の土器保存はどうであろうか。おそらく土器そのものの持つ役割りは、当時の人々にとって重要な用具の一つであったに違いない。従って、製作過程において十分な注意を払い、知識を結集し、時間をかけ、丹念に仕上げていったものと思われる。そして、大型土器の製作に至れば至るほどかなりの日数を必要としたであろう。そのためには乾燥を避け、次への製作へ移るワンステップとして、あるいは適度な乾燥を与える、調整・施文に移るワンステップとしてその機能を与えられたことも考えられよう。従って、これらの保存としてとらえた場合、袋状土壌の利点が生かされ、さらに、粘土塊の存在もこの点から考えれば不自然な存在となつてこないと思われる。また、採土と保存を合わせればその機能はより効果的といえよう。ただ、果してこ

のいずれか一方、ないし両方を合わせもつ機能が与えられたものかどうか疑問点もみられる。たとえば、これらの保存において必ずしも袋状土壌でなければならない理由は何一つないこと。あえてそこに保存しなくとも他に方法があったであろうし、また、出し入れに不便な袋状土壌を利用しなくとも良いはずである。従って、これらの機能を持つ可能性がみられるものの推定の域を脱せず、しかも無理な一面を持っている点で明らかでない。

また、その他の土器製作に関わる問題では焼成場があげられよう。しかし、ここで検出された袋状土壌群の中で壁に火熱を受けた痕跡はもちろん、壁崩壊の中にもそれらが認められなかつた。他の覆上中に多量の炭化物・焼上等が認められる例があるものの、それが即焼成にはつながらず、むしろ一時的な投棄による可能性が強い。また、ここでの焼成は自然的にみて困難であろう。

次に、墓壙的な性格はどうか。ここでは墓壙か否かを決定する人骨の検出はみられなかった。また、覆土状況からみても、掘削後すぐに埋め戻された痕跡は薄い。この点から考えれば、墓壙的な性格の可能性は薄い。墓壙であると仮定すれば、なぜあの様な形態をもって掘削し、しかもオーバーハング下に良好なピットを配さなければならないのか。この点を十分に解明していく必要があろう。

次に、居住的な性格はどうであろうか。このことは十分に考えられることである。基底面状・硬さ・規模・ピットの存在等これらの点からみてもその機能を持つことが可能となろう。しかし、このことはむしろB1~B3'類の土壌の方がよりその可能性を持っているといえよう。B1~B3'類の項で見てきたように規模の大きいものほど、しかもF系類に比べ中央に良好なピットをもつケースが増加している。この点に立つならば、その両群のもつ機能に差異があることも自然的となってくる。しかしながら、いずれも居住性を持つものと考えた場合、居住性を十分に發揮し得る住居址の存在事実と土壌の関係をどう位置づけるかに困ってくる。特殊ケースすなわち社会生活上の年令的慣習、儀式的慣習、病的慣習等々からくる一時的な居住機能が与えられたことも考えられるが、これだという結論を持つことは困難となろう。

このように、我々の得た調査データを見た限りにおいては、土壌の持つ性格を解明すべく有効な資料が得られなかった。やはりその機能・性格なりを決論づけるには、推定の域を脱し、一定の機能・性格なりを示す類例が一様にみられる確証をつかむ必要があろう。

ここでみられた土壌群は、分類例をみてもわかるように様々な形態がみられ、これといった一定の機能を呈していない。遺物についても、それぞれの土壌が様々なものを包含し、この意味では、一定の機能を有していたとは思えず、むしろ多種多用な用途が与えられて掘削されたかのように思えてくるのである。

今後、多くの資料が提示され、推論の域を脱して、これらの土壌のもつ性格が解明されていく

ものと思われる。

・縄文式土器について

本遺跡の完形に近い状態で出土した縄文式土器(遺構出土のもので、実測図に掲載したものだけを扱った)を、時期ごとに分類し、その割合を出したのが右の表である。

阿玉台末期から加曾利Ela期にかけてのものが多いことがわかる。この二つの時期に入れた土器は、はっきり分けられないものが少なくなく、時期が連続していると考えられる。この二つの時期の土器様式を詳細に検討することにより、阿玉台式から加曾利E式への土器様式の変遷について解明できるものと考えられる。

勝坂式の土器(図159-211)は、器形・文様のはか胎土や焼成が、阿玉台末期のものや加曾利Ela期のものと違っており、出土量もごく少ないとから、他の所から持ち込まれた土器と考えられる。

人木式土器は、完形品での出土は少ないが、図142-101の口縁部文様のように、大木式の様式に強く影響された加曾利E式土器が数多く出土している。

多くの遺構の覆土中には、阿玉台期から加曾利EⅢ期にかけての土器が混じり合っている。これは遺構が複雑に重なり合っていることから当然なことであるが、本遺跡が断続的であるにせよ縄文時代中期の長い時期に渡り人々の生活が行なわれた場所であることを証明している。

本報告書では掲載できなかったが、遺構確認面から上に出土した土器には、加曾利EⅡ期、Ⅲ期のものが多い。これらは、規模の確認ができなかった炉埋設土器を伴う住居址の時期の遺物と思われる。

第10表 遺構出土土器の個体数

時 期	數・割合	住居址		土 壤		合 計	
		數 (個)	割 合 (%)	數 (個)	割 合 (%)	數 (個)	割 合 (%)
阿玉台期	1	2	3	2	4	2	
阿玉台末期	9	19	41	25.4	50	25	
勝坂式	0	0	2	1	2	1	
加曾利Ela期	5	10	13	8	18	7	
加曾利Elb期	1	2	22	14	23	11	
加曾利Elc期	5	10	19	12	24	12	
加曾利EI期	0	0	8	5	8	4	
加曾利EII期	7	14	11	7	18	7	
加曾利EIII期	6	12	6	4	12	6	
加曾利E期	10	21	15	9	25	13	
大木8式	1	2	2	1	3	1	
大木9式	1	2	1	0.6	2	1	
不明	3	6	17	11	20	10	
合 計	49	100%	160	100%	209	100%	

第11表 石器類出土数

種類	住居址 (点)	土器 (点)	合計
1 四石	25	40	65
2 石皿	19	9	28
3 磨石	46	89	135
4 敵石	32	48	80
5 磨製石斧	32	63	95
6 石鐵	2	4	6
7 石棒	1	0	1

・縄文時代の石器類について

破片を含めた石器類の出土点数は右の表である。数は少ないが、生活に必要なものはそろっている。但し、打製石斧は一点も出土しなかった。石質はほとんどが、安山岩で、四石・石皿に花崗岩のもの、石鐵に黒曜石。チャートが使われていた。石皿は、他の石器類に比べ、住居址内出土が多いが、これは石引い炉の石として二次的に使われたものが多いからである。磨石は、土壤の床面から出土したもののがいくつもあり、磨製石斧のはほとんどが覆土内出土であると対照を示している。

石器類の数が少なかったのは、材料となる安山岩等がたくさん手に入らなかっただめであろうか。石皿に完形品出土がないこと、一つの石が多くの用途に使われていたことからも推量できる。

第2節 古墳時代

当遺跡で検出された古墳時代の遺構は、第6・85・86・88・90・91・96・97・109号の各号住居址で計9軒である。これらの一群はおむね形態上で三群に分けることができよう。

まず、炉址をもつ第6・85・86・90・91・96号住居址の一組についてであるが、形状のうえでは第96号住居址がやや長方形を呈するが、他はほとんど正方形である。また、第96号住居址を除いてはほぼ床面中央よりやや北寄りに炉址をもち、さらにそれが等間隔の4本の主柱穴をもち、南コーナー付近に良好な中規模のビットをもっている。主軸方向についてみると、第86・90・91号住居址がほぼ同方向を指し、他はまちまちである。また、出土遺物からみると、第6・85・86・91号が和泉期のものと思われる遺物を出土しており、他の2軒は五額期と思われる遺物を伴っているところから、これら一群がさらに二群に分けられるものと思われる。

次に第88号住居址であるが、本群の中でも小規模なものといえ、また、良好なカマドを北壁中央にもつ唯一のものである。その他の事項については遺構編で触れているので、ここでは出土遺物やその時期について触れておきたい。まず、本遺跡の遺構群の中で須恵器の検出がみられたのは当址だけである。しかも墨書き器片もみられ、その他の遺物からみても古墳時代の住居址群の中で新しい時期のものと思われる。おそらくそれから7世紀中頃のものと思われる。

次に第97・109号住居址についてであるが、本群の中でも特異な形態を持つもので、その性格等不明である。いずれも中央の一直線上にビットが並び、部分的に實際にビットを有している。また、第97号住居址のみがカマドをもっているが、一方はカマドはもちろん炉址の痕跡さえ認め

られなかった。出土遺物はともに土師器小片で、まとまった出土がみられなかった。ただ、第109号住居址においては、内壁の高台付の坏が出土しているが、これらからすると国分期のものと思われる。しかしながら、この二つの遺構が果して住居址としての役割りを果していたのか、工房的役割りをもっていたのか、あるいは他の何らかの役割りを持っていたのか、類例が少なくしかもそれらの機能を決定しうる資料が乏しいために明確な判断はし得ない。従って、ここではカマドが検出されたこと、部分的な壁溝をもつこと、中央だけでなく壁近くに散在的にビットが検出されたことによって一応住居址として取り扱ったもので、将来多くの類例の検出と、その機能を確定し得るに足る遺物の検出によってこの二つの性格が解明されよう。なお、第97号住居址において粘土塊が床面近くに認められたことに触れておこう。

以上のように、古墳時代の遺構について形態上では三群に分けてみてきたが、出土遺物などの観点からさらにいくつかの時期に分けられ、これらの住居址が東側の台地縁辺部に点在し、一時期的に生活が営まれたのではなく、古墳時代の初期から後期にかけ生活が展開された可能性もある。